

恵庭市

西島松5遺跡(3)

— 柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第1分冊

本文・図

平成13・14・15・16年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

恵庭市

西島松5遺跡(3)

— 柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第1分冊

本文・図

平成13・14・15・16年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1. 出土土器



深鉢



浅鉢・片口土器



鉢・片口土器



注口土器

2. 縄文時代晩期初頭（東三川 I 式新段階）の土器（B・C-15出土）



深鉢



浅鉢・片口土器



鉢・片口土器



注口土器

3. 縄文時代晩期初頭（東三川Ⅰ式古段階）の土器（MA盛土出土）



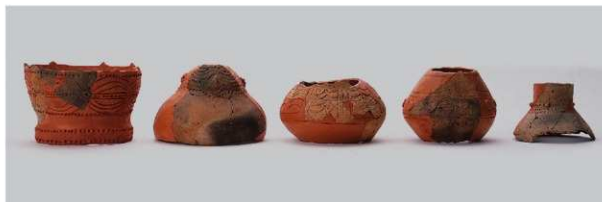
深鉢



鉢・片口土器



浅鉢・片口土器



注口土器

4. 縄文時代後期（御殿山式）の土器（MC盛土出土）



深鉢



鉢・片口土器



浅鉢・片口土器



注口土器

5. 縄文時代後期後葉（三ツ谷式併行）の土器（MA盛土出土）



深鉢



鉢・片口土器



浅鉢・片口土器



注口土器

6. 縄文時代後期後葉（堂林式新段階）の土器（MA盛土出土）



7. 縄文の表情



8. 土製品 (垂飾・玉)



9. 土製品 (耳栓)



10. 土製品 (スタンプ形土製品・環状土製品・不明土製品)・動物の顔が表現された土器・手足の表現された土器



11. ミニチュア土器



12. 石製品



13. 骨角器



14. 遺跡の位置

例 言

1. 本書は、柏木川改修と遊水池新設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成13(2001)年度に発掘調査を実施した、恵庭市西島松5遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。本書では、部分を報告する。平成13(2001)年度調査分としては平成15(2003)年度報告書(北理洞報194)について2冊目、西島松5遺跡の調査報告書としては3冊目である。なお、平成13(2001)年度調査分は今回の報告をもって完結する。
2. 本書の執筆は、佐藤和雄・和泉田毅・土肥研晶・佐藤剛・石井淳平が分担し、文責は各項目の文責に括弧で示した。編集は佐藤剛が行った。
3. 遺物整理のうち土器・石器の一次整理は、土器を佐藤剛、石器を新家水奈・佐藤和雄が行った。二次整理では、土器は佐藤剛、石器は土肥研晶が担当した。
4. 遺物整理のうち金属製品・木製品の保存処理は田口尚(第1調査部第一調査課)が行い、その指導のもと佐藤剛が担当した。
5. 調査の写真は和泉田毅・石井淳平が撮影した。遺物等の写真の内、土器拓本資料・石器は吉田祐史洋が撮影した。編集は佐藤剛が行った。
6. 現場の遺構図などの作図・整理は、和泉田毅・土肥研晶・石井淳平が行った。
7. 遺物の実測・トレース図は土器・土製品を東田久美・大森佐知子・木下はるみ・田村直了、石器・石製品を三國谷環、骨角器を大森佐知子、金属製品を寒河江温子、木製品を武田基が行い、各担当者が統括した。
8. 赤色物質のX線回帰分析・動物遺存体の同定・14C年代測定は、バリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関・各氏からのご協力、ご助言をいただいた。

恵庭市郷土資料館 上屋眞一・佐藤幾子・長町章弘・松谷純一・森秀之、独立法人奈良文化財研究所 岡村道雄、北海道開拓記念館 右代啓祝・鈴木琢也・平川善祥・山田悟郎、上ノ国町教育委員会 松崎水穂・斉藤邦典、木古内町教育委員会 菅野文二、静内町歴史館 斎藤人朋・藪中剛司、知内町郷土資料館 高橋豊彦、寿都町教育委員会 早瀬良樹、千歳サケのふるさと館 高橋理、千歳市教育委員会 大谷敏三・田村俊之・豊田宏良・松田淳子、苫小牧市博物館・苫小牧市埋蔵文化財調査センター 赤石慎三、七飯町歴史館 山田央、松前町教育委員会 久保泰・前田正憲、札幌大学 木村英明、青森県立郷土館 鈴木克彦、青森県埋蔵文化財調査センター 木村高・成田滋彦、青森市教育委員会 児玉大成、三戸町教育委員会 野田尚志、階上町教育委員会 森淳、八戸市博物館 佐々木浩一、八戸市教育委員会 宇部則保・村木淳、浪岡町史編纂室 工藤清泰、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 安藤由紀夫・女鹿潤哉、軽米町教育委員会 藤田直行、滝沢村教育委員会 井上雅孝、盛岡市教育委員会 八木光則、秋田県埋蔵文化財センター 宇田川浩一・児島朋夏、鷹巣町教育委員会 榎本剛治、東北学院大学 辻秀人、東北大学 藤澤教、弘前大学 関根達人・藤沼邦彦、工藤肇、坂野祥、佐藤矩康、田中信一、野村崇、兵藤千秋、福田正宏、林澤正耕、宮宏明

記号等の説明

1. 遺構は以下の記号によって表記し、原則として発掘調査順に番号を付した。M：盛土遺構では、番号はアルファベット順である。
X：周溝のある墓 H：住居跡 P：土坑墓および土坑 TP：Tピット F：焼土
SP：小ピット HP：住居跡の付属ピット HF：住居跡の付属焼土（灰跡）
M：盛土遺構
2. 遺構図にはグリッド線に従い、方位記号を付した。真北は、南北方向の基線（Rライン）に対して東偏22度51分01秒である。
3. レベルは標高（単位m）を示す。
4. 遺構の規模は「確認面での長軸長×短軸長／床（坑底面）での長軸長×短軸長／確認面からの最大深」の順で記した。一部破壊されているものは、現存長を（ ）で、不明のものは（-）で示した。
5. 掲載した実測図等の縮尺は、以下のとおりとし、スケールを付した。また変則的なものにも随時スケールを入れた。
遺構実測図 1：40 土器実測図 1：3 土器拓影図 1：3 剥片石器実測図 1：2
礫・礫石器 1：3 土製品・石製品・金属製品・木製品実測図 1：2 骨角器 1：1
6. 土器実測図には文様展開模式図（縮尺は任意）を付しているものがある。トーンは縄文が施文されている部分で、濃い色は残存している部分である。
7. 写真図版の縮尺は任意である。
8. 出土遺物および分布図等で使用している表示記号は以下を用いた。また図独自で用いているものは、その都度説明した。
土器：○、P 石器：●、S・F
9. 土層の色調は、「新版標準土色帳」（小山・竹原1967）、および「土壌ハンドブック」（ペトロジスト懇談会1984）を使用し、カラーチャートの番号を付しているものがある。
10. 土層の混合状態を表現するために、以下のように表記した。
 $A + B$ ：AとBが同量混じる。 $A > B$ ：AにBが少量混じる。
 $A \gg B$ ：AにBが微量混じる。 $A \approx B$ ：AとBはほぼ等しい。
11. 土層の記述には、以下の記号・略称を用いた場合がある。
樽前a降下軽石堆積物：Ta-a
樽前b降下軽石堆積物：Ta-b

目 次

第1分冊

口絵 (カラー写真)

例言

記号等の説明

目次

I 調査の概要	1
1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査に至る経緯	2
4. 調査結果の概要	4
II 遺跡の位置と環境	11
1. 遺跡の位置と環境	11
2. 周辺の遺跡	11
III 調査の方法	19
1. 調査区の設定	19
2. 調査の方法	19
(1) 調査の方法	19
(2) 遺物の取り上げ	19
(3) フローテーション・土壌水洗	19
3. 土層	19
(1) 台地地区基本層序	20
(2) 崖地区基本層序	20
(3) 低地部地区基本層序	20
4. 遺物整理の方法	23
(1) 土器	23
(2) 石器	23
5. 遺物の分類の方法	23
(1) 土器	23
(2) 石器	24
6. 保存処理の工程	25
IV 崖地区の調査	29
1. 崖地区の概要	29
2. 一括出土遺物	30
3. 包含層出土の遺物	30
(1) 土器	30
(2) 石器	84
V 低地部地区の調査	91
1. 低地部地区の概要	91
2. 土坑	91
3. 焼土	94
4. 一括出土遺物	102
5. 盛土遺構	102
6. 包含層出土遺物	193
(1) 土器	193
(2) 石器	202
VI 台地地区の調査	219
1. 台地部地区の概要	219

2. 土坑	219
3. 盛土遺構	219
4. 包含層出土の遺物	230
(1) 土器	230
(2) 石器	278
Ⅴ 土製品・骨角器・金属製品・木製品	289
1. 土製品	289
(1) 崖地区包含層(B・C-15)出土土製品	289
(2) 崖地区包含層出土土製品	289
(3) 低地部地区MA盛土1層出土土製品	289
(4) 低地部地区MA盛土2層出土土製品	289
(5) 低地部地区MA盛土1・2層出土土製品	290
(6) 低地部地区MA盛土トレンチ出土土製品	290
(7) 低地部地区MB盛土出土土製品	290
(8) 低地部地区包含層土製品	290
(9) 台地地区MC盛土1層出土土製品	291
(10) 台地地区MC盛土2層出土土製品	291
(11) 台地地区MC盛土3層出土土製品	291
(12) 台地地区MC盛土2・3層出土土製品	291
(13) 台地地区包含層出土土製品	291
2. 石製品	300
3. 骨角器	300
4. 金属製品	301
5. 木製品	301
Ⅵ 一覧表	307
Ⅸ 自然科学的手法による分析結果	435
I. 出土遺物の放射性炭素年代測定	435
II. 赤色顔料のX線回折分析	436
III. 土器胎土分析	439
IV. 出土骨の同定	442
X 考察	483
1. 土器	483
(1) 接合状況	483
(2) 器種・属性の分析	484
2. 土製品	500
3. 詳細分布図	500
(1) 土器	500
(2) 石器	501
XI まとめ	507
挿図目次	
表目次	
図版目次	
抄録	
第2分冊	
山絵(カラー写真)	
図版目次	

挿 図 目 次

I 調査の概要

図 I - 1	遺跡位置	3
図 I - 2	発掘予定調査範囲・発掘調査区・地区の呼称	5
図 I - 3	遺構位置図と最終面地形測量図	7

II 遺跡の位置と環境

図 II - 1	遺跡の位置と周辺の地形(1)	13
図 II - 2	遺跡の位置と周辺の地形(2)	14
図 II - 3	遺跡の位置と周辺の地形(3)	15
図 II - 4	遺跡の位置と周辺の地形(4)	16
図 II - 5	遺跡の位置と周辺の遺跡	17

III 調査の方法

図 III - 1	調査区の設定	21
図 III - 2	基本土層模式図	22
図 III - 3	保存処理工程	27

IV 崖地区の調査

図 IV - 1	遺構位置図と最終面測量図	31
図 IV - 2	土層断面図(1) 23ライン	32
図 IV - 3	土層断面図(2) 16ライン	33
図 IV - 4	一括出土遺物の土器	35
図 IV - 5	包含層出土の土器(1) B・C-15(1)	38
図 IV - 6	包含層出土の土器(2) B・C-15(2)	39
図 IV - 7	包含層出土の土器(3) B・C-15(3)	40
図 IV - 8	包含層出土の土器(4) B・C-15(4)	41
図 IV - 9	包含層出土の土器(5) B・C-15(5)	42
図 IV - 10	包含層出土の土器(6) B・C-15(6)	43
図 IV - 11	包含層出土の土器(7) B・C-15(7)	44
図 IV - 12	包含層出土の土器(8) B・C-15(8)	45
図 IV - 13	包含層出土の土器(9) B・C-15(9)	46
図 IV - 14	包含層出土の土器(10) B・C-15(10)	47
図 IV - 15	包含層出土の土器(11) B・C-15(11)	48
図 IV - 16	包含層出土の土器(12) B・C-15(12)	49
図 IV - 17	包含層出土の土器(13) B・C-15(13)	50
図 IV - 18	包含層出土の土器(14) B・C-15(14)	51
図 IV - 19	包含層出土の土器(15) B・C-15(15)	52
図 IV - 20	包含層出土の土器(16) B・C-15(16)	53
図 IV - 21	包含層出土の土器(17) B・C-15(17)	54
図 IV - 22	包含層出土の土器(18) B・C-15(18)	55
図 IV - 23	包含層出土の土器(19) B・C-15(19)	56
図 IV - 24	包含層出土の土器(20) B・C-15(20)	57
図 IV - 25	包含層出土の土器(21) B・C-15(21)	58
図 IV - 26	包含層出土の土器(22) B・C-15(22)	59
図 IV - 27	包含層出土の土器(23) B・C-15(23)	60
図 IV - 28	包含層出土の土器(24) B・C-15(24)	61
図 IV - 29	包含層出土の土器(25) B・C-15(25)	62
図 IV - 30	包含層出土の土器(26) B・C-15(26)	63

図 IV - 31	包含層出土の土器(27) B・C-15(27)	64
図 IV - 32	包含層出土の土器(28) B・C-15(28)	65
図 IV - 33	包含層出土の土器(29) B・C-15(29)	66
図 IV - 34	包含層出土の土器(30) B・C-15(30)	67
図 IV - 35	包含層出土の土器(31) B・C-15(31)	68
図 IV - 36	包含層出土の土器(32) B・C-15(32)	69
図 IV - 37	包含層出土の土器(33) B・C-15(33)	70
図 IV - 38	包含層出土の土器(34) B・C-15(34)	71
図 IV - 39	包含層出土の土器(35) B・C-15(35)	72
図 IV - 40	包含層出土の土器(36) B・C-15(36)	73
図 IV - 41	包含層出土の土器(37) B・C-15(37)	74
図 IV - 42	包含層出土の土器(38) B・C-15(38)	75
図 IV - 43	包含層出土の土器(39)	76
図 IV - 44	包含層出土の土器(40)	77
図 IV - 45	包含層出土の土器(41)	78
図 IV - 46	包含層出土の土器(42)	79
図 IV - 47	包含層出土の土器(43)	80
図 IV - 48	包含層出土の土器(44)	81
図 IV - 49	包含層出土の土器(45)	82
図 IV - 50	包含層出土の土器(46)	83
図 IV - 51	包含層出土の石器(1)	85
図 IV - 52	包含層出土の石器(2)	86
図 IV - 53	包含層出土の石器(3)	87
図 IV - 54	包含層出土の石器(4)	88
図 IV - 55	包含層出土の石器(5)	89
図 IV - 56	包含層出土の石器(6)	90

V 低地部地区の調査

図 V - 1	遺構位置図と最終面測量図	92
図 V - 2	土層断面図	93
図 V - 3	土塊	95
図 V - 4	土坑出土の土器(1)	96
図 V - 5	土坑出土の土器(2)	97
図 V - 6	土坑出土の土器(3)	98
図 V - 7	焼土	99
図 V - 8	焼土出土の土器と土製品(1)	100
図 V - 9	焼土出土の土器と土製品(2)	101
図 V - 10	一括出土遺物	103
図 V - 11	一括出土遺物の土器	104
図 V - 12	盛土遺構 MA盛土	105
図 V - 13	MA盛土土層断面図(1)IIライン	107
図 V - 14	MA盛土土層断面図(2)J-30-1-31ライン	108
図 V - 15	MA盛土土層断面図(3)32ライン	109
図 V - 16	MA盛土土器分布図(1)平面図	110
図 V - 17	MA盛土土器分布図(2)層位別	111
図 V - 18	MA盛土土器分布図(3)断面図	112
図 V - 19	MA盛土 遺物集小1・2・9	113
図 V - 20	MA盛土 遺物集小3・4・5出土状況	115

図V-21	MA盛土 遺物集1中3・4	116
図V-22	MA盛土 遺物集1中5	117
図V-23	盛土遺構出土の土器(1) MA盛土遺物集1	118
図V-24	盛土遺構出土の土器(2) MA盛土遺物集1	119
図V-25	盛土遺構出土の土器(3) MA盛土遺物集1	120
図V-26	盛土遺構出土の土器(4) MA盛土遺物集1	121
図V-27	盛土遺構出土の土器(5) MA盛土遺物集1	122
図V-28	盛土遺構出土の土器(6) MA盛土遺物集1	123
図V-29	盛土遺構出土の土器(7) MA盛土遺物集1	124
図V-30	盛土遺構出土の土器(8) MA盛土遺物集1	125
図V-31	盛土遺構出土の土器(9) MA盛土遺物集1	126
図V-32	盛土遺構出土の土器(10) MA盛土遺物集1	127
図V-33	盛土遺構出土の土器(11) MA盛土遺物集1	128
図V-34	盛土遺構出土の土器(12) MA盛土(1)	132
図V-35	盛土遺構出土の土器(13) MA盛土(2)	133
図V-36	盛土遺構出土の土器(14) MA盛土(3)	134
図V-37	盛土遺構出土の土器(15) MA盛土(4)	135
図V-38	盛土遺構出土の土器(16) MA盛土(5)	136
図V-39	盛土遺構出土の土器(17) MA盛土(6)	137
図V-40	盛土遺構出土の土器(18) MA盛土(7)	138
図V-41	盛土遺構出土の土器(19) MA盛土(8)	139
図V-42	盛土遺構出土の土器(20) MA盛土(9)	140
図V-43	盛土遺構出土の土器(21) MA盛土(10)	141
図V-44	盛土遺構出土の土器(22) MA盛土(11)	142
図V-45	盛土遺構出土の土器(23) MA盛土(12)	143
図V-46	盛土遺構出土の土器(24) MA盛土(13)	144
図V-47	盛土遺構出土の土器(25) MA盛土(14)	145
図V-48	盛土遺構出土の土器(26) MA盛土(15)	146
図V-49	盛土遺構出土の土器(27) MA盛土(16)	147
図V-50	盛土遺構出土の土器(28) MA盛土(17)	148
図V-51	盛土遺構出土の土器(29) MA盛土(18)	149
図V-52	盛土遺構出土の土器(30) MA盛土(19)	150
図V-53	盛土遺構出土の土器(31) MA盛土(20)	151
図V-54	盛土遺構出土の土器(32) MA盛土(21)	152
図V-55	盛土遺構出土の土器(33) MA盛土(22)	153
図V-56	盛土遺構出土の土器(34) MA盛土(23)	154
図V-57	盛土遺構出土の土器(35) MA盛土(24)	155
図V-58	盛土遺構出土の土器(36) MA盛土(25)	156
図V-59	盛土遺構出土の土器(37) MA盛土(26)	157
図V-60	盛土遺構出土の土器(38) MA盛土(27)	158
図V-61	盛土遺構出土の土器(39) MA盛土(28)	159
図V-62	盛土遺構出土の土器(40) MA盛土(29)	160
図V-63	盛土遺構出土の土器(41) MA盛土(30)	161
図V-64	盛土遺構出土の土器(42) MA盛土(31)	162
図V-65	盛土遺構出土の土器(43) MA盛土(32)	163
図V-66	盛土遺構出土の土器(44) MA盛土(33)	164
図V-67	盛土遺構出土の土器(45) MA盛土(34)	165
図V-68	盛土遺構出土の土器(46) MA盛土(35)	166
図V-69	盛土遺構出土の土器(47) MA盛土(36)	167
図V-70	盛土遺構出土の土器(48) MA盛土(37)	168
図V-71	盛土遺構出土の土器(49) MA盛土(38)	169

図V-72	盛土遺構出土の土器(50) MA盛土(39)	170
図V-73	盛土遺構出土の土器(51) MA盛土(40)	171
図V-74	盛土遺構出土の土器(52) MA盛土(41)	172
図V-75	盛土遺構出土の土器(53) MA盛土(42)	173
図V-76	盛土遺構出土の土器(54) MA盛土(43)	174
図V-77	盛土遺構出土の土器(55) MA盛土(44)	175
図V-78	盛土遺構出土の土器(56) MA盛土(45)	176
図V-79	盛土遺構出土の土器(57) MA盛土(46)	177
図V-80	盛土遺構出土の土器(58) MA盛土(47)	178
図V-81	盛土遺構出土の土器(59) MA盛土(48)	179
図V-82	盛土遺構出土の土器(60) MA盛土(49)	180
図V-83	盛土遺構出土の土器(61) MA盛土(50)	181
図V-84	盛土遺構出土の土器(62) MA盛土(51)	182
図V-85	盛土遺構出土の土器(63) MA盛土(52)	183
図V-86	盛土遺構出土の土器(64) MA盛土(53)	184
図V-87	盛土遺構出土の土器(65) MA盛土(54)	185
図V-88	盛土遺構出土の土器(66) MA盛土(55)	187
図V-89	盛土遺構出土の土器(67) MA盛土(56)	188
図V-90	盛土遺構出土の土器(68) MA盛土(57)	189
図V-91	盛土遺構出土の土器(69) MA盛土(58)	190
図V-92	盛土遺構出土の土器(70) MA盛土(59)	191
図V-93	盛土遺構出土の土器(71) MA盛土(60)	192
図V-94	盛土遺構 MB盛土	194
図V-95	MB盛土土器断面図 36ライン付近	195
図V-96	盛土遺構出土の土器(66) MB盛土(1)	196
図V-97	盛土遺構出土の土器(67) MB盛土(2)	197
図V-98	盛土遺構出土の土器(68) MB盛土(3)	198
図V-99	盛土遺構出土の土器(69) MB盛土(4)	199
図V-100	盛土遺構出土の土器(70) MB盛土(5)	200
図V-101	盛土遺構出土の土器(71) MB盛土(6)	201
図V-102	包含層出土の土器(1)	204
図V-103	包含層出土の土器(2)	205
図V-104	包含層出土の土器(3)	206
図V-105	包含層出土の土器(4)	207
図V-106	包含層出土の土器(5)	208
図V-107	包含層出土の土器(6)	209
図V-108	包含層出土の土器(7)	210
図V-109	包含層出土の土器(8)	211
図V-110	包含層出土の土器(1)	212
図V-111	包含層出土の土器(2)	213
図V-112	包含層出土の土器(3)	214
図V-113	包含層出土の土器(4)	215
図V-114	包含層出土の土器(5)	216
図V-115	包含層出土の土器(6)	217
図V-116	包含層出土の土器(7)	218

VI 台地地区の調査

図VI-1	遺構位置図と最終断面図	221
図VI-2	土器断面図 21ライン及びIライン	222
図VI-3	柱状図 21ライン及びKライン	223
図VI-4	土塊	224

図VI-5	MC盛土地形断面図	225
図VI-6	MC盛土土器分布図	226
図VI-7	盛土遺構出土の土器(1) MC盛土(1)	231
図VI-8	盛土遺構出土の土器(2) MC盛土(2)	232
図VI-9	盛土遺構出土の土器(3) MC盛土(3)	233
図VI-10	盛土遺構出土の土器(4) MC盛土(4)	234
図VI-11	盛土遺構出土の土器(5) MC盛土(5)	235
図VI-12	盛土遺構出土の土器(6) MC盛土(6)	236
図VI-13	盛土遺構出土の土器(7) MC盛土(7)	237
図VI-14	盛土遺構出土の土器(8) MC盛土(8)	238
図VI-15	盛土遺構出土の土器(9) MC盛土(9)	239
図VI-16	盛土遺構出土の土器(10) MC盛土(10)	240
図VI-17	盛土遺構出土の土器(11) MC盛土(11)	241
図VI-18	盛土遺構出土の土器(12) MC盛土(12)	242
図VI-19	盛土遺構出土の土器(13) MC盛土(13)	243
図VI-20	盛土遺構出土の土器(14) MC盛土(14)	244
図VI-21	盛土遺構出土の土器(15) MC盛土(15)	245
図VI-22	盛土遺構出土の土器(16) MC盛土(16)	246
図VI-23	盛土遺構出土の土器(17) MC盛土(17)	247
図VI-24	盛土遺構出土の土器(18) MC盛土(18)	248
図VI-25	盛土遺構出土の土器(19) MC盛土(19)	249
図VI-26	盛土遺構出土の土器(20) MC盛土(20)	250
図VI-27	盛土遺構出土の土器(21) MC盛土(21)	251
図VI-28	盛土遺構出土の土器(22) MC盛土(22)	252
図VI-29	盛土遺構出土の土器(23) MC盛土(23)	253
図VI-30	盛土遺構出土の土器(24) MC盛土(24)	254
図VI-31	盛土遺構出土の土器(25) MC盛土(25)	255
図VI-32	盛土遺構出土の土器(26) MC盛土(26)	256
図VI-33	盛土遺構出土の土器(27) MC盛土(27)	257
図VI-34	盛土遺構出土の土器(28) MC盛土(28)	258
図VI-35	盛土遺構出土の土器(29) MC盛土(29)	259
図VI-36	盛土遺構出土の土器(30) MC盛土(30)	260
図VI-37	盛土遺構出土の土器(31) MC盛土(31)	261
図VI-38	盛土遺構出土の土器(32) MC盛土(32)	262
図VI-39	盛土遺構出土の土器(33) MC盛土(33)	263
図VI-40	盛土遺構出土の土器(34) MC盛土(34)	264
図VI-41	盛土遺構出土の土器(35) MC盛土(35)	265
図VI-42	盛土遺構出土の土器(1) MC盛土(36)	266
図VI-43	盛土遺構出土の土器(2) MC盛土(37)	267
図VI-44	包含層出土の土器(1)	269
図VI-45	包含層出土の土器(2)	270
図VI-46	包含層出土の土器(3)	271
図VI-47	包含層出土の土器(4)	272
図VI-48	包含層出土の土器(5)	273
図VI-49	包含層出土の土器(6)	274
図VI-50	包含層出土の土器(7)	275
図VI-51	包含層出土の土器(8)	276
図VI-52	包含層出土の土器(9)	277
図VI-53	包含層出土の土器(1)	280
図VI-54	包含層出土の土器(2)	281
図VI-55	包含層出土の土器(3)	282

図VI-56	包含層出土の土器(4)	283
図VI-57	包含層出土の土器(5)	284
図VI-58	包含層出土の土器(6)	285
図VI-59	包含層出土の土器(7)	286
図VI-60	包含層出土の土器(8)	287
図VI-61	包含層出土の土器(9)	288

Ⅶ 土製品・骨角器・金属製品・木製品

図Ⅶ-1	土製品(1) 卑地区 包含層(B・C-15) 包含層	292
図Ⅶ-2	土製品(2) 低地部地区 MA盛土(1)	293
図Ⅶ-3	土製品(3) 低地部地区 MA盛土(2)	294
図Ⅶ-4	土製品(4) 低地部地区 MB盛土 包含層	295
図Ⅶ-5	土製品(5) 台地地区 MC盛土(1)	296
図Ⅶ-6	土製品(6) 台地地区 MC盛土(2)	297
図Ⅶ-7	土製品(7) 台地地区 包含層(1)	298
図Ⅶ-8	土製品(8) 台地地区 包含層(2)	299
図Ⅶ-9	石製品(1)	302
図Ⅶ-10	石製品(2)	303
図Ⅶ-11	石製品(3)	304
図Ⅶ-12	骨角器	305
図Ⅶ-13	金属製品	305
図Ⅶ-14	木製品	306

Ⅷ 一覧表

IX 自然科学的手法による分析

図IX-1	X線回折結果	438
-------	--------	-----

X 考察

図X-1	MA盛土 土器接合状況図(1)	485
図X-2	MA盛土 土器接合状況図(2)	486
図X-3	MA盛土 土器接合状況図(3)	487
図X-4	MA盛土 土器接合状況図(4)	488
図X-5	MA盛土 土器接合状況図(5)	489
図X-6	MC盛土 土器接合状況図(1)	490
図X-7	MC盛土 土器接合状況図(2)	491
図X-8	口径器高相関グラフ(1)	493
図X-9	口径器高相関グラフ(2)	494
図X-10	口径器高相関グラフ(3)	495
図X-11	属性データ	497
図X-12	器極構成グラフ	498
図X-13	文様グラフ	499
図X-14	詳細分布図 土器(1)	502
図X-15	詳細分布図 土器(2)	503
図X-16	詳細分布図 土器(3)	504
図X-17	詳細分布図 土器(1)	505
図X-18	詳細分布図 土器(2)	506

XI まとめ

表 目 次

I 調査の概要

表 I-1	内島松 5 遺跡出土石器・土製品総計一覽	8
表 I-2	西島松 5 遺跡出土石器・土製品総計一覽	8
表 I-3	遺構出土石器・土製品総計一覽	8
表 I-4	遺構出土石器・土製品総計一覽	8
表 I-5	包含層出土石器・土製品総計一覽	8
表 I-6	包含層出土石器・土製品総計一覽	8
表 I-7	崖地区出土石器・土製品一覽	9
表 I-8	崖地区出土石器・土製品一覽	9
表 I-9	低地部地区出土石器・土製品一覽	9
表 I-10	低地部地区出土石器・土製品一覽	9
表 I-11	台地地区出土石器・土製品一覽	9
表 I-12	台地地区出土石器・土製品一覽	9

II 遺跡の位置と環境

表 II-1	周辺遺跡一覧(京城市 A-04)	18
--------	------------------	----

III 調査の方法

IV 崖地区の調査

V 低地部地区の調査

VI 台地地区の調査

VII 土製品・骨角器・金属製品・木製品

VIII 一覽表

表 VIII-1	崖地区一括出土遺物掲載土器一覽	307
表 VIII-2	崖地区包含層出土掲載土器一覽	308
表 VIII-3	崖地区包含層出土掲載土器一覽	318
表 VIII-4	低地部地区土坑出土掲載土器一覽	320
表 VIII-5	低地部地区竪土出土掲載土器一覽	321
表 VIII-6	低地部地区道溝出土掲載土器一覽	322
表 VIII-7	低地部地区一括出土遺物出土掲載土器一覽	322
表 VIII-8	低地部地区MA盛土出土掲載土器一覽	323
表 VIII-9	低地部地区MA盛土出土掲載土器一覽	357
表 VIII-10	低地部地区MB盛土出土掲載土器一覽	360
表 VIII-11	低地部地区MB盛土出土掲載土器一覽	361
表 VIII-12	低地部地区包含層出土掲載土器一覽	362
表 VIII-13	低地部地区包含層出土掲載土器一覽	365
表 VIII-14	台地地区MC盛土出土掲載土器一覽	368
表 VIII-15	台地地区MC盛土出土掲載土器一覽	381

表 VIII-16	台地地区包含層出土掲載土器一覽	382
表 VIII-17	台地地区包含層出土掲載土器一覽	387
表 VIII-18	掲載土製品一覽(低地部地区焼土を除く)	391
表 VIII-19	掲載土製品一覽	395
表 VIII-20	骨角器一覽	396
表 VIII-21	金属製品一覽	396
表 VIII-22	木製品一覽	396
表 VIII-23	崖地区道溝別(一括)出土土器・土製品一覽	397
表 VIII-24	崖地区包含層出土土器・土製品一覽	397
表 VIII-25	崖地区包含層出土土器・土製品一覽	400
表 VIII-26	低地部地区道溝別(土坑)出土土器・土製品一覽	403
表 VIII-27	低地部地区道溝別(土坑)出土土器・土製品一覽	403
表 VIII-28	低地部地区道溝別(竪土)出土土器・土製品一覽	403
表 VIII-29	低地部地区道溝別(竪土)出土土器・土製品一覽	403
表 VIII-30	低地部地区道溝別(一括)川土土器・土製品一覽	403
表 VIII-31	低地部地区MA盛土出土土器・土製品一覽	404
表 VIII-32	低地部地区MA盛土出土土器・土製品一覽	406
表 VIII-33	低地部地区MB盛土出土土器・土製品一覽	408
表 VIII-34	低地部地区MB盛土出土土器・土製品一覽	408
表 VIII-35	低地部地区包含層出土土器・土製品一覽	409
表 VIII-36	低地部地区包含層出土土器・土製品一覽	414
表 VIII-37	台地地区MC盛土出土土器・土製品一覽	418
表 VIII-38	台地地区MC盛土出土土器・土製品一覽	419
表 VIII-39	台地地区包含層出土土器・土製品一覽	420
表 VIII-40	台地地区包含層出土土器・土製品一覽	428

IX 自然科学的手法による分析結果

表 IX-1	放射性炭素年代測定結果	436
表 IX-2	層年較正結果	436
表 IX-3	X線回折分析試料の一覽	437
表 IX-4	胎土薄片観察結果	441
表 IX-5	骨貝類同定出土分類群の一覽	443
表 IX-6	骨貝類同定結果 (1)~(22)	444
表 IX-7	サケク地点・部位別数量表	466
表 IX-8	ヒノシ地点・部位別数量表	467
表 IX-9	イノシシ地点・部位別数量表 (1)(2)	469
表 IX-10	ニホンジカ地点・部位別数量表 (1)~(4)	471

X 考察

XI まとめ

図 版 目 次

IX 自然科学的手法による分析結果

図版 1	胎土薄片(1)	475
図版 2	胎土薄片(2)	476
図版 3	胎土薄片(3)	477
図版 4	出土骨(1)	478

図版 5	出土骨(2)	479
図版 6	出土骨(3)	480
図版 7	出土骨(4)	481
図版 8	出土骨(5)	482

I 調査の概要

1. 調査要項

事業名：柏木川河川改修工事に伴う発掘調査
 委託者：北海道札幌土木現業所
 受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター
 遺跡名：西島松5遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-04-38）
 所在地：恵庭市西島松543、544-1～3、546-1・2
 調査面積：3,123㎡
 調査期間：平成12年4月1日～平成14年3月29日（現地調査 5月7日～10月31日）
 整理期間：平成13年11月1日～平成16年3月31日

2. 調査体制

平成12年度

理事長 大澤 満	第2調査部長 大沼忠春
専務理事 宮崎 勝	第2調査課長 佐藤和雄
常務理事 木村尚俊（第1調査部長兼務）	主 査 和泉田毅（発掘担当者）
	主 任 新家水奈
	主 任 佐藤 剛
	文化財保護主事 石井淳平

平成13年度

理事長 大澤 満	第2調査部長 大沼忠春
専務理事 宮崎 勝	第2調査課長 佐藤和雄
常務理事 木村尚俊（第1調査部長兼務）	主 査 和泉田毅（発掘担当者）
平成13年7月16日まで）	主 任 新家水奈
	主 任 佐藤 剛
	文化財保護主事 石井淳平

平成14年度

理事長 大澤 満（平成14年6月30日まで）	第2調査部長 西田 茂
理事長 森重柁一（平成14年7月 1日から）	第1調査課長 佐藤和雄（発掘担当者）
専務理事 宮崎 勝	主 任 土肥研晶
常務理事 畑 宏明（第1調査部長兼務）	主 任 佐藤 剛
	文化財保護主事 石井淳平
	主 査 和泉田毅（第2調査課）

平成15年度

理事長 森重柁一	第2調査部長 西田 茂
専務理事 宮崎 勝	第2調査課長 佐藤和雄
常務理事 畑 宏明（第1調査部長兼務）	主 査 鈴木 信
	主 任 土肥研晶

主 任 佐藤 剛
 主 任 立田 理
 主 任 吉田裕史洋
 文化財保護主事 酒井秀治

平成16年度

理事長 森重柁一
 専務理事 宮崎 勝
 常務理事 畑 宏明

第1調査部長 千葉栄一
 第2調査課長 佐藤和雄
 主 任 土肥研晶
 主 任 立田 理
 主 任 吉田裕史洋
 主 任 佐藤 剛

(第1調査部第4調査課)

3. 調査に至る経緯(図I-1~2)

恵庭市内を流れる柏木川は、陸上自衛隊鳥松演習場内に源を發し、千歳川に流入する長さ約11kmの小河川である。この流域には多くの遺跡が点在し、恵庭市内で最も遺跡分布密度の濃いところである。ところで、千歳川本流およびそこに流入する小河川流域は過去に幾度となく洪水に見舞われてきた。柏木川もその例外ではなく、とくにその下流の左岸一帯は度々洪水被害をこうむってきた。このため、昭和58(1983)年、柏木川改修計画が策定された。昭和61(1986)年から現河川拡幅の改修工事が実施され、下流域側から上流側(市道西六線~道々江別・恵庭大通付近)へ進められてきた。その後平成7年(1995)年、柏木川改修の延長と遊水地が計画され、平成9(1997)年4月、柏木川改修計画増の区間(道々江別・恵庭線~道央自動車道)と第1・第2遊水地建設が決定された。工事主体である北海道札幌土木現業所から北海道教育委員会に第2遊水地建設について埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出され、これを受けて北海道教育委員会は平成10(1998)年10月、第2遊水地建設予定地内に含まれる西島松5遺跡の範囲確認調査を実施した。西島松5遺跡は、昭和39(1964)年、大場利夫・石川徹氏等によって西島松南口遺跡A地点、第1・2地点として狭小範囲であるがその一部分が調査され、縄文時代後期~晩晩期を主体とする遺物や擦文時代の住居跡などが発見されており、北海道教育委員会による遺跡範囲確認調査によっても、縄文時代前期~統縄文時代の遺物・遺構が発見された。この結果を受けて関係者による協議が行われ、工事の性格上計画変更はきわめて困難であることから、記録保存のための発掘調査を平成12年(1990)年5月から当センターで実施することとなった。平成12年度の発掘調査では、縄文時代中期~擦文時代の遺構が1,454ヶ所検出され、遺物が約276,700点出土した。なかでも統縄文時代~擦文時代の「周溝のある墓」や「土塚墓」が94基検出され、また大刀、刀子などの金属製品が277点出土し、大きな注目を集めた(平成14年度北埋調報178集、平成15年度北埋調報194集として報告書が刊行されている)。更に発掘調査区外である東~南の斜面~斜面下(崖地区と呼称する)にかけて遺物が出土し、土層の堆積状態などから遺跡範囲が広がることが予想された。このため北海道札幌土木現業所と北海道教育委員会の協議にもとづき、平成12年10月北海道教育委員会によって試掘調査が実施された。この結果、斜面~斜面下(約360m)と南西側の低地部(約175m)に遺跡が広がることが確認され、平成13年度の発掘調査範囲に組み込まれることとなった。平成13年度当初発掘調査面積は、台地上、斜面~斜面下、低地部を含め4,800㎡である。ところが調査の結果、盛土遺構が三ヶ所発見され、また大量の遺物が出土したことにより、最終調査面積は

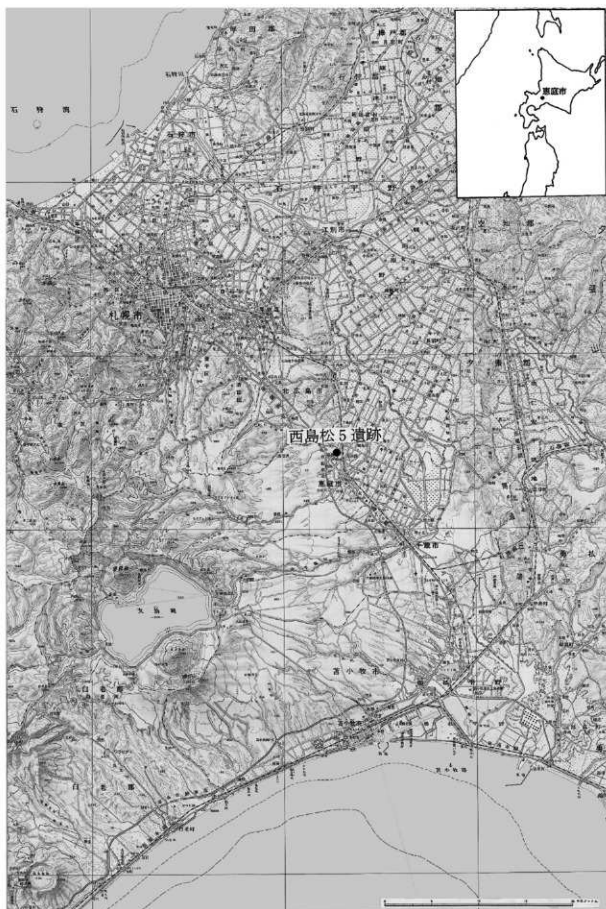


図 I-1 遺跡位置 (国土地理院発行20万分の1地形図「札幌」・「苫小牧」を使用している)

3,123mにとどまり、整理作業も大幅に遅れることとなった。台地上の遺構については平成15年度に報告書が刊行され(北埋調報194集)、本報告書は、斜面～斜面下(崖地区)、低地部(低地部地区)、盛土遺構、台地地区の包含層を取り扱っている。また平成13年度には本遺跡の南西約400m、柏木川右岸にある西島松9遺跡も河川改修工事に伴い当センターによって発掘調査が実施され、平成14年度に報告書(北埋調報179集)が刊行されている。

昭和61年から柏木川改修工事に伴い、恵庭市教育委員会によって中島松1・4・5A・6・7遺跡、南島松2・3・4遺跡、西島松14・15・15B地点・17・18遺跡、仲町遺跡、柏木川13遺跡の発掘調査が行われ、報告書が刊行されている。

4. 調査結果の概要(図I-3 表I-1~12)

平成13年度調査は、平成12年度の試掘調査で調査範囲が広がった部分(調査区の東～南側の斜面～斜面下と南西側の低地部)を含めて4,800mを予定していた。ところが南西側の斜面で盛土遺構が発見され、そこに大量の遺物が包含されていることが判明した。このため北海道教育委員会と北海道札幌土木現業所とで今後の調査の進行計画について協議が行われた。この結果、次年度以降の工事計画に支障をきたさないよう配慮し、予定の調査面積を変更し、盛土遺構の調査を優先することとなった。このような事情により最終調査面積は、当初計画の約65%にあたる3,123mである。

西島松5遺跡は、ほぼ南西→北東に流れる柏木川とその支流キトウシユメンナイ川に挟まれた低い台地上に立地している。調査区は標高約26.00m付近の平坦地と、その東～南～南西側にある斜面～斜面下、および南西側の標高約24.00m付近の低地部である。台地上は畑地として利用されていたため、耕作の攪乱を受け、また斜面下の台地部などは水田耕作およびその用水路、柏木川の氾濫を受け、台地上の宅地部分を除き遺跡の保存状態はあまり良くなかった。

遺構は、調査区のほぼ全体に広がっている。南西側の低地部や西側の台地上でも検出されているが、大半は中央部付近に集中している。統縄文時代～縄文時代の土壌2基以外はすべて縄文時代の遺構である。遺物は、縄文時代早期～縄文時代の土器・石器などや土・石製品が出土している。

遺構は、住居跡9軒、土壌115基、Tピット2基、焼土101ヵ所、小ピット1,499個、一括出土遺物5ヵ所、盛土遺構3ヵ所が検出された。このうち住居跡9軒、土壌110基、Tピット2基、焼土94ヵ所、小ピット1,499個、一括出土遺物5ヵ所は前報告書(西島松5遺跡(2) 北埋調報第194集)で報告している。本報告書では、低地部地区や盛土遺構中で検出された土壌5基、焼土7ヵ所、盛土遺構3ヵ所、崖地区、低地部地区とその出土遺物、台地地区の包含層の出土遺物を取り扱い、報告する。

土壌は、低地部で検出されたもので、縄文時代後期～晩期のものである。

焼土は、盛土遺構中で検出されたものである。盛土形成時に土などと一緒に投棄されたものか、あるいは何らかの意図のもとに火を使用した結果残されたものかどうかについては不明である。縄文時代後期後葉～晩期初頭のものと思われる。

盛土遺構は、調査区の南西側、低位段丘面に続く段丘斜面で2ヵ所(MA、MB)と、台地上で1ヵ所(MC)検出された。

MA盛土は、柏木川の蛇行によって形成された湾曲部を埋めるように堆積する。11m×27mの広がりを持ち、最大厚は1mである。土層は大きく二層に分けられる。出土遺物総数は214,463点で、出土土器はIV群C類のものが多く、なかでも御殿山式土器が主体を占めている。他に土層からは大洞B・C式餅形の土器、下層からは常林式土器なども出土している。

MB盛土は、MA盛土より約20mほど上流側に位置し、南東斜面に形成されている。3m×13mの

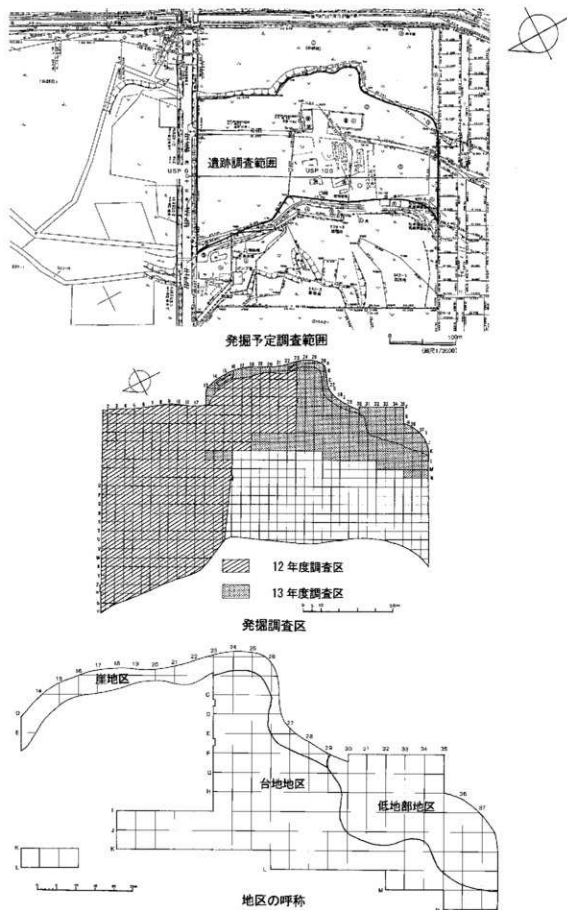


図 I-2 発掘予定調査範囲・発掘調査区・地区の呼称

広がりをもち、最大層厚は0.3mである。土層はほぼ一層である。出土遺物総数は7,370点で、出土土器は縄文時代後期の堂林式のものから縄文時代中期のものが多い。規模はMA盛土より小さく、遺物も少ない。土層の堆積や遺物の出土状況などから見て、自然堆積の可能性もあるが、ここでは盛土遺構として取り扱い、報告しておく。

MC盛土は、台地上のほぼ中央部付近に広がっている。10m×10mの広がりをもち、最大層厚は0.2mである。土層は三層に分けられる。ⅡA層とⅡB層の間に形成されている。北西側は次年度以降の調査区に広がっており、南東側は平成12年度調査区に広がっていたようである。出土遺物総数は49,117点で、出土土器は縄文時代後期後葉～晩期初頭のもの、御殿山式から大洞B・C式併行のものが多く出土している。

崖地区は、調査区の東～南～南西側段丘斜面～斜面下(13ライン～30ライン)に位置し、高低差約2.5mの急斜面である。B-15付近ではⅡ層に盛土遺構の土と酷似する汚れた土が見られ、多量の遺物が出土している。またⅡ層中に泥炭層が形成されているところがあり、この泥炭層の下にある砂利層からも遺物が多く出土した。包含層出土の遺物総数は、64,275点で、出土土器ではIV群C-2類のものが大半を占めている。土層堆積や遺物の出土状態などから見て、盛土遺構と同様の堆積物が一部で形成されていた可能性がある。

低地部地区は、調査区の南西側にあり、標高24.00m付近に広がる平坦地で、調査面積は約550㎡である。水田耕作により攪乱、削平を受けているが、柏木川の氾濫などの影響を示した旧流路状の地形上に粘質の黒褐色土(Ⅱ層)が厚く堆積している。遺構は土壌が3基検出されただけである。包含層出土の遺物総数は106,413点である。出土土器は縄文時代後期後葉のものが多い。

台地部地区の包含層出土の遺物総数は200,135点である。この内訳は土器・土製品が166,061点、石器・石製品などが34,074点である。この他に骨片、炭化種子などの自然遺物なども出土している。土器は、縄文時代早期～続縄文時代のもので出土しているが、なかでも縄文時代後期後葉の堂林式、後期末葉の御殿山式、晩期の大洞B・C式併行のものなどが多く出土している。石器は、石鏃、石槍、石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、石皿、砥石などが出土している。なかでも石鏃が1,357点で、他にくらべて出土点数が多いようである。またフリイク、フリイク・チップ、礫が多く、約86%を占めている。この他に土製品では玉、垂飾、耳栓などが出土し、石製品では、玉類、垂飾品、石棒などが出土している。

(和泉田)

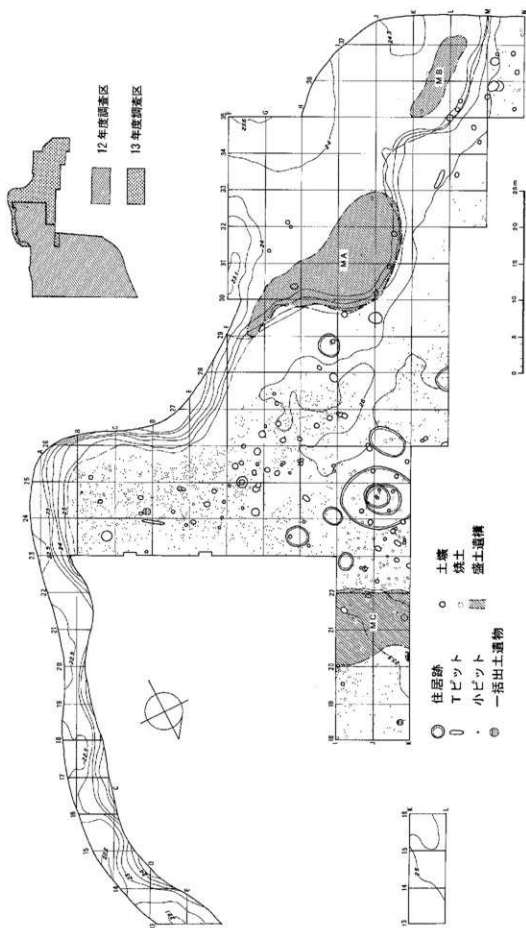


表 I-1 西島松5遺跡出土土器・土製品総計一覧

土器	Ia	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	III	IVa	IVb	IVc	IVc~Va	Va	Vb	Vc	VI	VII	土製品	総計
総計	3	23	246	386	979	17	11979	345	47	1086	473140	52100	563	394	861	19	938	543126

表 I-2 西島松5遺跡出土土器・石製品総計一覧

石器	石鏃	石鏃・ナイフ	石鏃	スレイバー	つまみ付きナイフ	磨製石鏃	石斧	たたき石	すり石	石鏝	石鏝	石鏝	石鏝	石鏝	石製品	フリイク・ナツブ	鏝	総計
総計	3540	110	851	1291	2454	38	632	175	292	189	16	517	5	127	83314	7986	109643	

表 I-3 遺構出土土器・土製品総計一覧

遺構	Ia	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	III	IVa	IVb	IVc	IVc~Va	Va	Vb	Vc	VI	VII	土製品	総計
P										319				38				357
F					1		209			374							4	588
一括						3	51	3				395	2	115				730
MA			5	1	36	1	320	17	3	180778			51		3		454	181669
MB			1	1	15		294	9	1	5667			51	87				6129
MC					24		49	7		44462			9		32		86	44669
総計			6	2	79	1	923	36	4	230907		395	151	202	35		547	234142

表 I-4 遺構出土土器・石製品総計一覧

遺構	石鏃	石鏃・ナイフ	石鏃	スレイバー	つまみ付きナイフ	磨製石鏃	石斧	たたき石	すり石	石鏝	石鏝	石鏝	石鏝	石製品	フリイク・ナツブ	鏝	総計	
P	1		1	2			1									61	4	70
F	4			1			1					1				239	3	248
一括				0											2		0	2
MA	1111		53	198	29		840	18	199	35	35	19	2	72	27	29545	1574	32794
MB	29		4	7	4		25	1	11	3	10	2		8	1	5000	115	1261
MC	195		3	30	12		143	1	48	7	8	3		21		3529	443	4448
総計	1340		40	236	104		1008	19	260	49	53	24	2	80	0	33294	2139	36904

表 I-5 包含層出土土器・土製品総計一覧

包含層	Ia	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	III	IVa	IVb	IVc	IVc~Va	Va	Vb	Vc	VI	VII	土製品	総計
厚地区	3		7	22	43		431	94	5	232		51705	128		39	1	50	52780
低地部増産			23	162	29	224	8	7927	114	34		81137		90	192	78	147	90163
台地地区					71	333	633	8	2688	101	4	161096		194	711	18	194	168061
総計	3	23	240	384	900	16	11056	309	43	232	242233	51705	412	192	826	19	301	308984

表 I-6 包含層出土土器・石製品総計一覧

包含層	石鏃	石鏃・ナイフ	石鏃	スレイバー	つまみ付きナイフ	磨製石鏃	石斧	たたき石	すり石	石鏝	石鏝	石鏝	石鏝	石製品	フリイク・ナツブ	鏝	総計		
厚地区	293	17	91	910		38	2	130		34	78	55	3	62	1	12	8309	820	11519
低地部増産	590		15	108	484		74	3	144	27	57	30	3	130	2	24	13183	1408	16255
台地地区	1527		38	216	133		1324	12	286	60	92	77	8	224	2	46	27428	2729	26704
総計	2200		70	415	1187		1446	17	572	126	227	165	14	418	5	102	49970	4957	61339

表 I-7 崖地区出土土器・土製品一覧

崖地区	Ia	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	III	IVa	IVb	IVc	Va	Vb	Vc	VI	VII	土製品	総計
包含層	3		7	22	43		431	94	6	232	51705	128		39	1	50	52760
遺構					3						395						398
総計	3		7	22	46		431	94	6	232	52100	128		39	1	50	53158

表 I-8 崖地区出土石器・石製品一覧

崖地区	石鏃	石錐・ナイフ	石鏃	スクレイパー	つまみ付きナイフ	磨物石器	石斧	たつき石	すり石	石皿	石盤	碇石	石鏡	石製品	フリイク・チップ	鏃	総計		
包含層	293	17	91	570	38	2	130	34	78	53	3	62	1	12		6309	820	11515	
遺構				570	38		2	130	34	78	53	3	62	1	12		6309	820	11515
総計	293	17	91	570	38		2	130	34	78	53	3	62	1	12		6309	820	11515

表 I-9 低地部地区出土土器・土製品一覧

低地部地区	Ia	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	III	IVa	IVb	IVc	IVc~Va	Vb	Vc	VI	VII	土製品	総計
包含層		23	162	29	224	8	7927	114	34		81137	80	192	76		147	90163
遺構		6	2	52	1	874	29	4	854	186445	142	202	3			461	189075
総計		23	168	31	276	9	8801	143	38	854	287582	232	394	79		608	279238

表 I-10 低地部地区出土石器・石製品一覧

低地部地区	石鏃	石錐・ナイフ	石鏃	スクレイパー	つまみ付きナイフ	磨物石器	石斧	たつき石	すり石	石皿	石盤	碇石	石鏡	石製品	フリイク・チップ	鏃	総計	
包含層	590	15	108	484	74	3	144	32	57	33	3	130	2	24		13183	1408	16296
P	1		1	2				1								61	4	70
F	4			1				1					1			238	3	248
MA	1111	33	198	840	85	18	199	35	35	19	2	72		27		28545	1574	32794
MB	28	4	7	25	4		11	7	10	2		6		1		1020	115	1241
総計	1695	52	314	1292	183	21	356	74	102	54	5	210	2	52		42048	3104	50854

表 I-11 台地地区出土土器・土製品一覧

台地地区	Ia	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	III	IVa	IVb	IVc~Va	Vb	Vc	VI	VII	土製品	総計
包含層			71	333	633	8	2698	101	4	161095	194		711	18	194	166061
遺構					24		49	7		44462	9		32		86	14669
総計			71	333	657	8	2747	108	4	205558	203		743	18	280	210730

表 I-12 台地地区出土石器・石製品一覧

台地地区	石鏃	石錐・ナイフ	石鏃	スクレイパー	つまみ付きナイフ	磨物石器	石斧	たつき石	すり石	石皿	石盤	碇石	石鏡	石製品	フリイク・チップ	鏃	総計	
包含層	1357	38	216	1334	133	12	298	60	92	77	8	224	2	66		27428	2729	34074
MC	195	3	30	143	12	1	48	7	8	3	21		5			3329	443	4448
総計	1552	41	246	1477	145	13	346	67	100	80	8	245	7	71		30857	3172	38522

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置と環境 (図II-1~4)

遺跡は恵庭市の西方、JR恵み野駅から北西約800mに所在する。東を柏木川、西をキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約25mの沖積低地に立地する。キトウシュメンナイ川は、柏木川の支流で西島松5遺跡より約500m上流の湧水池を源流にもつ。

遺跡の所在する西島松の「島松」はアイヌ語でシュマオマブ (shuma-oma-p) 「石がある・もの(川)」の意味である。柏木川はベケレベツ (pekere-pet) 「明るい・川」の意味で、キトウシュメンナイは (kitu-ushi-mem-nay) [行者大森の群生している湧泉池]の意味である。

キトウシュメンナイ川の源流湧泉池は木立がなく開けているが、遺跡内及び周辺のキトウシュメンナイ川の両岸や柏木川の対岸に位置する西島松9遺跡周辺には木立が多い。樹種はオニグルミ・ミズナラ・ヤチダモ・イタヤカエデ・アカシデなどの大木やアズキナシ・ヤマモミジ・エゾニワトコ・イヌコリヤナギなどの中低木である。

2. 周辺の遺跡 (図II-5 表II-1)

周辺の遺跡の概況については、平成13・15年度や平成14年度西島松9遺跡の報告で簡易に記載されている。ここでは、当該遺跡のある柏木川流域の遺跡を中心に時期別に概観する。

柏木川流域には遺跡が多く、現在恵庭市内で周知されている120ヵ所の遺跡のうち、半数の60ヵ所が柏木川流域に分布する。

図II-4は1947年撮影の空中写真をもとにして、2004年に図化したものである。河川の直線化前で、自然地形がよく表されている。図II-5の遺跡番号16・25・28・30・31・34・39・44の遺跡が台地縁辺部に立地しているのがよくわかる。

『旧石器時代』

茂漁4遺跡がある。En-a層から細石刃核・搔器等が出土した。

『縄文時代』

「早期」

柏木川13遺跡がある。竅穴住居跡が1軒検出され、床面から前半期に属する平底の貝殻土器と蛇紋岩製の石器や石製品が出土した。柏木川11遺跡は東鋼路Ⅱ式土器が出土している。島松仲町遺跡からは、アルトリ式・東鋼路Ⅲ・Ⅳ式土器が出土している。

「前期」

柏木B遺跡がある。末期の植苗式土器・大麻V式土器を伴う住居跡が24軒検出された。柏木川8遺跡からは、加茂川式土器が出土している。

「中期」

柏木川1遺跡がある。柏木川式土器の標識遺跡である。竅穴住居跡が6軒調査され、口縁部に貼付帯をもつ深鉢形土器が2個体と、まとまった石器が出土した。西島松14遺跡からは、終末期の大木10式土器を伴う土壌が1基検出されている。西島松15遺跡からは、柏木川式土器の時期の竅穴住居跡が17軒検出されている。B地点でも同時期の住居跡が4軒検出されている。

「後期」

柏木B遺跡がある。3基の周堤墓が調査され、土壌から石棒・玉類等が出土した。

「晩期」

柏木川8遺跡から、タンネット-L式土器が出土している。

『統縄文時代』

柏木B遺跡がある。検出されたのは、おもに後北C2式・D式土器の時期の土塚墓で、柱穴様ピットや付属ピットをもつものが確認されている。土塚墓の付属ピットの可能性があるものからガラス玉が30個出土している。

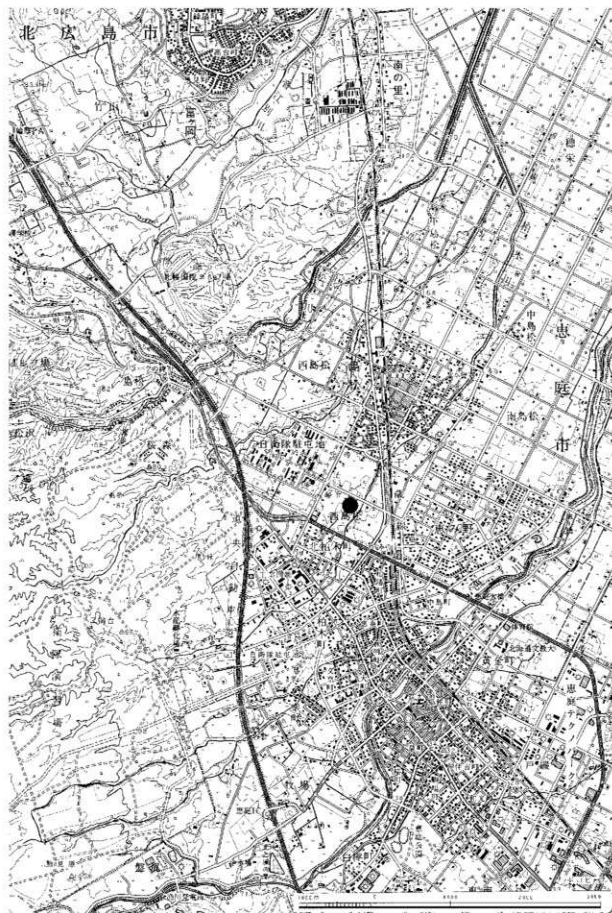
『擦文時代』

柏木川1遺跡がある。前半期の墳墓が1基調査され、甕・坏とともに刀子・鎌・鋸などの鉄製品も出土した。柏木東遺跡(茂漁古墳群)は、昭和9年の調査で北海道式古墳が14基確認された。柏木川11遺跡は、竪穴住居跡が3軒調査された。いずれも焼失住居である。茂漁4遺跡は、7軒の竪穴住居跡が調査され、住居内から琥珀玉・須恵器蓋が出土している。柏木川13遺跡は、竪穴住居跡が4軒検出された。このうち2軒は外側四隅に柱穴をもついわゆる「カリンバ型」の住居である。

『アイヌ文化期』

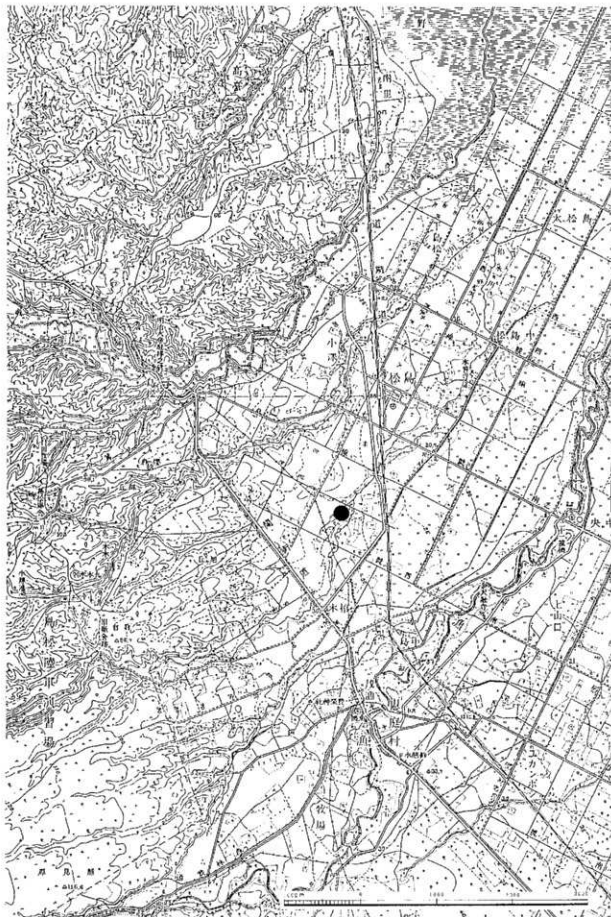
茂漁チャシ跡がある。茂漁川左岸の段丘上に立地している。両崖式のチャシで2本の壕が確認されている。

(佐藤和雄)



図Ⅱ-1 遺跡の位置と周辺の地形 (1)

(国土地理院発行5万分の1地形図
感紙)を使用している ●は西島松5遺跡

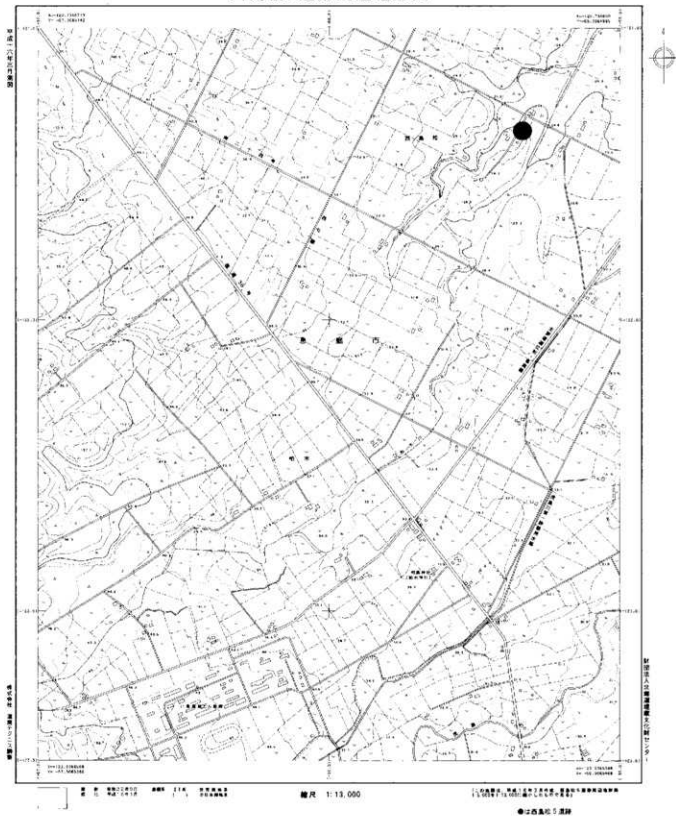


図Ⅱ-2 遺跡の位置と周辺の地形(2) (大日本帝国陸軍測量部昭和11年9月30日発行5万分の1地形図「札幌七ヶ敷」を使用している ●は西島松5遺跡)



図Ⅱ-3 遺跡の位置と周辺の地形 (3) (大日本帝國地測量部 明治43年12月15日発行5万分の1地形図「札幌七ヶ浜」を使用している ●は西島跡5遺跡)

西島松5遺跡周辺地形図



図Ⅱ-4 遺跡の位置と周辺の地形(4)

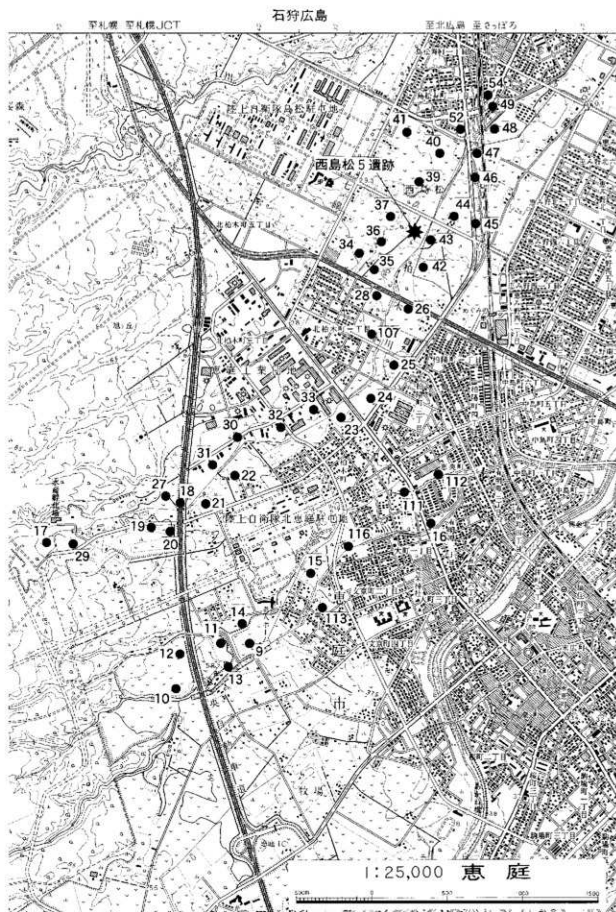


図 II-5 遺跡の位置と周辺の遺跡

表Ⅱ-1 周辺遺跡一覧(恵庭市 A-O4)

番号	遺跡名	性格	時期	文献(複数ある場合は新しいもの)
9	柏木A	遺物包含地	掘文	
10	柏木B	住居跡、墳墓	縄文(早～晩)、縄文(北大)	1981『北海道遺産 柏木遺跡発掘調査報告書』
11	柏木C	遺物包含地		
12	柏木沢	遺物包含地	縄文(晩期)	
13	茂漁チャシ	チャシ跡	アイヌ	1980『日本城郭大系』[北海道]
14	柏木東(西島古墳群)	墳墓	掘文	1966『恵庭遺跡』
15	茂漁1	遺物包含地	縄文(晩期)、縄文(北大)、縄文(北大)	1979『続平磯遺跡』
16	茂漁2	遺物包含地	掘文	
17	柏木水源地	墳墓	縄文(中・後期)、縄文、掘文	
18	柏木川1	住居跡、墳墓	縄文(中・晩期)、掘文	1971『柏木川』
19	柏木川2	遺物包含地	縄文(中・後期)	
20	柏木川3	遺物包含地	縄文(中・後期)	
21	柏木川4	遺物包含地	縄文(後期)	
22	柏木川5	遺物包含地	縄文(早・中・後期)	
23	柏木川6	遺物包含地		
24	柏木川7	住居跡	縄文(早・前・中期)	
25	柏木川8	住居跡、墳墓	縄文(中期)	1988『柏木川8遺跡』『柏木川12遺跡』
26	柏木川9	遺物包含地	縄文(中期)	
27	柏木川10	遺物包含地	縄文(中期)	
28	柏木川11	住居跡、墳墓	縄文(後期)	1955『柏木川11遺跡(目)』
29	柏木川12	遺物包含地		
30	柏木1菜田地1	住居跡	縄文(中・後・晩期)	
31	柏木1菜田地2	住居跡	縄文(後期)、縄文、掘文	
32	柏木1菜田地3	住居跡		
33	柏木1菜田地4	遺物包含地		
34	西島松1	遺物包含地	縄文(前期)	
35	西島松2	遺物包含地	縄文(後期)	
36	西島松3	住居跡	縄文(前～晩期)、掘文	1966『恵庭遺跡』
37	西島松4	遺物包含地	縄文(後期)	
38	西島松5	住居跡		1966『恵庭遺跡』
39	西島松6	遺物包含地	縄文(前～後期)、掘文	
40	西島松7	遺物包含地	縄文(早・中・後期)、掘文	
41	西島松8	遺物包含地		
42	西島松9	遺物包含地		
43	西島松10	住居跡	縄文(晩期)、掘文	
44	西島松11	遺物包含地		
45	西島松12	遺物包含地	縄文(中期)	
46	西島松13	遺物包含地	縄文	
47	西島松14	遺物包含地	縄文(中・後・晩期)	1993『西島松14遺跡』『西島松15遺跡』
48	西島松15	遺物包含地	縄文(中期)	1994『島松伸町遺跡』『西島松15遺跡B地点』
49	西島松16	遺物包含地	掘文	
52	島松寿町1	遺物包含地	縄文(後期)	
53	島松寿町2	遺物包含地	縄文(後・晩期)、掘文	1966『恵庭遺跡』
54	島松伸町	遺物包含地	縄文(早・中・後期)	1994『島松伸町遺跡』『西島松15遺跡B地点』
107	柏木川13	住居跡	縄文(早・中・晩期)、縄文、掘文	2004『調査年報15』
111	茂漁3	住居跡	縄文(中期)、縄文(後7C-3)、掘文(前期)	
112	茂漁4	住居跡	縄文(前・後期)、縄文(後7C-3)、掘文(前期)	1977『茂漁4遺跡』
113	茂漁5	遺物包含地	掘文(北大Ⅲ)	1997『茂漁5遺跡』
116	茂漁6	遺物包含地	縄文・アイヌ	

Ⅲ 調査の方法

1. 調査区の設定 (図Ⅲ-1)

西島松5遺跡の発掘調査区は柏木川河川改修工事におけるUSP0とUSP100を結ぶ南北方向の直線を基軸に、5×5mメッシュの区画として設定した。この基軸をRラインとし、東から西へ5mごとにアルファベットを付して表記した。同様にUSP0を0とし、北から南へ5mごとにアラビア数字を付して表記した。Rラインは真北に対して26°51'1"東偏する。

グリッド名は北東の交点におけるアルファベットとアラビア数字の組み合わせによって「G-26」のように呼称した。また、アルファベットは大文字によって表記し、Z以降は小文字に変えて表記した。

基準杭の平面直角座標系第Ⅱ系による座標値は以下の通りである。

USP0 (R-0) : X=-121292.638 Y=-55345.279

USP100 (R-20) : X=-121381.857 Y=-55390.445

2. 調査の方法

(1) 調査の方法

今回報告する平成13年度調査区の台地地区は、多量の遺物が出土すると予想したため、機械力を用いず、掘り下げはすべて人力で行った。調査は河川改修工事の工程の都合上から、東側から開始し、順次西へ調査区を広げた。

(2) 遺物の取り上げ

1層を含む包含層出土の遺物はグリッドごと、層位ごとに取り上げた。

遺構内の遺物は覆土内に混入したと判断したものについては層位のみを記録して取り上げ、坑底出土のものや一括性が高いと判断したものについては、図化または地点を記録して取り上げた。

盛上遺構出土の遺物は、MA盛上では土器の口縁部と底部、MC盛上では口縁部や底部を含む比較的まとまった土器を地点を記録して取り上げた。

(3) フローテーション・土壌水洗

住居跡床面付近の土壌、焼上、盛上遺構などは、動物遺存体や種子などの微細遺物を抽出することを目的に、フローテーション・土壌水洗を行った。フローテーションは作業効率が低いため、採取した土壌の一部を抜き取り、作業を実施した。フローテーションを行わない残りの土壌については、すべて土壌水洗を行った。

フローテーションは浮遊したものについては2mm、0.425mmのメッシュを通して回収し、沈下したものについては5mmのメッシュを通して回収した。

土壌水洗は、5mmのメッシュを通して微細遺物の回収を行った。

(石井)

3. 土層 (図Ⅲ-2)

基本層序は、平成12年度調査における観察結果と基本的に同じであり、観察項目、観察手順ともこれまでの報告書(北里調報178・194)に準拠している。

土層模式図は台地地区、崖地区、低地部地区で様相が異なるため、それぞれ作成した。台地地区は

I-20付近、崖地区はB-15付近、低地部地区は、MA盛土部分ではI-30付近、MB盛土部分ではI-36付近、包含層ではI-33付近の上層図をもとにしている。なお、上層の観察には『標準土色帖』(小山・竹原1967)および『土壌調査ハンドブック』(ペトロジスト懇談会1984)を用いている。

(1) 台地地区基本層序

I層：耕作表土 地表土、Ta-a、II層、III層、IV層が耕作により混ぜられた結果生じた攪乱層。

樽前a降下軽石層(Ta-a A.D.1739年降下)：I-21~23、J-21~23のくぼ地などに見られる。

II層：黒色腐植土

II A層：黒色土 Ta-aが見られるところで確認された。乾燥すると白っぽくなる。苦小牧火山灰層(B-Tm)が微量混入する。層厚は2~3cm程で、主に縄文時代～濠洲時代の遺物が含まれる。

II B層：暗褐色土 I-18~24、J-18~25に見られる。層厚は7~10cmで、樽前c降下軽石(Ta-c 2300~2500年前降下)が微量混入する。主に縄文時代後期～晩期の遺物が含まれる。

II C層：黒褐色土 II B層が見られるところで確認された。また耕作等の攪乱を深く受けわずかに残存するII層は、このII C層に相当するものと思われる。粒子細かく、軟質土である。主に縄文時代早期～後期の遺物が含まれる。

III層：暗褐色土～暗黄褐色土 II層とIV層の漸移層

IV層：文笏軽石(約32,000年前降下)が底庭a降下軽石(En-a 15,000~17,000年前降下)を若干量取り込んで二次堆積し、土壌化した層。IV層下位には底庭a降下軽石を主体とする水成二次堆積層が部分的に観察された。

(2) 崖地区基本層序

II層：B-15付近では、台地地区のII層、黒褐色土、黄色土のまじり合った粘質土。

泥炭層：暗茶灰色～漆黒褐色土から暗灰色細砂 細砂層が入る。

砂利層：暗灰色砂利

(3) 低地部地区基本層序

II層：盛土遺構付近ではその上下で分かれて確認された。

II a層：黒色壤土から砂壤土 MA盛土、MB盛土が見られる直上で確認された。

II b層：黒褐植壤土から黒色壤土 MA盛土、MB盛土が見られる直下で確認された。

II b-1層：黒色壤土から植壤土 MA盛土2層とMA盛土4層の直下で確認された。
当初はMA盛土の一部と考えMA盛土3層と呼称したが、攪乱された土層ではなくII b層の一部と判断した。

II b-2層：黒色植壤土 MA盛土2層がみられる部分のII b-1層の直下で確認された。

砂層：褐色粘質土、暗灰黄色細砂、淡褐色土、暗灰色細砂などの互層

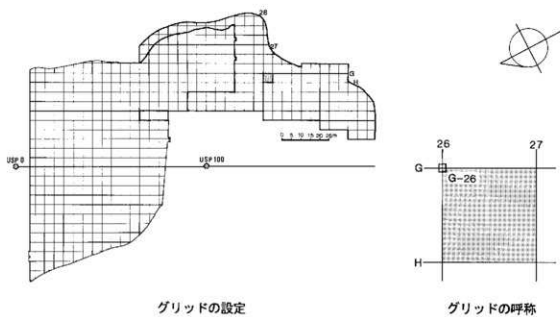
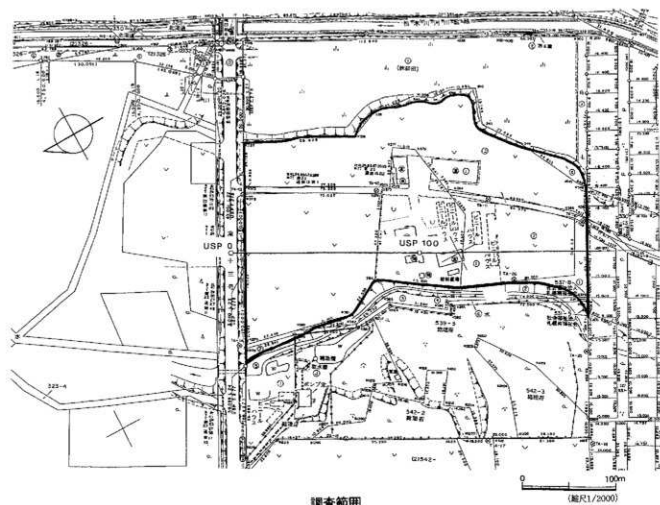
細砂層：暗灰色微砂から淡褐色砂泥

粗砂層：暗茶色粗砂 砂利が混じるところがある。

泥炭層：黒褐色粘質土 崖地区のII層の泥炭層に類似する。

砂利層：暗灰色砂利 崖地区のII層の砂利層に類似する。

(佐藤 剛)



図Ⅲ-1 調査区の設定

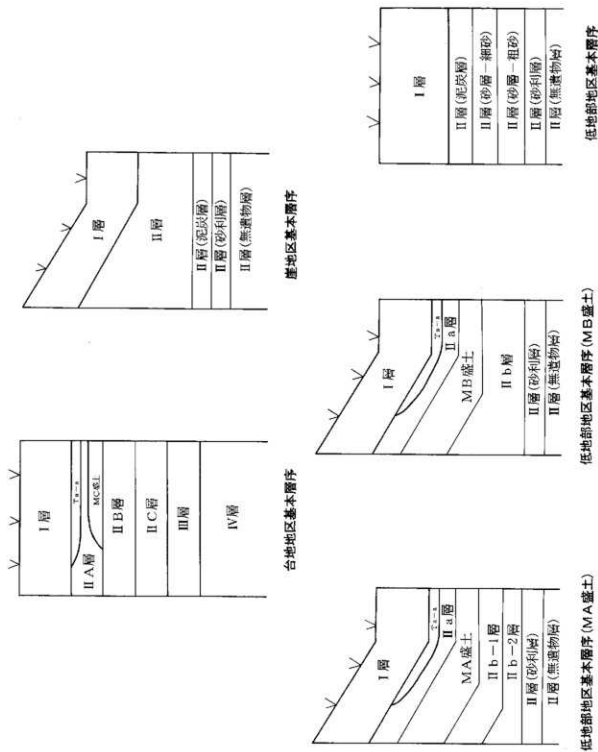


図 III-2 基本土層模式図

4. 遺物整理の方法

(1) 土器

現地では、水洗、分類作業を行い、遺構ごともしくはグリッドごとに仮収納し、江別へ搬送した。江別の整理作業所では、注記、遺物台帳登録、接合、復元、分類変更、集計を行った。

分類は、後述の記号を用い、必要に応じて再分類などの分類変更を行った。

注記は、微細なものを除き、遺跡名「西島松5」を「西5」、続けて遺構名もしくは発掘区（グリッド名 例I-22など）、出土層位、遺物番号を記載した。遺構名は前述の記号を用いた。

遺物台帳登録は、出土遺物のデータを記載したカードをもとに、パソコンを用いて行い、集計した。接合は、遺構内を中心に行った。周辺の遺物包含層との接合も想定されたため、出来る限り今回未報告の包含層出土資料とも行った。

復元した個体は実測図を作成し、破片資料は、時期のわかるものや文様が明瞭なものを中心に抽出し、拓影図・断面図を作成した。

(佐藤 剛)

(2) 石器

報告書掲載の石器は、現地で水洗、分類、遺物カード、遺物台帳などの一次整理作業をおこない、2次整理において、分類器種ごとに整理台帳を作成し、点数を集計した。その後、同一器種内、異器種間での接合を試み、分類と台帳の訂正をおこなった。報告書掲載遺物は、遺構出土、包含層出土を問わず、残存状態が良好であるもの、その器種の特徴を反映しているものを抽出しており、器種ごとの掲載点数はかならずしも出土点数と比例してはいない。

石器の計測は「長さ」、「幅」、「厚さ」、「重さ」の項目についておこない、計測値を表に示した。前者3項目は、実測図上で互いに直交する軸の数値を計測した。「長さ」は最大長である。欠損部分があるものは、残存長の数値を（丸括弧）でくくった。「重さ」の数値は120g未満のものについては小数点第2位まで、それ以上のは小数点第1位まで、また2kgを超えるものは1～10gを最小単位とする数値で示した。

(上田)

5. 遺物分類の方法

(1) 土器

土器は以下の分類基準を用いて行った。

I群

a類：胎土が密で、貝殻条痕文、貝殻文、及び燃糸文、組紐圧痕文、綵条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの

b類：胎土が粗で、燃糸文、組紐圧痕文、綵条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの

II群

a類：厚みがあり、縄文原体（0段多縄が多い）は糸の幅が広く、地文の縄文が器面に深く施文される、丸底、尖底を特色とするもの

b類：地文が綵条体、燃糸文で、内面が磨かれる円筒土器下層式に相当するもの（今回は出土していない）

III群

- a類：貼付け文及びその文様構成を引く沈線文で文様帯が構成される、円筒土器上層式に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるもの、および萩ヶ岡1・2式に相当するもの
- b類：萩ヶ岡3・4式、天神山式、柏木川式、北筒式（トコロ6類）、および地文を施文する前に隆起する貼付けを行い、刺突文等で文様を構成する煉瓦台式に相当するもの

IV群

- a類：余市式、タブコブ式、ウサクマイC式、十腰内Ia式に相当するもの（余市式として分類される、幅の広い貼付け文と無文帯をもち、刺突文、縄線文、沈線文などで文様帯が構成される一群は遺跡の状況によりⅢ群b類またはⅣ群a類の中で扱う。当遺跡ではⅣ群a類に分類した。）
- b類：手稻式、ホッケマ式に相当するもの
- c類：堂林式、三ツ谷式、指の爪などによる器表面への斜めからの刺突である爪文が施される御殿山式、湯の里3式に相当するもの

V群

- a類：大洞B式、大洞BC式、及び主に半截竹管状工具による器表面への垂直な刺突のほどこされる上ノ国式に相当するもの
- b類：大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの
- c類：大洞A式、大洞A'式に相当するもの（今回は出土していない）

VI群

縄文時代に属する土器群（北大Ⅲ式土器群も含む）

VII群

擦文時代に属する土器群（今回は出土していない）

土製品は以下の分類を用いて行った。

- 玉
- 垂飾
- スタンプ状土製品
- 耳栓
- 円盤状土製品
- 環状土製品
- 土偶

(佐藤 剛)

(2) 石器

器種別の大分類にとどめ、細分は行っていない。整理作業で使用した分類の名称および、報告の概ねの掲載順は以下の通りである。なお、一次分類については新家水奈、佐藤和雄、二次整理及び報告書への記載は土肥研品が行った。

- 剥片石器 石鏃
石槍またはナイフ
石鏃
つまみ付きナイフ

スクレイパー類
くさび形石器（剥片の上下両端に加撃痕と摩滅痕がある）

礫石器 石斧
すり石
石鋸
たたき石
石錘
砥石
石皿
台石

石製品 玉
垂飾
石製品
石棒
異形石器

(十肥)

6. 保存処理の工程（図Ⅲ-3）

保存処理は、図Ⅲ-3 保存処理工程のとおり、基本的に美々8遺跡低湿部（北埋調報114）の方法に従っている。ここでは西島松5遺跡の保存処理について概略を述べる。

木製品の保存処理

木製品内部には褐鉄鉱など金属由来の沈着物などが多く介在しており、十分な水浸漬による沈着物溶脱とEDTA（界面活性剤）処理を行なった。木製品には、耐水の白色マイラー紙のラベルにB・HBなどの鉛筆で記載し、過熱や薬品処理に耐えられるものにした。木製品は遺物名称、樹種名、形状、加工度、樹皮残存状況、炭化状況ごとに再選別し、製作技術や用途ごとに同一の処理法となるようにグルーピングした。処理過程や処理後の観察資料のために、報告図版や実測図に劣化状況や破片数などを記録し、処理・修復後実測となる遺物は、接合・劣化の模式図を作成し、デジタルカメラで現状を記録した。木製品の養生では、彫刻などのある製品には注意を払い、変形や収縮の予想される樹皮などの残るもの、炭化の著しいもの、脆弱な木製品などには補強材などをあてて厳重に梱包した。樹脂含浸はMannitol + PEG + 真空凍結乾燥法（MPFD法）、PEG4000の100%含浸法（PEG法）、PEG4000（40～50%溶液まで）含浸 + 真空凍結乾燥法（PFD法）を実施している。復元・補修はエポキシ樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンの混合ペーストを使用し、MPFD法ではセルローズ系接着剤の一部を使用した。補填・接合箇所はアクリル絵具で古色付した。

金属製品の保存処理

鉄製品は、内部のメタル分がサビとともに溶脱し、中空状態となっているものが多かった。保存処理作業は、複合素材の状態観察に重点をおき、別素材の付着状況に注意を払った。遺物は白板確認後、

処理前の現状を写真撮影し、観察カードに受入時の現状をスケッチした。観察は肉眼観察と実体顕微鏡を中心に、HDビデオマイクログ装置や光学顕微鏡を併用して実施した。X線透視撮影は2面以上を原則にフィルム撮影し、内部構造を観察カードに付記した。脱塩処理は塩化物イオンと硫化物イオンの両方に効果がある高温高圧脱塩法(高温蒸気法)を実施し、非水系のパラロイドNAD10を減圧含浸した。樹脂含浸強化については写真撮影、実測図作成、遺物搬送に耐えうる程度の強度を目標とした。資料表面は実測図作成及び写真撮影の障害とならないように、光沢を押さえぎみ処理した。樹脂含浸後の接着・補填・充填にはエポキシ系樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストや市販のエポキシパテを使用した。明瞭な折損にはシアノアクリレート系樹脂(アロンアルファ)を使用した。充填箇所の古色付けは、実測・写真撮影後にアクリル絵の具を使用した。処理後はシール容器にシリカゲルとともに保管した。

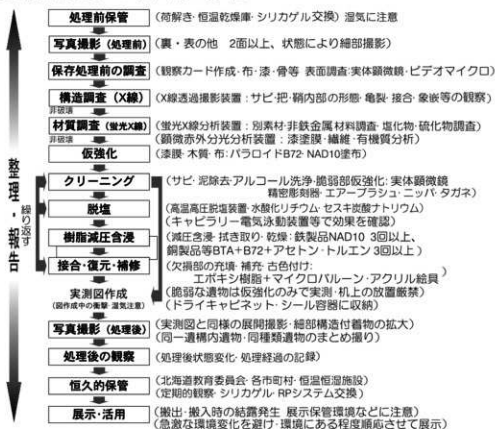
なお、保存処理後の遺物は、保存処理期日、処理方法・保存処理先を必ず記録し、できる限り急激な温度変化や湿度変化の少ない環境に保管すること。北海道のような寒冷地では、冬期間の搬入・搬出時の結露が問題となる。温湿度に注意し、十分に環境順応させてから展示や収納を実施し、定期的な経過観察を心がけるべきである。

(第1調査部第1調査課 田口尚)

木製品の保存処理



金属製品の保存処理



図Ⅲ-3 保存処理工程

IV 崖地区の調査

1. 崖地区の概要 (図IV-1~3)

崖地区は、調査区の東へ南へ南西側にあり、台地の縁辺をめぐる斜面～斜面下の部分(13ライン～30ライン)である。高低差は約2.50mで、急傾斜になっている。当初13ライン～26ラインの斜面が調査対象であったが、26ライン～30ラインの台地縁辺周辺から斜面にかけても遺物が出土したため、急傾Dライン、27ラインそしてその中間の3ヵ所に小トレンチを設定し、トレンチ調査を行った。この結果三つの小トレンチ内で遺物が出土したため、この範囲の斜面～斜面下にかけても調査を実施することになった。最終調査面積は、13ライン～26ラインが436㎡、26ライン～30ラインが84㎡で、合計520㎡である。

平成12年度調査で、C-15の包含層調査中、台地縁辺部から調査区外である斜面に分けて遺物が出土した。このため16ラインと23ラインに沿って小トレンチを設定し、トレンチ調査を行い、遺物の出土状況や土層の堆積等を観察、検討した。この結果をもとに調査区東へ南へ南西にある斜面全体を対象に範囲確認調査が実施され、13ライン～26ライン間の斜面～斜面下が調査範囲に組み込まれ、平成13年度に調査が実施された。

調査は、13ラインから26ライン方向へ順次包含層調査を行った。また斜面下は地下水位が高く、常に貯水の状態となるため排水用の水路を掘削し、水中ポンプによって常時排水を行いつつ、調査を行った。表土、盛土、床土、攪乱などを除去し、Ⅱ層および遺物包含層の調査を行った。13ラインから16ライン付近では、薄くⅡ層が見られ、その下には遺物が多量に混入するⅡ層、黒褐色土、黄色土などがまじり合った汚れた土が約50cmほど堆積している。この下には20～30cmの厚さの泥炭層がありその下には遺物を包含する砂利層が厚く堆積している。17ライン付近から22ライン付近にはⅠ層の下にTa-a層が薄く堆積し、その下には10～30cmの厚さの泥炭層、その下に遺物を包含する砂利層が見られた。A-22では砂利層上の土層図5-2層中で、約1.0m四方の範囲で土器集中が検出されている。26ライン～30ラインの斜面では表土、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層が見られ、上層に大きな攪乱状態は見られなかった。また斜面下では泥炭層が厚く堆積していたが、砂利層などは確認されなかった。泥炭層はC-13付近、B-14・15付近、A・B-17付近、A-19・20・21・23付近で形成されており、丁度最終面の標高が22.50m付近に対応している。遺物を包含する砂利層は、この泥炭層の分布にほぼ重なって形成されている。なお遺物を包含する砂利層の下は堅固な砂利層と細砂層が複雑に入り組んだ無遺物層である。

出土遺物総数は64,673点である。この内訳は土器・土製品が53,158点、石器・石製品など11,515点である。遺物はⅠ層、Ⅱ層、泥炭層、砂利層などで出土している。とくに「Ⅱ層を泥炭層の間に堆積する細砂層が互層に見られる黒褐色土」や「黒褐色土と黄色土がまじり合った粘質土」、泥炭層の下に堆積する「砂利層」中から多く出土している。なおⅡ層～砂利層で出土した遺物はⅡ層で取り上げている。

細砂層が互層に見られる黒褐色土はA-22、とくに23ライン付近で形成されている。この層の下層では一括出土遺物9が検出されている。出土遺物総数は4,031点で、この内一括出土遺物9では398点の土器が出土している。またA-22の砂利層では1,008点の土器が出土している。

Ⅱ層、黒褐色土、黄色土がまじり合った粘質土はB・C-15付近で見られた。ここでは7,488点の遺物が出土している。この土は盛土遺構(MA)の土と酷似しており、堆積土、遺物の出土状況、その

広がりなどから見て、盛土遺構の可能性もある(盛土の可能性のある範囲)。

砂利層は13ライン～26ラインの泥炭層の下で見られるが、遺物の包含が著しいのはA-22、D-13である。D-13では561点の土器片が出土している。砂利層は堅くしまり、巧厚石状の碑を主体とし、細砂も混入している。出土土器片などはあまり磨耗はしていない。単に流入した遺物とは思われない状況である。D-13の砂利層で擦文土器片が一点出土しているが、堆積の状態から考え、何らかの営為による偶然の混入と考えておく。

崖地区での出土土器はⅣ群C-2類のものが大半(52,100点で、全体の約98%)を占めている。石器では石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、石斧、たたき石などが出土しているが、フレイク、フレイク・チップ、礫が10,129点で、全体の約88%を占めている。

崖地区での遺物の出土状態は、台地縁辺部から自然に落ち込んだものとは考えにくい状態を示している。とくにC・D-13、B-15、A-22の出土状態は、縄文時代晩期前葉に人為的に廃棄あるいは投棄された状況を示していると思われる。

(和泉Ⅲ)

2. 一括出土遺物

一括出土遺物9(一括9)(図Ⅳ-1・4-1～8 表Ⅴ-1・21 図版12～13)

位置：A-22

確認・調査：A-22の包含層調査中、細砂層が五層に見られる黒褐色土(図Ⅵ-2層)の下層で約1.0m四方に広がる土器片が一括出土した。

遺物出土状況：出土遺物総数は398点である。すべて土器で、出土土器はⅤ群a類土器395点、他にⅡ群a類土器が少量出土している。

出土遺物：土器～1～5は深鉢。1～2は小波状口縁。1は爪文で連続山形文を描く。3は口唇部外面に爪文が巡る。4～5は平縁。6～7は無文の鉢。外面は磨きである。8は壺の口縁部。口縁端部には丸みのある瘤状のものと丸みのあるΛ状突起に類似する貼付けが交互に付される。貼付けの下には刺突文が2条巡る。貼付け上は沈線文、体部上半はヘラ描き沈線文で文様が施文される。沈線文とヘラ描き沈線文、刺突文の施文具は同一と考えられる。東三川Ⅰ式であるが、B・C-15出土土器群よりも古い様相がみられ、低地部地区MA盛土遺物集中出土土器群に相当することから、大洞BⅠ式土器に併行すると考えられる。

性格：周辺に伴うと思われる遺構はなく、人為的に廃棄あるいは投棄された状況を示していると思われる。 時期：出土土器からⅤ群a類を伴う縄文時代晩期初頭と思われる。

(和泉田)

3. 包含層出土の遺物

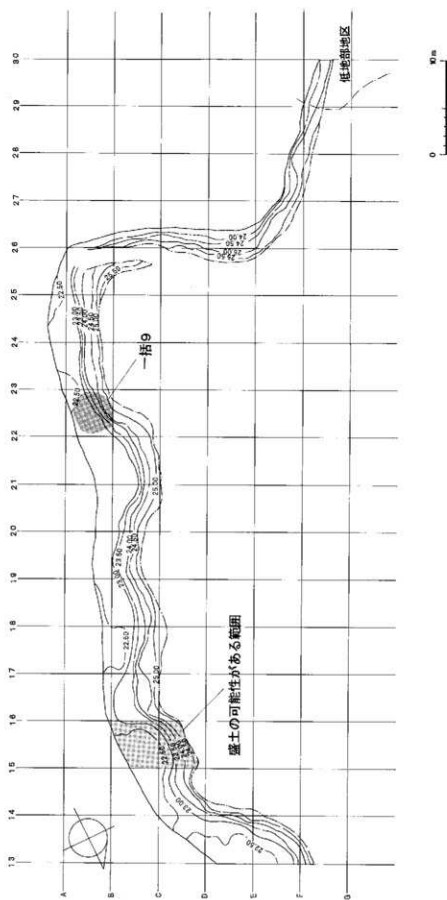
(1) 土器(図Ⅳ-5～50 表Ⅴ-2・22 図版14～42)

崖地区の包含層では、B・C-15から盛土遺構もしくはそれに類似する出土状況でまともな出土したものとその他から出土したものがある。記載はB・C-15からまともな出土したものとその他から出土したものに分けた。

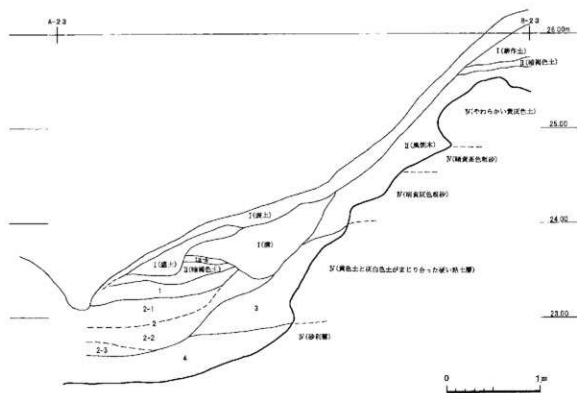
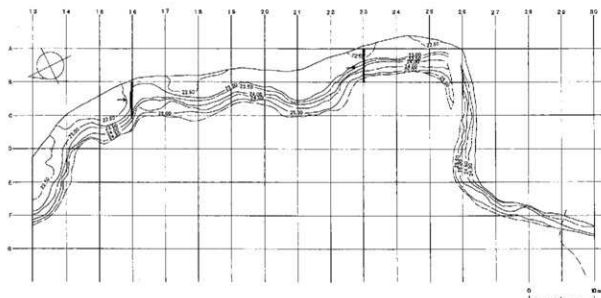
1) B・C-15出土土器(図Ⅴ-5～42-1～219 図版14～37)

すべて東三川Ⅰ式である。

深鉢(1～106)

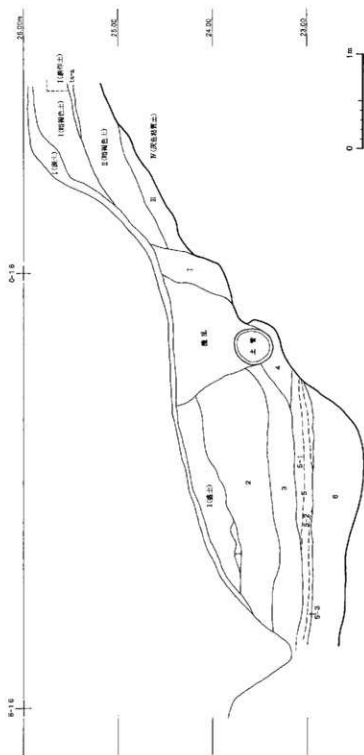


図IV-1 坩部位置図と最終断面測量図



1. 暗褐色土・粘質土に黒褐色粘質土が互層に入る。ほぼ泥炭層に対応するものであろう
2. 細砂層
- 2-1. 暗褐色土に細砂が入る
- 2-2. 暗褐色土に粗砂が入る
- 2-3. 暗灰色細砂
3. 暗褐色土・黄砂・暗灰色粗砂・黒色粘質土・砂利等が互層に堆積
4. 砂利層
- 1~4: 目層
- 1: 16ラインの3層にほぼ対比
- 2: 16ラインの5層に対比
- 4: 16ラインの6層に対比

図N-2 土層断面図(1) 23ライン



1. 灰戸包砂土
2. 灰包砂土・黄砂包砂土・黄砂・黄包土が互に合った上、遊動が多量に進入
砂土の可塑性がある
3. 泥炭層に泥炭色灰質土、炭化物・礫石・水片が混入
4. 赤包土・黄包土・黄包土等の灰質土が互層に成層、粘着土が少
- 5-1. 粘着砂土に細砂層が混入
- 5-2. 粘着包土に細砂層が混入
- 5-3. 泥炭色砂土
6. 砂包土

1~6:10釐

図IV-3 土層断面図 (2) 16ライン

1～80はくびれのない深鉢である。1～43は沈線が施文される文様帯のあるもの。1～9は沈線文で文様を描く。10～20は帯縄文で文様を描く。21～43は1本の横走沈線文で胴部と区画する。21～35はA状突起をもつ。36～41は口縁部を無文にするもので、42～43は地文の縄文を残す。44～80は沈線が施文される文様帯がなく、口縁部から底部まで縄文が施されるもの。44～48は突起をもつ。49～70は口唇上にキザミをもつ。71～80は平縁。59は幅凸突縮文をもつ。

81～83はくびれのある深鉢である。81～83は、沈線が施文される文様帯のあるもので、すべて帯縄文で文様を描いている。A状突起とゆるやかな山形の突起または丸みのある突起を交互に配置している。

84～85は胴部、86～106は底部である。84は半載竹管状工具による爪形文を施文している。86は底部に5つの焼成後穿孔の貫通孔と木貫通の穿孔痕を2つもつ。87・92・99は地文が無文である。93～96は低台部と胴部の接合部に沈線文をもつもの。97～101は爪形文をもつもの。97～99は爪文(爪による爪形文)で、100～101は半載竹管状工具による爪形文である。

浅鉢(107～140)

107～136は上面観が円形の浅鉢である。107～118は沈線が施文される文様帯のあるもの。107～112は沈線文で文様を描く。113～118は帯縄文で文様を描く。119～136は沈線が施文される文様帯がなく、口縁部から底部まで縄文が施されるものと無文のもの。119～120は3個1組の小さな山形の突起をもつ。突起頂部には刺突が加えられる。121～125は口唇上にキザミをもつ。124はキザミが連続するが、それ以外は2個～3個1組で間隔をあけて施文している。126は先端が尖る工具により横長の刺突文が2条巡る。127～135は無文である。136は底部外面に沈線が1条巡り、その内側の底部は無文である。

137～138は上面観が楕円形の浅鉢である。137は沈線が施文される文様帯のあるもので、1本の横走沈線文で胴部と区画している。短軸側の突起は真ん中がくぼむもので、長軸側の突起はA状突起に類似するやや外面に飛び出す形状で、真ん中をくぼませて2個1組の突起のように作りだしている。138は無文で、短軸側の一方がやや飛び出す形状が想定され、片口土器の可能性もある。

139～140は底部である。139はやや高い台付の底部で、台部の外面に2本1組の矢羽状の文様を施文している。140は低台付きの底部で、低台部と胴部の接合部とその下に2本の沈線文をもつ。

136・138は丸底で、それ以外の底部の残るものは低台が付いている。

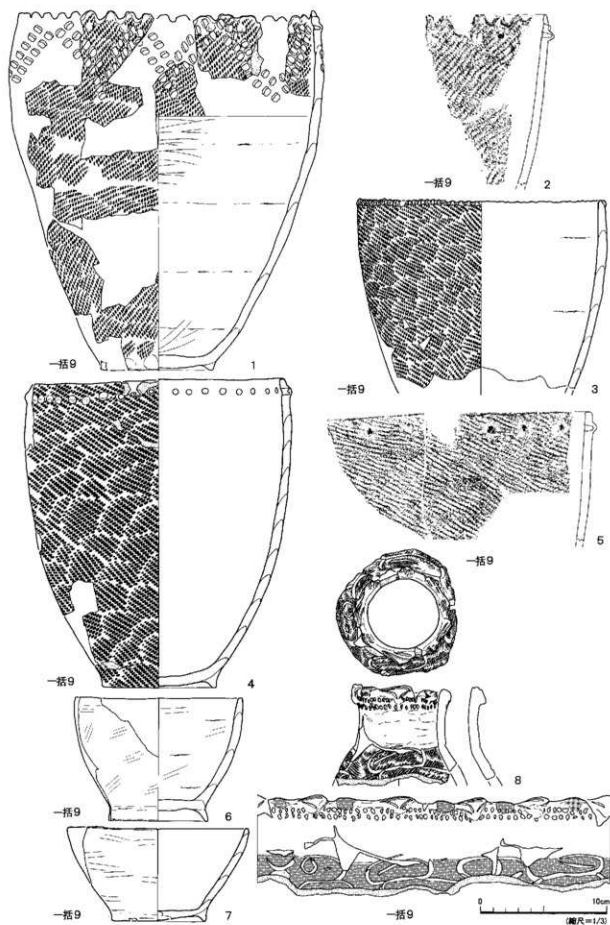
鉢(141～164)

141～143はくびれのあるまたは屈曲する口縁の鉢である。141～142は沈線が施文される文様帯のあるもので、沈線文で文様を描く。143は屈曲する口縁で、口縁部は無文である。屈曲部の下に爪文が1条巡る。

144～164はくびれや屈曲のない鉢である。144～152・154～155は沈線が施文される文様帯のあるもの。144～146は沈線文で文様を描く。147～150は帯縄文で文様を描く。152は連続する短い横長の沈線文を施文する。154～155は1本の横走沈線文で胴部と区画する。154はA状突起をもつ。155は口縁部を無文にするもので、ゆるやかな山形の突起を持ち、突起頂部にはキザミを1個加えられている。156～159は口唇上にキザミを持つ。159はキザミが連続するが、それ以外は3個1組と7個1組で間隔をあけて施文している。160～164は沈線が施文される文様帯がなく、口縁部から底部まで縄文が施されるもの。

壺・注口土器(165～215)

壺と注口土器は器種として設定できるが、注口土器の形態が壺に注口をつけたものであることから、全体の形状が判らない場合、口縁部や胴部の一部などの形態から区別することができなかった。その



図IV-4 一括出土遺物の土器

ため、本来は壺と注口土器を区別した上でその文様の違いを記載するべきであるが、文様の記載は区別せずに行った。また接合が難しいため、口縁部から底部まで復元できた個体が無く、残存部分ごとに記載した。

165～193は口縁部が復元できたものである。165～183は沈線が施文される文様帯があるもの。184～193は沈線が施文される文様帯がなく、無文のものと縄文が施されるもの。184～192は口縁部が無文のもので、193は地文の縄文が施文される。

194～211は胴部が復元できたものである。194～207は沈線が施文される文様帯があるもの。194～195は沈線文で文様を描く。196～198は一部に磨消をもつ。199～207は帯縄文で文様を描く。208～211は沈線が施文される文様帯がなく、無文のものと縄文が施されるもの。208は無文で、209～211は地文の縄文が施文される。

212～214は底部である。212は丸底、213は平底、214は小さな低台付の底部。215は注口土器の注口部分である。

片口土器 (217～219)

217は深鉢、218は浅鉢、219は鉢に片口をつけた器形である。

217の口縁部は大きく内湾し、そこから片口部分に至る形状と考えられる。218は丸みのあるくちばし状の片口部である。219も丸みのあるくちばし状の片口部であるが、218よりは短い形状である。

ミニチュア土器 (216)

216は鉢の器形で無文である。

2) その他の包含層出土土器 (図V-5～42-1～218 図版38～42)

Ⅰ群 a 類土器 (220)

220は直線的に開く深鉢の胴部で、胎土に繊維を含み、多条の太い縄文を施文し、想定できる大きさの割には器壁が薄い。静内中野式土器。

Ⅱ群 a 類土器 (221)

221は円筒形の深鉢の口縁部で、口唇部外面とその下とに2本の粘土紐の貼付けがある。貼付け上には半截竹管状工具による2本1組を同時に施文するハの字の沈線文が施文される。荻ヶ岡2式土器。

Ⅲ群 a 類土器 (222～223)

222はタガ状の貼付けが巡る深鉢の胴部で、胎土に滑石を含み、多条の縄文を羽状に施文するもの。余市式土器。

223は深鉢の胴部で、太日の沈線文で直線を主体とする幾何学模様を描くもの。大津7群併行の土器。

V群 a 類土器 (224～300)

出土したV群 a 類土器は、すべて東三川1式土器に相当する。崖地区の東三川1式土器には、大洞B1式土器に相当するA-22から出土した一括出土遺物9と大洞B2式土器に相当するB・C-15川土器群がみられた。しかし、両者には共通する属性が多く、その他の包含層の分類を行った段階では区別することが困難であったため、ここでは区別せずに扱った。

深鉢 (224～264)

224～240・245～254はくびれない深鉢である。224～240は沈線が施文される文様帯があるもの。224～225は沈線で文様を描く。226～233は帯縄文で文様を描く。234～240は1本の横走沈線文で胴部と区画する。234～235はA状突起を持つ。236は小波状口縁である。237はゆるやかな山形突起を持ち、突起頂部にはキザミを2割加えられる。238～239は口縁部を無文にするもの。240は地文の縄文を残す。245～254は沈線が施文される文様帯がなく、口縁部から底部まで縄文が施されるもの。245～247は突

起をもつ。248～253は口唇上にキザミをもつ。254は平縁。

241～244はくびれのある深鉢である。241～244は、沈線が施文される文様帯のあるもので、すべて帯縄文で文様を描いている。241は、キザミを持つもの。242は小波状口縁のもの。243は、2個1組の小さな山形の突起をもち、突起頂部には突起が加えられる。244は、くびれ部に突起が1条加えられる。

255～264は底部である。255は低台部と胴部の接合部に沈線文をもつもの。256～262は地文の縄文のみのもの。263～264は地文が無文である。

浅鉢 (265～270)

265～268は沈線が施文される文様帯があるもの。265～266は沈線で文様を描く。267～268は1本の横走沈線文で体部と区画している。267はその下にもう1本の横走沈線文を加え、縄文帯としている。269は沈線が施文される文様帯がなく、口縁部から底部まで縄文が施されるもの。3個1組の丸みのある山形の突起をもつ。

270は底部で、無文である。

鉢 (271～275)

271～272はくびれや屈曲のない鉢で、沈線が施文される文様帯がないもの。271は口唇部にキザミのあるもの。272は平縁。

273～275は底部である。273～274は低台付きの底部で、低台部と胴部の接合部とその下に2本の沈線文をもつ。275は低台部と胴部の接合部に1本の沈線文をもつ。

壺・注口土器 (276～299)

276～279は口縁部が復元できたものである。276は沈線が施文される文様帯があるもの。277～279は沈線が施文される文様帯がなく、無文のものと縄文が施されるもの。277は突起をもつもの。278は小波状口縁で、波底部に突起をもつもの。279は口唇部にキザミを持つもの。

280～289は胴部が復元できたものである。280～287は沈線が施文される文様帯があるもの。288～289は沈線が施文される文様帯がないもの。288は地文の縄文が施文されるもので、289は無文。

片口土器 (300)

300は短めの丸みのあるくちばし状の片口部分である。全体の器形は不明であるが、傾きや厚さなどから浅鉢または鉢の器形と考えられる。

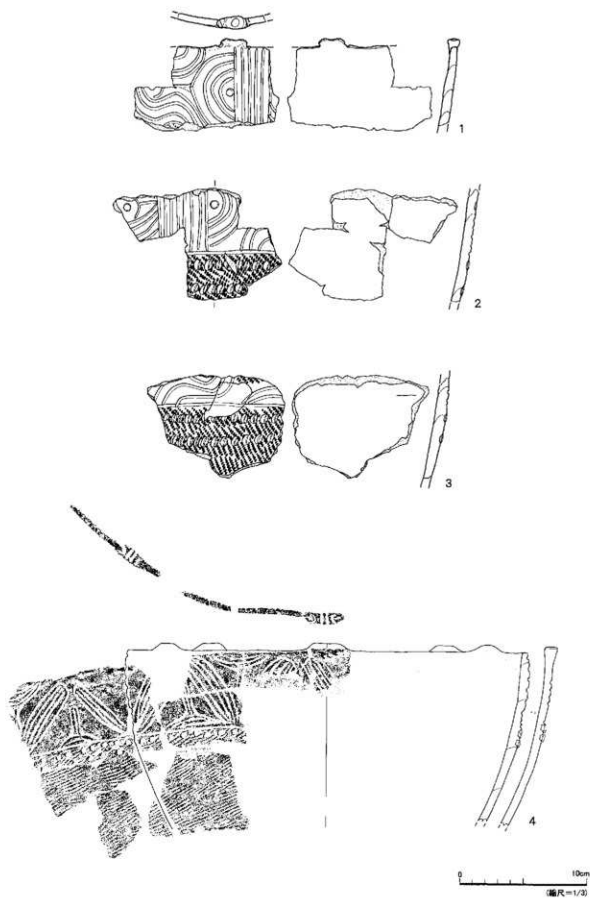
V群b類土器 (301～308)

301～303は深鉢である。301～302は口縁部で、縄文をもつもの。303は底部。304～305は鉢である。304は口縁部が屈曲するもの。305は内湾する口縁下部から底部で貫通孔を1個もつもの。306～308は浅鉢である。306は口縁部に平行沈線文をもち、平底である。307は浅鉢の口縁部。308は丸底の底部。底部からの立ち上がりか内外面ともに段状になっており、異質である。すべて大洞B C～C1併行の土器。

VI群土器 (309～311)

309～311は同一個体で、深鉢形土器の口縁部から底部である。口唇部はやや丸みを帯びるが、摩滅の可能性ある。口縁部は長めに外反し、唇部は段状になる。円形刺突文が1列巡る。調整は、口縁部外面が縦のヘラミガキ後に口唇部を横ナデ。全体に摩滅が著しいが、内面と胴部以下は特に顕著で調整は不明である。北大Ⅲ式土器である。

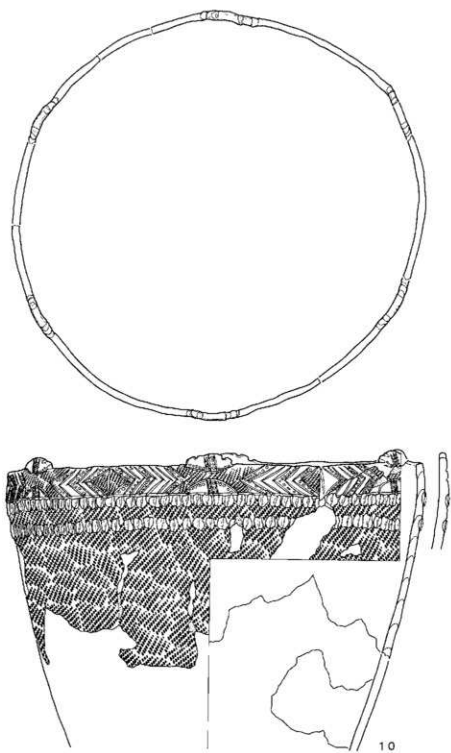
(佐藤 剛)



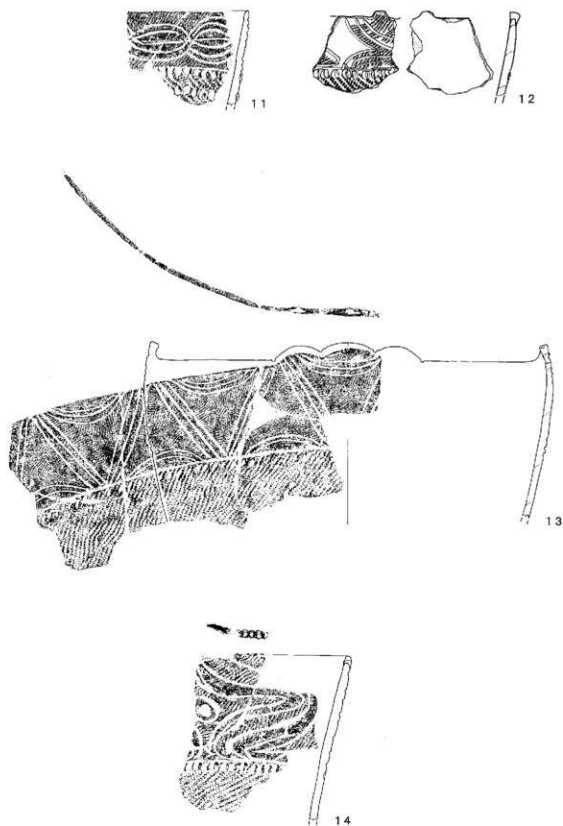
図M-5 包含層出土の土器(1) B・C-15(1)



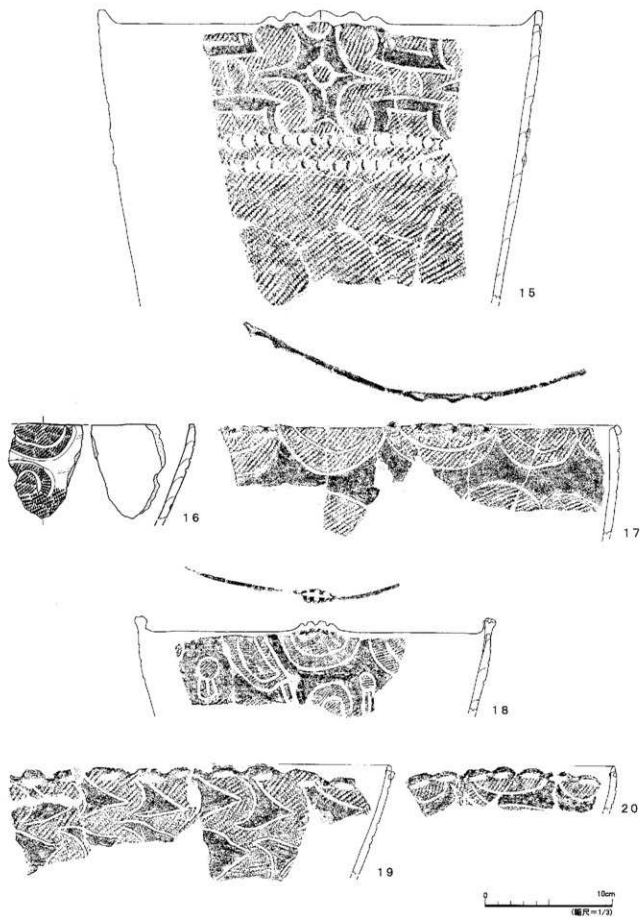
図IV-6 包含層出土の土器 (2) B・C-15 (2)



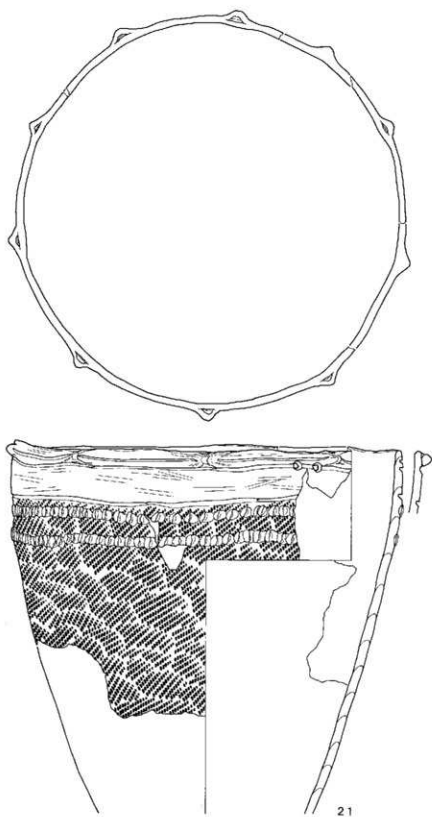
図M-7 包含層出土の土器(3) B・C-15(3)



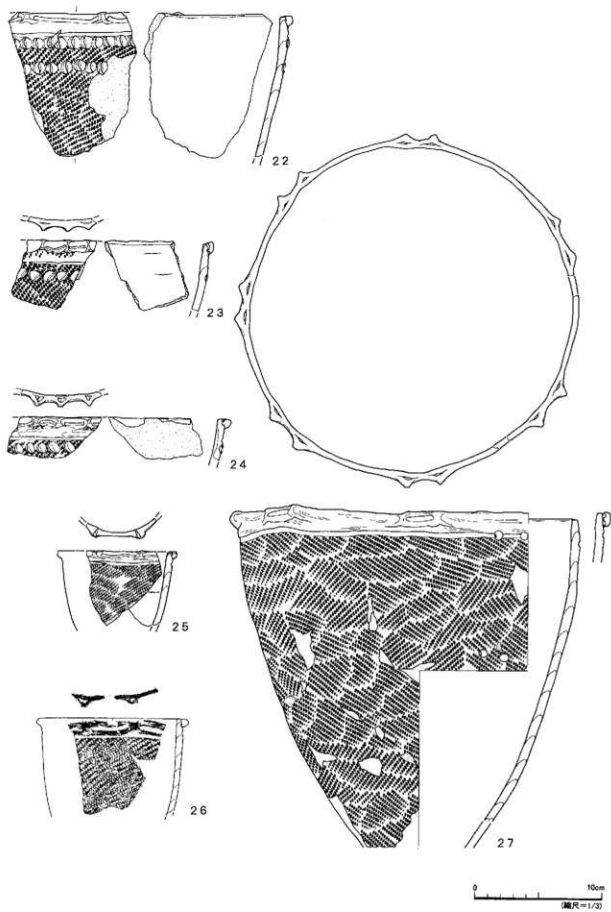
図Ⅳ-8 包含層出土の土器 (4) B・C-15 (4)



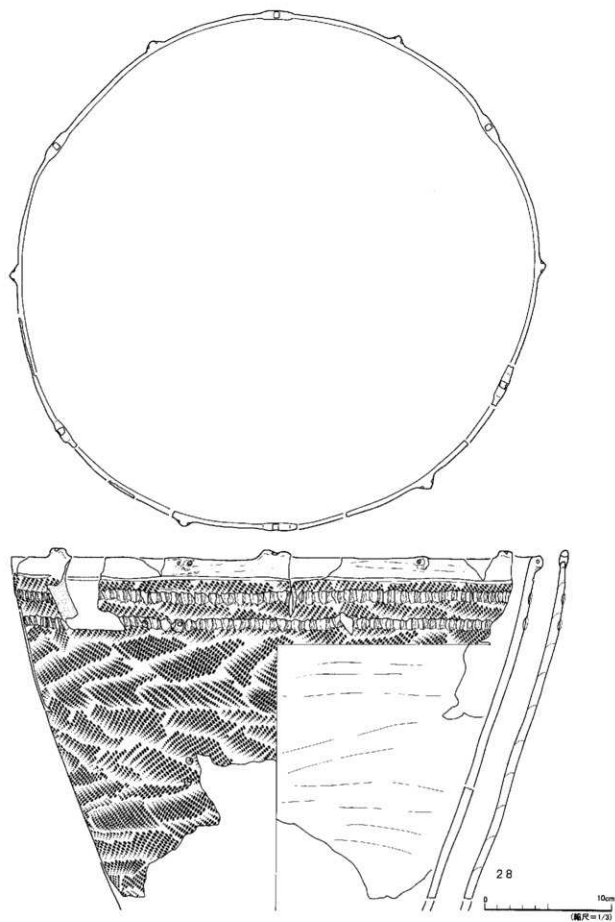
図M-9 包含層出土の土器(5) B・C-15(5)



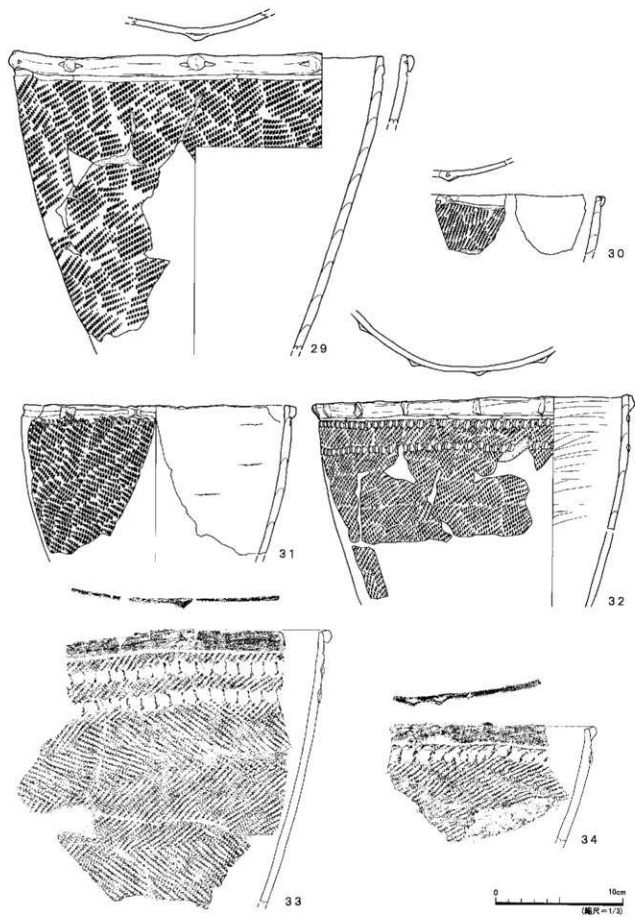
図IV-10 包含層出土の土器 (6) B・C-15 (6)



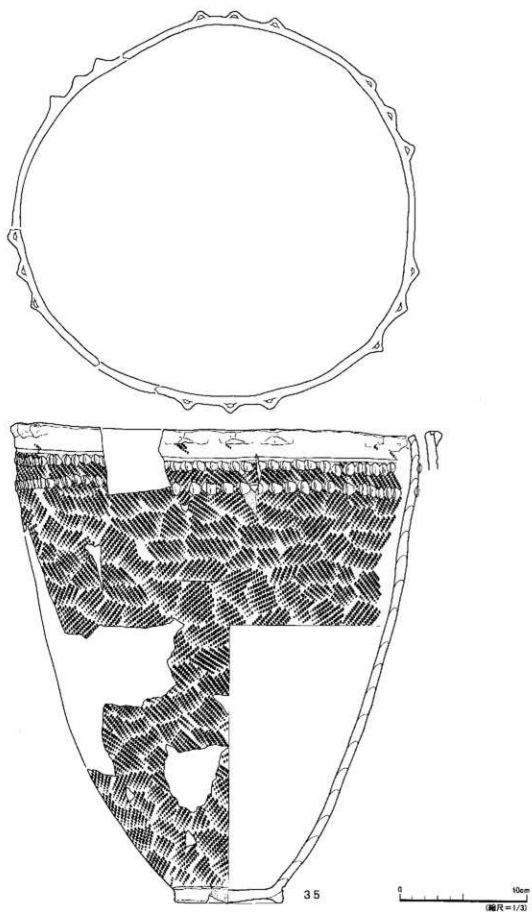
図M-11 包含層出土の土器(7) B・C-15(7)



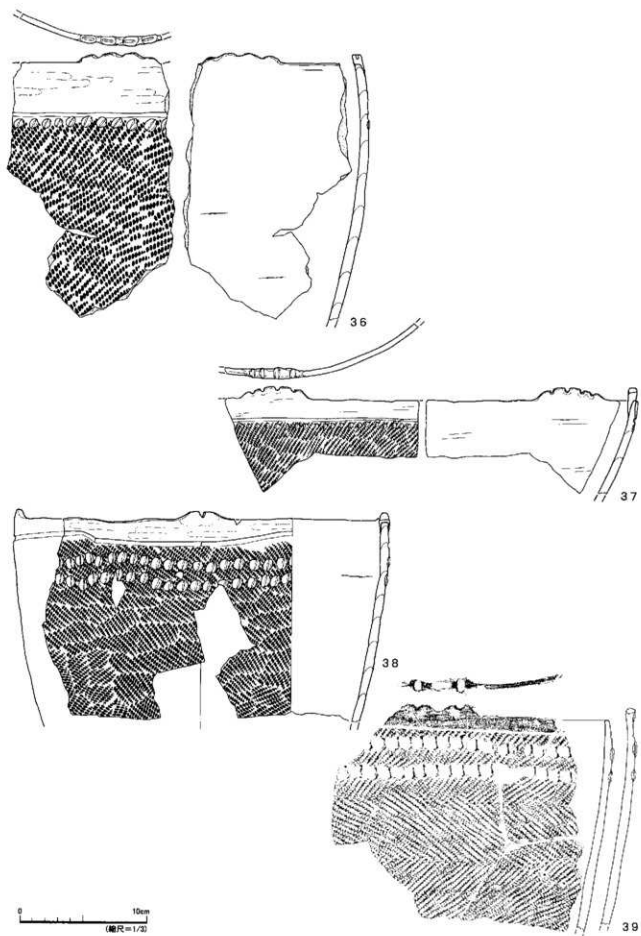
図Ⅳ-12 包含層出土の土器 (8) B・C-15 (8)



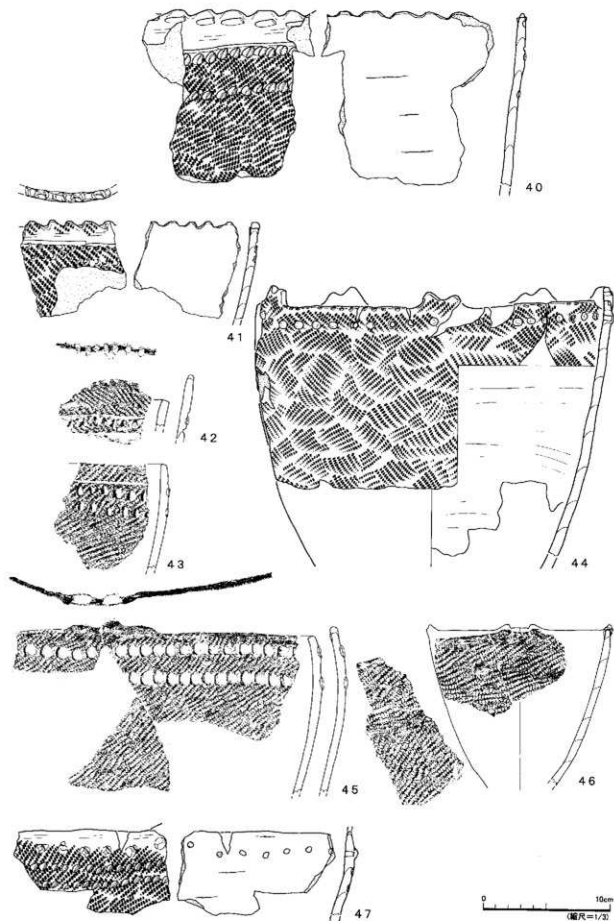
図M-13 包含層出土の土器(9) B・C-15(9)



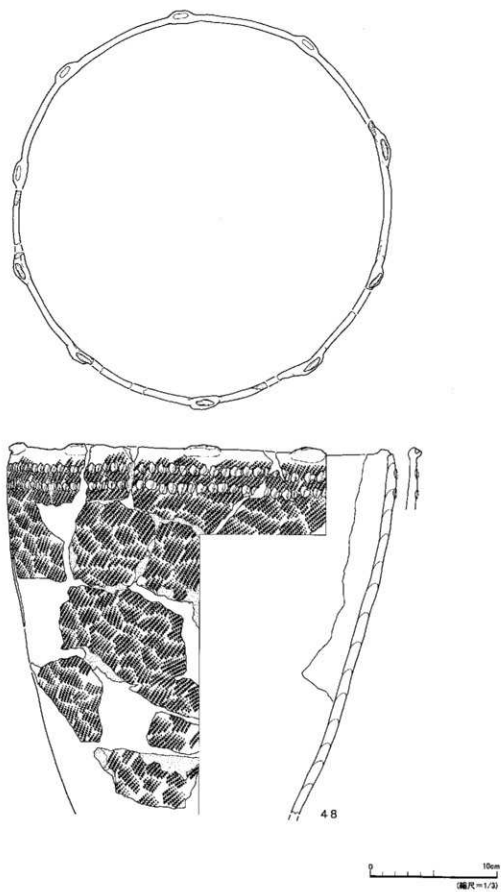
図Ⅳ-14 包含層出土の土器 (10) B·C-15 (10)



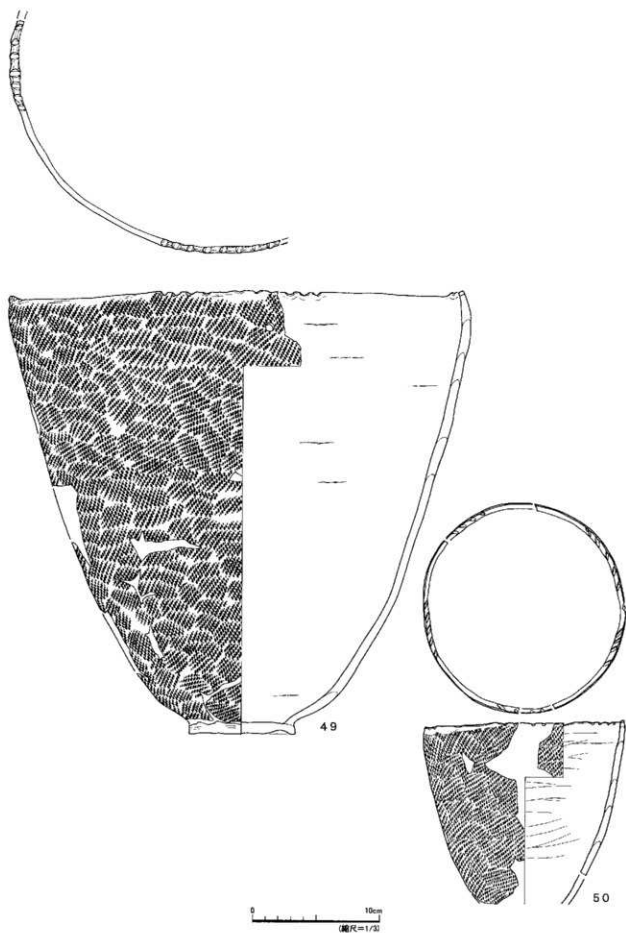
図Ⅳ-15 包含層出土の土器(11) B・C-15(11)



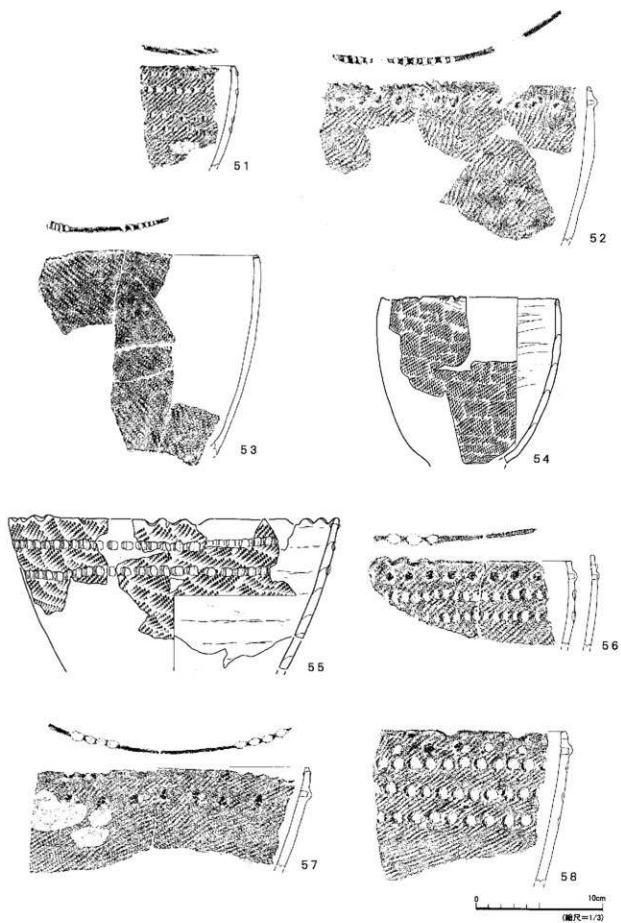
図Ⅳ-16 包含層出土の土器 (12) B・C-15 (12)



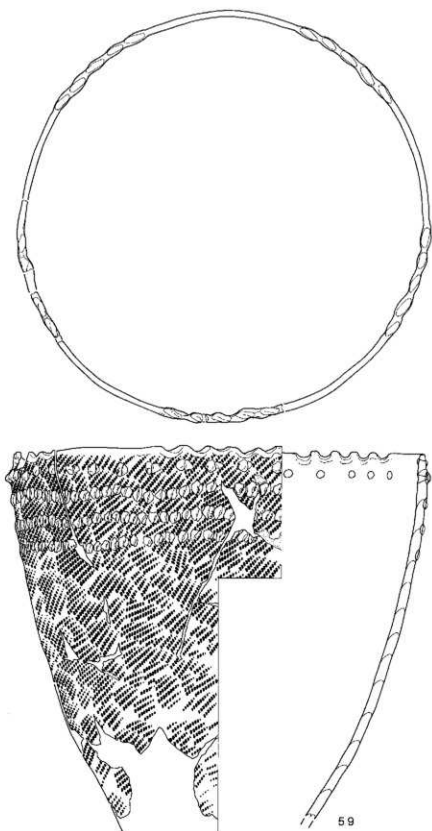
図Ⅳ-17 包含層出土の土器 (13) B・C-15 (13)



図IV-18 包含層出土の土器 (14) B・C-15 (14)

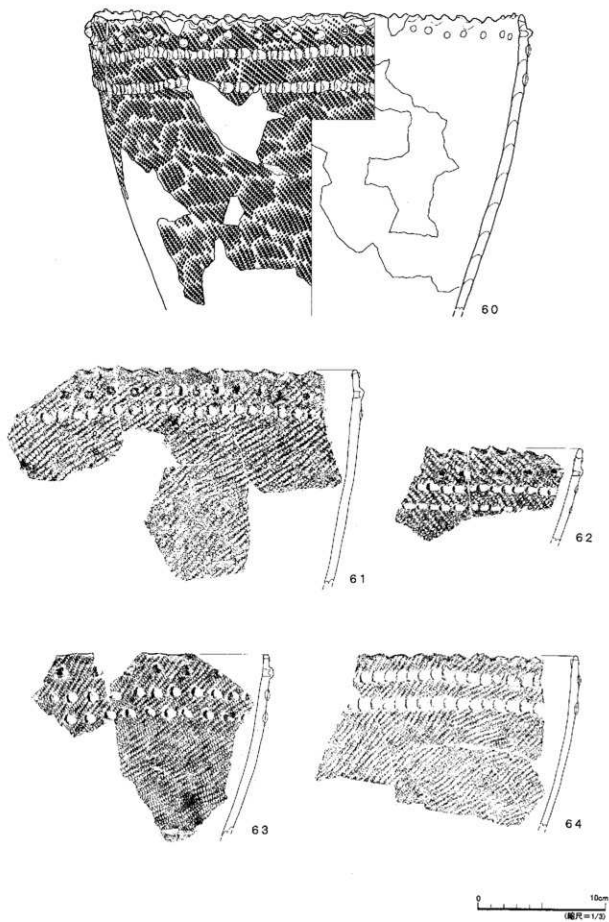


図Ⅳ-19 包含層出土の土器 (15) B・C-15 (15)

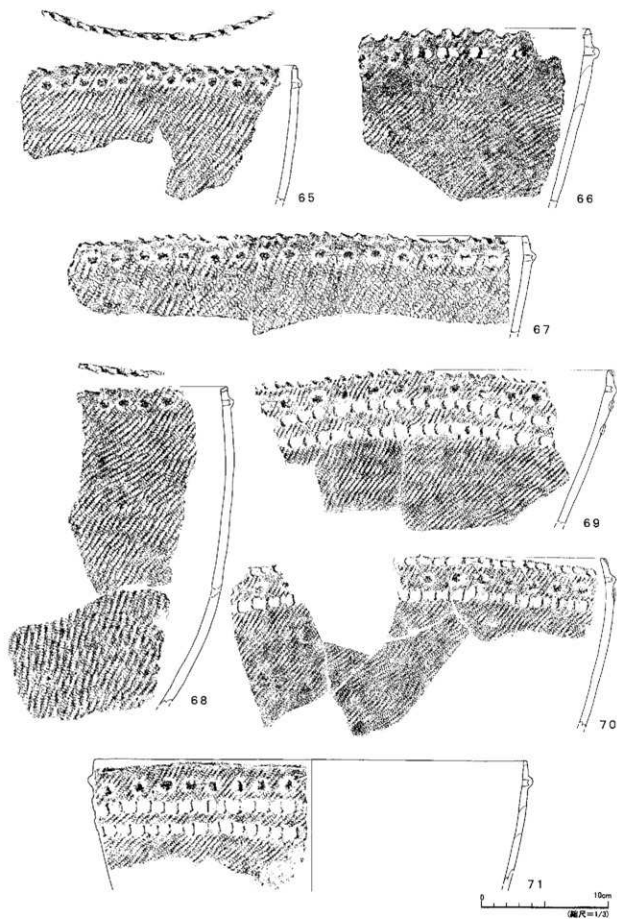


0 10cm
縮尺=1/3

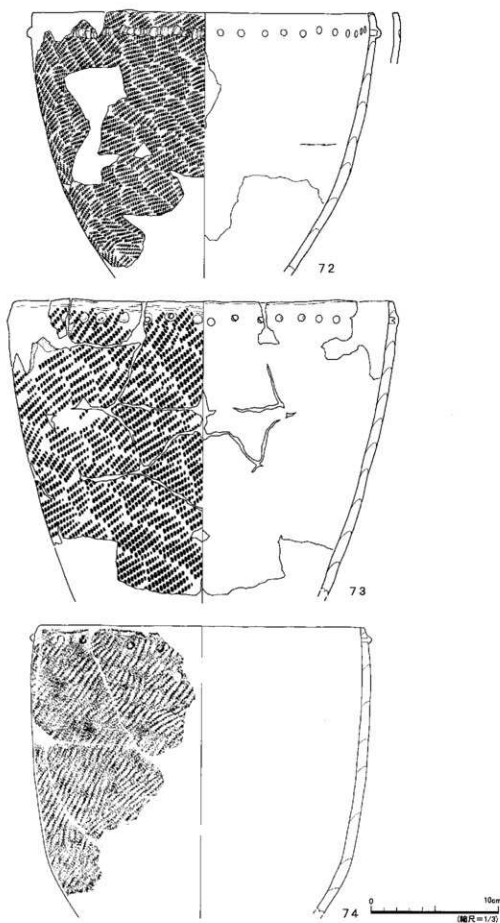
図IV-20 包含層出土の土器 (16) B・C-15 (16)



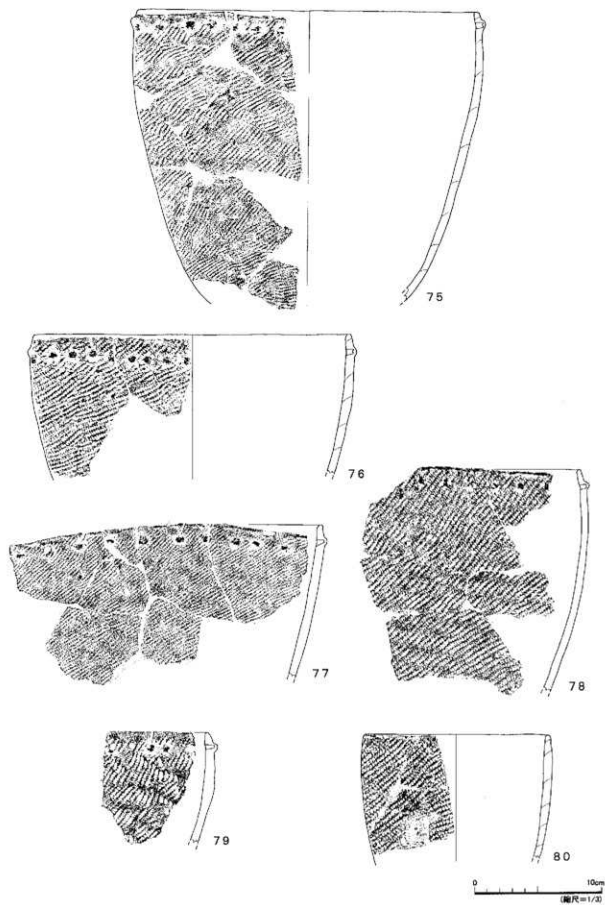
図Ⅳ-21 包含層出土の土器 (17) B・C-15 (17)



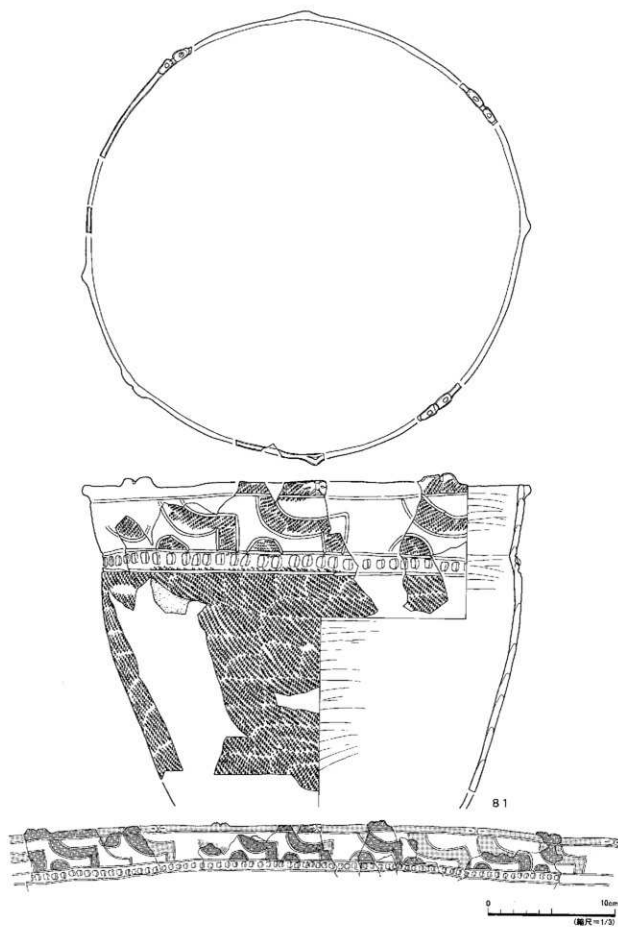
図IV-22 包含層出土の土器 (18) B・C-15 (18)



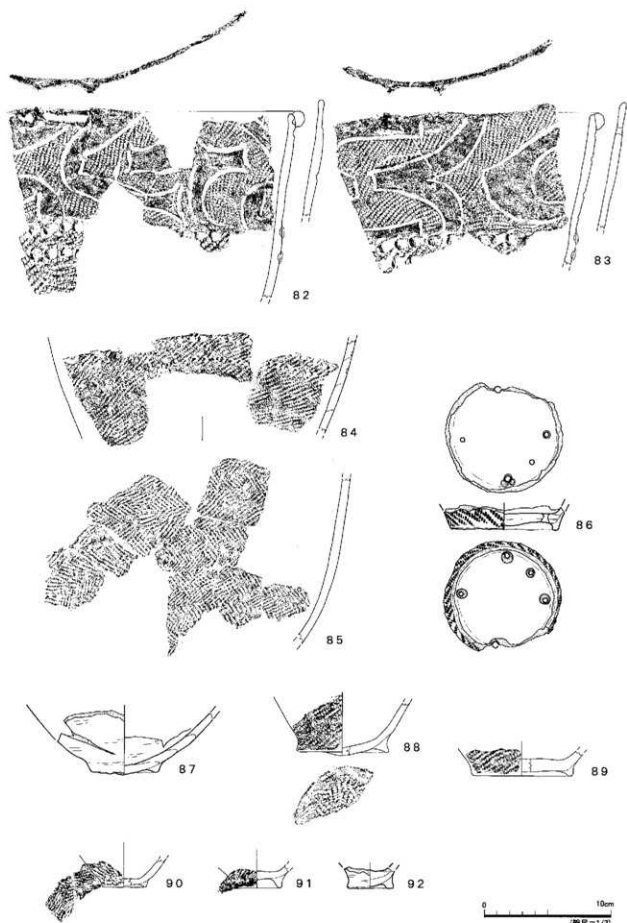
図Ⅳ-23 包含層出土の土器 (19) B・C-15 (19)



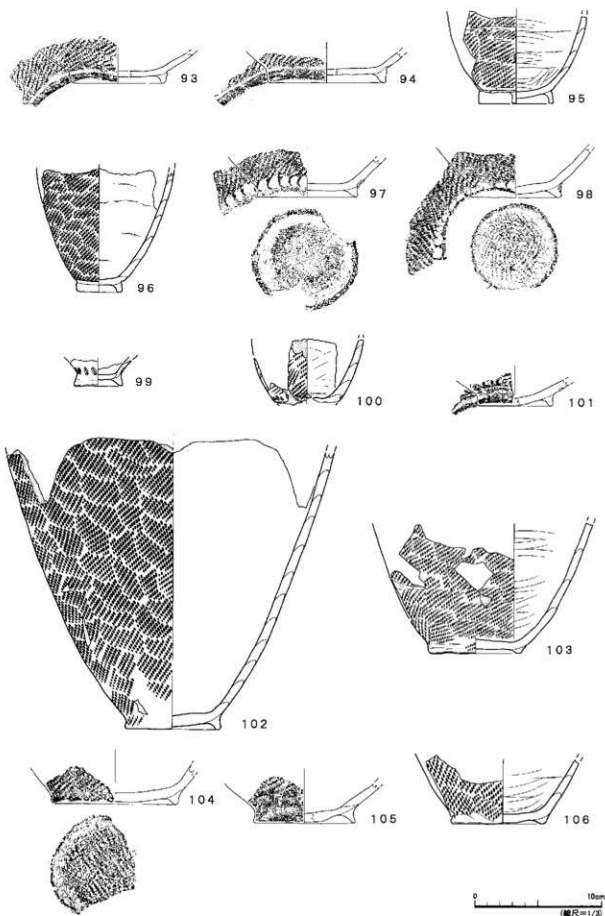
図Ⅳ-24 包含層出土の土器 (20) B・C-15 (20)



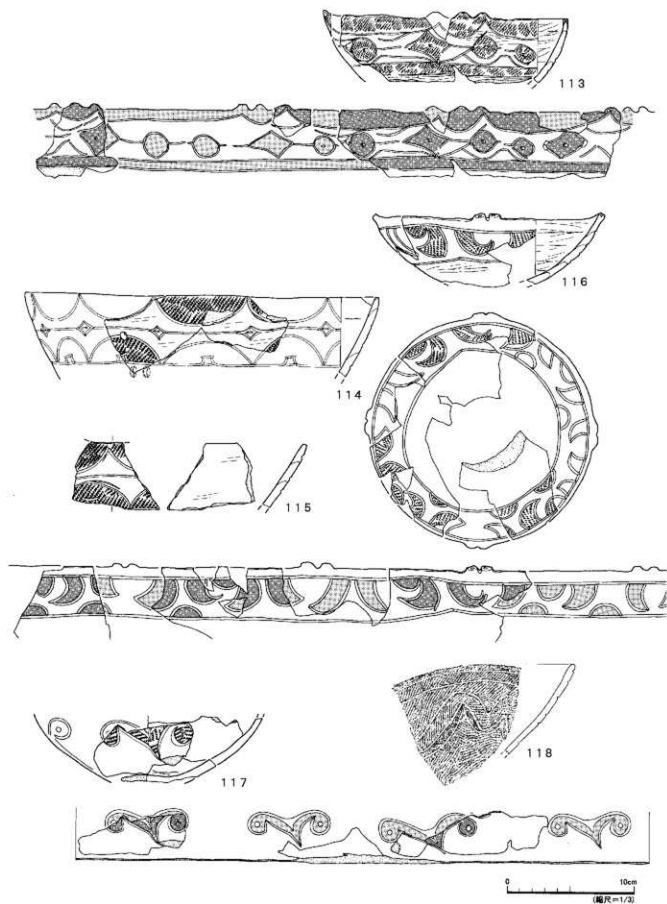
図Ⅳ-25 包含層出土の土器 (21) B・C-15 (21)



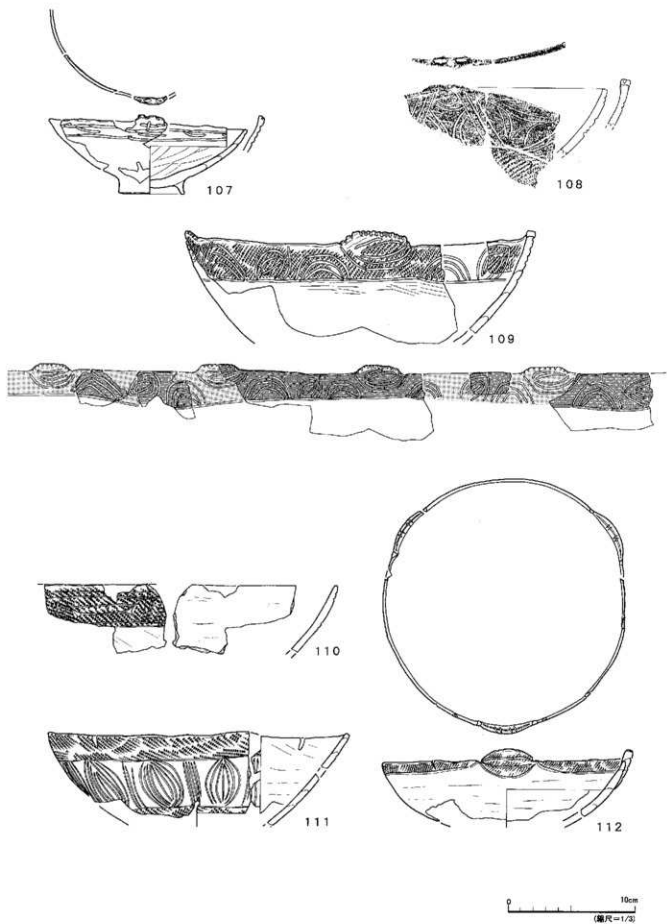
図IV-26 包含層出土の土器 (22) B・C-15 (22)



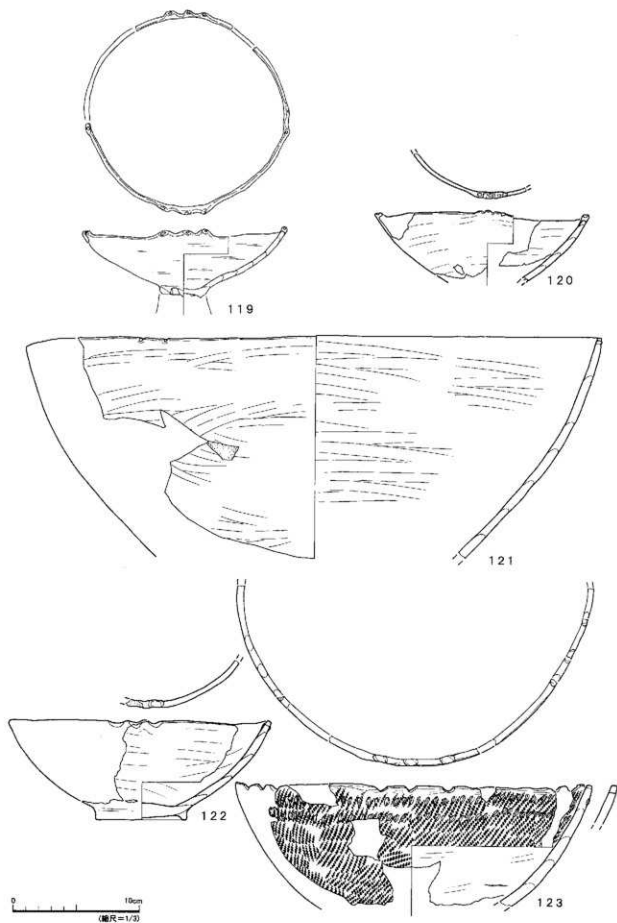
図Ⅳ-27 包含層出土の土器 (23) B・C-15 (23)



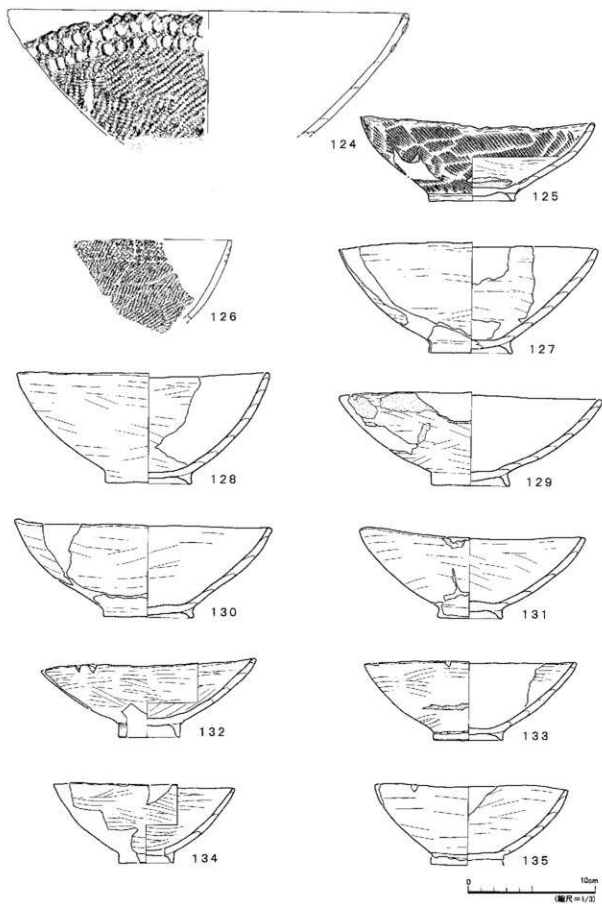
図IV-28 包含層出土の土器 (24) B・C-15 (24)



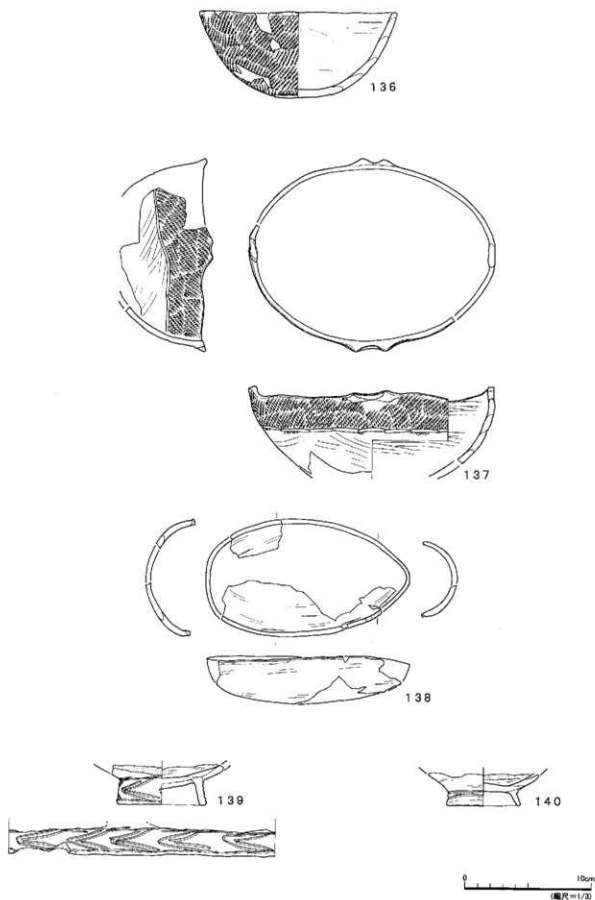
図Ⅳ-29 包含層出土の土器 (25) B・C-15 (25)



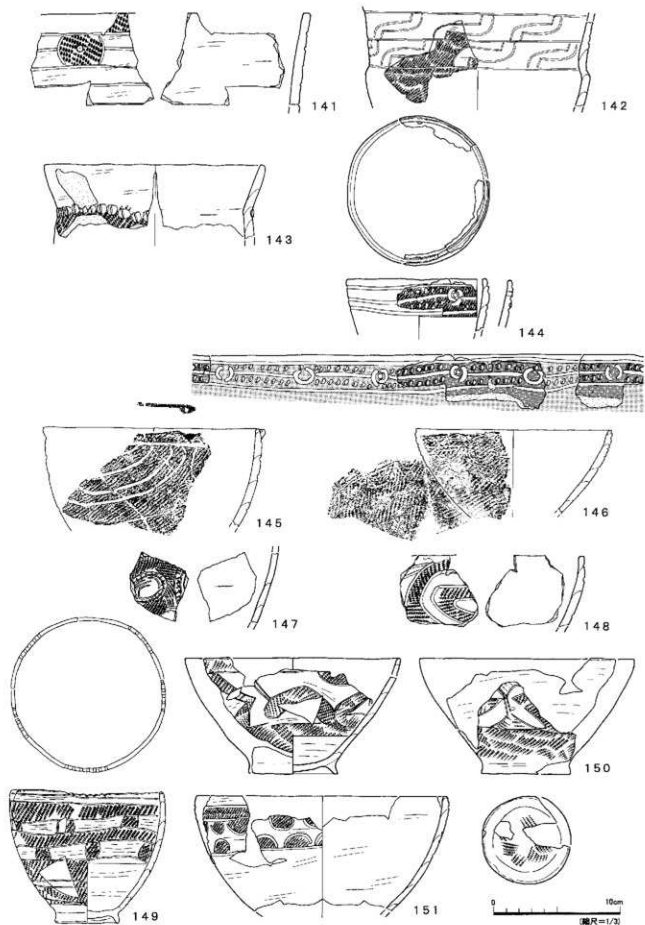
図Ⅳ-30 包含層出土の土器 (26) B・C-15 (26)



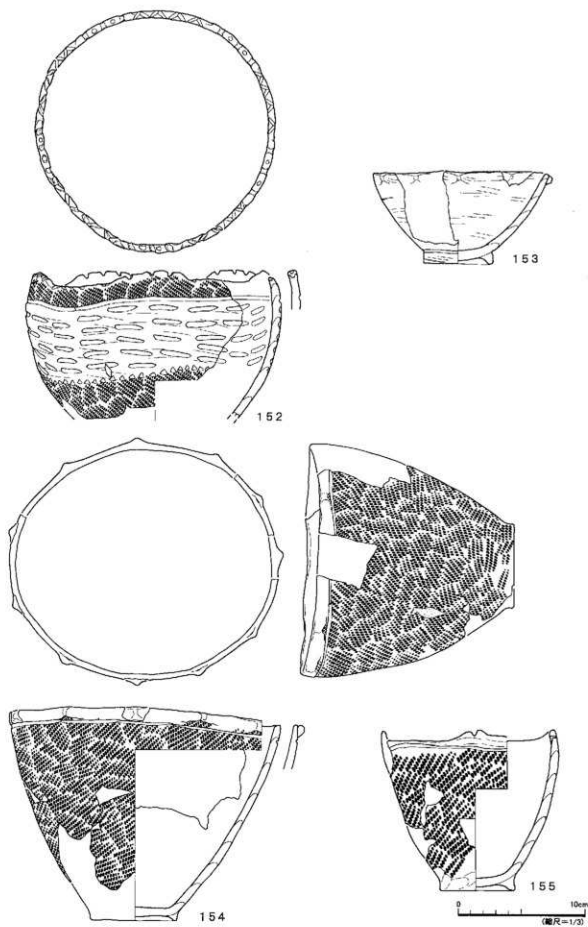
図Ⅳ-31 包含層出土の土器 (27) B・C-15 (27)



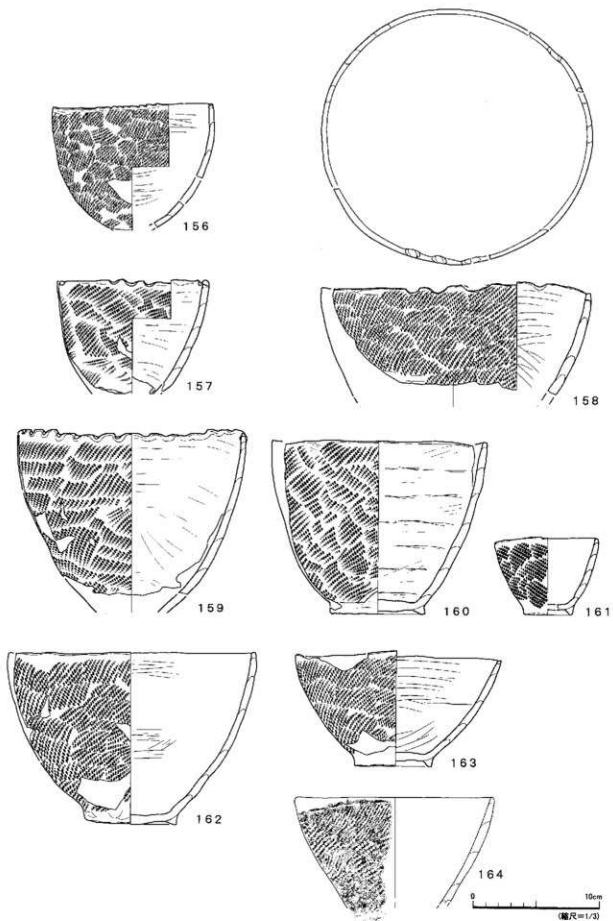
図IV-32 包含層出土の土器 (28) B・C-15 (28)



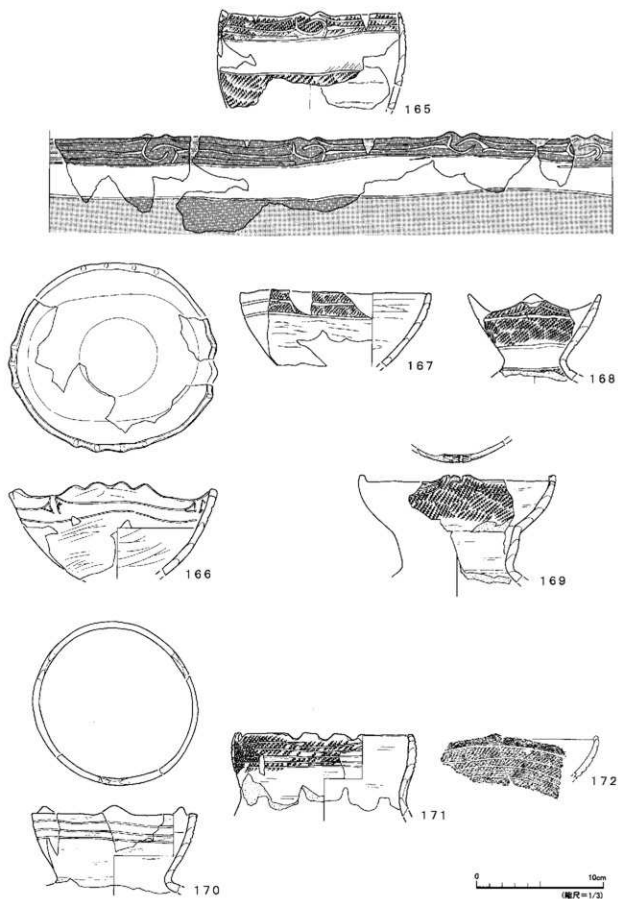
図Ⅳ-33 包含層出土の土器 (29) B・C-15 (29)



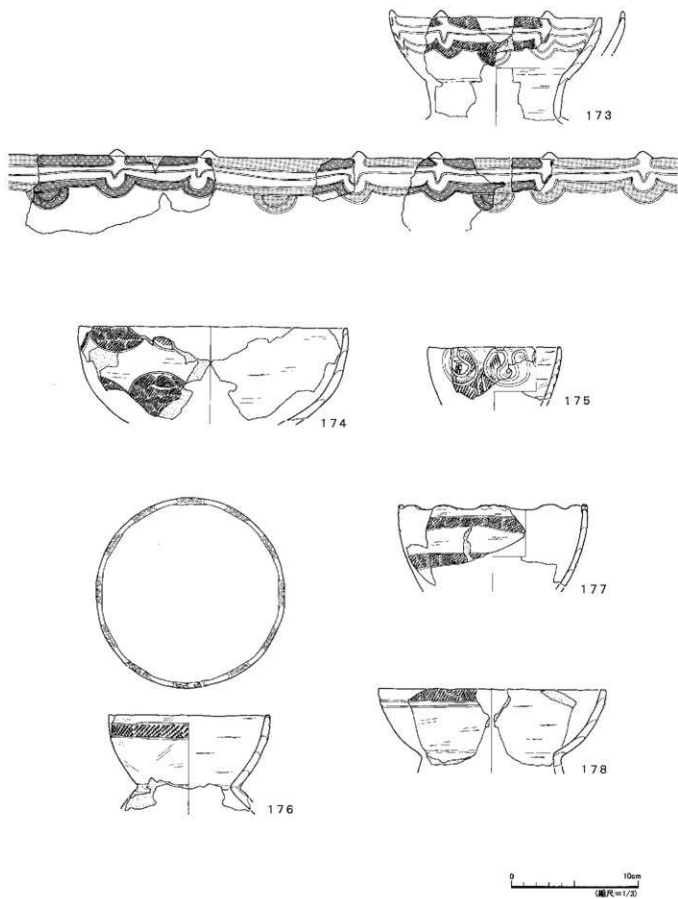
図Ⅳ-34 包含層出土の土器 (30) B・C-15 (30)



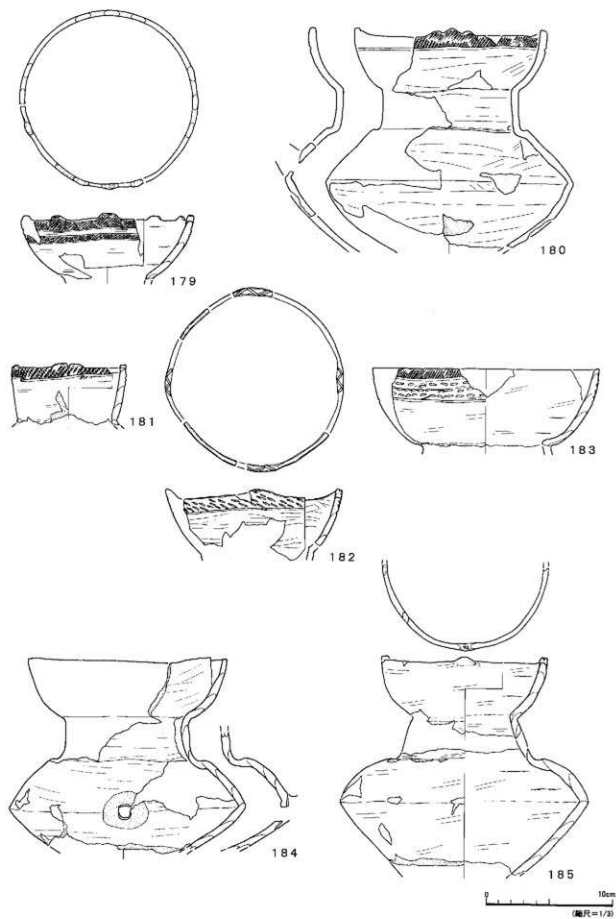
図Ⅳ-35 包含層出土の土器(31) B・C-15(31)



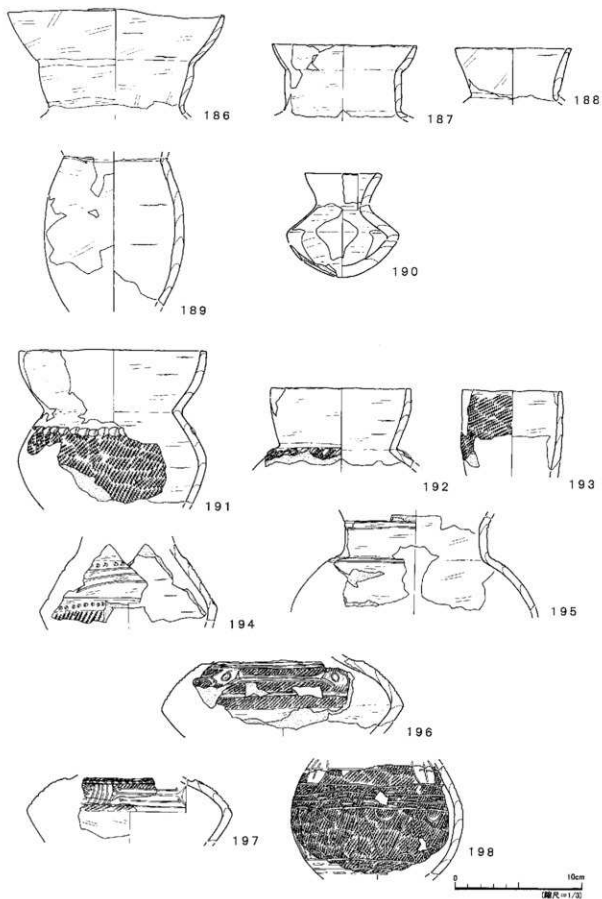
図Ⅳ-36 包含層出土の土器 (32) B・C-15 (32)



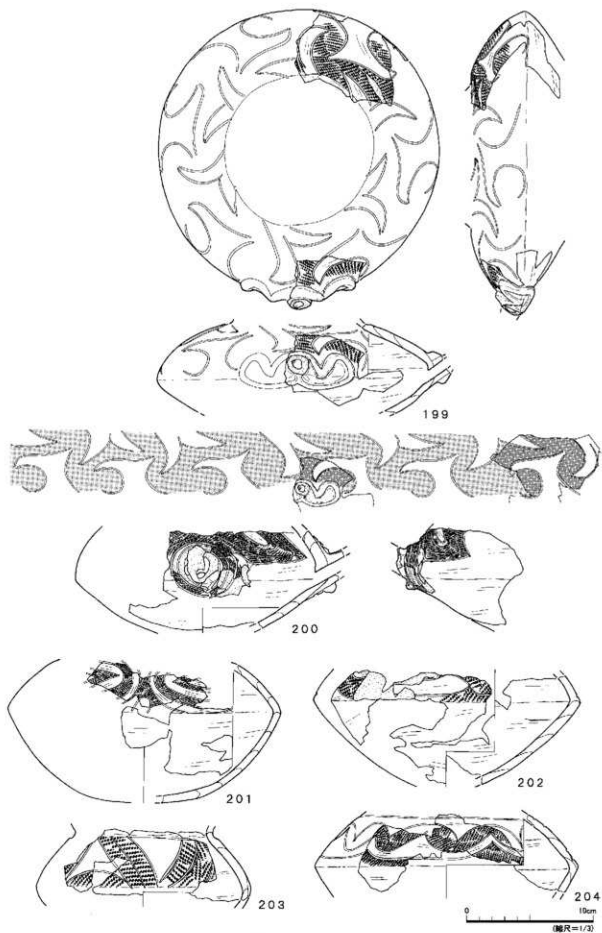
図Ⅳ-37 包含層出土の土器(33) B・C-15(33)



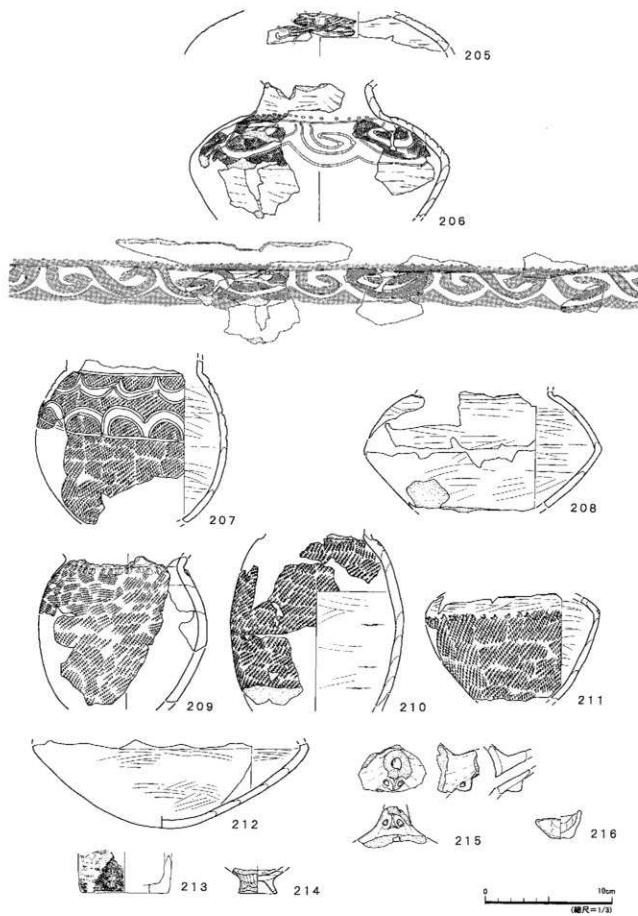
図Ⅳ-38 包含層出土の土器 (34) B・C-15 (34)



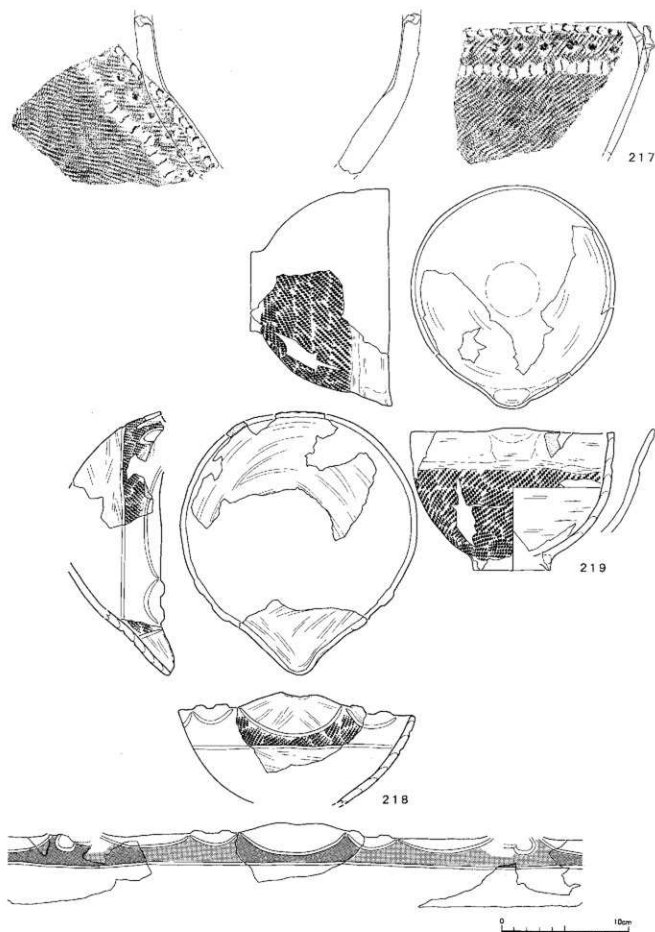
図Ⅳ-39 包含層出土の土器 (35) B・C-15 (35)



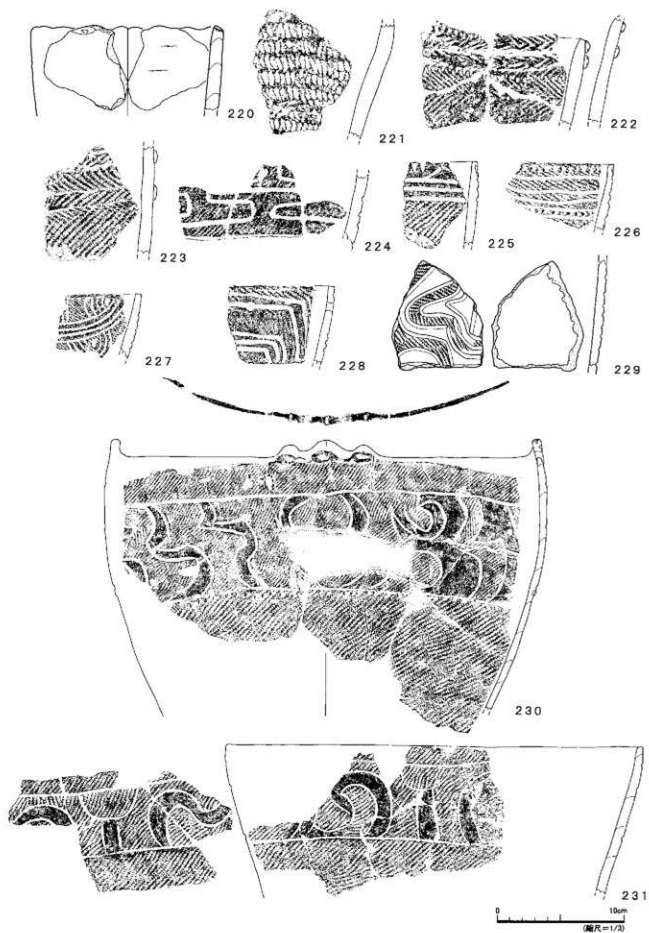
図IV-40 包含層出土の土器 (36) B・C-15 (36)



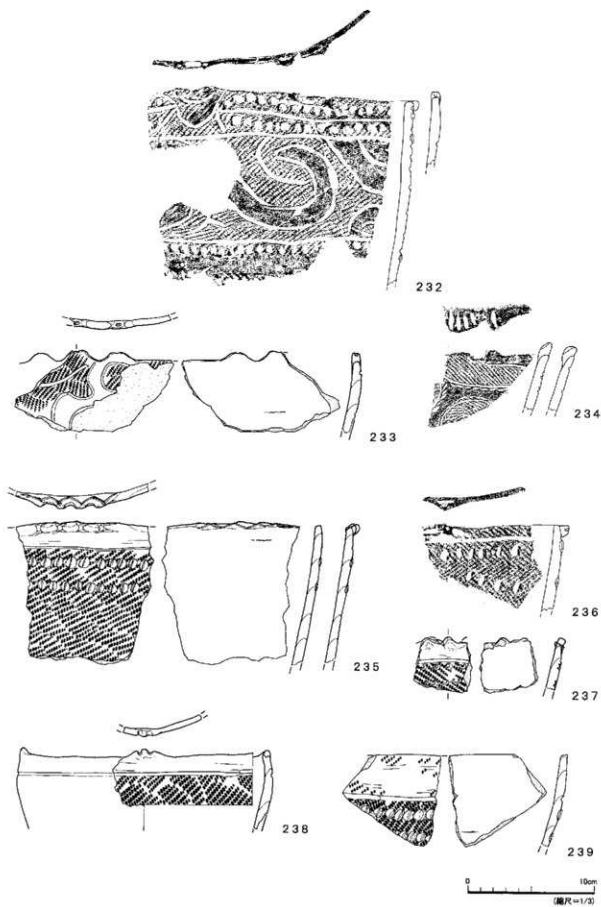
図Ⅳ-41 包含層出土の土器 (37) B・C-15 (37)



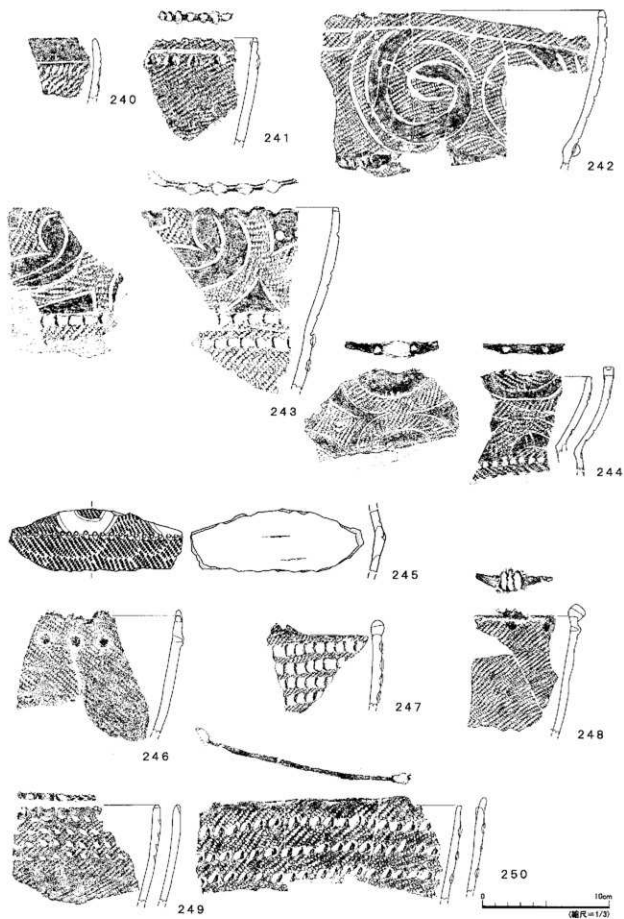
図Ⅳ-42 包含層出土の土器 (38) B・C-15 (38)



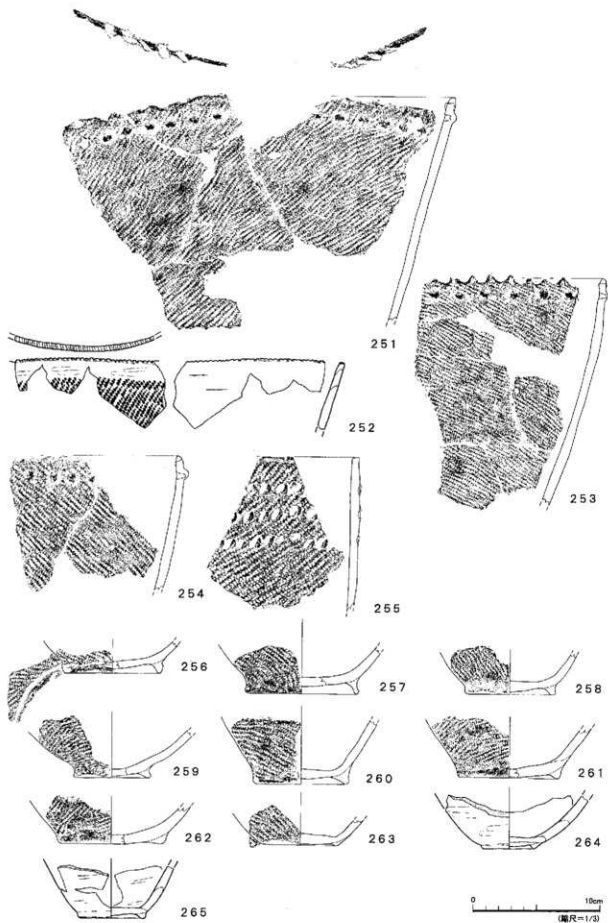
図Ⅳ-43 包含層出土の土器(39)



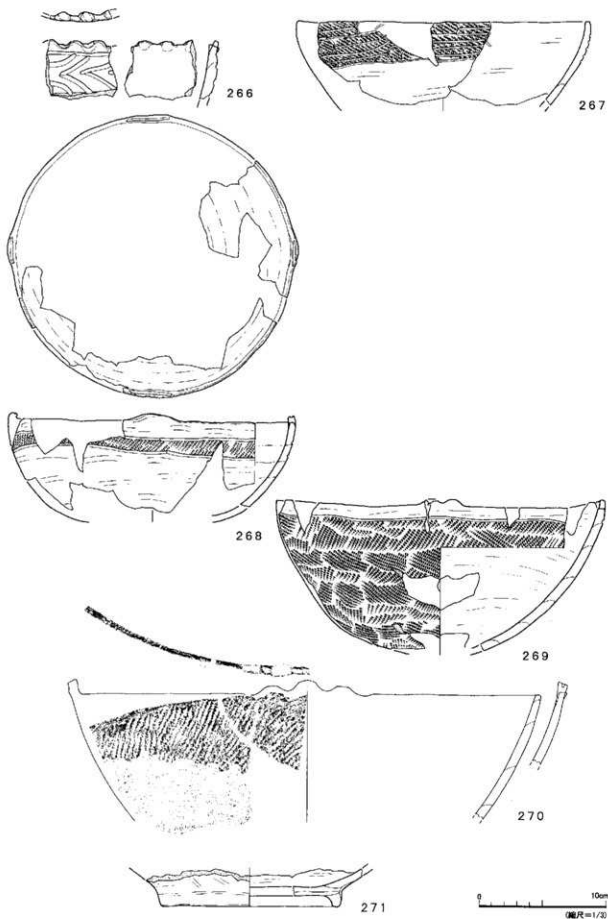
図Ⅳ-44 包含層出土の土器 (40)



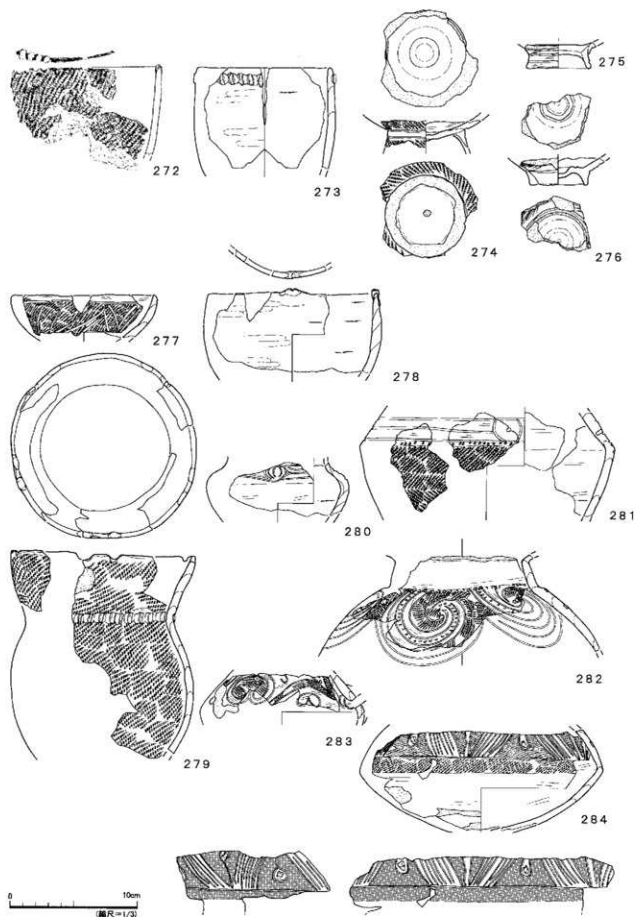
図Ⅳ-45 包含層出土の土器(41)



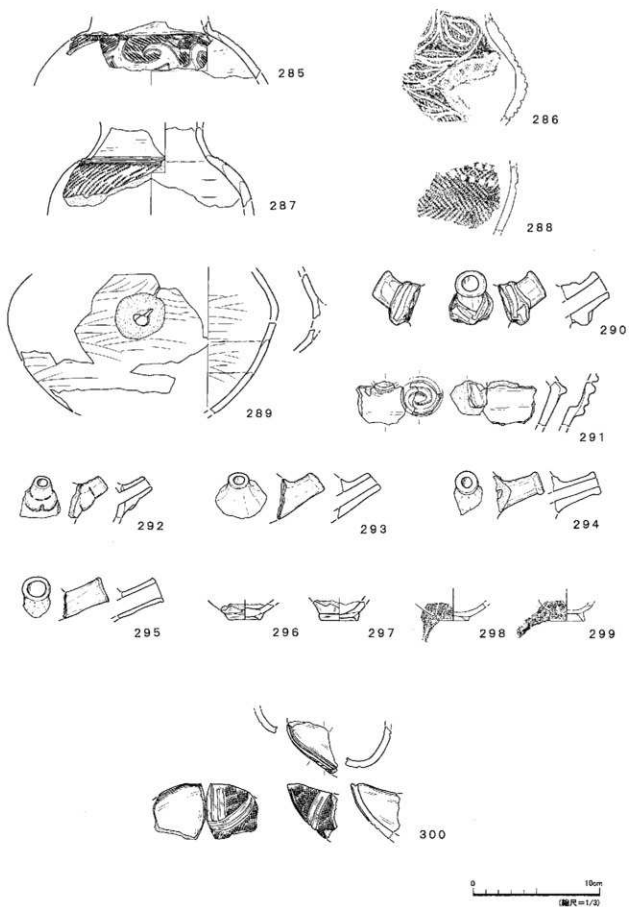
図Ⅳ-46 包含層出土の土器 (42)



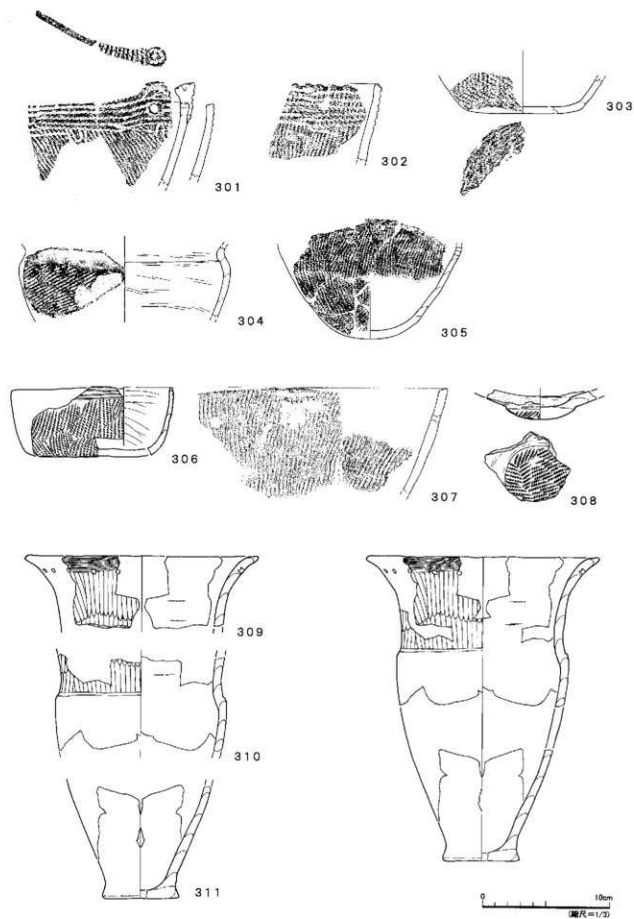
図N-47 包含層出土の土器(43)



図IV-48 包含層出土の土器 (44)



図N-49 包含層出土の土器(45)



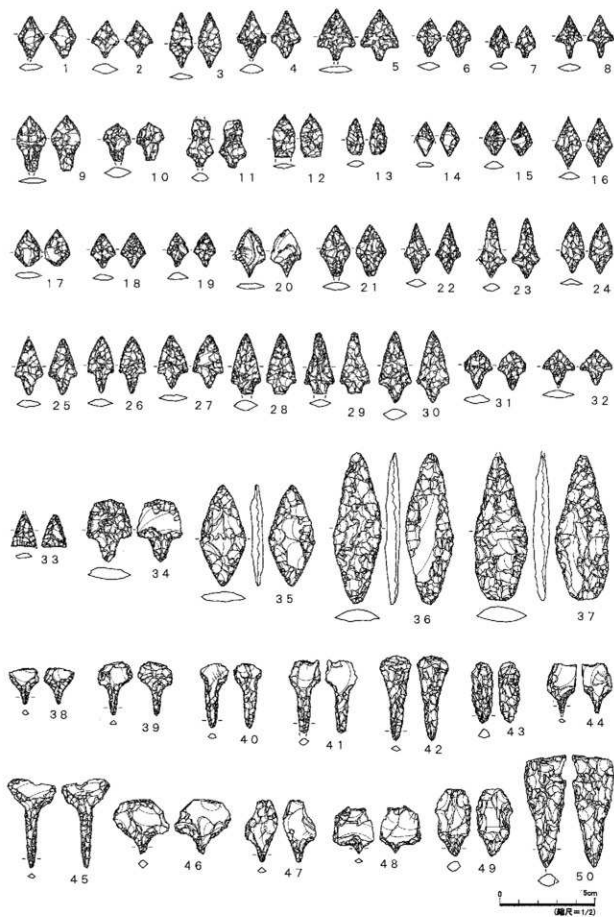
図IV-50 包含層出土の土器 (46)

(2) 石器(図Ⅳ-51-1~ⅣⅤ-56-108、表Ⅷ-3・23、図版13~48)

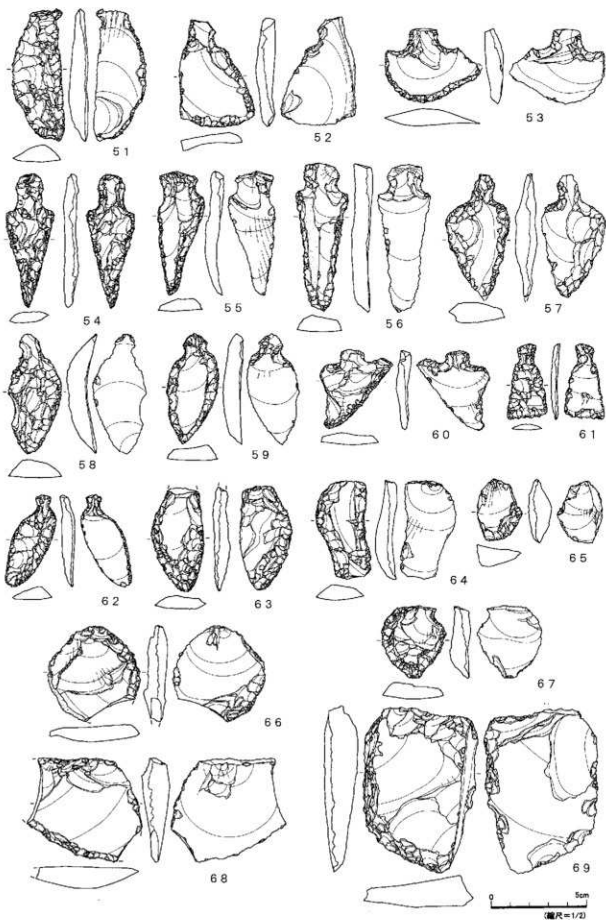
崖地区からは多量の土器に混じり剥片・剥片石器10,320点、礫・礫石器1,183点、石製品・その他12点、計11,515点の石器が出土した。

1~34は石鎌で、1~12はⅠ層、13~34はⅡ層から出土した。1、3、5、7、25は頁岩裂、あとは黒曜石裂である。Ⅰ層から出土した石鎌は有茎であるのに対し、Ⅱ層からは柳葉形のもの12、13や基部が平らなもの33が出土している。11は先端、茎部を欠損するが両側を括る加工が施されている。34は加工中に破損した石鎌の先端部に刃部をつけ、ナイフに転用したもの。35~37は石槍またはナイフと分類したもので、すべてⅡ層から出土している。36は頁岩裂、35、37が黒曜石裂である。38~50は石鎌である。38~42がⅠ層出土、43~50がⅡ層出土である。39、43、50が黒曜石裂、45がメノウ裂、残りはすべて頁岩裂である。43は棒状、42、50がつまみの無いもの、あとはすべてつまみが作り出されている。50は被熱している。51~63はつまみ付きナイフである。51~54と63がⅠ層出土、残りはⅡ層出土であるが、62はⅡ層下位の砂利層から検出されたもので、表面がやや風化している。丁寧に調整と裏面の縁に加工を加える点などから、縄文時代前期以前の遺物と考えられる。57は刃部の一部が欠損する。石材は54、55、60、61が黒曜石、55は被熱している。57がメノウで、あとは頁岩である。64~78はスクレイパー類である。69は粘板岩裂の大型のスクレイパーで、縄文時代晩期~続縄文前葉にしばしば見られる資料に似るもの。77の基部の加工はつまみを作り出している。79~93は石斧である。91は蛇紋岩裂で、Ⅱ層下位の砂利層から出土したもので、振り切り技法を用いた縄文時代前期以前の遺物と考えられる。表面には錆が沈着し、刃部先端と基部を欠損、基部には二次的に敲打痕がある。79は周囲を荒削りした未製品、86も全面敲打しているが、刃部は作られていない。80は欠損した刃部の両側を二次的に加工したもので、83は原石に僅かな調整と刃部を付けたもの。88は片岩の剥片に刃部を付けたもの。94~97はすり石である。94は稜のすり面のほか、礫の両端にも擦痕が残る。96、97は北海道式石冠と称されるもので、96はⅠ層、97はⅢ層から出土している。98~103はたたき石である。98は礫の縁で敲打したもので、99、102は柱状の礫の端部を主に利用したもの。100はくほみ石と称されるもの、101は礫の全面を敲打して球状に加工された礫である。103は円礫の稜を利用したものの。104~106は砥石である。104は折れたものを接合したものだが、図下位の破片は折れた後も利用され、接合部に段差がある。5面まで利用されているもの。106は折れ面以外の全面が利用されている。106は表裏に砥面がある。107、108は石皿である。いずれも扁平礫の一面を利用したもの。ともにⅠ層出土である。

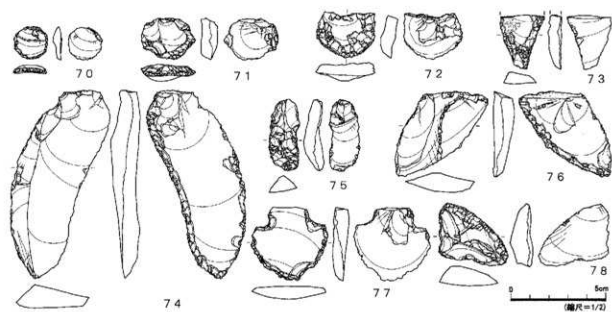
(上肥)



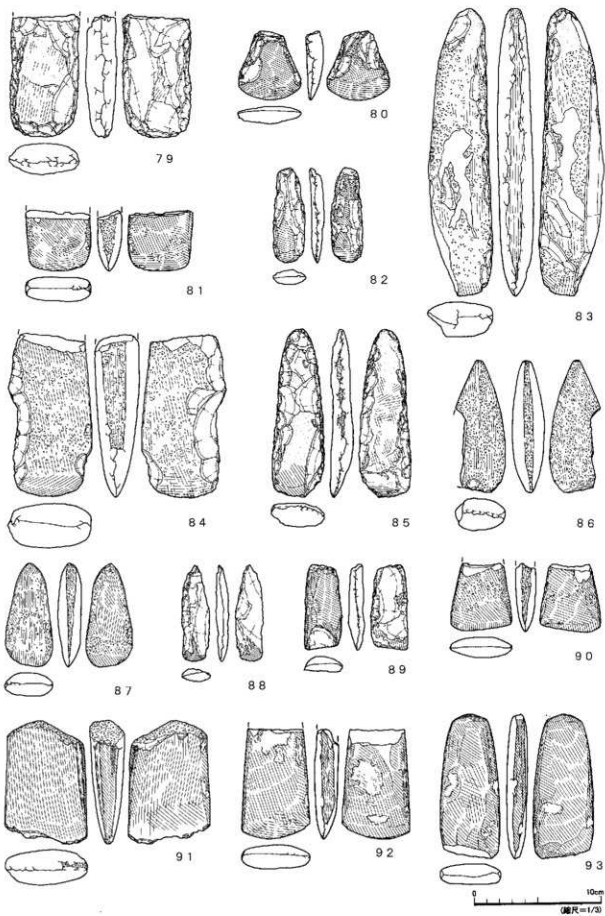
図IV-51 包含層出土の石器 (1)



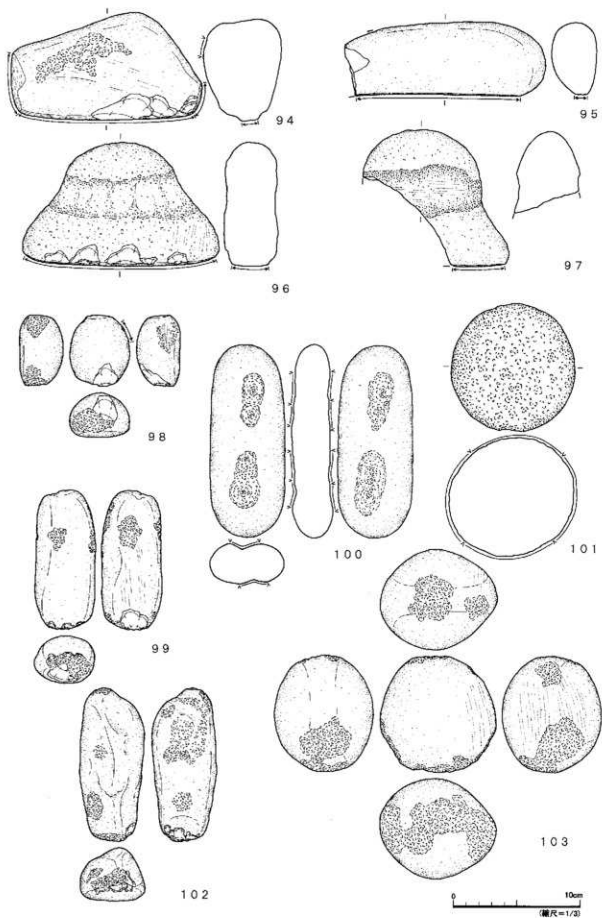
図Ⅳ-52 包含層出土の石器(2)



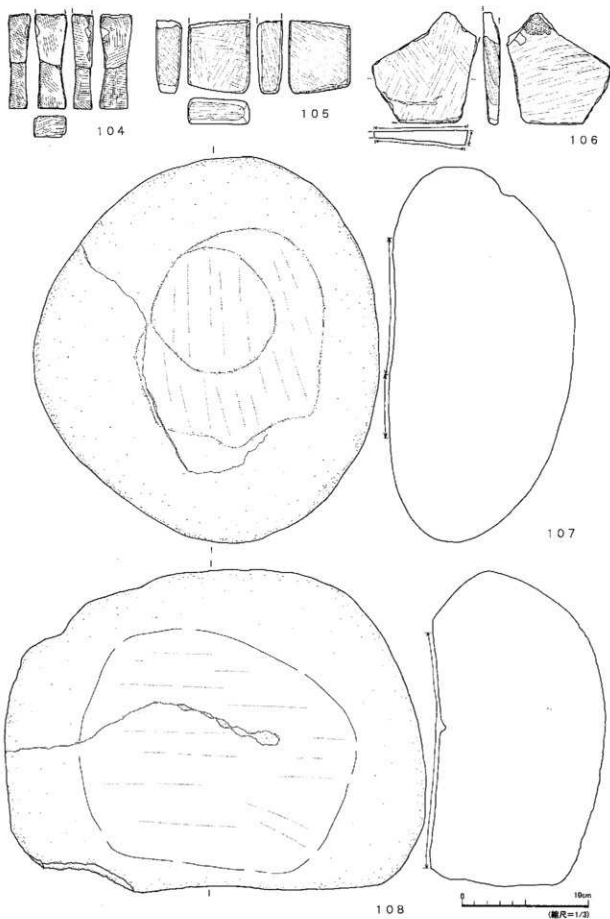
図IV-53 包含層出土の石器 (3)



図Ⅳ-54 包含層出土の石器(4)



図IV-55 包含層出土の石器 (5)



図Ⅳ-56 包含層出土の石器(6)

V 低地部地区の調査

1. 低地部地区の概要 (V-1~2)

柏木川に面した段丘崖は過去の柏木川の蛇行により、上流から下流に向けて階段状の屈曲が連続する。段丘斜面で検出したMA盛土とMB盛土の2つの盛土遺構はこの屈曲部分を埋めるように堆積する。MA盛土とMB盛土は約20m離れており、MB盛土が上流、MA盛土が下流に位置する。MA盛土、MB盛土ともに Ta-a 火山灰に覆われており、後世の擾乱は少ないものと考えられる。

P 237は、本来、低地部地区に属する遺構であるが、西尚松5遺跡(2)(北理調報194)ですでに掲載済である。写真が異なっているため図版のみ掲載した。(石井)

2. 土坑

P 236 (図V-3~4 表Ⅶ-4・24~25 図版51)

位置：G-31 標高24.25m付近 規模：0.27m/0.13m×0.23m/0.13m×0.13m

平面形：円形状

確認・調査・土層：IV層中で一括土器が出土し、暗褐色土の落ち込みを検出する。半載し、調査を行う。覆土を約12cm程掘り下げ竈底面と壁の立ち上がりを検出する。覆土はほぼ一層で、上層(土層図1)は炭化物が少量まじる軟質の暗褐色土で、下層(土層図2)は上層にIV層の暗黄灰色細砂がまじる土である。

竈底・壁：竈底はIV層中にあり、皿状で、壁の立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：遺物はIV群C-2類土器1点、V群b類土器が2点出土しており、これらは検出面で、外面を上にして一括出土したものである。

出土遺物：土器~1は短めに大きくくの字に外反する鉢の口縁部~胴部。大洞BC~C1式併行。

性格：不明。 時期：出土土器から見て、V群b類土器を伴う縄文時代晩期のものと思われる。

P 237 (図版52)

P 238 (図V-3 表Ⅶ-24~25 図版53~54)

位置：G-32 標高24.25m付近 規模：0.78m/0.68m×0.64m/0.54m×0.10m

平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-16°-W

確認・調査・土層：IV層中で暗褐色土の落ち込みを検出する。半載し、調査を行う。覆土を約10cm程掘り下げ竈底と壁の立ち上がりを検出する。覆土はほぼ一層で、暗褐色土に暗黄灰色細砂、軽石をわずかに混入する土である。

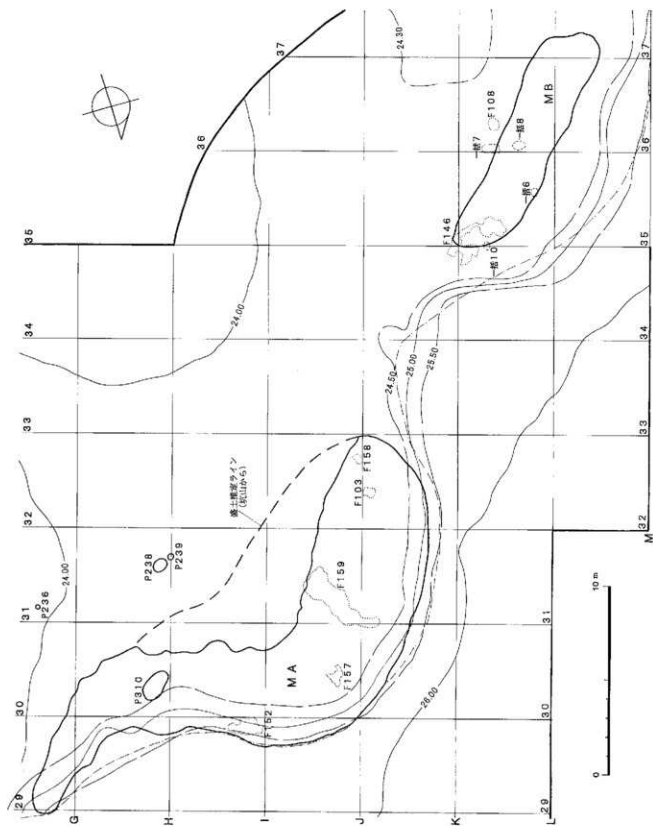
竈底・壁：竈底はIV層中にあり、凹凸があり軟質である。壁の立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：出土遺物総数は46点で、この内訳は土器30点、石器など16点である。すべて覆土中からの出土である。出土土器はV群b類のもので、石器などは礫、フレイク・チップである。

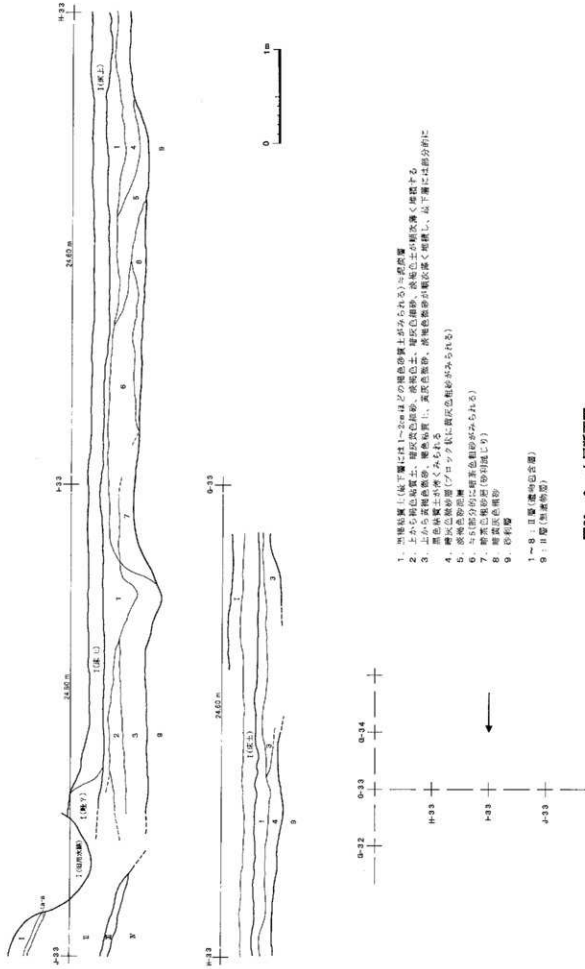
性格：不明。 時期：出土土器などから見て、V群b類土器を伴う縄文時代晩期のものであろう。

P 239 (図V-3 表Ⅶ-24~25 図版53~54)

位置：G-31・32 標高24.22m付近 規模：0.36m/0.30m×0.34m/0.26m×0.18m



図V-1 遺構位置図と最終河川圖



図V-2 土層断面図

平面形：円形状

確認・調査・土層：Ⅳ層中で暗褐色土の落ち込みを検出する。半載し、調査を行う。覆土を約18cm程掘り下げ、壁底と壁の立ち上がりを検出する。覆土はほぼ一層で、上層は軽石まじりの暗黄灰色細砂を少量、上層はやや多く混入する暗褐色土である。

壁底・壁：壁底はⅣ層中にあり、平坦で堅い。壁の立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：出土遺物は、Ⅴ群b類土器が6点、フレイク・チップが1点で、覆土中からの出土である。

性格：不明。 時期：出土土器などから見て、Ⅴ群b類土器を伴う縄文時代晩期のものであろう。
(和泉田)

P310 (図Ⅴ-3~6 表Ⅳ-4・24~25 図版54~55)

位置：G-30 規模：1.75m (1.30m) / × 0.96m / (0.69m) × 0.80m

平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-68° - E

調査状況：MA1層を掘り下げ中に掘り込みが存在することに気づいた。プランが不明瞭であったため、セクションベルトを設定し、MA層及び、Ⅱb層の掘り下げを行った。Ⅱb2層上面でプランを確認できたため、掘り下げを中止し、セクションベルトより南側を完掘した。断面図作成と写真撮影の後、セクションベルトを除去して完掘し、平面図を作成した。

土層：土層1~6は黄褐色土主体、土層7・8は黒色土主体である。堆積状況から埋め戻しによる人為的な堆積である。断面観察から、MA2層を切って掘り込まれていると判断した。MA1層との先後関係は不明である。

壁底・壁：壁底は丸く、壁は壁底との境界が不明瞭である。

遺物出土状況：出土遺物は、

出土遺物：土器~2~4はくびれの無い深鉢。2は帯縄文で文様を施文し、沈線文間の帯縄文に爪形文を施文する。1つの突起の頂部が2つの小さな山形となる突起をもつ。3はキザミによる小波状口縁のもの。4は平縁で、摘む突瘤文をもつ。5~8はくびれや屈曲のない鉢。5は大型のもので、連続弧状文で主要な文様を描く。真ん中が凹む台形状の突起と1つの突起の頂部が2つの小さな山形となる突起が交互に配される。6~7は沈線文で文様を施文するもの。8は大型のもので、1つの突起の頂部が2つの小さな山形となる突起と丸みのある山形の突起をもつ。9は浅鉢で、帯状文で文様を描く。1つの突起の頂部が2つの小さな山形となる突起をもつ。すべて御殿山式併行。

重複・新旧関係：なし。

性格：遺構の形状からは竈壁を連想させるが、断定できる根拠はない。 時期：MA2層を切って掘り込まれていることから、後期後葉以降に構築されたものと考えられる。

(石井)

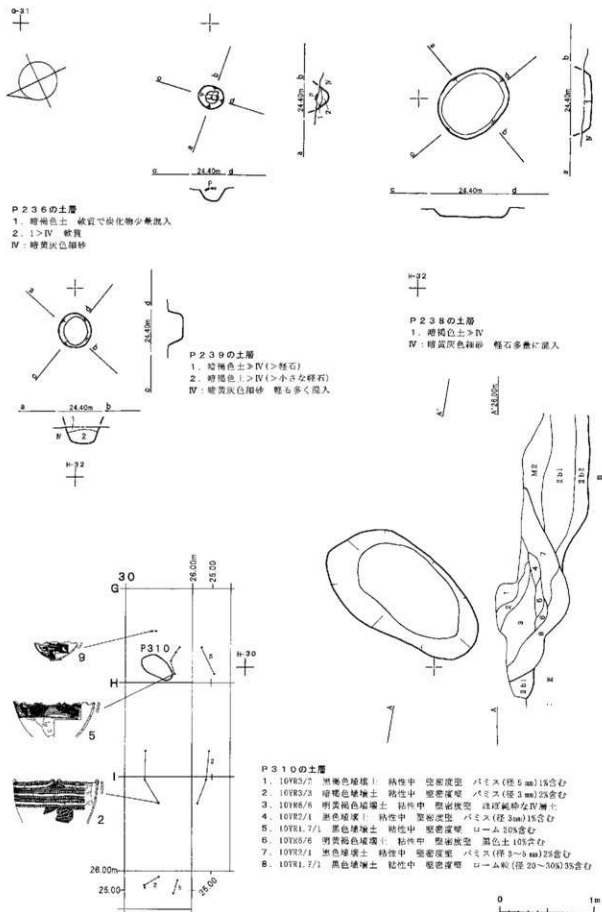
3. 焼土 (図Ⅴ-7~9 表Ⅳ-5~6 図版56~57)

Ⅱa層層中でF103を検出した。その場で被熱し、形成されたものである。

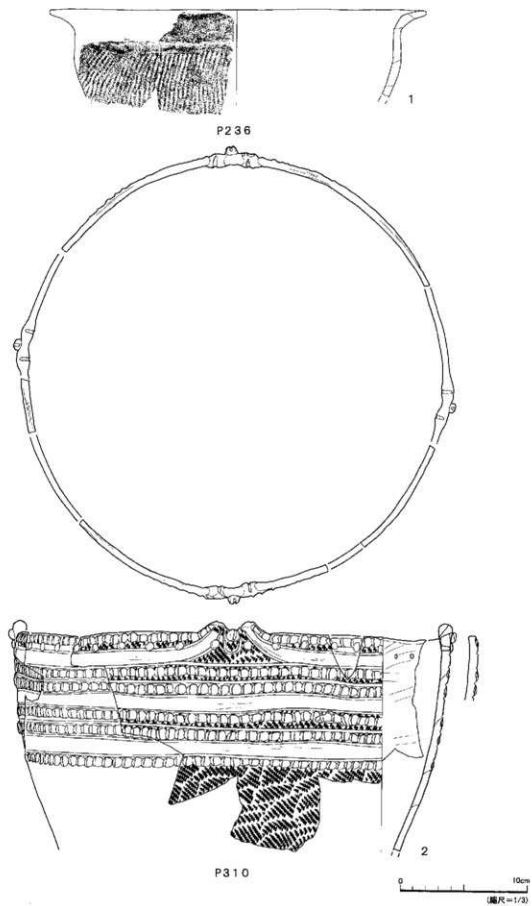
盛土中でF157、F158を検出した。F157はMA2層上面、F158はMA4層中で検出した。被熱範囲の中心から縁辺に向けて、また上面から下位に向けて、変赤した土壌が徐々に周囲の土壌と同じ、黒色~黒褐色に変色していることから、その場で被熱したものと推測する。

Ⅱb2層下位でF159を検出した。付近のⅡb2層上面でⅢ群土器が検出されていることから、F159は縄文時代中期以前に形成された可能性が高い。

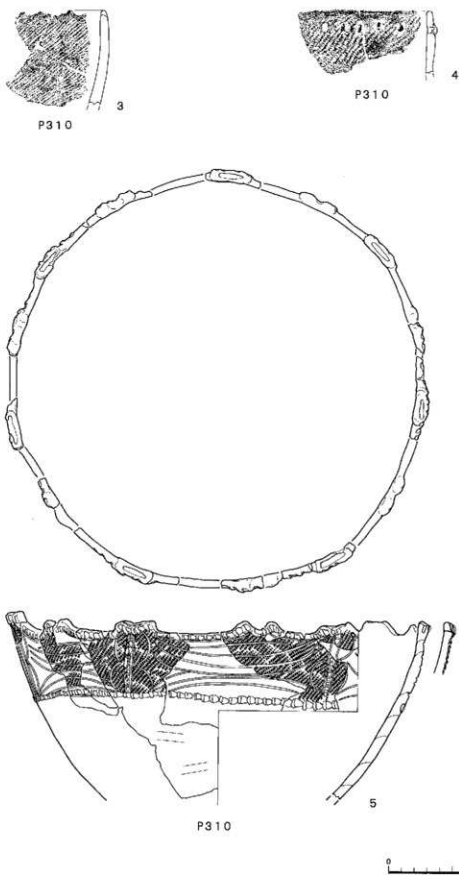
(石井)



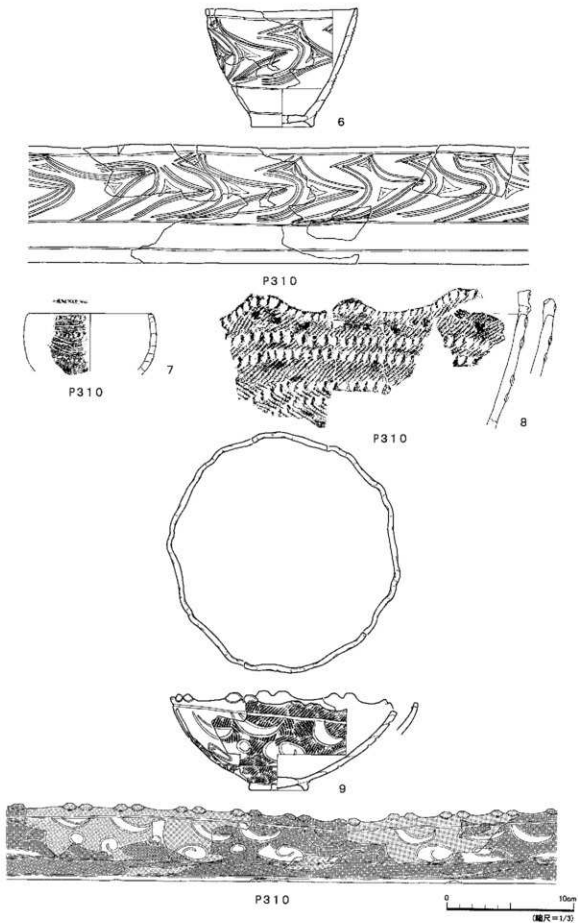
図V-3 土坑



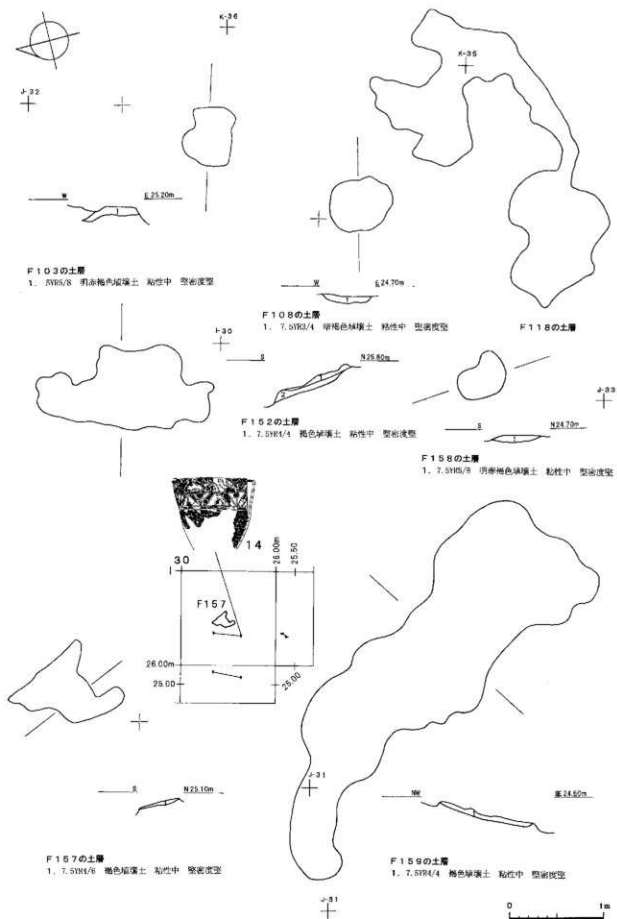
図V-4 土坑出土の土器(1)



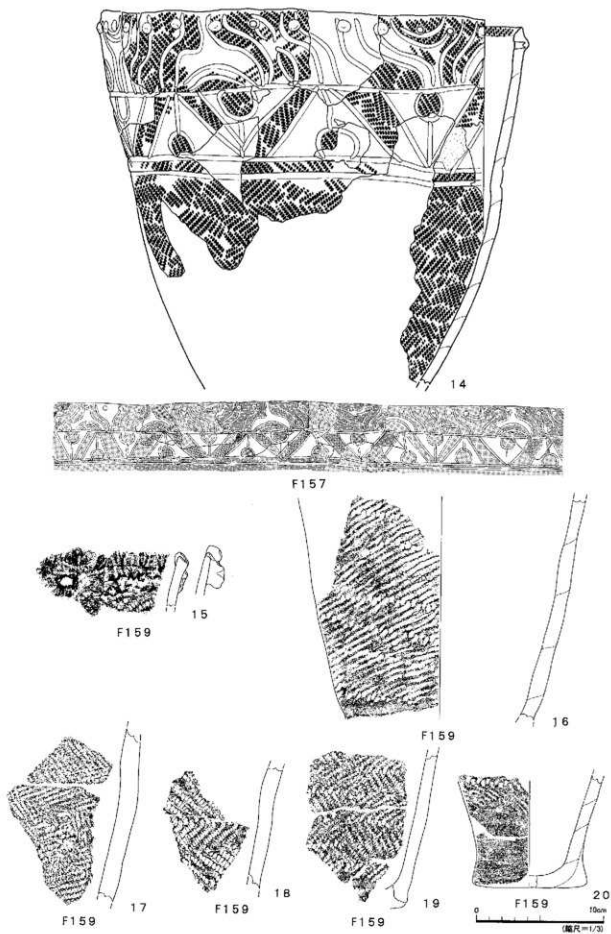
図V-5 土坑出土の土器 (2)



図V-6 土坑出土の土器(3)



図V-7 焼土



図V-9 焼土出土の土器と土製品 (2)

出土遺物：土器～F118～1は深鉢の口縁部。突起部は小さな丸みのある半円形状で円形の貼付けとその下に縦長の貼付けがある。口唇部断面形は三角形。口唇部外面と口縁部下には縦長の押し引きが連続する。押し引きの間は蹄筒状工具による横位の条線文が通る。2～6は突起部。2・4は細い貼付け。3は貼付け上に縦長の押し引き。5はつぶれた円形の貼付け。6の口唇部断面形は三角形。7は胴部で、山形の貼付けがある。8は底部。1～8はサイベ沢Ⅵ式相当で、1は仮称厚真1式。F153～9は小型の深鉢。口縁部は、沈線文と半截竹管状工具による刺突列で文様を描く。底部は低台付きで底面にも半截竹管状工具による刺突。御殿山式。F157～10は小型の深鉢の口縁部～胴部。口唇部はキザミによる小波状口縁。14はくびれのある深鉢。沈線で文様を描くもので、文で上下2段の文様帯を別々の文様で施している。11～13は土製品の上。10は三ツ谷式相当。11～13は三ツ谷式併行の時期に伴うものと考えられる。

(佐藤 剛)

4. 一括出土遺物(図V-10～11 表Ⅷ-7・28 図版58～59)

いずれもMB盛土下のⅡb層で検出した。一括6は中期前葉のⅢ群a類土器、一括7、8は晩期後葉のⅤ群c類土器である。いずれも1～2個体の土器が狭い範囲から集中的に出土したものである。一括10は軽石の集中である。

(石井)

出土遺物：土器～

一括出土遺物6

1は円筒形の深鉢。突起頂部は欠損している。細めの粘土紐の貼付けで文様を描く。貼付け上には縄文の押圧。サイベ沢Ⅵ式相当。

一括出土遺物7

2は丸底の浅鉢。沈線文により横位の平行沈線文を描く。3は壺。沈線文により文様を描く。突起は対向する2つと考えられる。2～3はタンネトウ1式。

一括出土遺物8

4は丸底の深鉢。沈線文により横位の平行沈線文を描く。タンネトウ1式。

(佐藤 剛)

5. 盛土遺構

MA盛土(図V-12～22 表Ⅷ-8～9・29～30 図版60～142)

調査状況：柏木川の低位段丘面を調査中に検出した。段丘上面から遺物や土砂が流入した自然堆積層の可能性も考えたが、段丘上より大きな土器片が出土すること、Ⅲ層土に由来する黄褐色土が厚く堆積することから、人為的な堆積層であると考えた。段丘斜面に幅1mのトレンチを3本設定し、堆積状況を確認した。トレンチ調査の結果を基にMA1～MA4層に細分した。ただしMA3層は範囲が不明瞭であったため、後に欠番とした。トレンチ調査からはMA1層がMA2層とMA4層より新しいことを確認した。MA2層とMA4層の新旧関係は不明である。また、盛土遺構の上下に堆積する黒色土層のうち、盛土遺構の上に堆積する黒色土をⅡa層、下に堆積する黒色土をⅡb層とした。Ⅱb層はバミスマやローム粒を含むⅡb-1層と、純粋な黒色土であるⅡb-2層に細分した。Ⅱb-2層上面ではⅢ群土器がまとまって出土することから、Ⅱb-1は縄文時代中期以降の堆積層である。

K-35



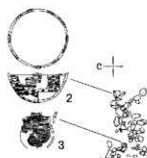
g



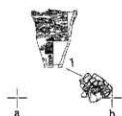
h

一括10

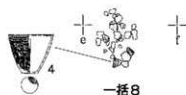
K-36



一括7



一括6



一括8

L-35

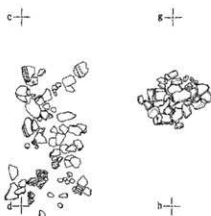


一括6



一括8

L-36

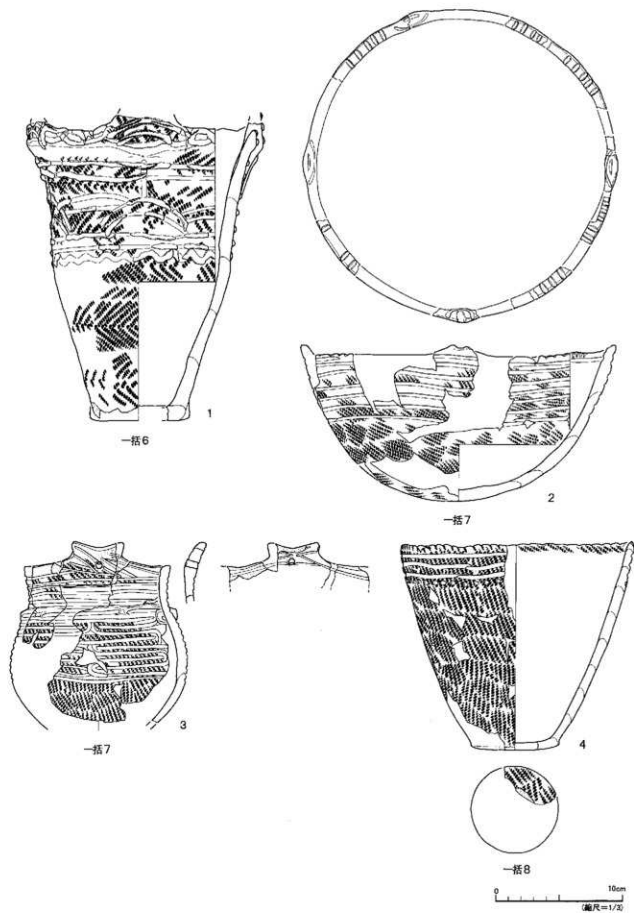


一括7

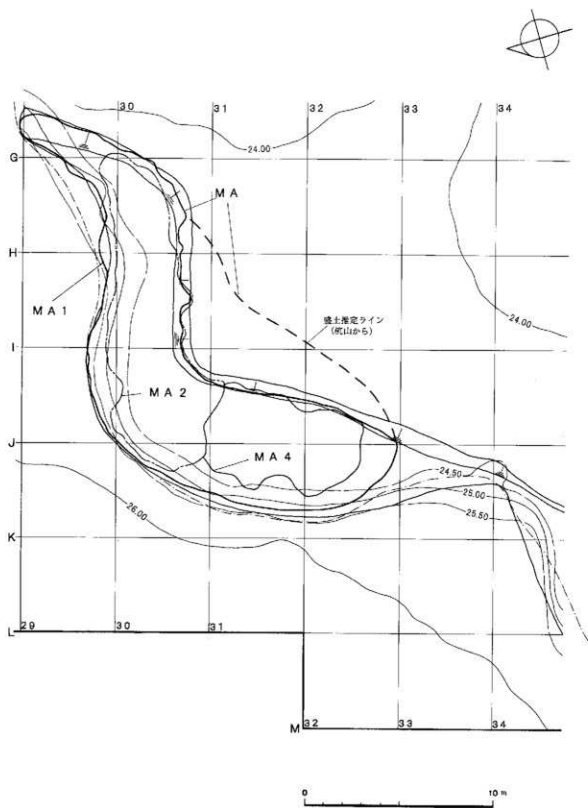
一括10



図V-10 一括出土遺物



図V-11 一括出土の土器



図V-12 盛土遺構 MA盛土

調査はⅡa層の除去から開始した。Ⅱa層の除去後、盛土遺構の範囲を確認し、MA1層を掘り下げた。MA1層の掘り下げ後、MA2層とMA4層の調査を開始した。両者は一部で重なるため、新旧関係を明らかにする目的でトレンチを設定し上層の観察を行ったが、新旧関係はわからなかった。MA1層は遺物の密度が最も高く、東側では特に遺物が多く出土した。この中で同一面上で遺物が密集して出土したものを一括廃棄されたものと考え、出土状況を図化して取り上げた。MA4層からは完形の注口土器を検出した。出土状況の写真撮影を行い取り上げた。

土層：MA1層はバミスを含む黒褐色土を主体としMA盛土全体を覆う。MA2層は黄褐色土を主体とし、焼土や炭化物、骨片などを含む。MA1層との境界面の数カ所では、その場で焼かれたと焼土を検出した。焼けた骨片を多く含む。MA2層中に骨片や焼土が多く含まれることから、盛土上で焼き火をし周辺に燃え残りを廃棄したものとする。MA4層は暗褐色土を主体とし、バミス、ローム粒を少量含む。

MA1層とMA2層はともに多量の遺物が細かく割れた状態で出土すること、バミスやローム粒を多く含むことから、比較的近い時期に似通った状況で形成されたものとする。これに対し、MA4層は遺物の密度が低く、層中にバミス、ローム粒を多くは含まないことからMA1層、MA2層とは異なる状況で形成された可能性もある。MA盛土を構成する土や遺物の供給源は台地上の可能性が高く、MA1層は台地上のⅡ層土、MA2は台地上のⅡ～Ⅲ層土、MA4層は台地上のⅡ層土が起源であると考える。

遺物出土状況：MA1層では出土土器片が細かく割れている。MA盛土の最上層に当たるため、後世の擾乱や自然の営力により土器の破損が進んだものとする。MA4層の遺物量はMA1層、MA2層に比較すると少ないが、完形の注口土器(図V-53-120)が出土した。底部を上に向け、真っ直ぐに直立した状態で出土した。他の破砕された土器片とは異なり、意図的にこのような置き方をしたものとする。

MA盛土東側、グリッドG、H-30で遺物集中1～5を検出した。他の箇所より遺物の密度が高く、境界が明瞭であることから、一括性が高いと判断した。一部に赤色顔料のまとまりがみられた。遺物集中1、2は2～3個体の土器片が狭い範囲から集中して出土したものである。遺物の集中度合いが高いことから、遺物集中3～5と比較して一括性が高く、短期間に廃棄されたものと推測する。遺物集中3～5は盛土堆積面に沿って同一面上で遺物が出土したものである。遺物集中1、2と比較して、広い範囲に遺物が散布し、さらに、分布範囲の境界も不明瞭である。したがって、遺物集中1、2より長期間で形成されたと考える。

性格：不明。 **時期：**出土土器から見て、Ⅳ群c類～Ⅴ群a類土器を伴う縄文時代後期後葉から晩期初頭のものと思われる。

(石井)

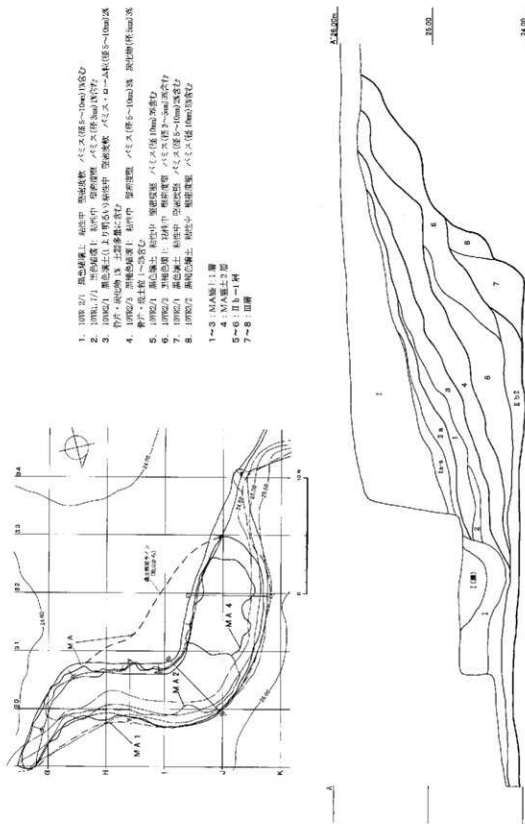
出土遺物：土器～

遺物集中1

すべて東三川Ⅰ式。

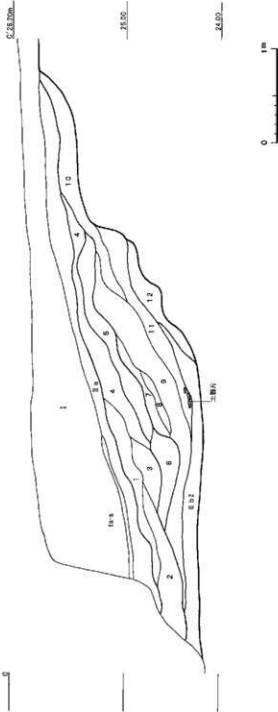
深鉢(1～4)

1～4はくびれない深鉢である。沈線が施文される文様帯を有るもので、ヘラ描きの沈線文で文様を描く。2は刺突が2条えられる。3はA状突起をもつもの。4は口縁部から底部まで縄文の施文されるもので、平縁である。



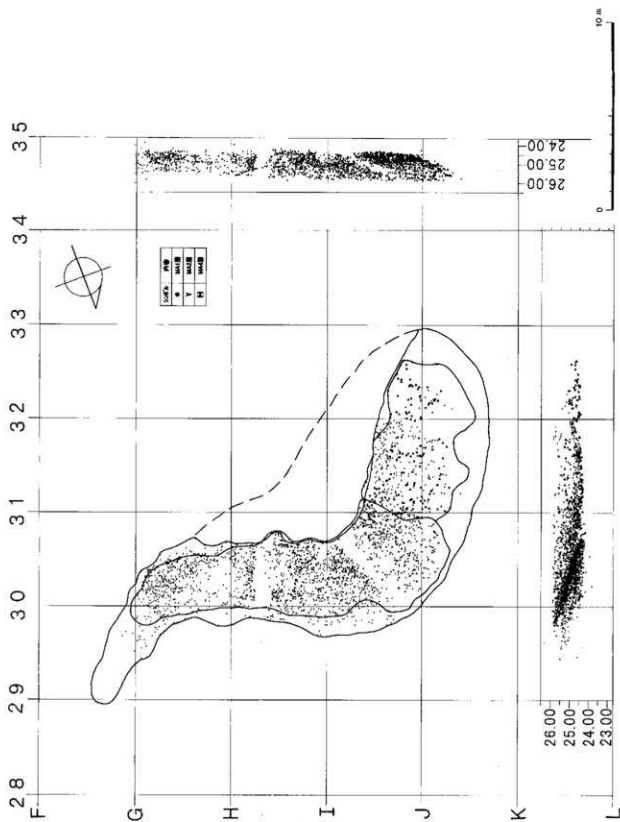
- 1. 1000/20 黒色砂壌土 粘り中 腐植質層 バシス(厚5~10m)を含む
 - 2. 1000/21 黒色砂壌土 粘り中 腐植質層 バシス(厚3m)を含む
 - 3. 1000/21 黒色腐植土(上り層含む)粘り中 腐植質層 バシス・ロー・A(厚5~10m)を含む
作土・砂心物 土部多量を含む
 - 4. 1000/23 黒色砂壌土 粘り中 腐植質層 バシス(厚5~10m)を含む
砂心・底土層1~2を含む
 - 5. 1000/21 黒色腐植土 粘り中 腐植質層 バシス(厚10m)を含む
 - 6. 1000/22 黒色砂壌土 粘り中 腐植質層 バシス(厚3~5m)を含む
 - 7. 1000/21 黒色腐植土 粘り中 腐植質層 バシス(厚5~10m)を含む
 - 8. 1000/22 黒色腐植土 粘り中 腐植質層 バシス(厚10m)を含む
- 1~3 : MA盛土層
 4 : 腐植質土層
 5~7 : 砂心層
 7~8 : 底層

図V-13 MA盛土層断面図 (1) Hライン

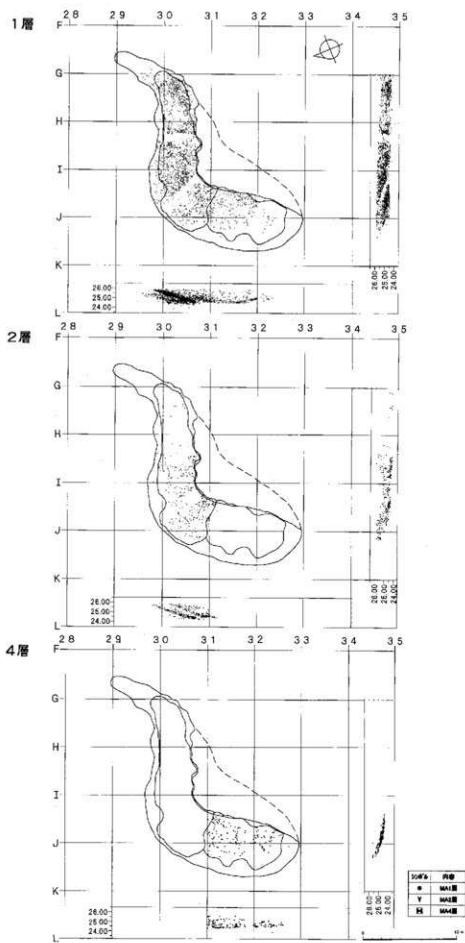


1. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土(厚3~7mm)混在
 2. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚1mm)混 1.5m多量に含む
 3. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混在
 4. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~7mm)混在
 5. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混 骨片・炭化屑 少量
 6. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚5~10mm)混 骨片・炭化屑 少量
 7. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混 骨片・炭化屑 少量
 8. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混在
 9. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚1mm)混在
 10. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混在
 11. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混在
 12. 1072.71 黒色腐植土 砂状中 腐植層 赤土・ローム泥(厚3~5mm)混在
- 1~4: MA盛土1層
5~6: MA盛土4層
7~11: B1-1層
12: 相層

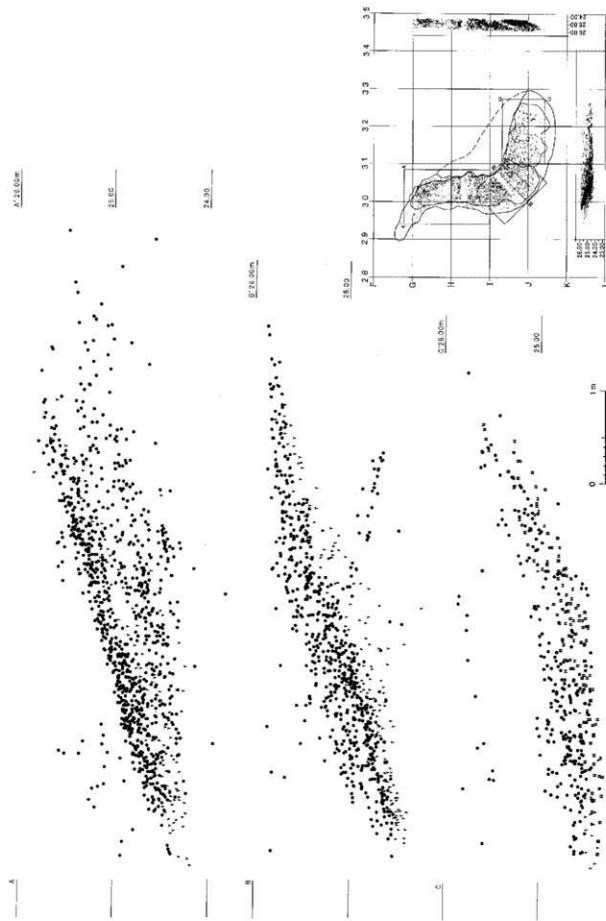
図 V-15 MA盛土層断面図 (3) 32ライン



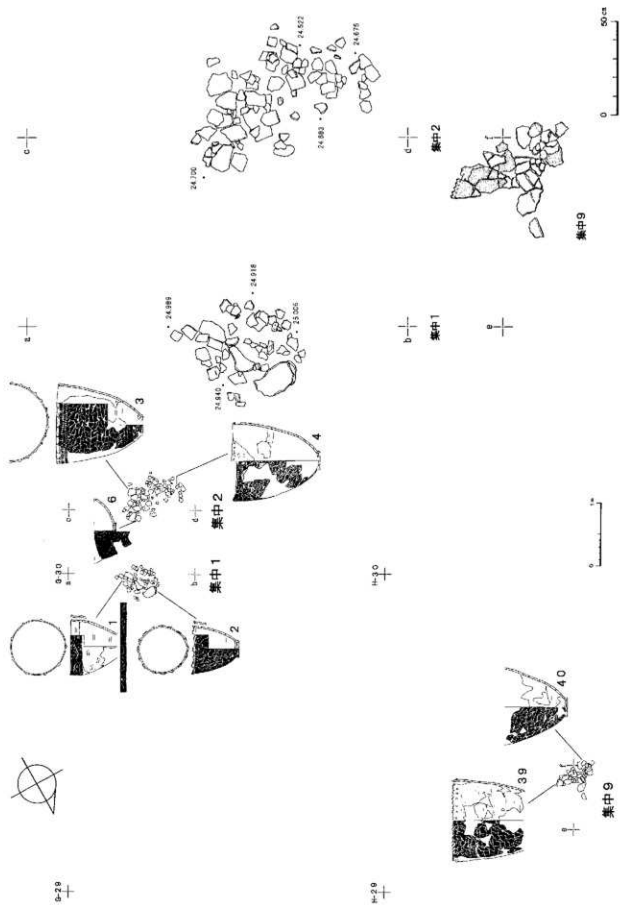
図V-16 MA盛土層分布図(1) 平面図



図V-17 MA盛土土器分布図(2) 層別別



図V-18 MA盛土層分布図(3) 断面図



図V-19 MA盛土 遺物集中1・2・9

浅鉢(5~6)

5~6は無文の浅鉢。6は大型である。

遺物集中3

すべて東三川I式。

深鉢(7~8)

7~8はくびれない深鉢である。8は胴部上半に沈線が施文される文様帯をあるもので、沈線文で文様を描く。

浅鉢(9~12)

9~12は無文の浅鉢。9~11は無文である。12は上面観が楕円形の浅鉢で、3つ1組の小さな山形突起と3つの連続する小さな山形突起がある。3つの連続する小さな山形突起の頂部にはキザミが加えられる。

鉢(13~17)

13~17は鉢。16は口縁部が内湾する鉢。13~15は沈線で文様を描くもの。16は帯縄文で文様を描くもの。17はキザミによる小波状口縁をもつもの。

遺物集中4

すべて東三川I式。

深鉢(18)

18はくびれない深鉢である。無文で、キザミによる小波状口縁を持つもの。

壺・注口土器(19~20)

19は注口土器。口縁部は無文で、注口部分に沈線文で文様が描かれる。20は壺または注口土器で、口縁部を1本の横走沈線文で文様帯を区画するもの。

遺物集中5

すべて東三川I式。

深鉢(21~25)

21~25はくびれない深鉢。21は帯縄文により文様を施文するもの。22~23は6個1組のキザミをもつもの。24はキザミによる小波状口縁を持つもの。刺突が2条巡る。25は平縁。26はくびれのある小型の深鉢。頸部を1本の横走沈線文で文様帯を区画するもの。

浅鉢(27~28)

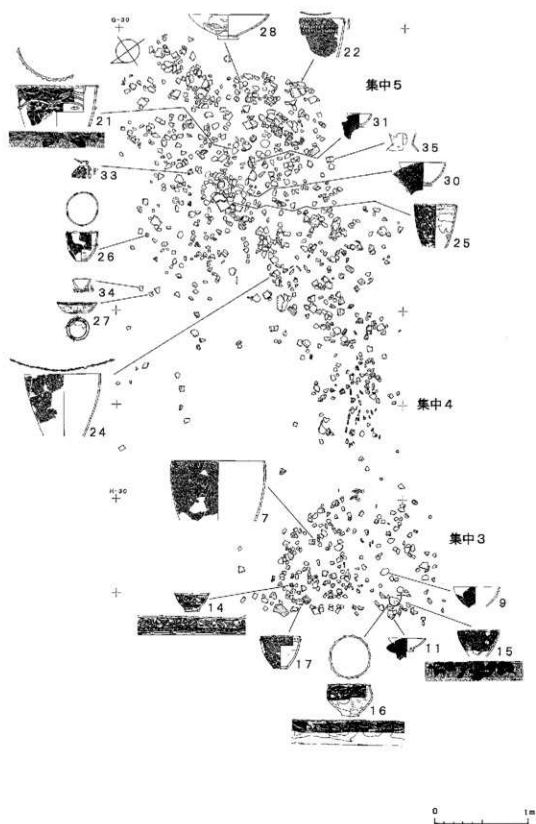
27~28は浅鉢。27は平底で、底部は極浅く平らに窪む。口縁部と底部外面に横走沈線文で文様を描く。28は大型で、無文。

鉢(29~32)

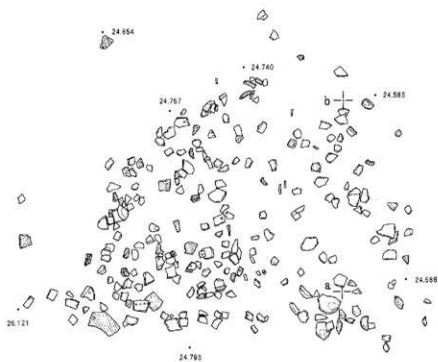
29~32は鉢。29は口縁部外面に半截竹管状工具による刺突が2条巡る。30~32は無文。

壺・注口土器(33~38)

33~38は壺または注口土器。33~35は口縁部が復元できたもの。36~38は胴部。36~37は注口土器。36は注口部分の周囲に沈線文で文様を施文するもので、37は帯縄文で文様を施文するもの。37は注口部分が残る。



図V-20 MA盛土 遺物集中3・4・5出土状況図



集中3



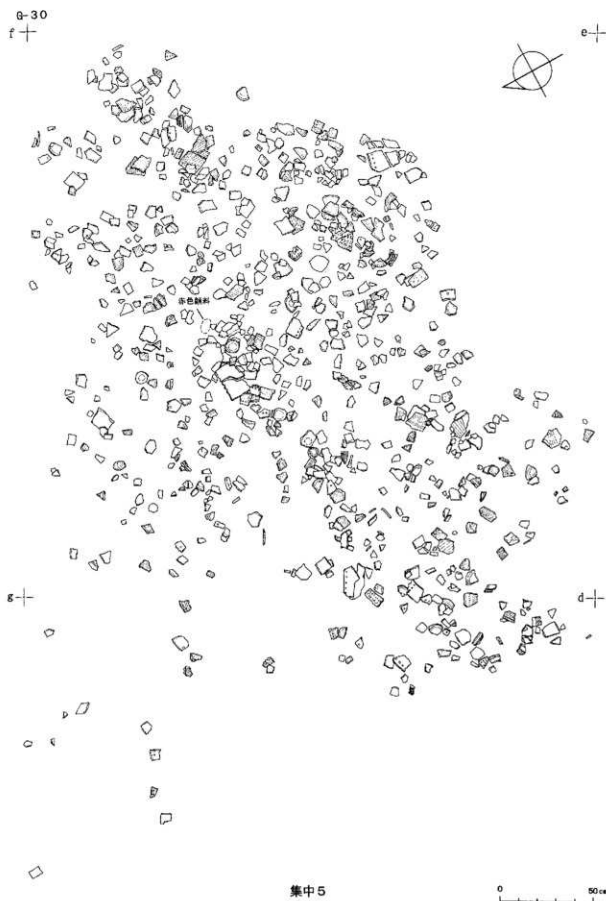
集中4

H-30
+

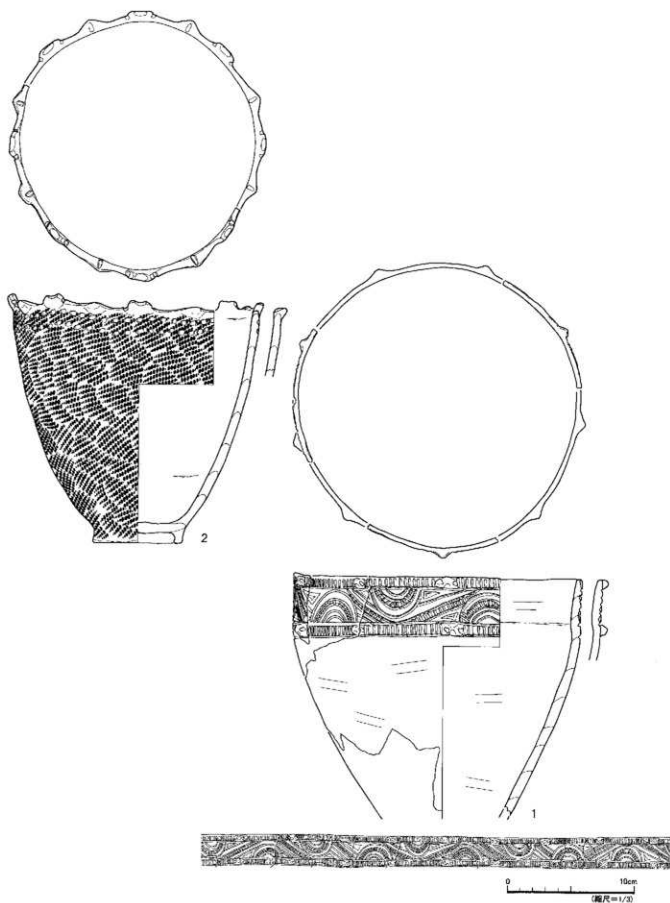
b+



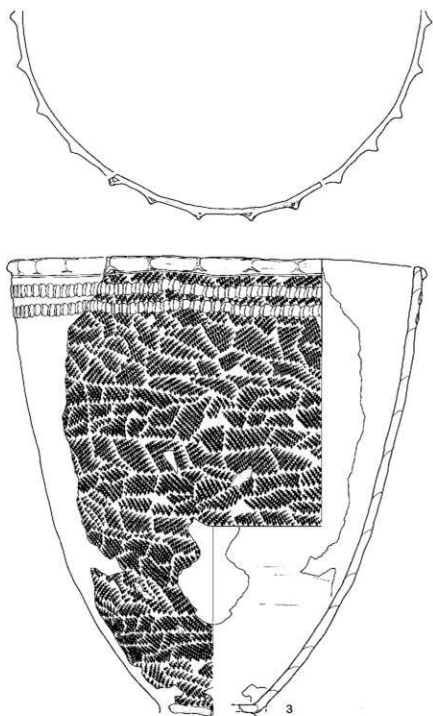
図V-21 MA盛土 遺物集中3・4



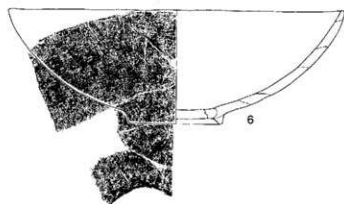
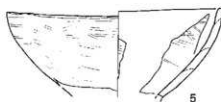
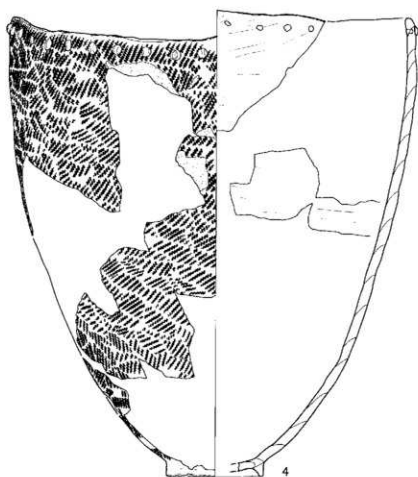
図V-22 MA盛土 遺物集中5



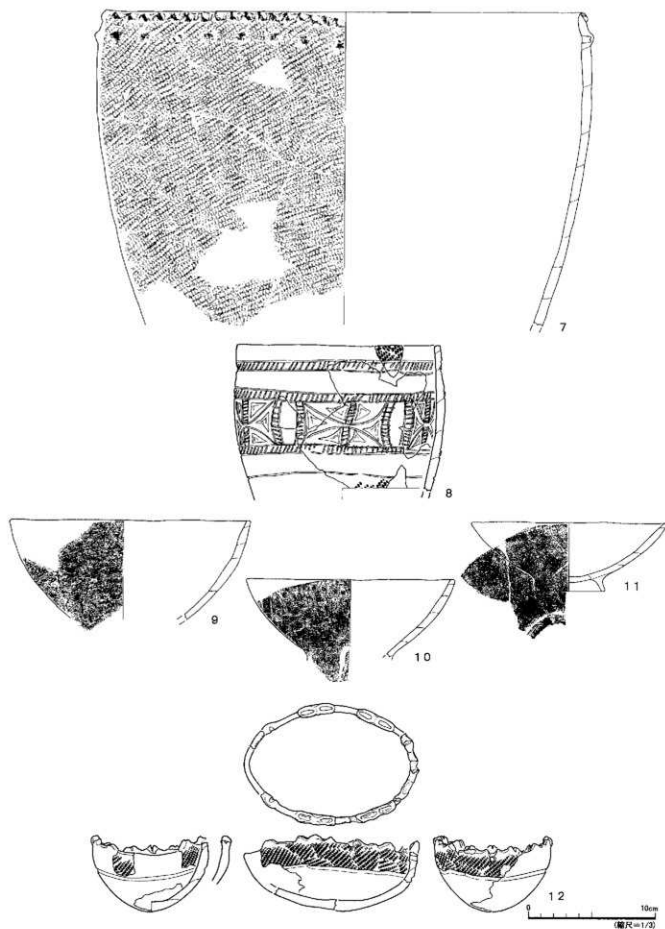
図V-23 盛土遺構出土の土器 (1) MA盛土遺物集中1



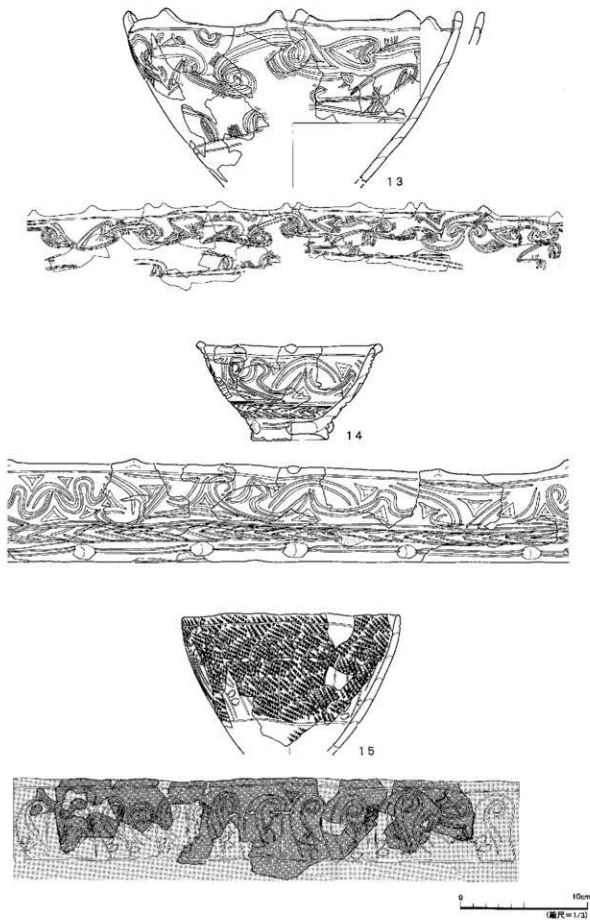
図V-24 盛土遺構出土の土器 (2) MA盛土遺物集中2



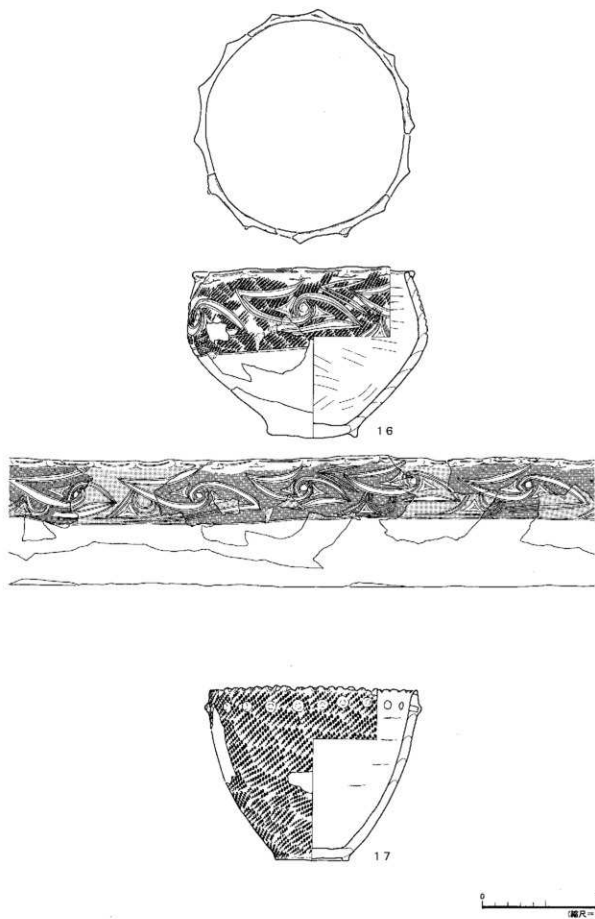
図V-25 盛土遺構出土の土器(3) MA盛土遺物集中2



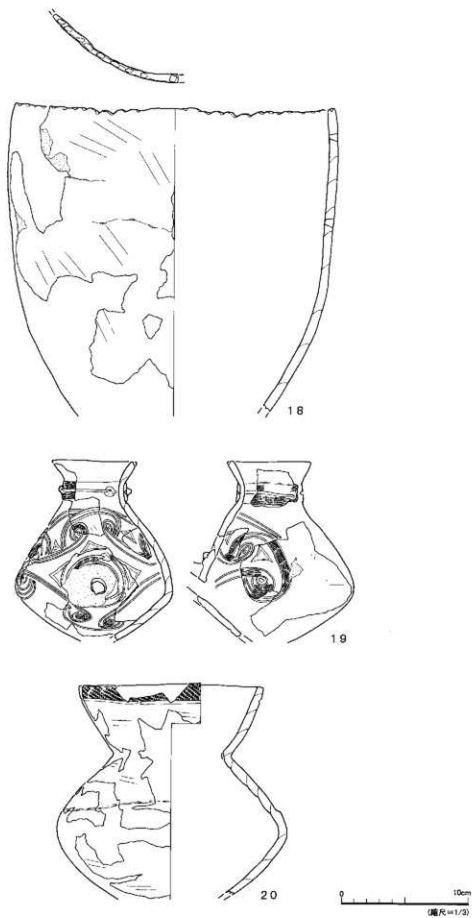
図V-26 盛土遺構出土の土器 (4) MA盛土遺物集中3



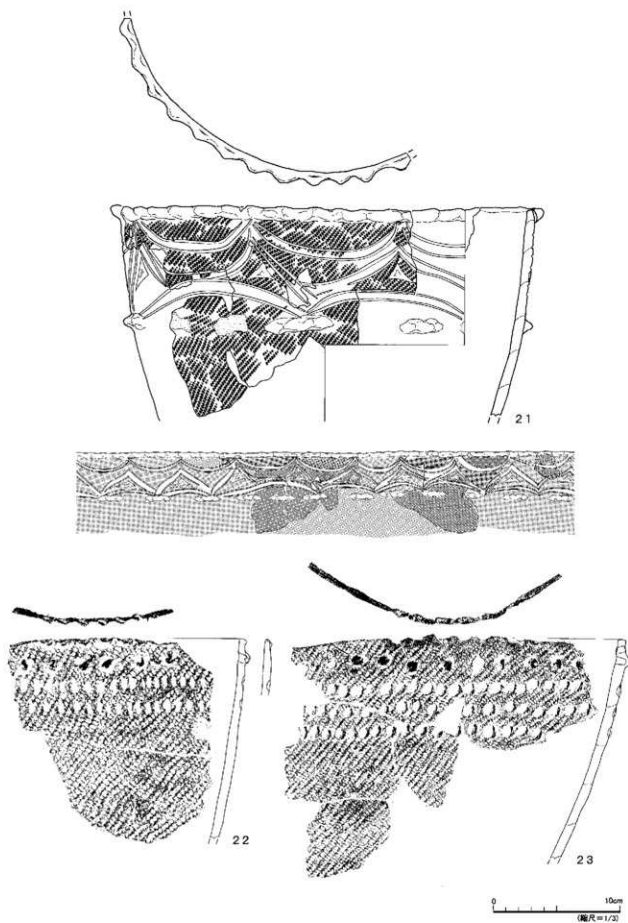
図V-27 盛土遺構出土の土器(5) MA盛土遺物集中3



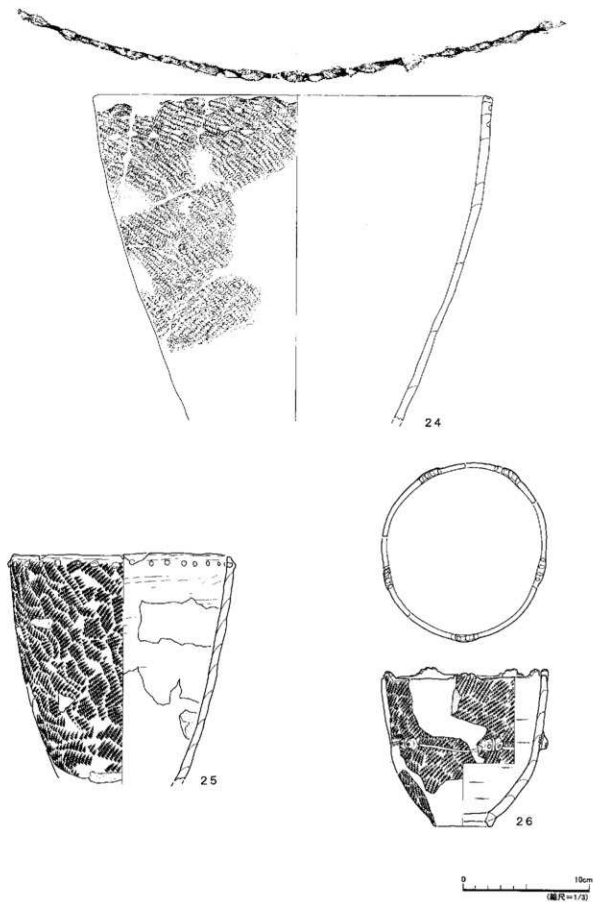
図V-28 盛土遺構出土の土器 (6) MA盛土遺物集中3



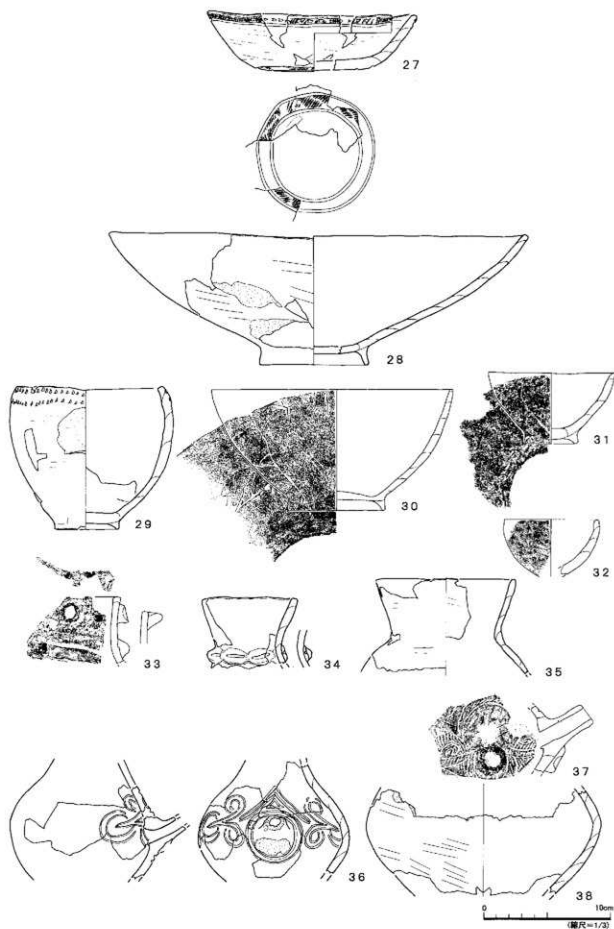
図V-29 盛土遺構出土の土器 (7) MA盛土遺物集中4



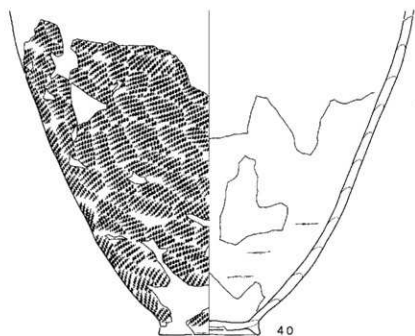
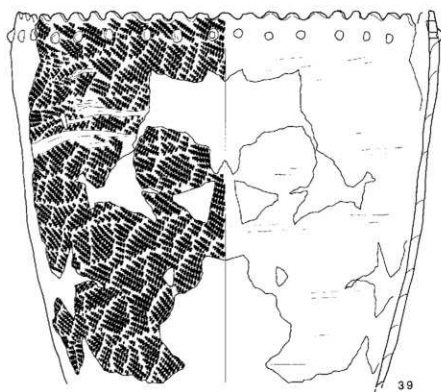
図V-30 盛土遺構出土の土器 (8) MA盛土遺物集中5



図V-31 盛土遺構出土の土器(9) MA盛土遺物集中5



図V-32 盛土遺構出土の土器 (10) MA盛土遺物集中5



図V-33 盛土遺構出土の土器 (11) MA盛土遺物集中9

遺物集中9

すべて東三川I式。

深鉢 (39~40)

39~40はくびれない深鉢である。39はキザミによる小波状口縁をもつもの。40は低い台付の底部。

その他のMA盛土出土土器

41~117はMA1層出土のV群a類。

深鉢 (41~49)

41~45はくびれない深鉢。41~43は帯縄文で文様を施文するもの。44は1本の1本の横走沈線文で文様帯を区画するもの。45はA状突起をもつもの。

46~49はくびれのある深鉢。46は沈線文で文様を施文するもの。47は帯縄文で文様を施文するもの。48~49はA状突起をもつもの。48は無文帯部分に先端の尖った櫛歯状工具による刺突が充填される。49は縄文を残す。くびれ部は、くびれというよりむしろくの字に屈曲する。このような口縁をもつのは、資料中で、この個体のみである。

浅鉢 (50~63)

50~51は沈線が施文される文様帯のあるもの。52~53は帯縄文で文様を施文するもの。54~55はA状突起をもつもの。56は1本の横走沈線文で胴部と区画するもの。

57は刺突文が施文されるもの。58~61は無文のもの。62は丸底で底面は無文である。63は高い台部である。

鉢 (64~74)

64~67は沈線が施文される文様帯のあるもの。64~65はヘラ書きの沈線文で文様を施文するもの。

68~72は帯状文で文様を施文するもの。73はA状突起をもつもの。74は縄文のみのもの。

壺・注口土器 (75~113)

75~91は口縁部が復元できたものである。75は下膨らみの器形のもの。他とくらべて時期が新しい可能性がある。76~77は口縁部に突起をもつもの。76は装飾のある突起、77は円錐形の突起をもつ。78~86は沈線が施文される文様帯のあるもの。87~90はA状突起をもつもの。90は頸部にのみA状突起をもつ。91~92は無文の口縁部。

93~111は胴部が復元できたものである。93~98は胴部に文様を施文するものである。93~96は帯縄文で文様を施文するもの。97~98は沈線による文様を施文するもの。99~105は注口部の周囲に文様をもつものである。106は肩部に横位の沈線文が巡る。107は肩部にA状突起をもつ。帯縄文で文様を施文するもの。帯縄文で文様を施文するもの。帯縄文で文様を施文するもの。108は注口部下にボタン状の貼付けをもつ。109は肩部が弱い段状になる。110~111は底部が平底で、111は下膨らみの器形である。

112~113は底部である。112は丸底、113は非常に小さくはみ底である。

片口土器 (114~115)

114~115は鉢に片口をつけたもの。114は帯縄文で文様を施文するもの。突起は真ん中をくはませたものである。115は口縁直下に連続する爪形文をもつもの。

ミニチュア土器 (116~117)

116~117は浅鉢形のミニチュア土器。116は半截竹管状工具による刺突列をもつ。爪文を表現していると考えられる。117はA状突起をもつ。

118～119はMA2層出土のV群a類。

壺・注口土器(118～119)

118は口縁部が復元できたもので、帯縄文で文様を施文する。119は胴部が復元できたもので、帯縄文で文様を施文する。

120～121はMA4層出土のV群a類。

壺・注口土器(120～121)

120は完形の甬で、無文である。底部に焼成後の穿孔がある。121は口縁部が復元できたもので、帯縄文で文様を施文するもの。

122～229はMA1層出土のIV群c類。

深鉢(122～175)

122～134はくびれのある深鉢。122はくびれ部近くの胴部外面にボタン状の貼付けをもつもの。沈線で文様を施文する。波状口縁の頂部には外面に飛び出す円錐形の貼付けがある。123～134は沈線で文様を施文するもの。

135～162はくびれない深鉢。135はボタン状の貼付けをもつもの。大小の貼付けを交互に配する。沈線で文様を施文する。136～141は沈線で文様を施文するもの。141は細い沈線で文様を施文する。142～147は突起をもつもの。148～153はキザミをもつもの。148～151は棒状工具によるキザミを持つもの。152～154は指頭によるキザミをもつもの。155は口唇部外面に爪文をもつもの。156～162は平縁のもの。162は無文である。

163～175は底部である。174～175は無文である。

鉢(176～205)

176～184は沈線で文様を施文するもの。186～189は沈線間にハの字のキザミをもつ。190～194は突起をもつもの。195は棒状工具によるきざみをもつもの。196はゆるやかな波状口縁をもつもの。197は動物意匠の突起をもつもの。198は口唇部外面に爪文をもつもの。199～205は平縁のもの。204～205は無文のもの。

浅鉢(206～210)

206～207は沈線で文様を施文するもの。208は広めの平底で、丸みを帯びながら立ち上がる器形である。208～210は無文である。

壺・注口土器(211～225)

211～214は口縁部が復元できたもの。

211は沈線間に半截竹管状工具による刺突が巡るもの。212は円錐形の貼付けが胴部に多く貼り付けられるもの。213は沈線で文様を施文するもの。214は頸部にボタン状の貼付けがあるもの。

215～223は胴部が復元できたもの。

215は頸部に2個1組のボタン状の貼付けをもつもの。216は頸部に断面三角形の貼付けが回り、頂部にキザミが巡るもの。217はボタン状の貼付けが胴部に多く貼り付けられるもの。218はやや大きめの丸みのある円形の貼付けを胴部に貼り付けられるもの。219は小さめの円形の貼付けを胴部に貼り付けられるもの。220は沈線で文様を施文するもの。221は帯状文を施文するもの。222は注口部下にボタン状の貼付けがあるもの。223は無文である。224～225は注口部である。223は注口部の基部に帯状の貼付けがあるもので、貼付け上には先端の尖った工具による刺突が施される。225は注口部の先

が垂れ下がる形状で、他と比べると古い要素が見られる。

ミニチュア土器 (226~229)

226~228は浅鉢形である。226は上面観が正方形である。226~227は沈線で文様が施文される。228は無文である。229は盃形で、沈線で文様が施文される。

230~254はMA 2層出土のIV群c類。

深鉢 (230~239)

230~232はくびれのある深鉢。沈線で文様が施文されるもの。

233~236はくびれのある深鉢。233は帯状文が施文されるもの。234~236は沈線で文様が施文されるもの。

237~239は底部。239は底部が二重の低い台付となるもの。

鉢 (240~247)

240~241は沈線で文様が施文されるもの。242は帯状文が施文されるもの。243は小さめの山形の突起を持つもの。243~247は平縁のもの。245-247は無文である。

浅鉢 (248~249)

248~249は無文である。249は上面観が楕円形になるものである。

壺・注口土器 (250~252)

250~252は沈線で文様を施文するもの。251は沈線間にハの字の刺突を持つもの。252は細い沈線で文様を施文するもの。

ミニチュア土器 (253~254)

253は浅鉢形、254は鉢形である。

255~267はMA 4層出土のIV群c類。

深鉢 (255~258)

255~257はくびれのある深鉢。沈線で文様が施文されるもの。

258はくびれない深鉢。平縁で口唇上にハの字の連続するキザミが全体に施文され、外面は無文である。

鉢 (259~260)

259~260は平縁の鉢である。

浅鉢 (261~264)

261~264は平縁の浅鉢で、無文ある。

壺・注口土器 (265)

265は口縁部が復元できたもので、帯縄文で文様を施文するもの。小さな山形の突起と、丸みがあり突起頂部に刺突のある突起が交互に配される。

ミニチュア土器 (266~267)

266は鉢形である。266は口縁部が内湾し、ワイングラスのような器形で、底部近くに爪文が施文される。

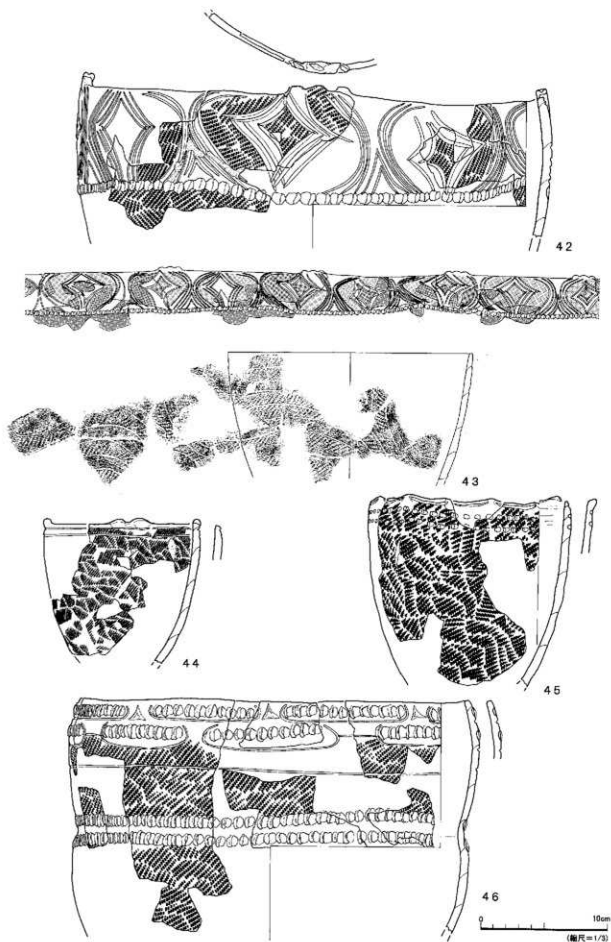
267は浅鉢形である。

268~277はMA 4層出土のIV群c類。

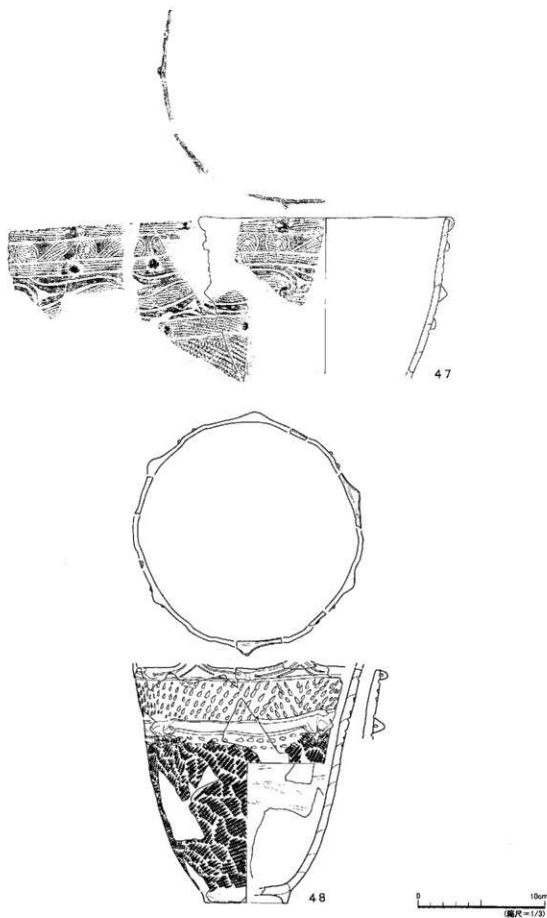
深鉢 (268~274)



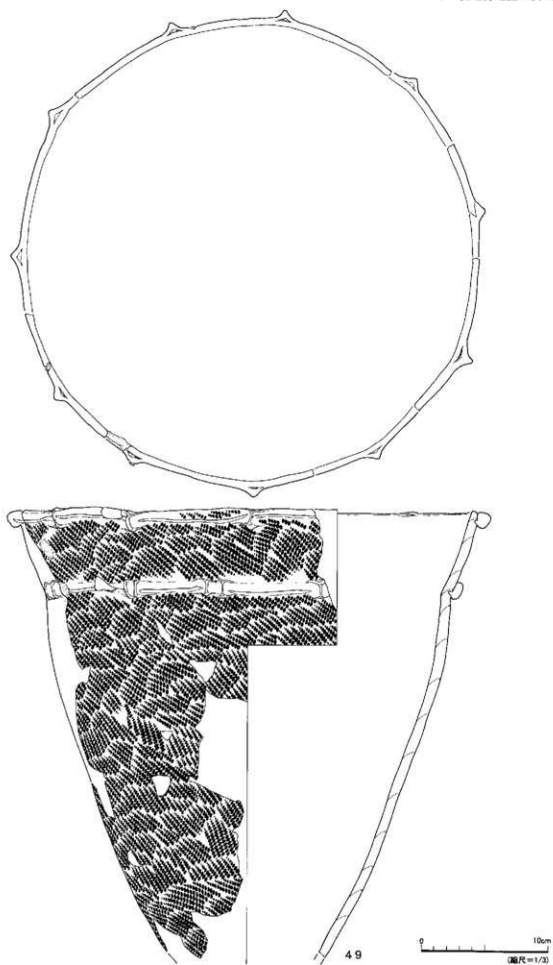
図V-34 盛土遺構出土の土器 (12) MA盛土 (1)



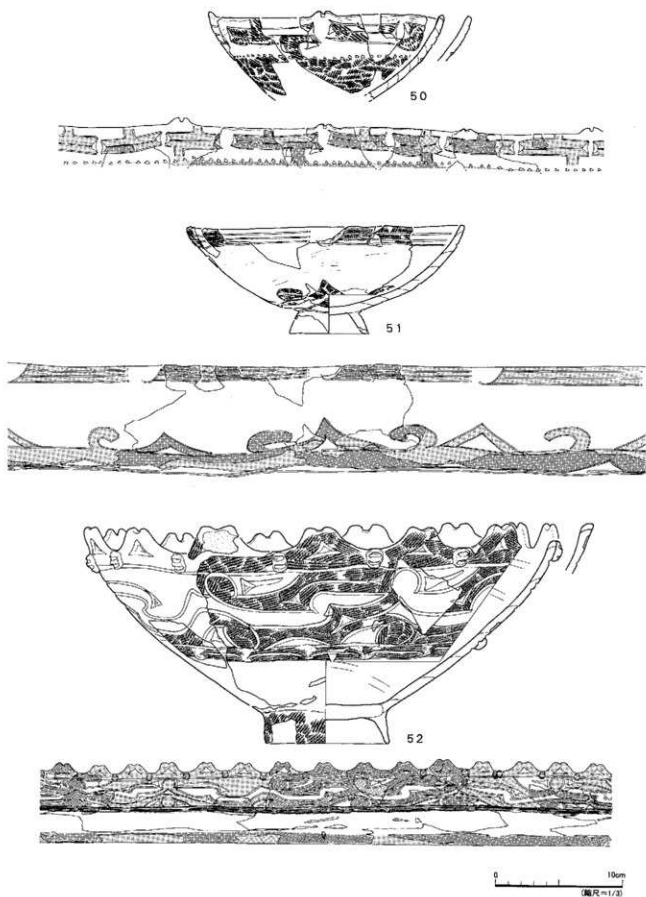
図V-35 盛土遺構出土の土器 (13) MA盛土 (2)



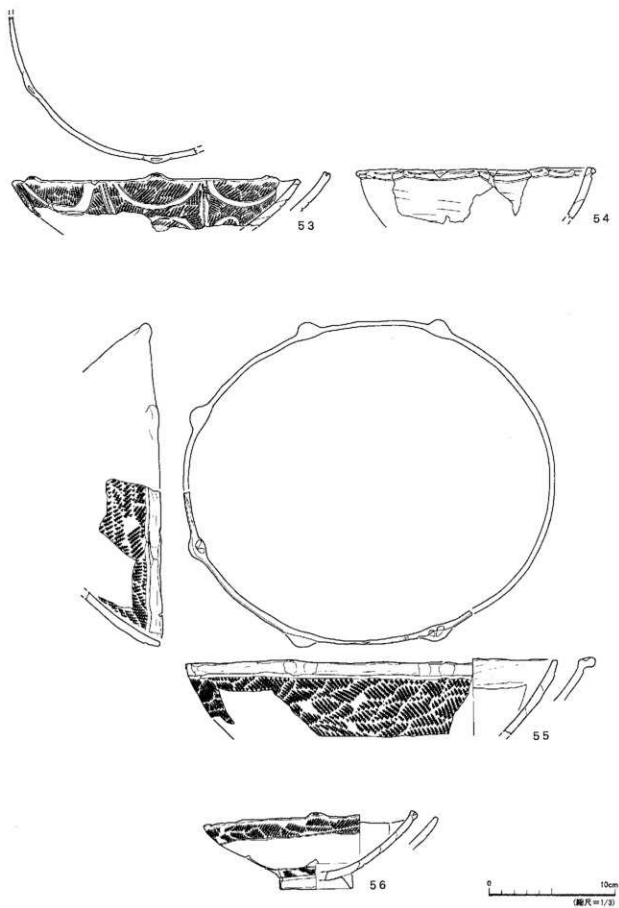
図V-36 盛土遺構出土の土器 (14) MA盛土 (3)



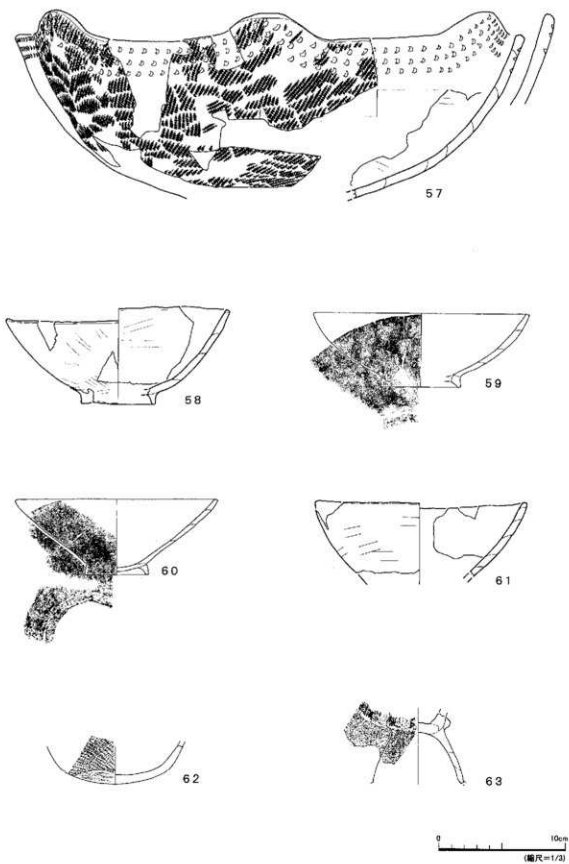
図V-37 盛土遺構出土の土器 (15) MA盛土 (4)



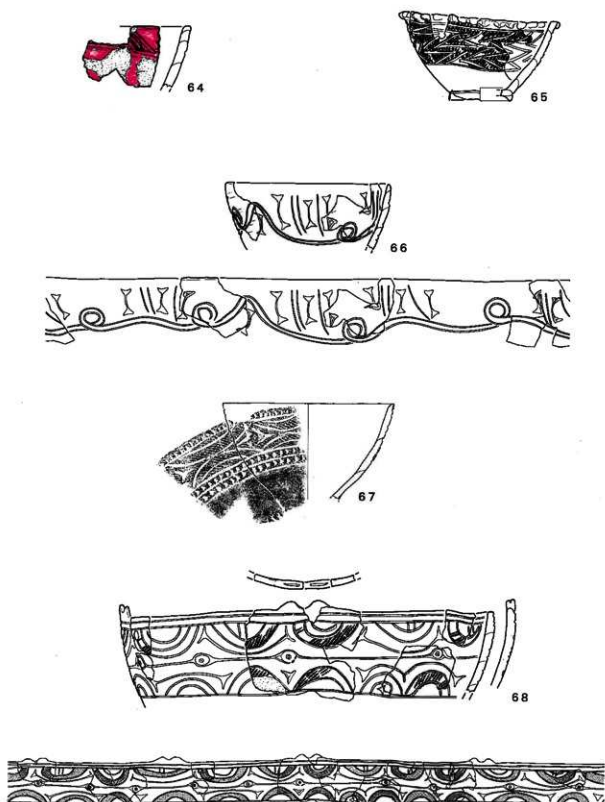
図V-38 盛土遺構出土の土器(16) MA盛土(5)



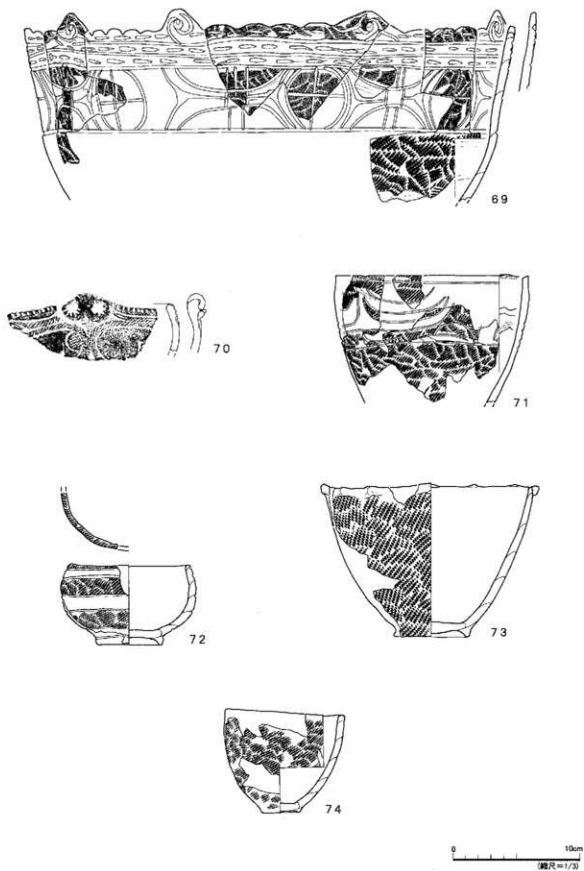
図V-39 盛土遺構出土の土器 (17) MA盛土 (6)



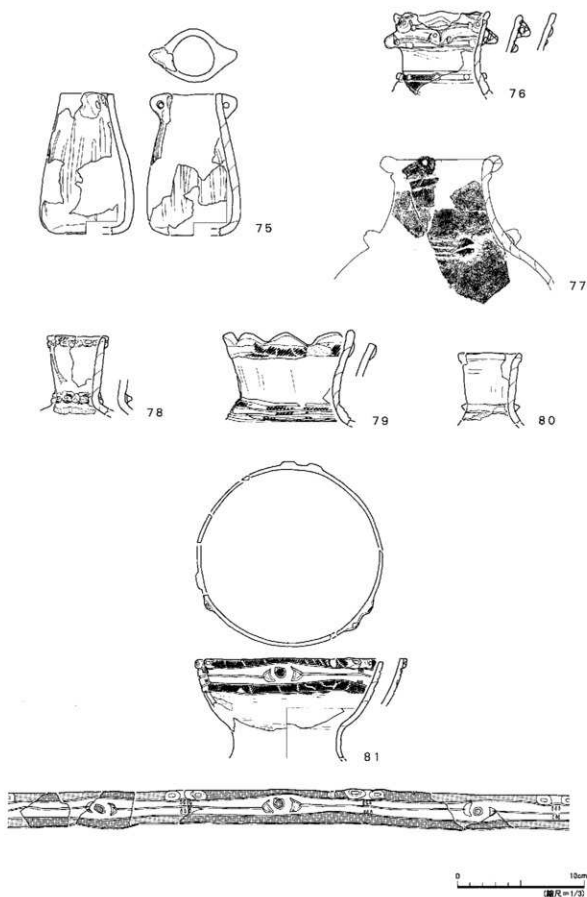
図V-40 盛土遺構出土の土器 (18) MA盛土 (7)



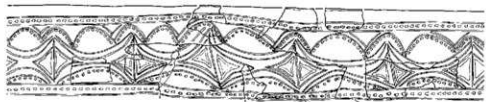
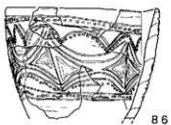
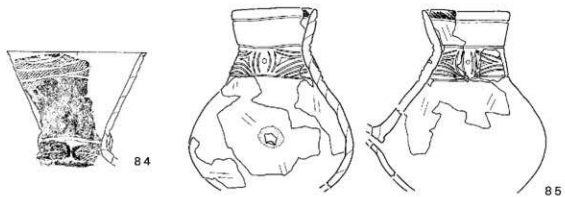
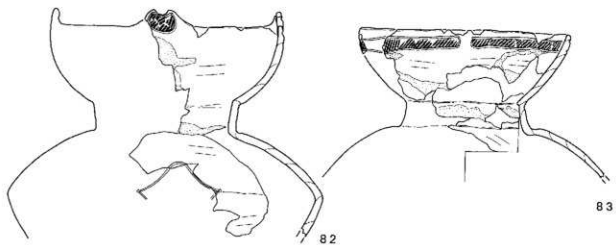
図V-41 盛土遺構出土の土器 (19) MA盛土 (8)



図V-42 盛土遺構出土の土器 (20) MA盛土 (9)

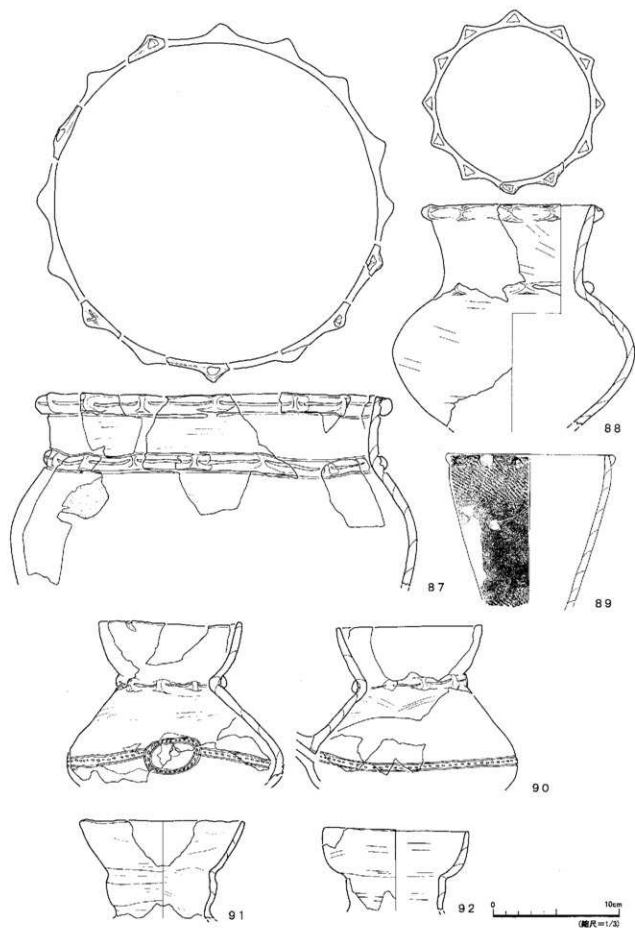


図V-43 盛土遺構出土の土器 (21) MA盛土 (10)

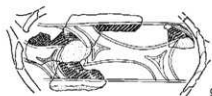


0 10cm
[縮尺=1/3]

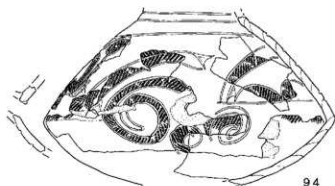
図V-44 盛土遺構出土の土器(22) MA盛土(11)



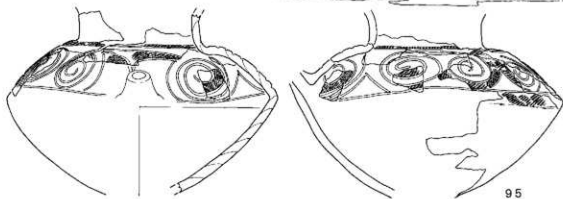
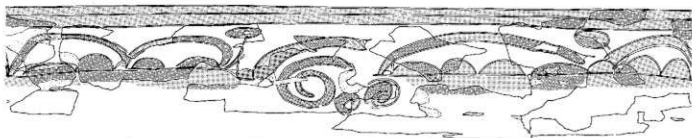
図V-45 盛土遺構出土の土器 (23) MA盛土 (12)



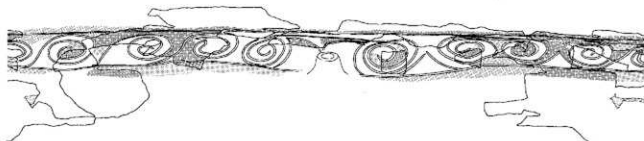
93 MC盛土と接合したもの



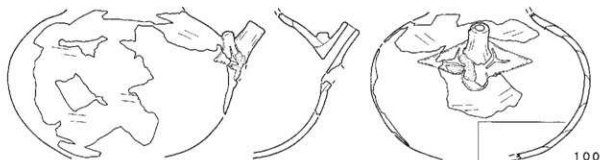
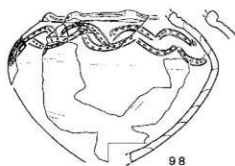
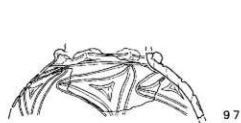
94



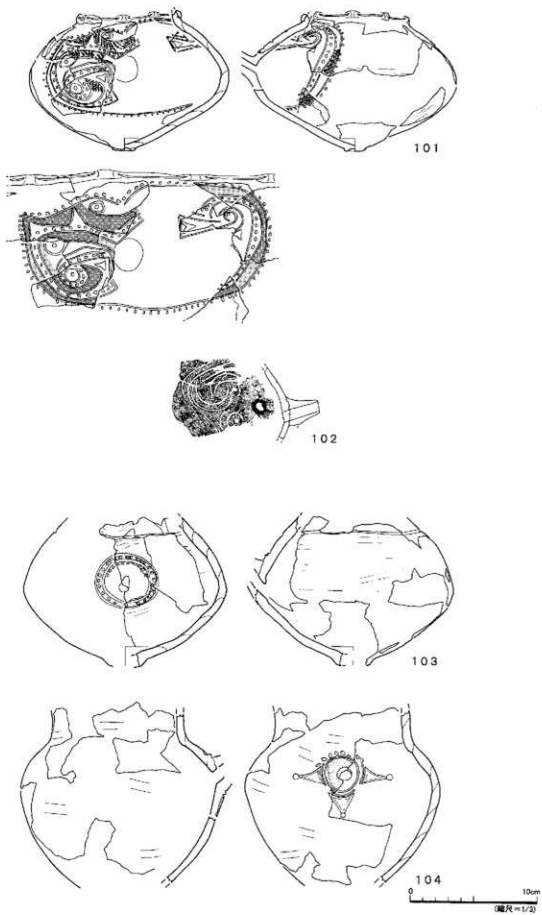
95



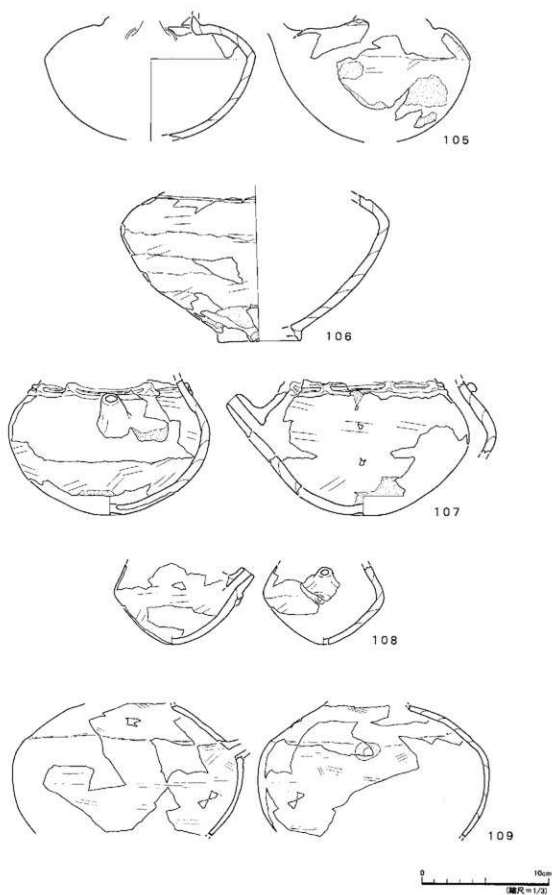
図V-46 盛土遺構出土の土器(24) MA盛土(13)



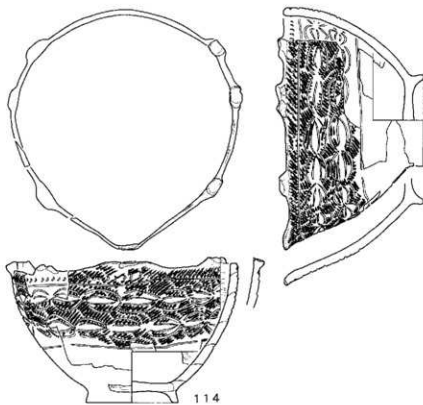
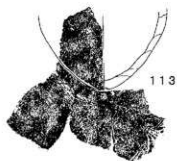
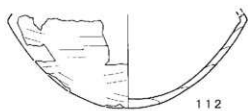
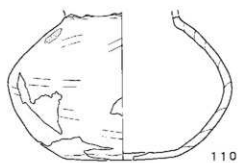
図V-47 盛土遺構出土の土器 (25) MA盛土 (14)



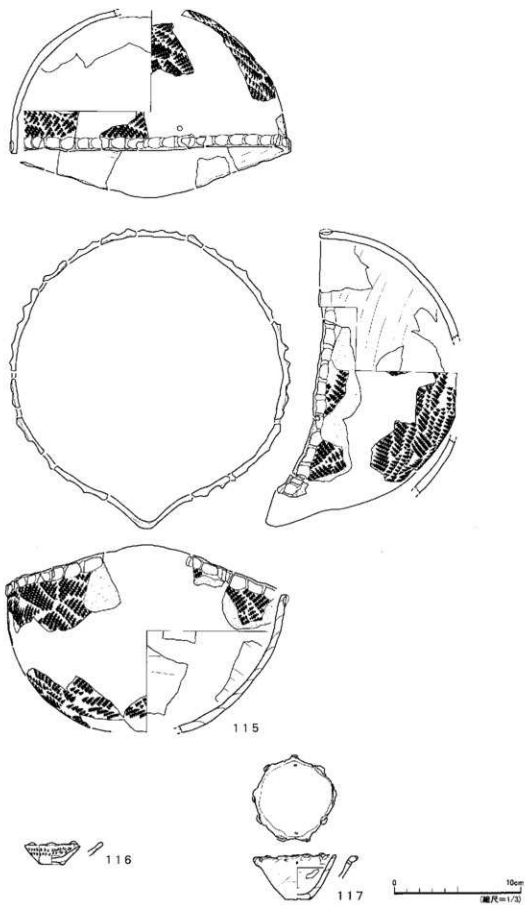
図V-48 盛土遺構出土の土器(26)MA盛土(15)



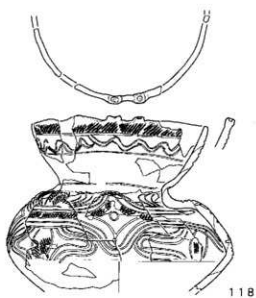
図V-49 盛土遺構出土の土器 (27) MA盛土 (16)



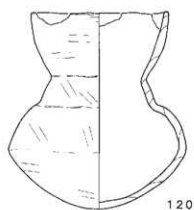
図V-50 盛土遺構出土の土器(28) MA盛土(17)



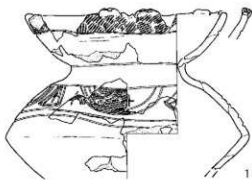
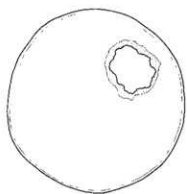
図V-51 盛土遺構出土の土器 (29) MA盛土 (18)



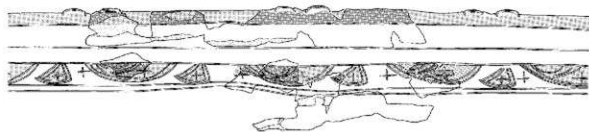
図V-52 盛土遺構出土の土器 (30) MA盛土 (19)



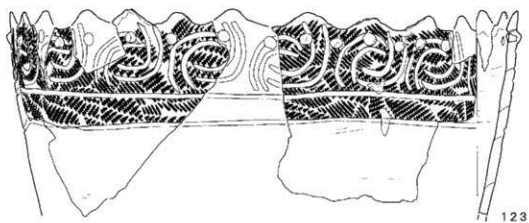
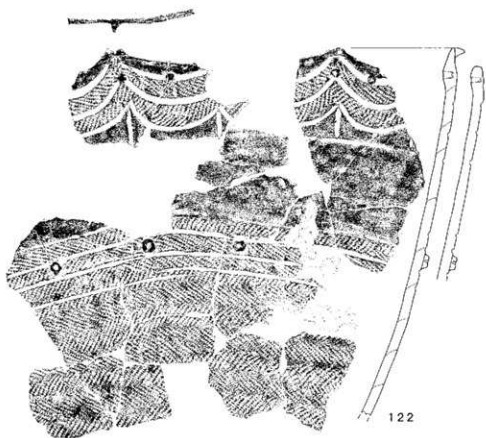
120



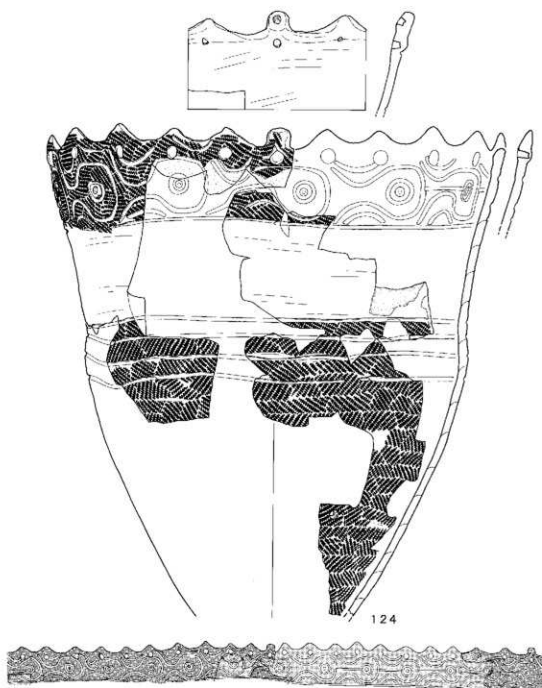
121



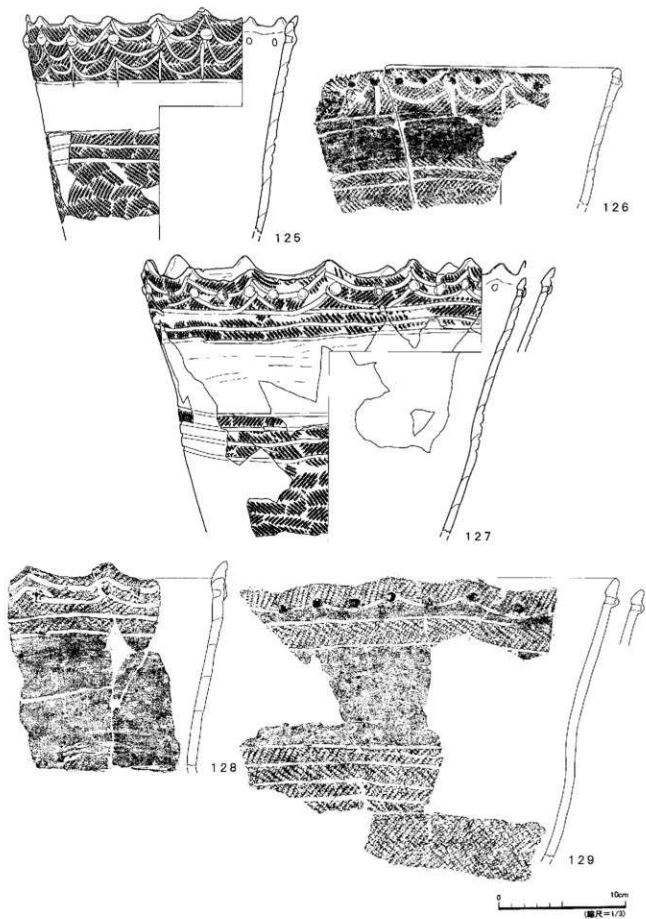
図V-53 盛土遺構出土の土器 (31) MA盛土 (20)



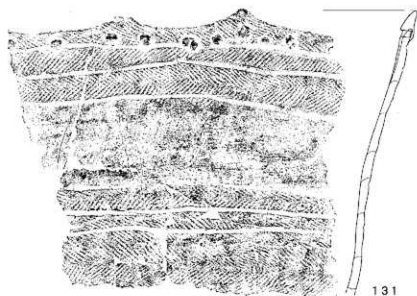
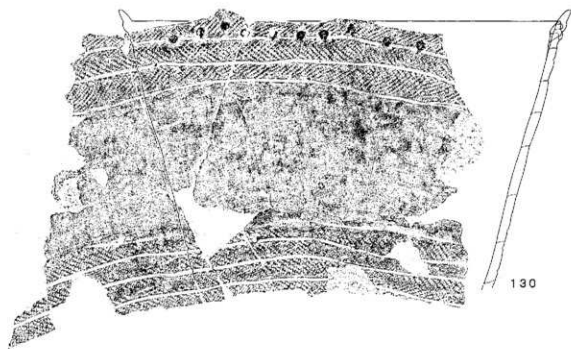
図V-54 盛土遺構出土の土器(32) MA盛土(21)



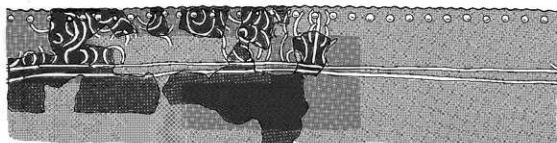
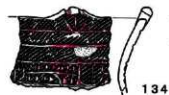
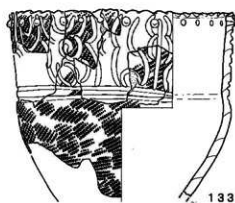
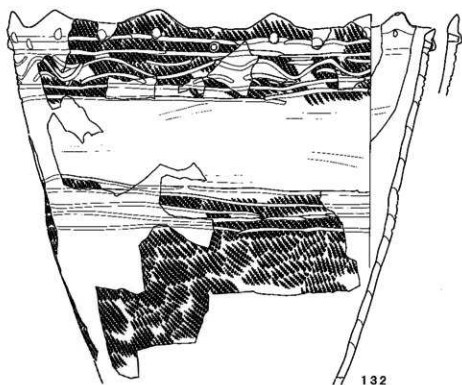
図V-55 盛土遺構出土の土器 (33) MA盛土 (22)



図V-56 盛土遺構出土の土器(34)MA盛土(23)



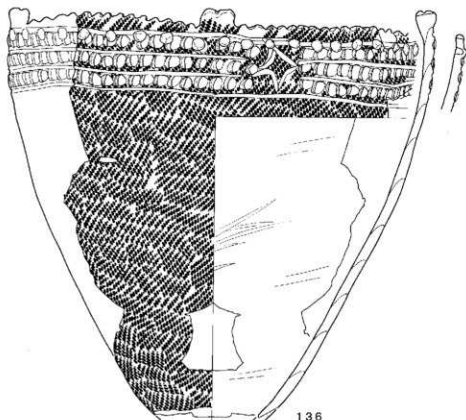
図V-57 盛土遺構出土の土器 (35) MA盛土 (24)



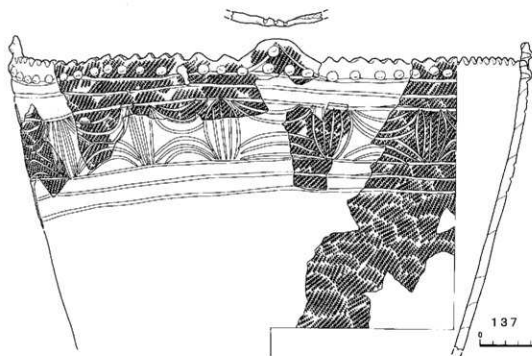
図V-58 盛土遺構出土の土器(36) MA盛土(25)



135



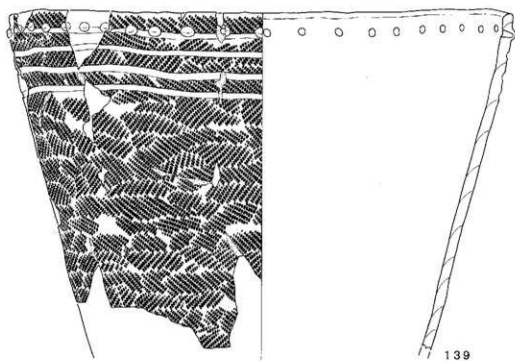
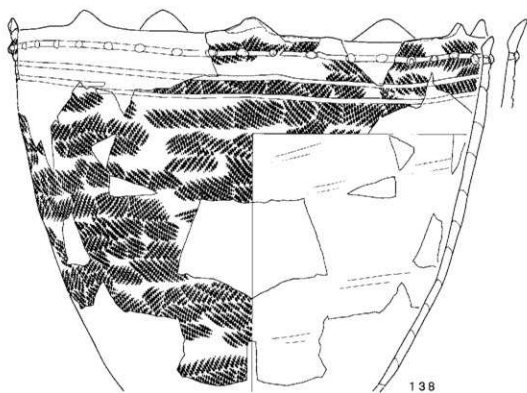
136



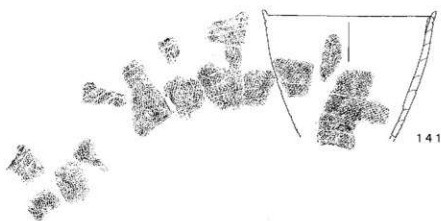
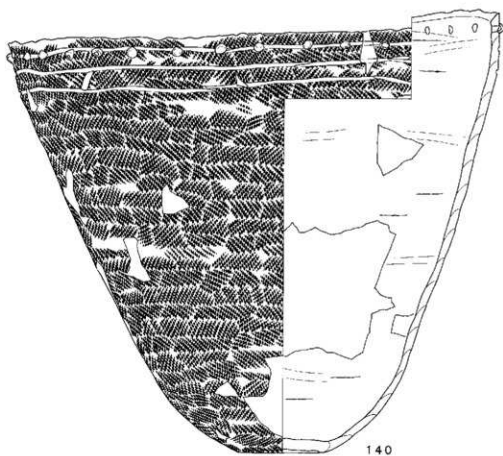
137

10cm
(縮尺=1/3)

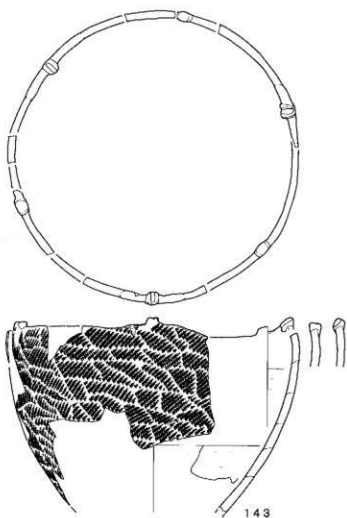
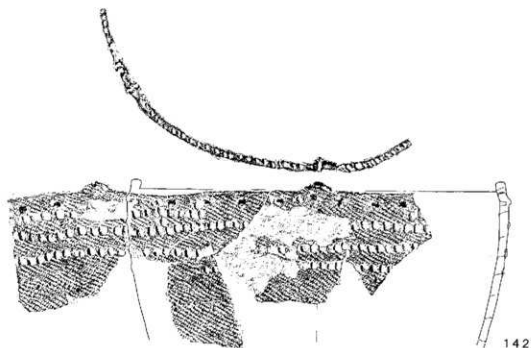
図V-59 盛土遺構出土の土器 (37) MA盛土 (26)



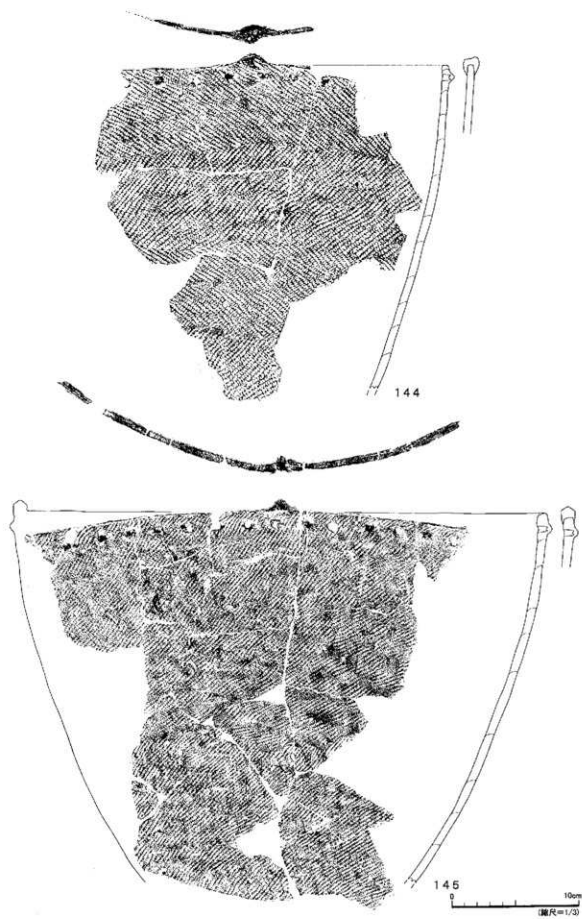
図V-60 盛土遺構出土の土器(38)MA盛土(27)



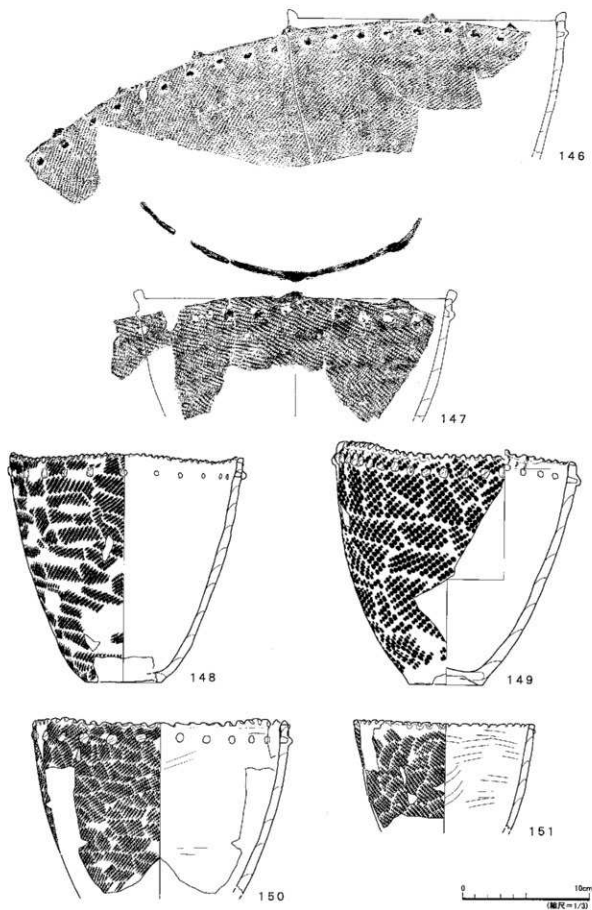
図V-61 盛土遺構出土の土器 (39) MA盛土 (28)



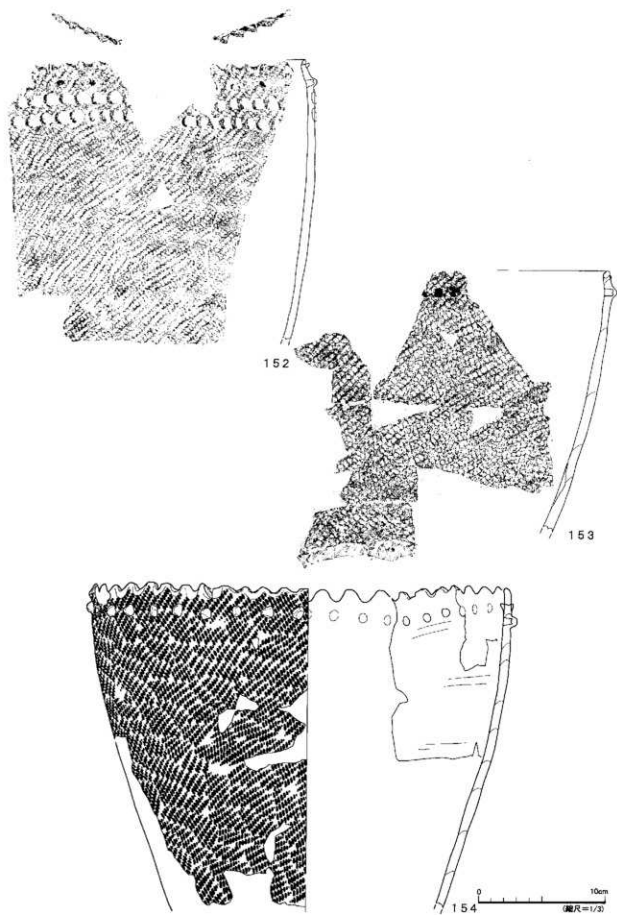
図V-62 盛土遺構出土の土器 (40) MA盛土 (29)



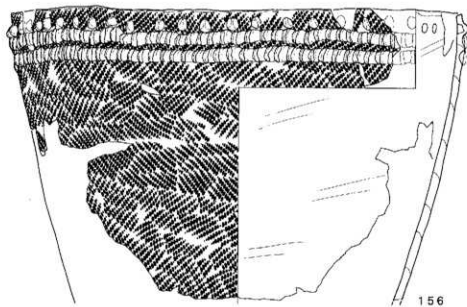
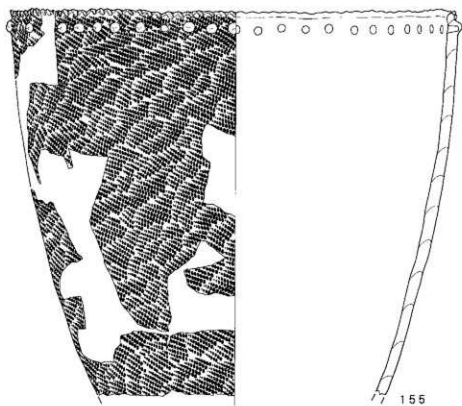
図V-63 盛土遺構出土の土器 (41) MA盛土 (30)



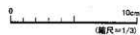
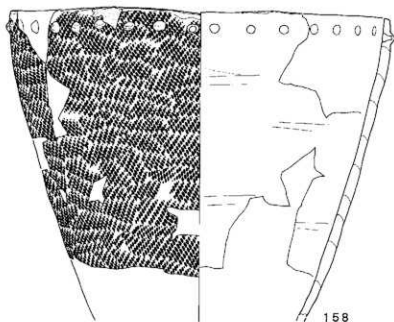
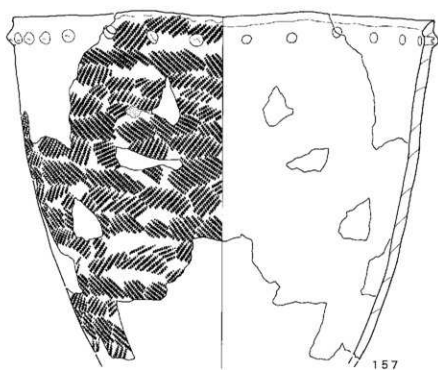
図V-64 盛土遺構出土の土器(42) MA盛土(31)



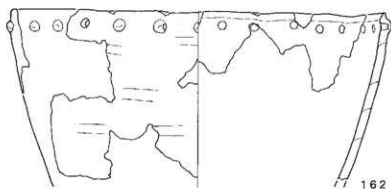
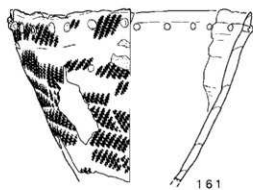
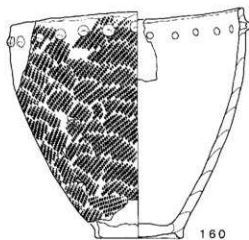
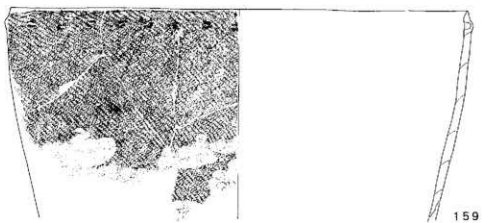
図V-65 盛土遺構出土の土器 (43) MA盛土 (32)



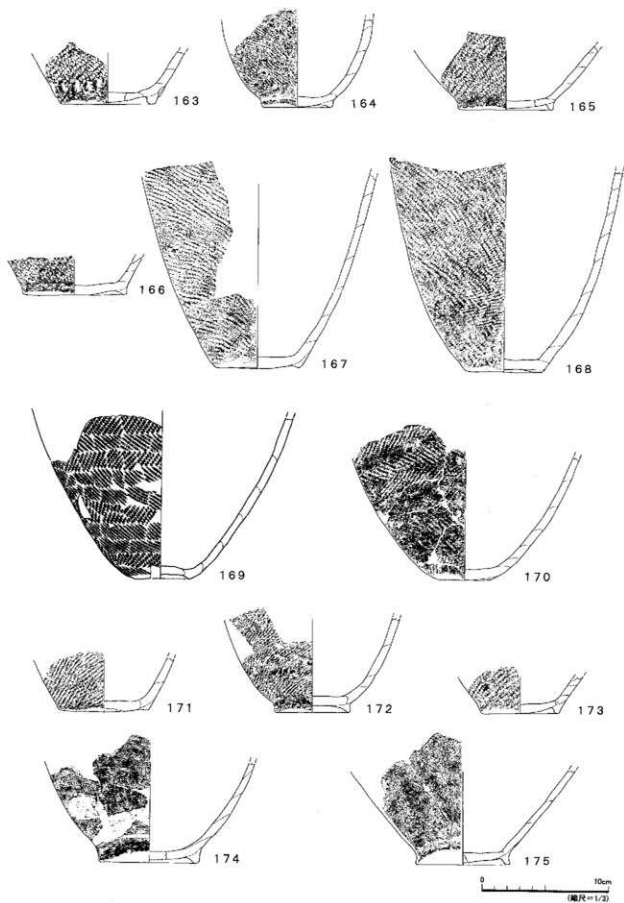
図V-66 盛土遺構出土の土器(44)MA盛土(33)



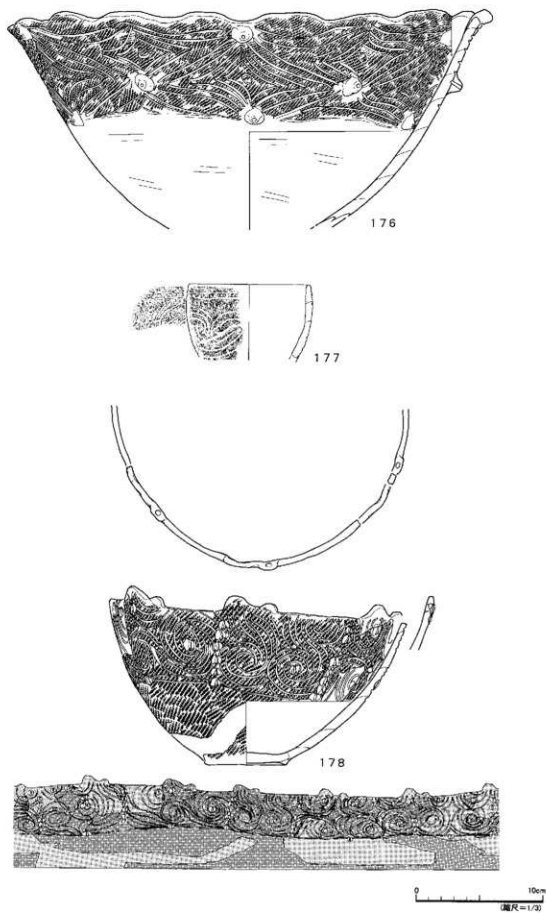
図V-67 盛土遺構出土の土器 (45) MA盛土 (34)



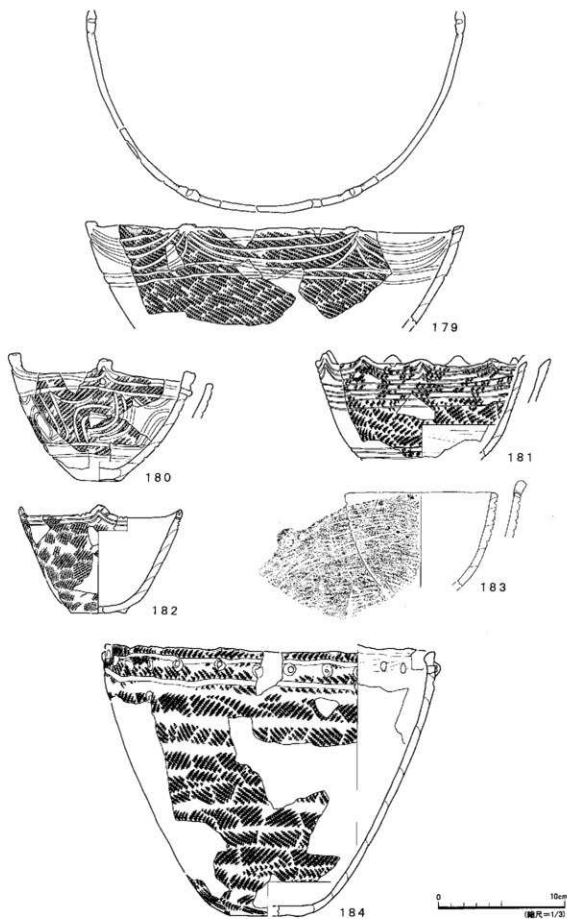
図V-68 盛土遺構出土の土器(46)MA盛土(35)



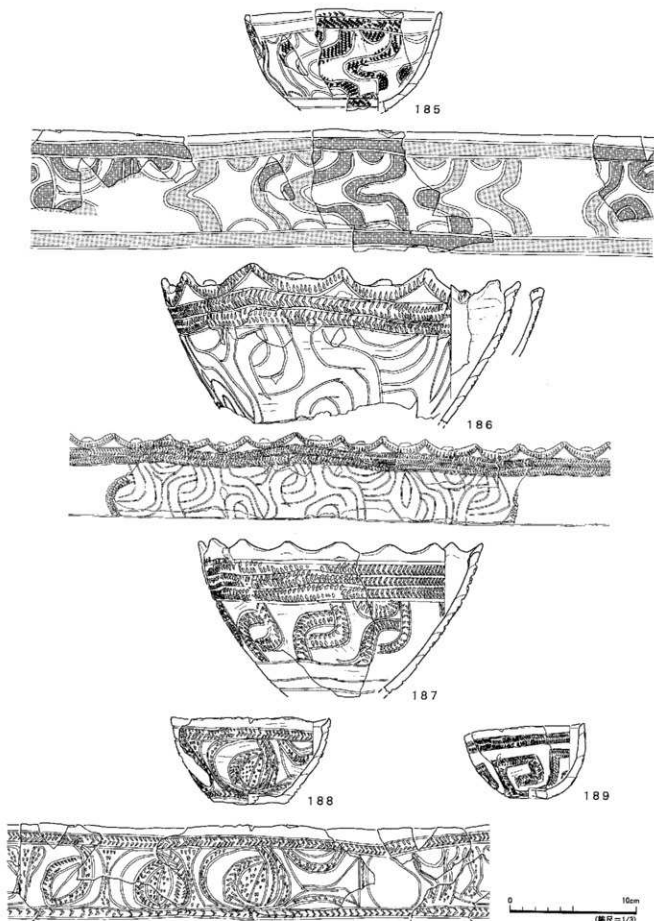
図V-69 盛土遺構出土の土器 (47) MA盛土 (36)



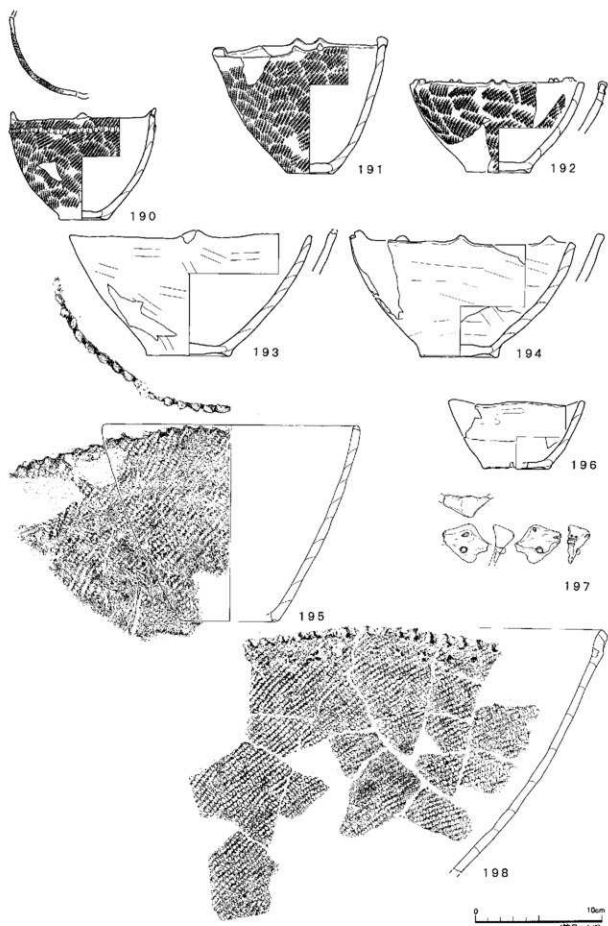
図V-70 盛土遺構出土の土器(48) MA盛土(37)



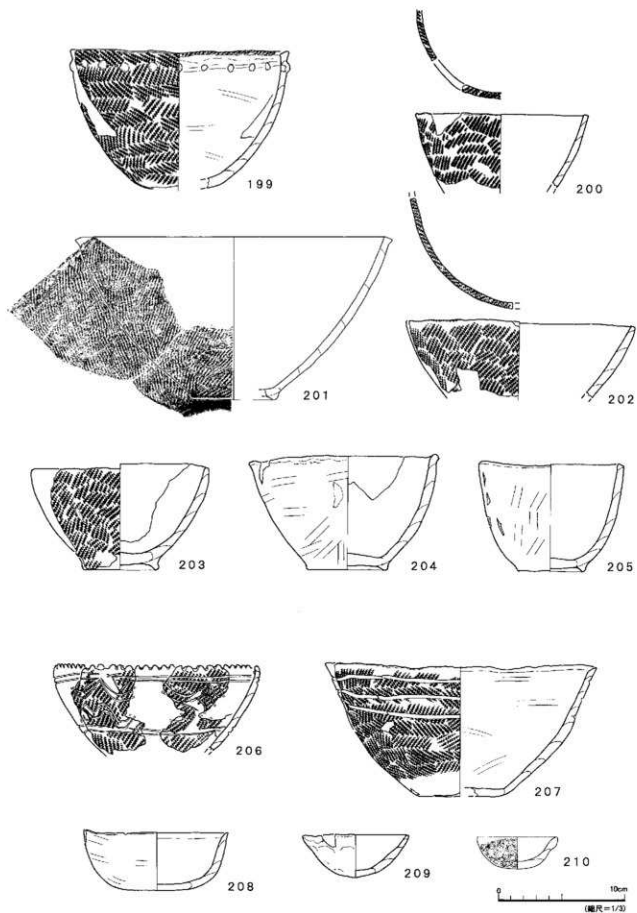
図V-71 盛土遺構出土の土器 (49) MA盛土 (38)



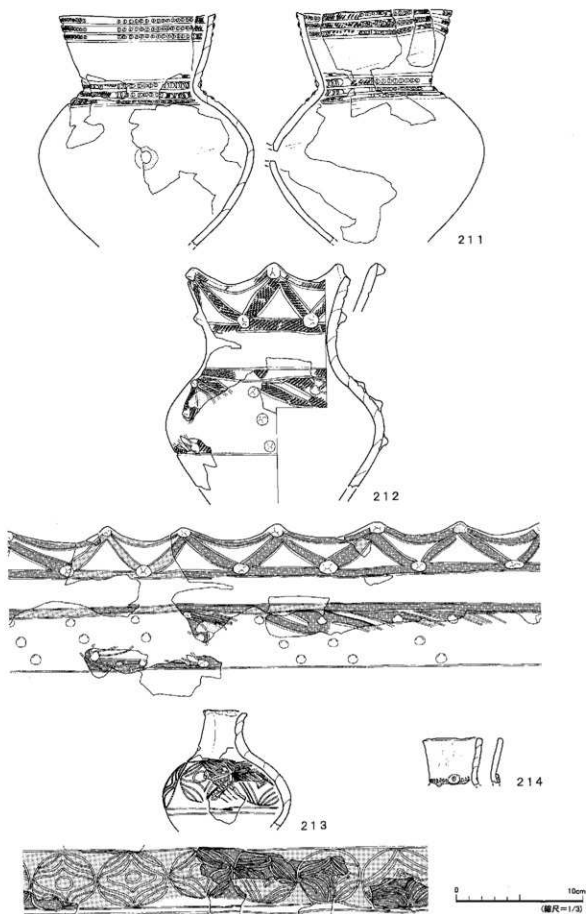
図V-72 盛土遺構出土の土器(50) MA盛土(39)



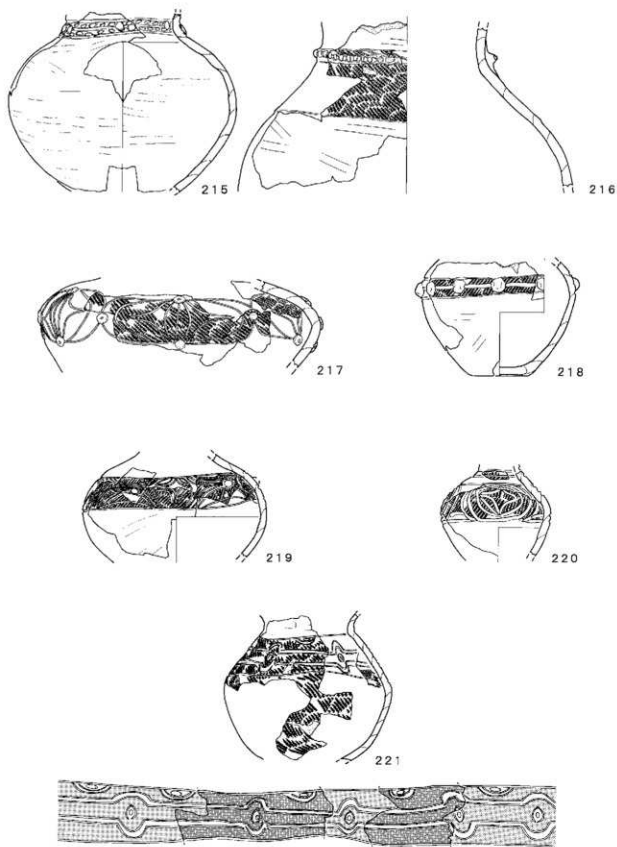
図V-73 盛土遺構出土の土器 (51) MA盛土 (40)



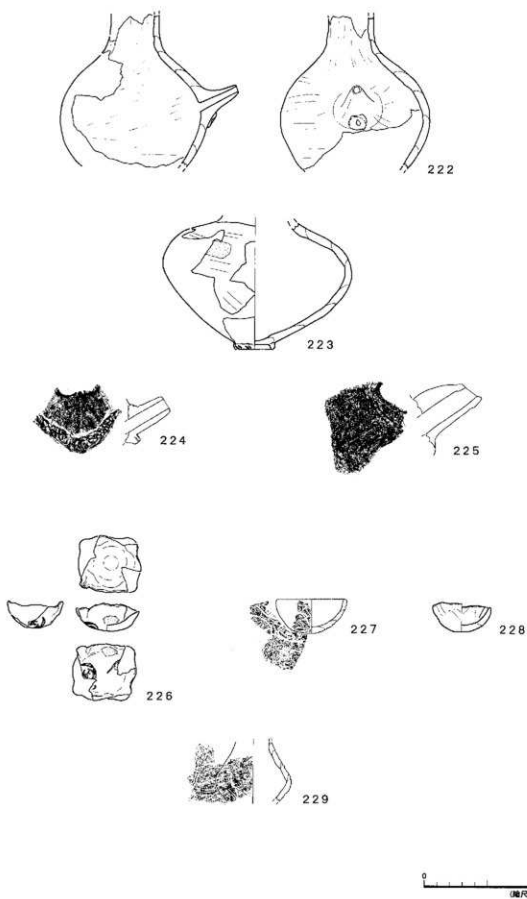
図V-74 盛土遺構出土の土器(52)MA盛土(41)



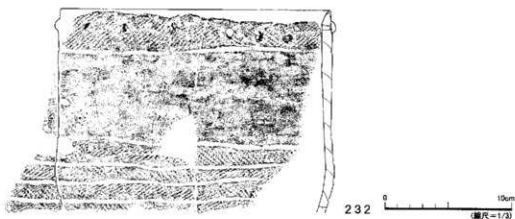
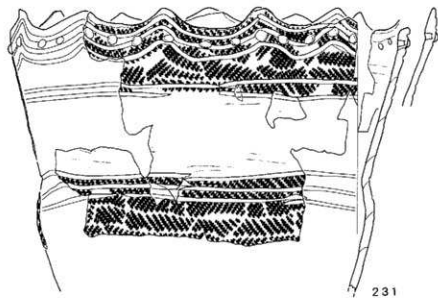
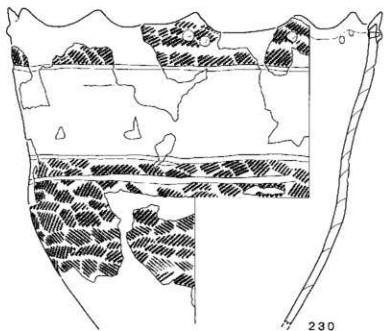
図V-75 盛土遺構出土の土器 (53) MA盛土 (42)



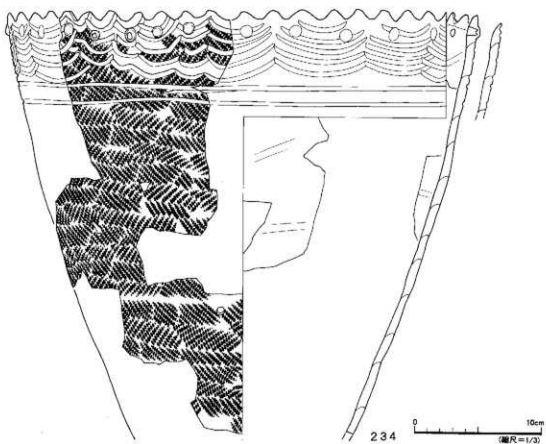
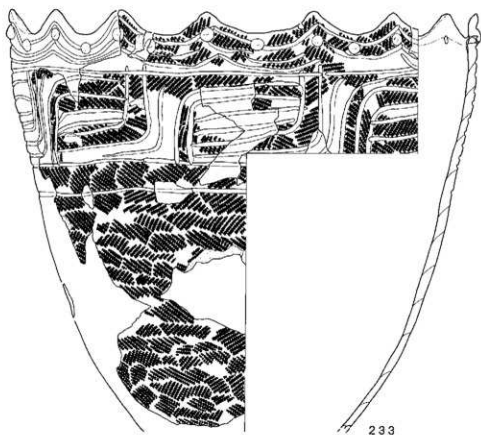
図V-76 盛土遺構出土の土器(54)MA盛土(43)



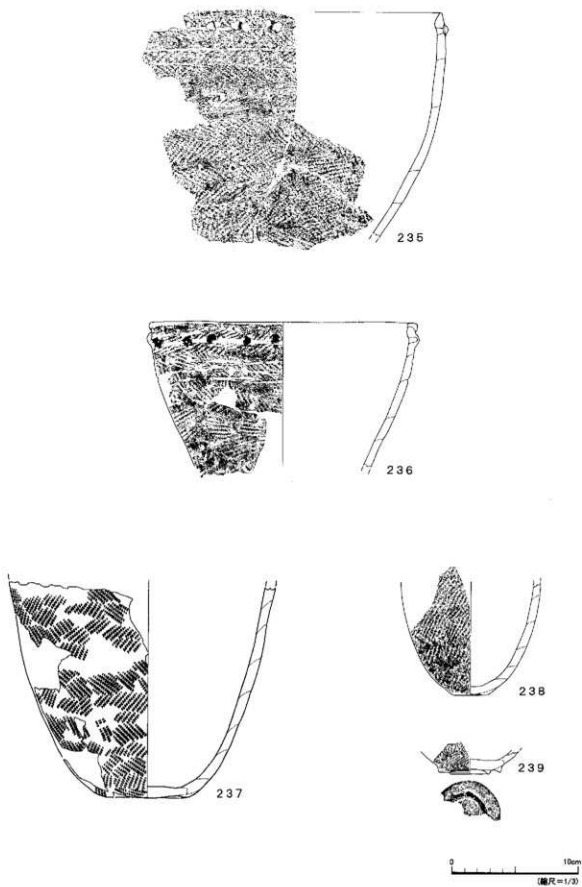
図V-77 盛土遺構出土の土器 (55) MA盛土 (44)



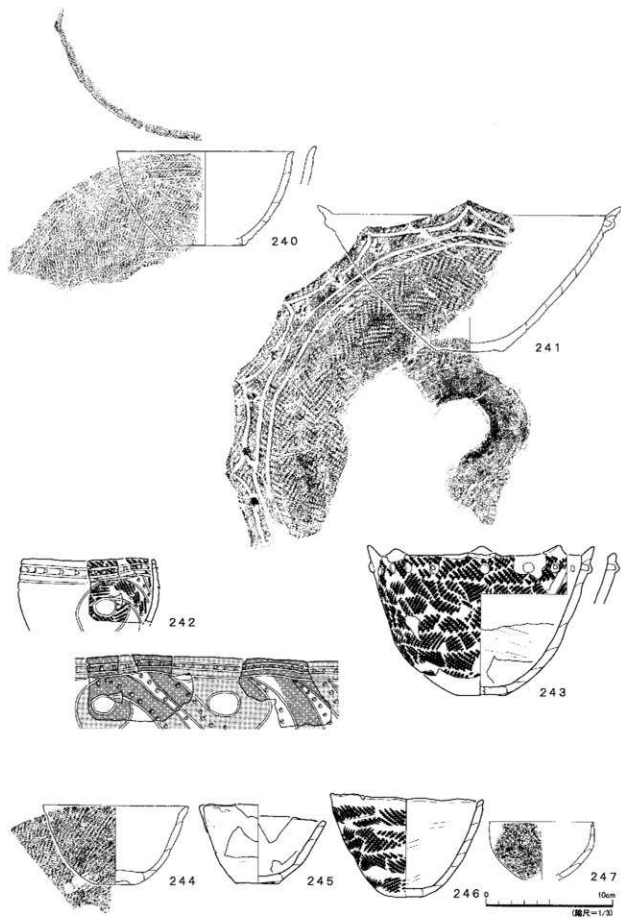
図V-78 盛土遺構出土の土器(56) MA盛土(45)



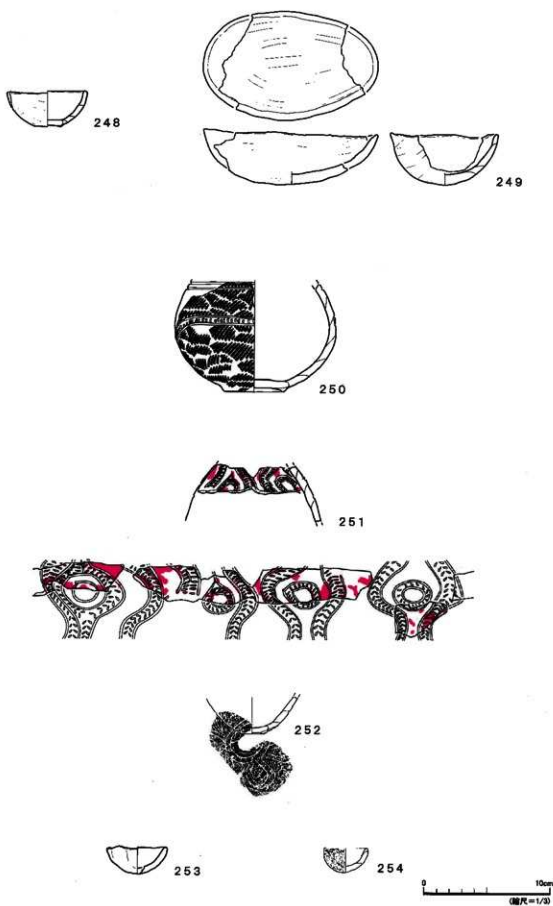
図V-79 盛土遺構出土の土器 (57) MA盛土 (46)



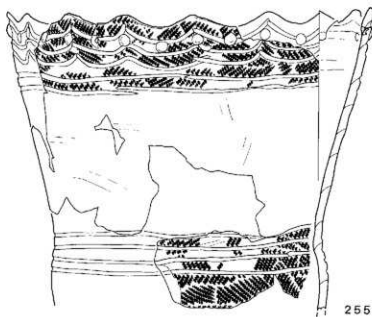
図V-80 盛土遺構出土の土器(58)MA盛土(47)



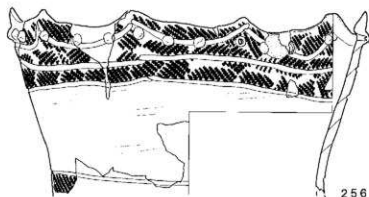
図V-81 盛土遺構出土の土器 (59) MA盛土 (48)



図V-82 盛土遺構出土の土器(60)MA盛土(49)



255



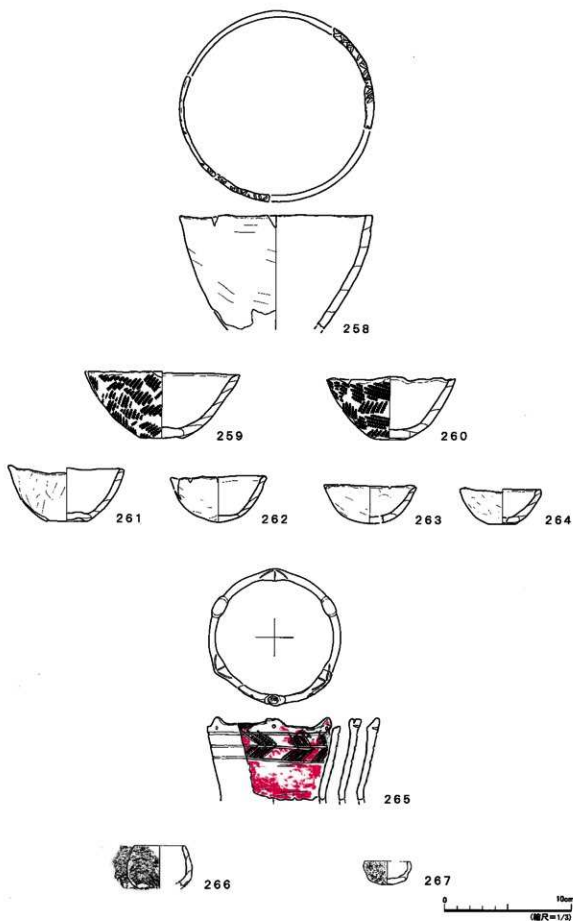
256



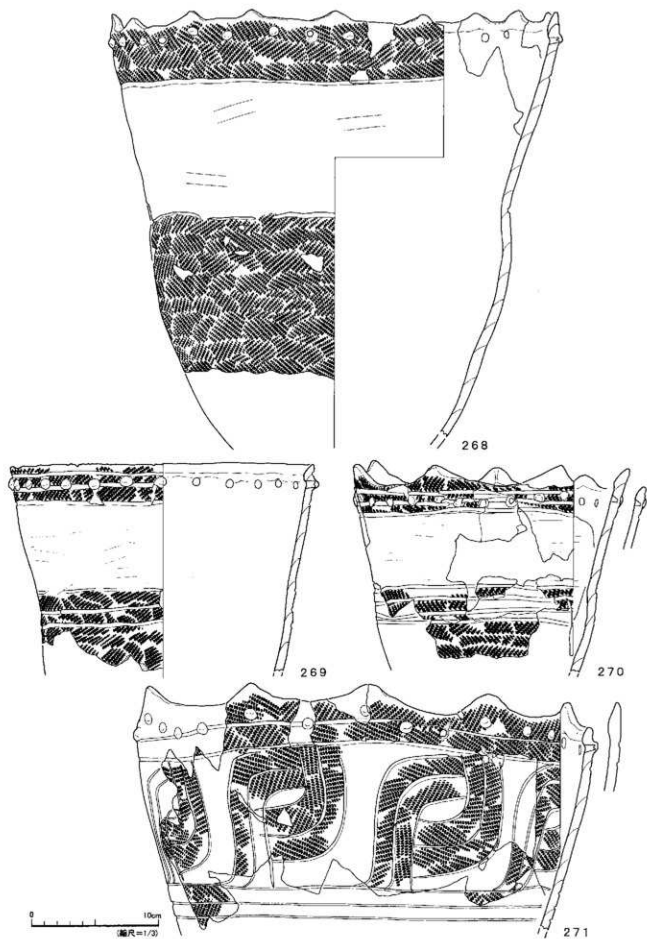
257



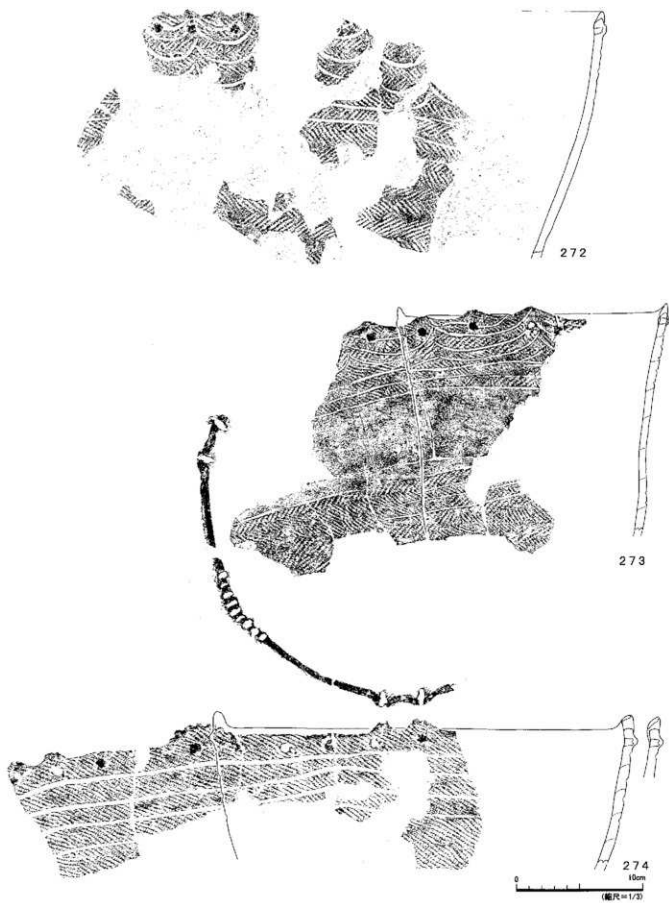
図V-83 盛土遺構出土の土器 (61) MA盛土 (50)



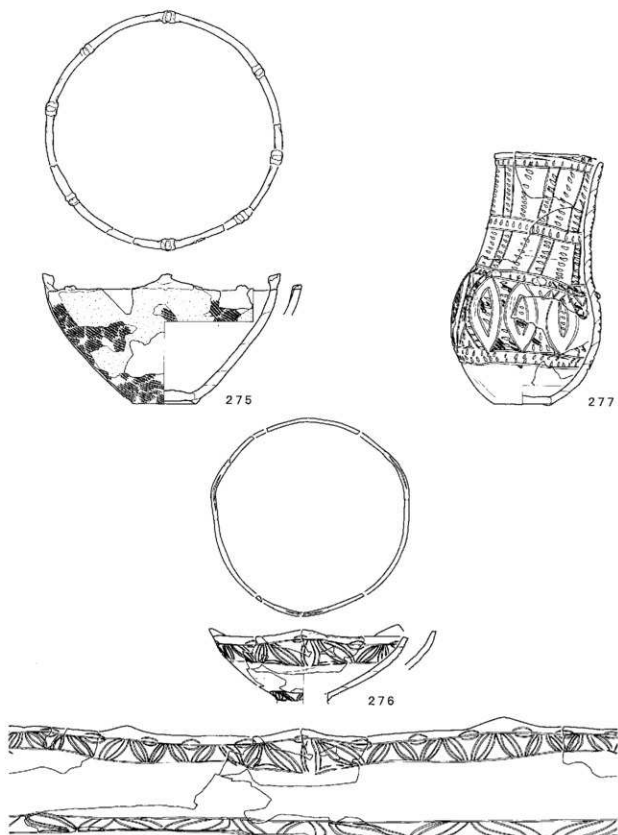
図V-84 盛土遺構出土の土器 (62) MA盛土 (51)



図V-85 盛土遺構出土の土器 (63) MA盛土 (52)



図V-86 盛土遺構出土の土器(64)MA盛土(53)



図V-87 盛土遺構出土の土器 (65) MA盛土 (54)

268～273はくびれのある深鉢。268～270・272～273は沈線で文様が施文されるもの。271は帯状文で文様を施文するもの。

274はくびれない深鉢。半月形と2個1組の小さな山形突起が交互に配される。半月形の突起と山形突起頂部には棒状工具によるキザミが施される。

鉢 (275)

275は突起のあるもの。大きな山形突起の頂部にさらに小さな山形突起がある突起と小さな山形突起が交互に配される。それぞれの突起頂部にはキザミが施される。

浅鉢 (276)

276は沈線で文様を施文するもの。細めの沈線で施文している。

臺・注口土器 (277)

277は口縁部から底部まで復元できたもので、帯縄文で文様を施文するもの。沈線間に刺突施文している。

(佐藤 剛)

石器～

低地部MA層からは剥片・剥片石器30,830点、礫・礫石器1,937点、石製品・その他27点、計32,794点の石器が出土した。

1～71は石鏃で、出土したM1層、M2層、M4層、M層の順におおむね掲載している。1～3、43～46、64は柳葉状のもので、2、3、64が頁岩製、4～7、65、66は無葉のもので、すべて黒曜石製。基部下辺はM層出土の66以外は平らに加丁されたものが出土している。有葉の石鏃の石材は12、13、19、25、39、41、54、58が頁岩、26、35がメノウである。72～79は石槍またはナイフと分類したもので、79がM2層から出土している以外はM1層出土のもの。75、77、79が頁岩製で75は両端を欠損する。81～107は石鏃である。形状は102、103、106が棒状、90～97、99がつまみをもつもの、80～89、98、100が素材の一部に刺突部を作り出したものである。91はつまみ部分が欠損している可能性がある。101は3つの刺突部が作り出されている。石材は82、84、92、93が黒曜石、80、81、87、98、100、104がメノウ、あとは頁岩である。

108～124はつまみ付きナイフである。108、118には両面の調整が施される。116、117、124は横形のもの、122は先端を欠く、123はつまみと身部の幅が等しいが、つまみを出していると判断したものの、120の先端はえぐりこみ調整が施される。石材は116、123がメノウ、109、118～120、122が黒曜石、その他は頁岩である。125～141はスクレイパー類である。125、126、139はラウンドスクレイパー、石材は139が泥岩で表面は摩耗している、ほかは黒曜石製。128は縄文時代晩期にしばしばみられる安山岩製の大形のスクレイパーと考えられる。137、141は尖端部をもつもので、141には丁寧な調整が施される。

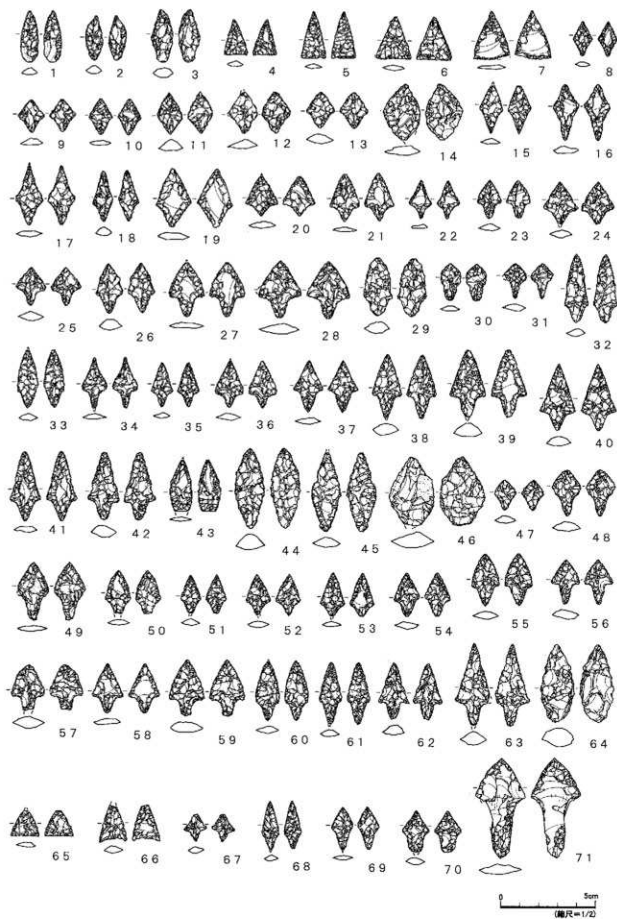
142～144は楔形石器で、すべて黒曜石製である。

145～160は石斧である。148は刃部がまだ付けられていない状態のもの。151は刃部の幅が小さい石のみのサイズである。152は凝灰岩製で、摩耗がはげしい。147、156、157、160は破損した後、たたき石に転用された痕跡がある。

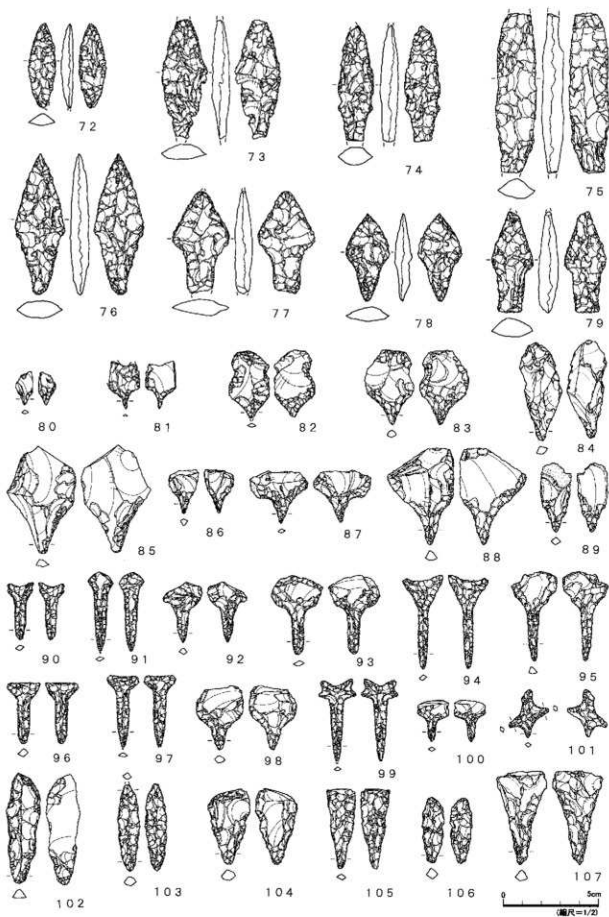
161はすり石で、北海道式石冠と称されるもの、162は石磨で、焼けた礫を利用している。

163～167はたたき石である。164、165はくはみ石、ほかは周縁を使用したもの。

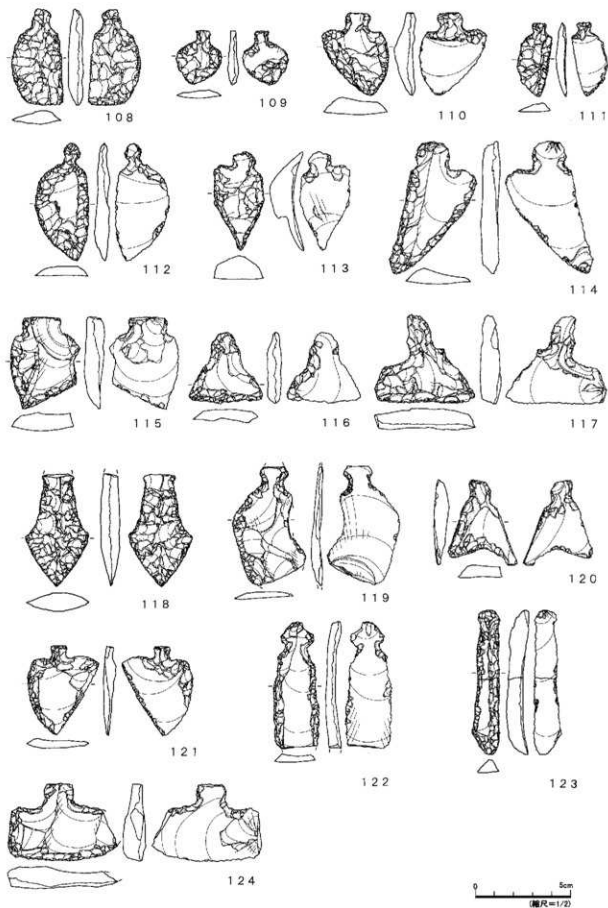
168～172は砥石である。出土した砥石は割れているものがほとんどだが、168、169は掘って使用し



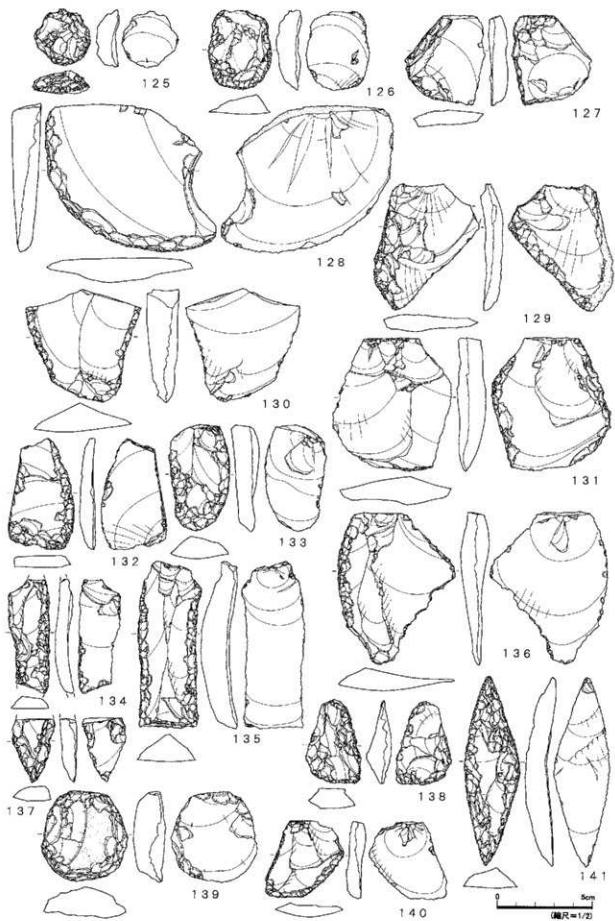
図V-88 盛土遺構出土の石器 (1) MA盛土 (55)



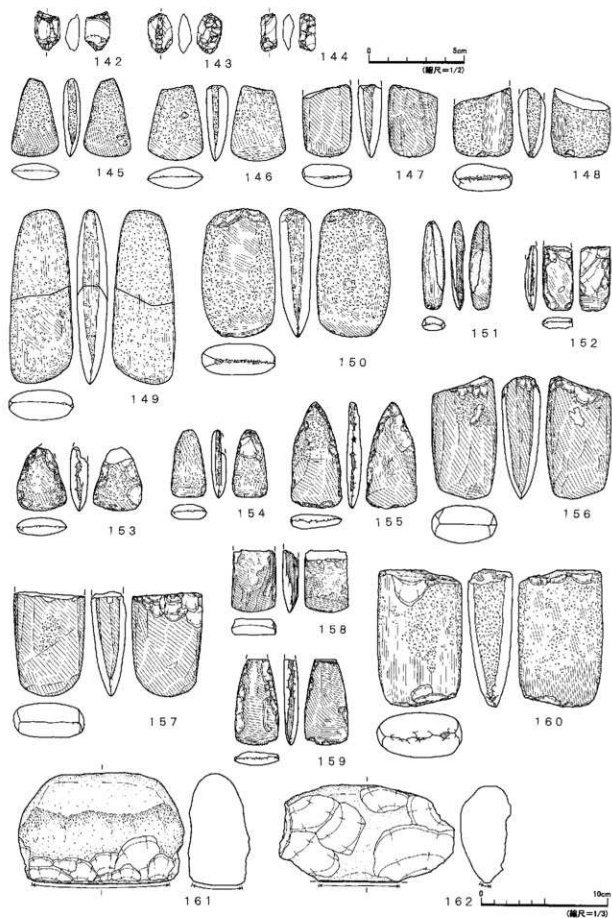
図V-89 盛土遺構出土の石器(2) MA盛土(56)



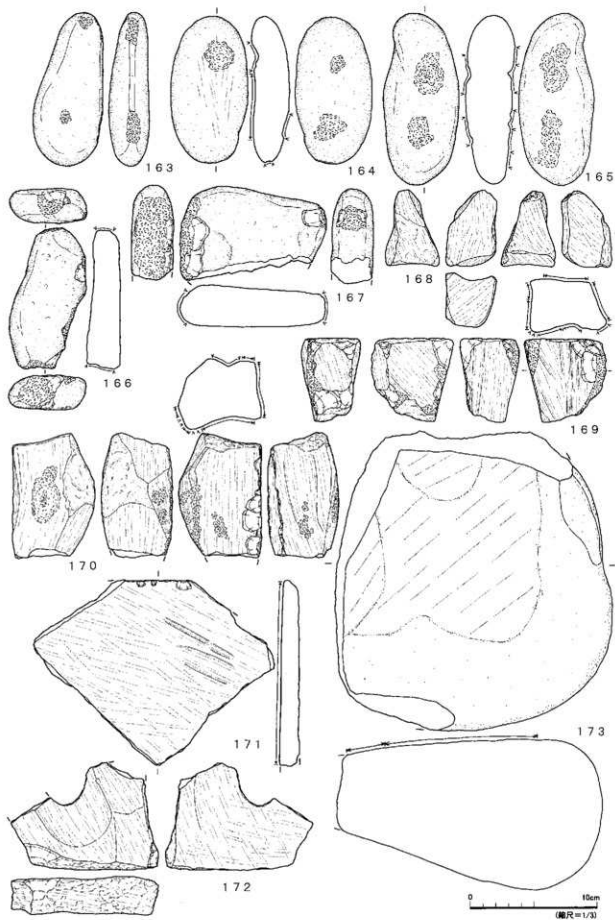
図V-90 盛土遺構出土の石器 (3) MA盛土 (57)



図V-91 盛土遺構出土の石器(4) MA盛土(58)



図V-92 盛土遺構出土の石器 (5) MA盛土 (59)



図V-93 盛土遺構出土の石器 (6) MA盛土 (60)

たものと考えられる。

173は石皿である。縁辺の一部は被熱により割れている。

(上肥)

MB盛土 (図V-94~101 表Ⅷ-10~11・31~32)

調査状況：MA盛土から約20m南の段丘斜面で検出した。黒色土が厚く堆積していたため36ラインに沿って幅1mのトレンチを設定し土層断面の観察を行った。Ta-a下の・層土のほぼ中間に、厚さ約20cmの暗褐色土が堆積しているのを確認した。周囲のⅡ層土より明らかに明る黄色調であったことから、人為的に動かされた土壌であると判断した。MBより上に堆積する黒色土をⅡa層、下に堆積する黒色土をⅡb層とした。

トレンチ調査終了後、Ta-aとⅡa層を掘り下げMBの範囲を検出した。その結果、MBは35ラインから37ラインにかけて細長く広がることを確認した。MBの平面図を作成した後、掘り下げを開始した。MAと比較すると遺物の密度が薄く、取り上げはグリッド、層位ごとに行った。

土層：土層1, 2がMB、土層3~7がⅡb層である。Ⅱb層はⅡa層に比べて若干明るい色調である。土層8, 9は段丘斜面の崩落土である。MB層は混入物が少なく、純粋なⅢ層土に近い土質、土色である。

遺物出土状況：遺物の密度はMA盛土と比較すると薄く、周辺の包含層と大きな違いはない。

性格：不明。 時期：出土土器から見て、Ⅳ群c類~Ⅴ群a類土器を伴う縄文時代後期後葉から晩期初頭のものと思われる。

(石井)

出土遺物：土器~1は深鉢の突起部。2は深鉢の口縁部から胴部。やや丸みのある突起で、口縁部断面は三角形である。3~16は深鉢。3~4はくびれのある深鉢。3は帯状文で文様を施文するもの。5~12はくびれない深鉢。5~10は沈線で文様を施文するもの。11~12は平縁のもの。13~15は胴部。16は底部。17~18は鉢。19は浅鉢。20は壺。胴部が復元できたもので、沈線で文様を施文する。沈線間にはハの字の沈線文。注口部の周囲は帯状の貼付けがあり、貼付け上はキザミが施文される。21~25は深鉢。21~23は沈線で文様を施文するもの。22はΛ字状の貼付けと楕円形の貼付けが付けられる。24は突起があるもので、突起頂部は棒状工具によるキザミが施文される。25は丸底の底部。

(佐藤 剛)

石器~

MB盛土からは剥片・剥片石器1,089点、礫・礫石器151点、石製品・その他1点、計1,241点の石器が出土した。

1は石鏃である。不明瞭ではあるが、茎部を有する。2は石錐である。図下部の両側には捺痕がある。3~5はつまみ付きナイフである。3はメノウ、4、5は頁岩製。6は頁岩製のスクレイパーで、背面には一部原石面が残る。7、8は石斧である。7は破損品が接合したもの。9~11はすり石である。9、10は扁平礫の一辺をすったもの。11は柱状礫の先端をすったもの。12はたたき石である。砂岩製で、破損したくばみ石の端部である。

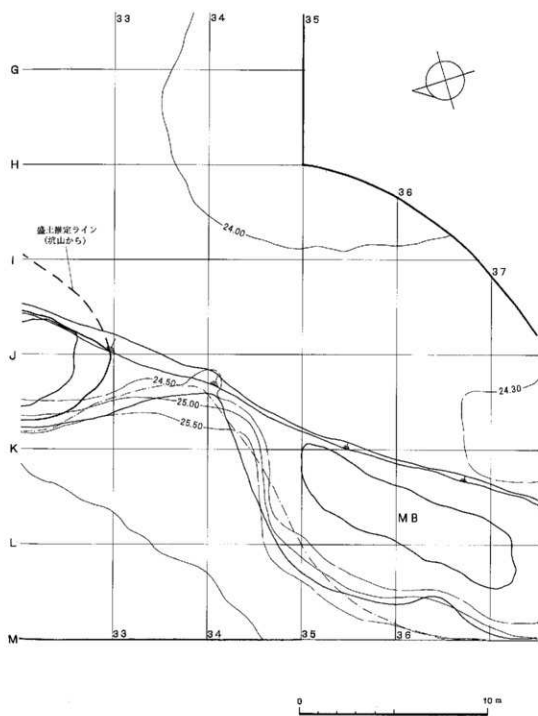
(土肥)

6. 包含層出土遺物

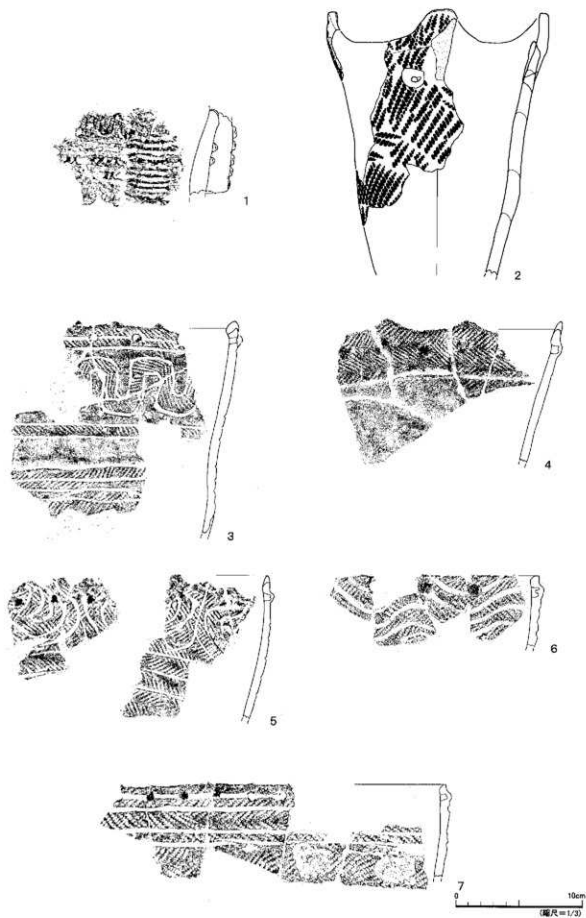
(1) 土器 (図V-102~109 表Ⅷ-12・33)

I群b類土器 (1~3)

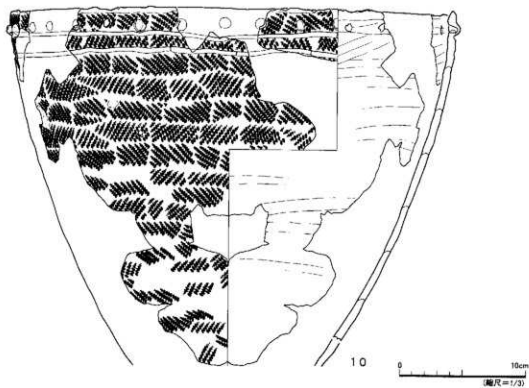
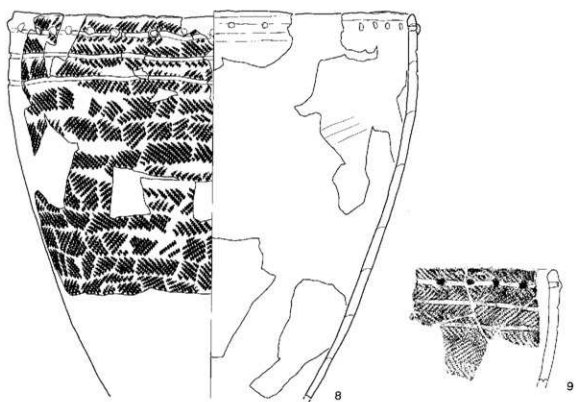
1は深鉢の口縁部で、2~3は胴部。すべて中茶路式。



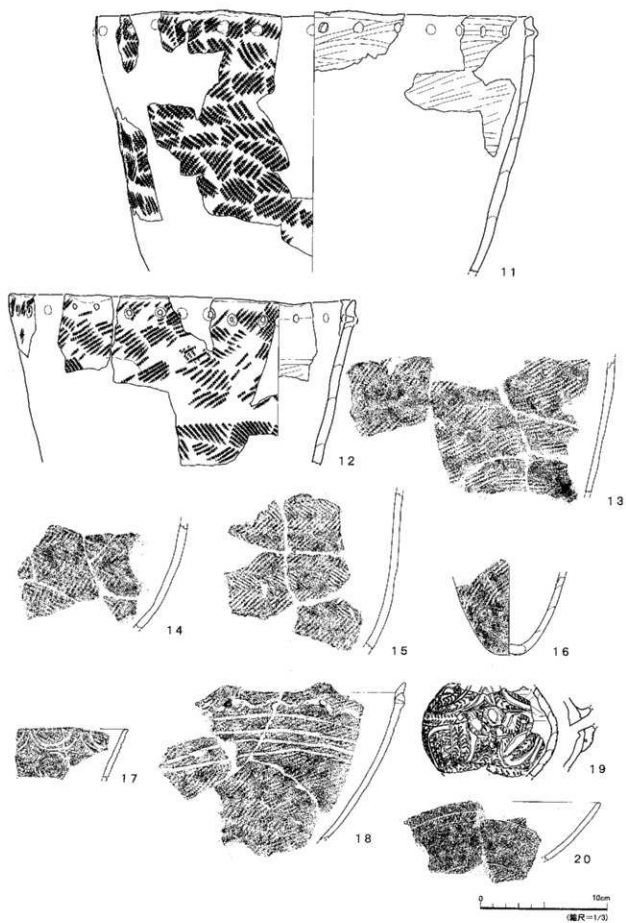
図V-94 盛土遺構 MB盛土



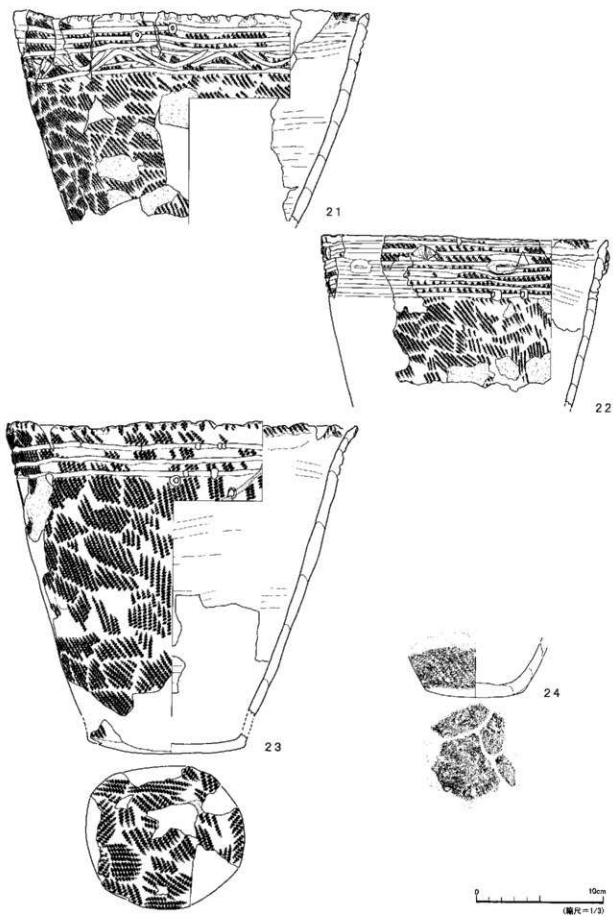
図V-96 盛土遺構出土の土器 (66) MB盛土 (1)



図V-97 盛土遺構出土の土器 (67) MB盛土 (2)



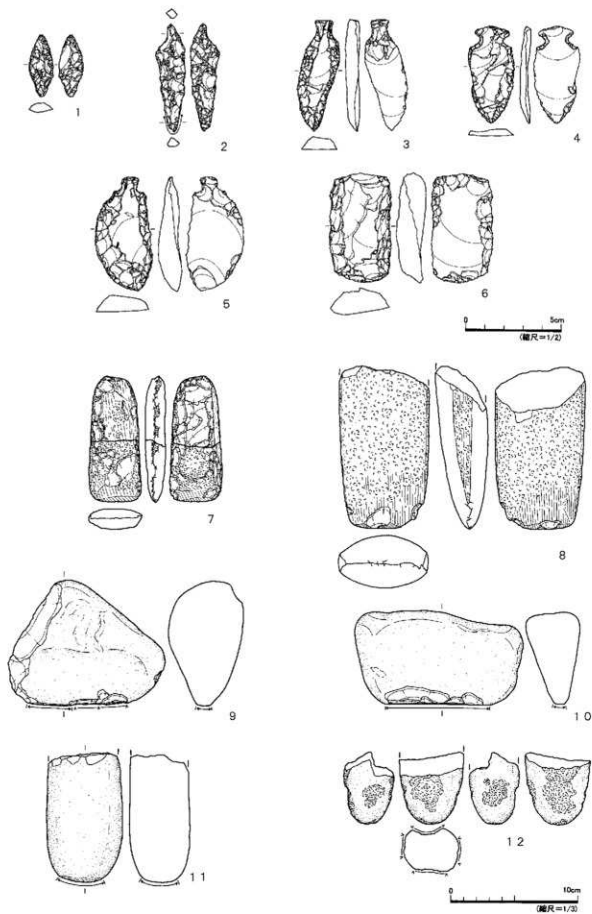
図V-98 盛土遺構出土の土器 (68) MB盛土 (3)



図V-99 盛土遺構出土の土器 (69) MB盛土 (4)



図V-100 盛土遺構出土の土器 (70) MB盛土 (5)



図V-101 盛土遺構出土の石器 (7) MB盛土 (6)

II群 a 類土器 (4~6)

4~5は深鉢の胴部で、6は底部。すべて静内中野式。

II群 b 類土器 (7~8)

7は深鉢の口縁部。8は深鉢の底部。7は円筒土器下層d式。8は大麻V式。

III群 a 類土器 (9~58)

9~30・32口縁部や胴部上半に貼付けを持つ。33~35は深鉢で、沈線による文様を持つ。31・36~47は深鉢で、口縁部が断面三角形に肥厚する。9~12・14~17・19・21~34・36~47は深鉢で、口縁部のあるもの。13・18・20・35・48~50は深鉢の胴部。51~58は底部。9~28・35~36・38・40~58はサイベ沢Ⅶ式相当。29~30は萩ヶ岡1式。31~34・37・39は萩ヶ岡2式。

IV群 a 土器 (59~63)

59~60は幅広い貼付けを持つもの。61は口縁部下に縄線を1条持つ。62~63は口縁部。62は口縁端部が角張る。63は緩やかに短く外傾する。すべて余市式。

IV群 b 土器 (64~65)

64は口縁部から胴部。波頂部は5つである。65は底部。底部外面に胴部と同じ縄文を施文する。すべて手稲式。

V群 a 類土器 (66~73)

深鉢 (66~67)

66~67はくびれない深鉢。66はA状突起のあるもの。67は平縁のもの。

浅鉢 (68~70)

68~69は帯状文で文様を施文するもの。70は無文である。

片口土器 (71)

71は浅鉢形の片口土器。片口部の両端の口唇上に小さな山形突起がある。

ミニチュア土器 (72~73)

72は深鉢形、73は浅鉢形で、ともに無文である。

すべて東三川Ⅰ式である。

V群 b 類土器 (74)

74は深鉢で、半截竹管状工具による刺突列が施文される。ヘラ書きの沈線で文様を施文するもの。丸みのある2個1組の突起があり、突起上に棒状工具によるキザミが施文される。75は深鉢で、沈線で文様を施文するもの。楕円形の貼付けが付される。76は鉢の底部で丸底である。77は壺で、胴部が復元できたもの。浅い沈線で文様を施文している。74~78は上ノ国式併行。75~78はタンネトウL式の可能性もある。

(佐藤 剛)

(2) 石器 (図V-110-1~図V-116-157、図版149~157)

包含層からは剥片・剥片石器14,417点、礫・礫石器1,809点、石製品・その他24点、計16,250点の石器が出土した。

包含層には盛土遺構より上位出土の遺物と下位出土の遺物が掲載されている。掲載はおおむね出土層順に並べているが、時期幅は大きい。

1~59は石織である。石材は黒曜石製が大半であるが、頁岩、珪質頁岩でつくられたものは16、18、30、48、54である。1~31が盛土遺構上位から出土、32~59が下位出土のものである。1、15、32、41、42、59は柳葉状のもの、2~34、35、43、45は無葉織、51は異形石器の破損品かもしれない。

60～63は石槍またはナイフである。60は黒曜石製その他は頁岩製である。

64～81は石鏃である。64～75がつまみをもつもの、76～81は棒状のものである。つまみを持つものでは71がメノウ製のほかはすべて頁岩製、棒状のものでは76、77、79、80が黒曜石製で、のこりは頁岩製である。

82～99がつまみ付きナイフである。82、87、99は黒曜石製で、のこりは頁岩、珧質頁岩製である。頁岩製のもの全般に調整が丁寧で、縄文中期以前のものである可能性がある。

100～121はスクレイパー類である。掲載した石器の石材は約半数が黒曜石製で、残り半数は頁岩、珧質頁岩製であるが、後者には大形の製品が多く含まれる。108、109、113～115、119、120は頁岩製、121は珧質頁岩製、116は安山岩製である。

122、123は楔形石器である。いずれも黒曜石製で、図の上下はつぶれている。

124～135は石斧である。124、125は刃部がまだ付けられていない未製品である。127、129は破損品を再利用した可能性がある。126、130、135は刃部を破損する。135は蛇紋岩製で、縄文時代早期の石斧と考えられる。

136～142はすり石である。142は断面がすみまる三角形の礎を、136、138～140は扁平礫の側縁をすったもの。138は北海道式石冠の未製品、141はその破片である。

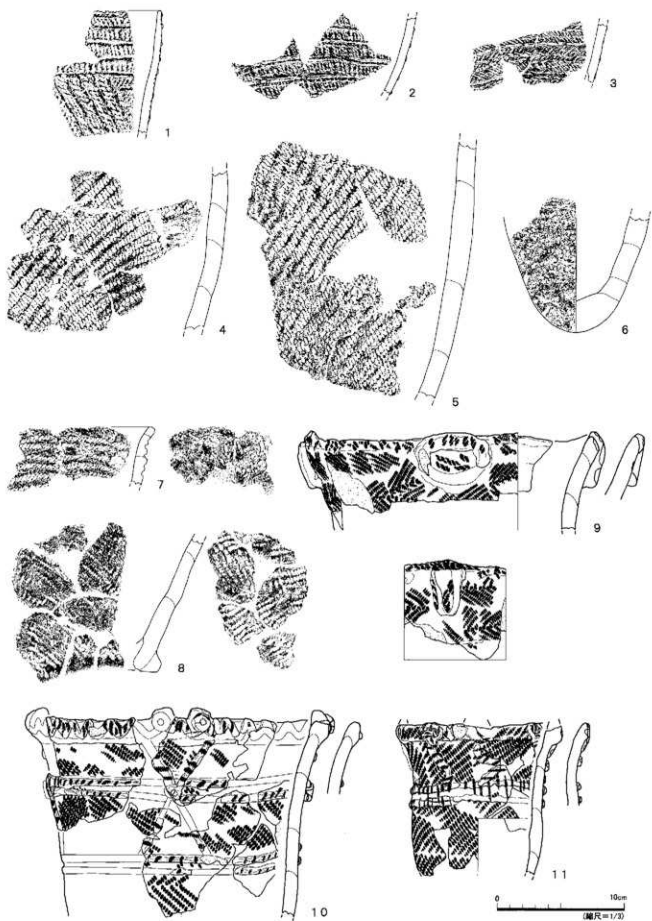
143～145はたたき石で、144、145はくほみ石と称されるものだが、両端にもたたき痕がみられる。145は扁平礫の周縁を利用したもの。

146～152はすり石である。いずれも砂岩製で側縁まで利用されているものが多い。

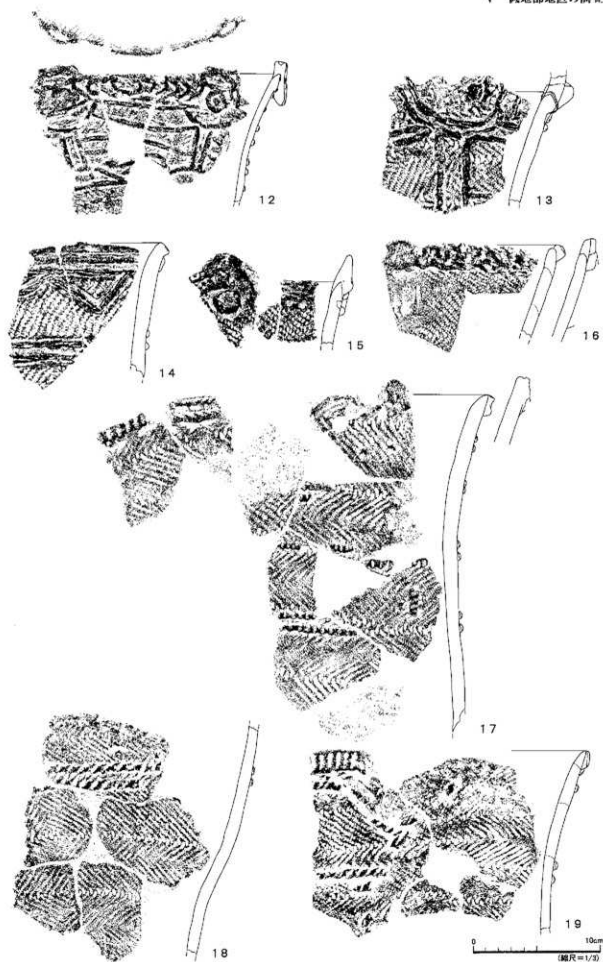
153は石錘である。扁平礫の両端を打ち欠いたもの。縄文時代前期以前のものと考えられる。

154～156は石皿である。154は多孔質の礫の側縁は打ち欠きで形状が整えられ、使用面はほぼ平らである。155は扁平礫の1面を利用したもの。156の縁辺は破損している。

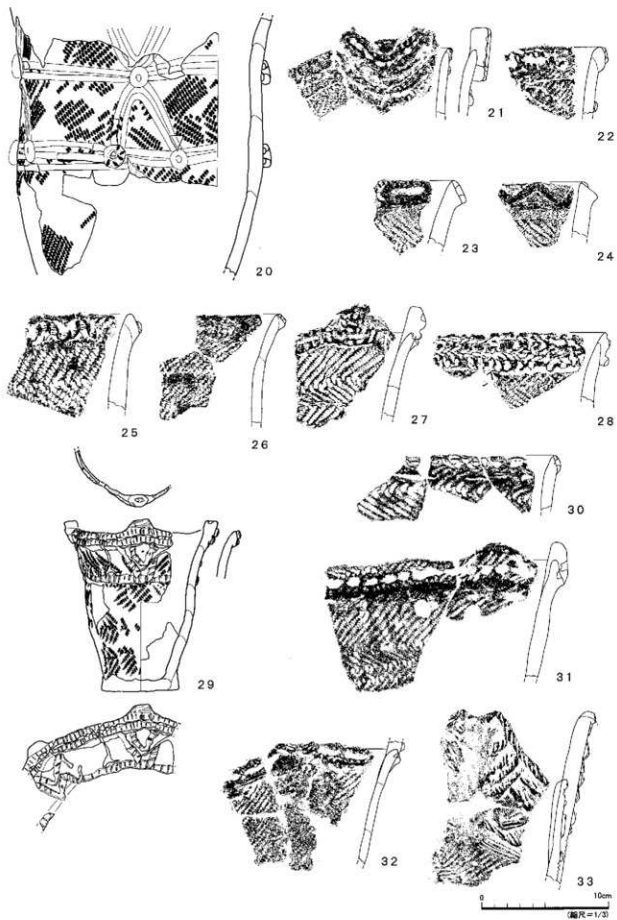
(土肥)



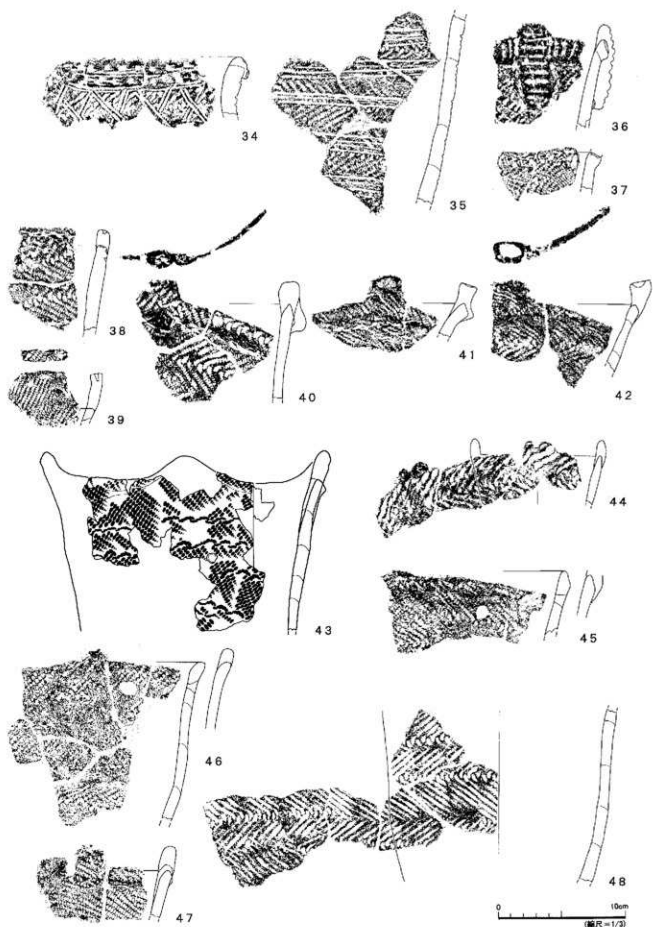
図V-102 包含層出土の土器(1)



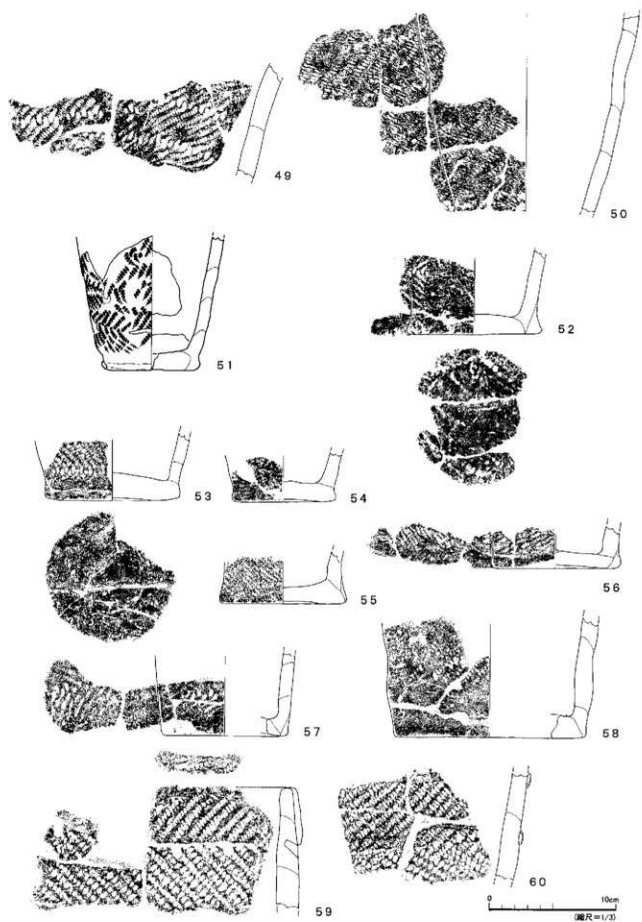
図V-103 包含層出土の土器 (2)



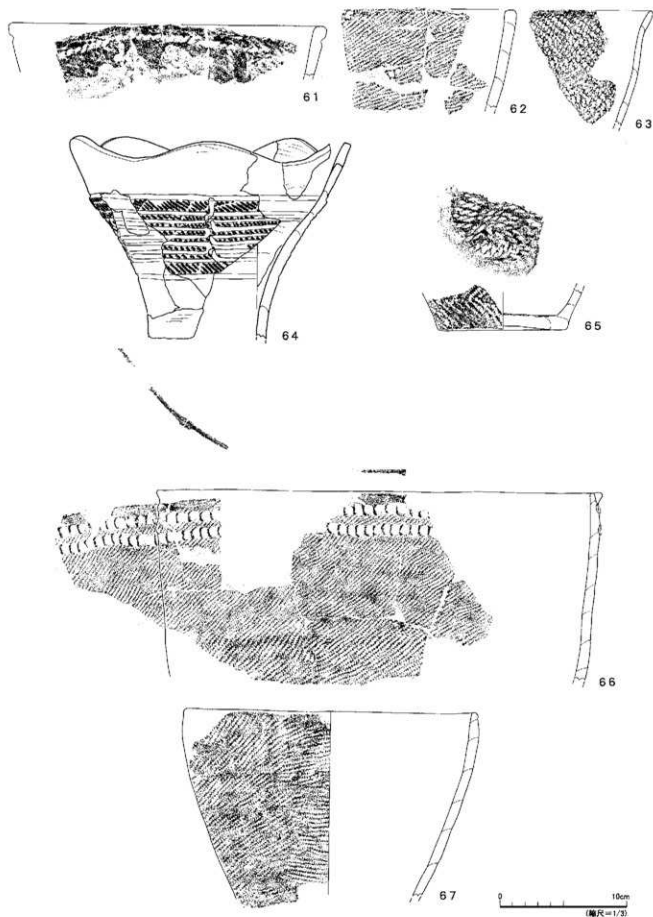
図V-104 包含層出土の土器(3)



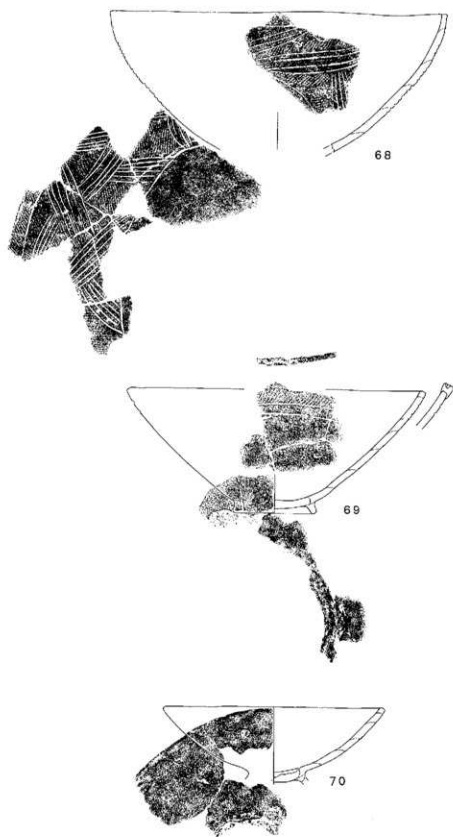
図V-105 包含層出土の土器 (4)



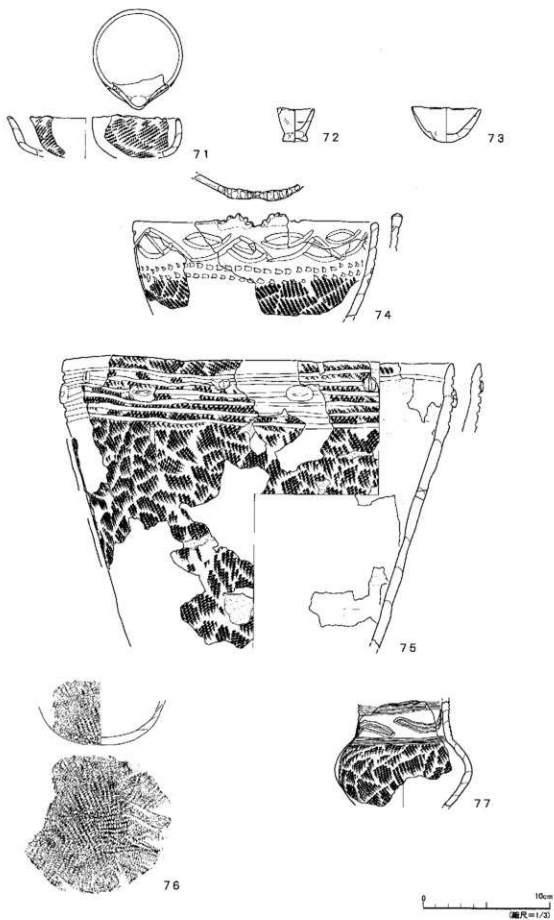
図V-106 包含層出土の土器(5)



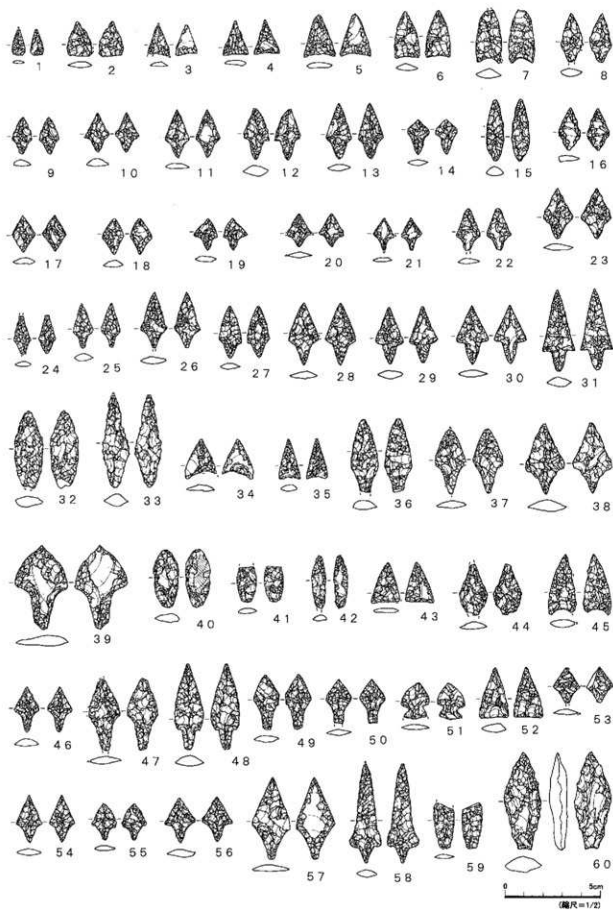
図V-107 包含層出土の土器(6)



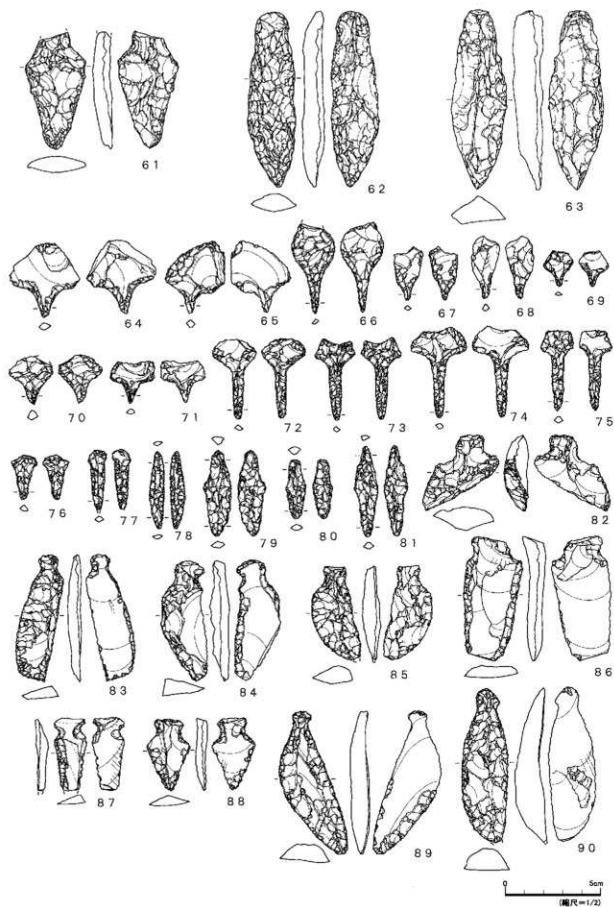
図V-108 包含層出土の土器(7)



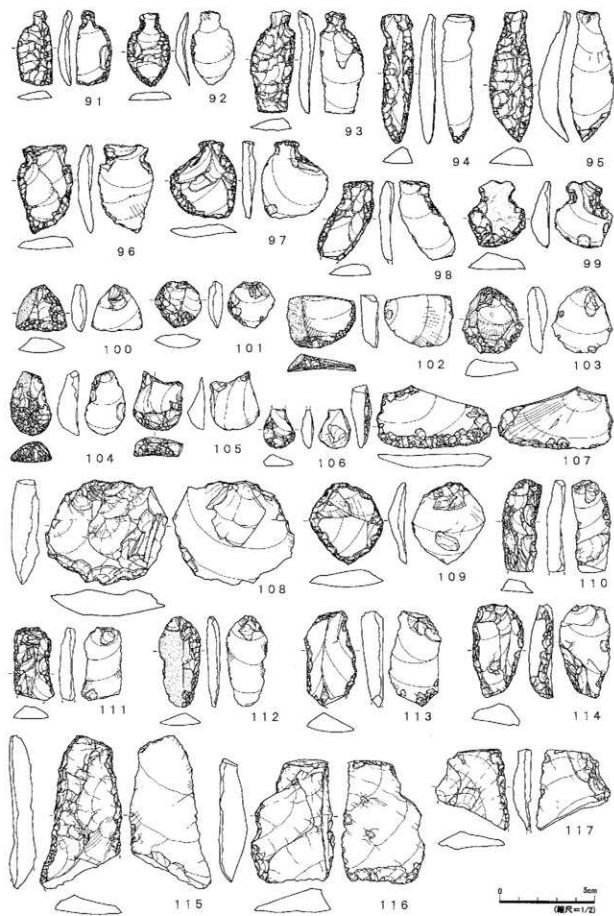
図V-109 包含層出土の土器 (8)



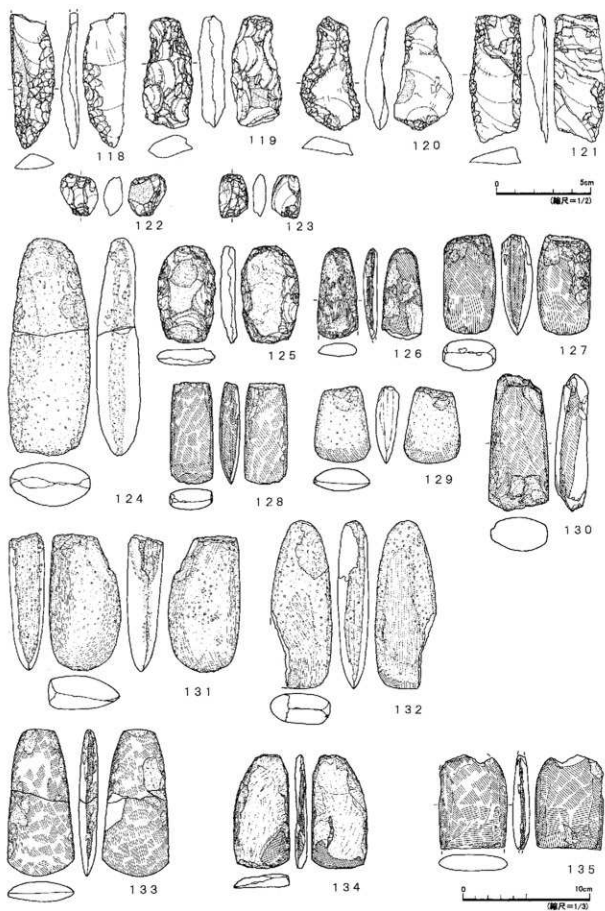
図V-110 包含層出土の石器(1)



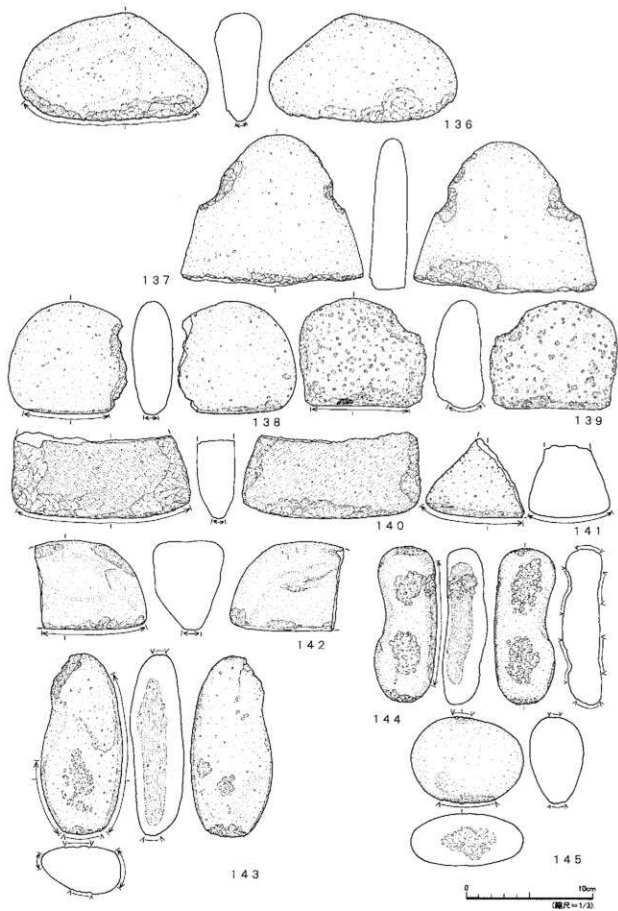
図V-111 包含層出土の石器 (2)



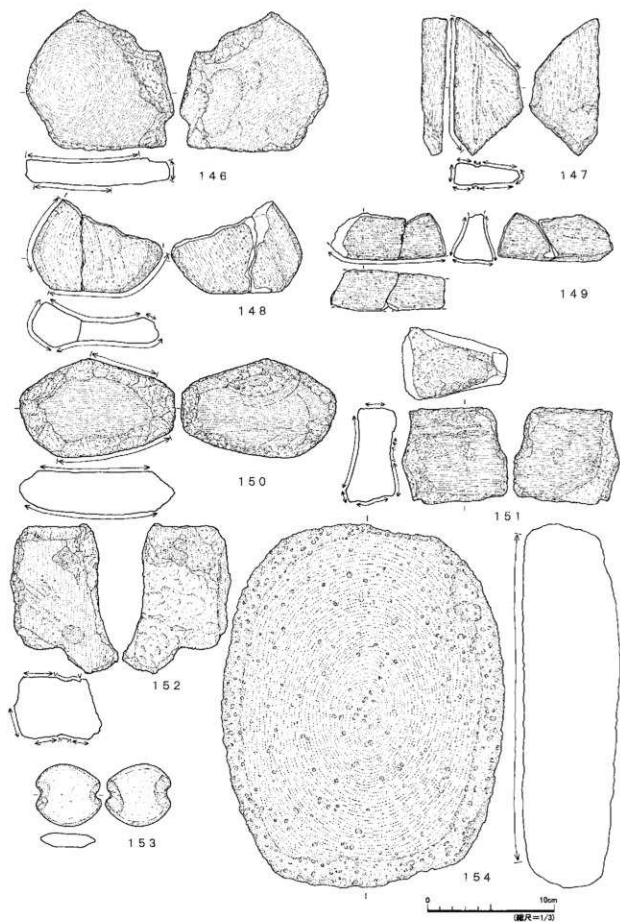
図V-112 包含層出土の石器(3)



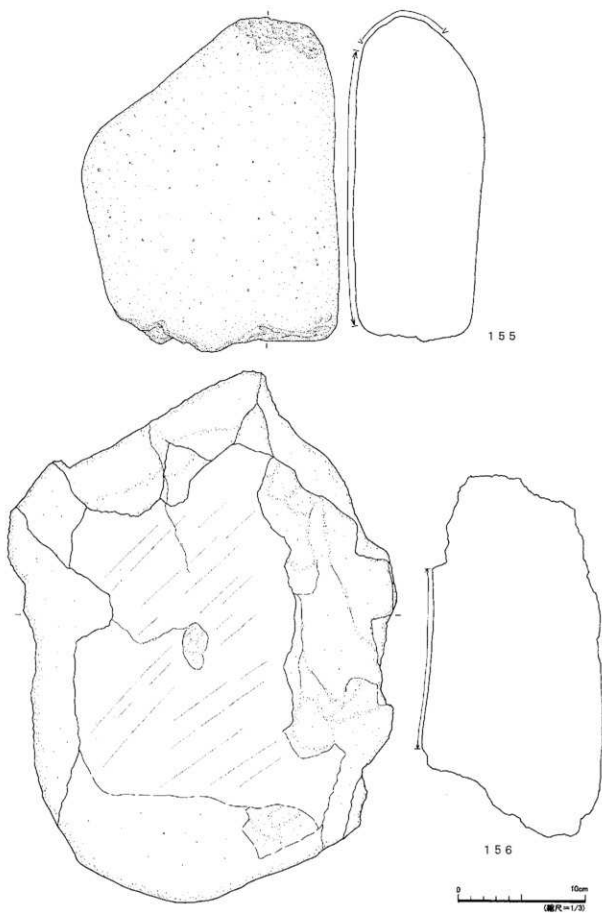
図V-113 包含層出土の石器 (4)



図V-114 包含層出土の石器(5)



図V-115 包含層出土の石器 (6)



図V-116 包含層出土の石器(7)

VI 台地地区の調査

1. 台地地区の概要 (図VI-1~4 図版158)

標高26m付近の河岸段丘上の平坦地である。畑地として利用されていたため、耕作の擾乱を受けており、宅地部分を除き、包含層の残存状況はあまり良くなかった。

P 335・336は、西島松5遺跡(2)(北理調査194)に表と写真が掲載済である。遺構の記載がなく、写真が異なっているため、遺構の記載と写真を掲載した。

(佐藤 剛)

2. 土坑

P 335 (図VI-4 図版159・165)

位置: J-31

平面形: 円形状

確認・調査・土層: IV層中で黒褐色土の落ち込みを検出する。

竈底・壁: 竈底はIV層中にあり、皿状で、壁の立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況: 出土遺物総数は108点である。確認面で砥石が1点出土した。その他の出土遺物は、IV群c-1類が76点、IV群c-2類が4点、III群が1点、スクレーパー3点、フリイク・チップが19点、礫・礫片が3点、覆土中から出土した。

出土遺物: 土器~1は無文の壺または小型の深鉢の底部。底部は小さな上げ底。2は深鉢の口縁部。口唇部断面は面取りのある切出し形。沈線文、突瘤文が廻る。1~2は三ツ谷式。

石器~1は砂岩製の砥石で、側縁の一部に擦痕がみられる。右皿の破損した一部を転用したものの可能性がある。

重複・新旧関係: なし。

性格: 不明。 時期: 出土土器などからみて、IV群c類を伴う縄文時代後期後葉のものであろう。

P 336 (図VI-4 図版159・165)

位置: J-32

平面形: 不明

確認・調査・土層: IV層中で黒褐色土の落ち込みを検出する。西側と南側の2辺が擾乱を受けているため、全体の形状は不明である。

竈底・壁: 竈底はIV層中にあり、皿状で、壁の立ち上がりはややなだらかな傾斜である。

遺物出土状況: 出土遺物総数は46点である。出土遺物は、IV群c-1類が30点、IV群c-2類、III群が1点、土製品が1点、フリイク・チップが14点、覆土中から出土した。

出土遺物: 土器~1は深鉢の口縁部。口唇部断面は切出し形。沈線文が廻る。三ツ谷式。

重複・新旧関係: なし。

性格: 不明。 時期: 出土土器などからみて、IV群c類を伴う縄文時代後期後葉のものであろう。

(石井)

3. 盛土遺構

MC盛土 (図VI-5~61 表Ⅷ-14~15・35~36 図版160~163・166~197)

位置：I-19・20・21・22 J-20・21・22 標高25.99m～25.82m

規模：北東-南西 約12.0m 南東-北西 (20.0m)

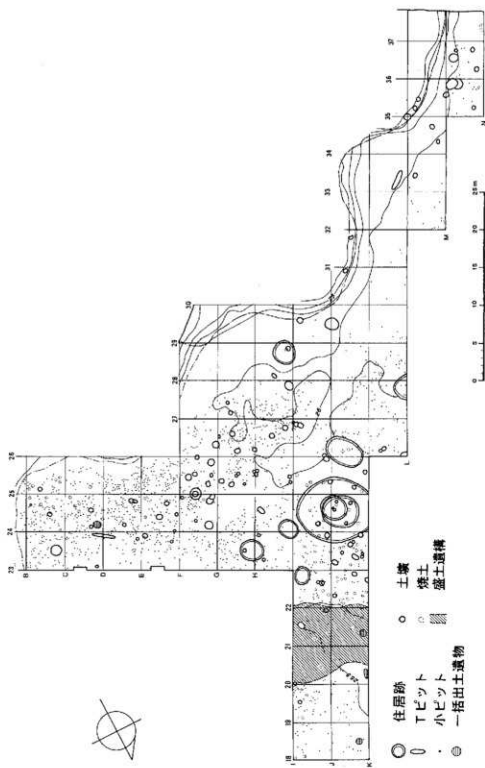
概要：MC盛土は、調査区の中央部や北東寄りにあり、北西側は次年度以降の調査区に広がり、南東側は平成12年度調査区に広がっていたようである。ゆるやかに南東から北西に傾斜するII B層上に形成されている。上方は耕作により一部攪乱・削平されているが、大半は良好な残存状態で、くぼんでいところにはTa-aやII A層の堆積が見られた。最大層厚は約16cmである。

確認・調査：J-21の包含層調査中、I層を除去したところII B層と酷似し、多量の遺物を混入する暗褐色土が検出された。このため周辺グリッドもI層を除去し、全体に精査し、この遺物包含層の広がりを確認する作業を行う。広がりを把握する作業と併行してIラインの壁面(南東面)を清掃し、断面観察を行い、更に21ラインに沿って小トレンチを設定し、土層堆積の観察、検討を行う。この結果、MA盛土の1・2層と同質の土が広く見られ(当初1層とする)、IラインのI-20周辺では1層とII B層の間に明褐色土が確認された(当初2層とする)。ところがI-21の西端でII B層に酷似するがやや黒っぽい土の広がりが見られたため1層との上下関係を確認したところC I層の上に堆積していることが判明した。このため当初呼称した1層は2層へ、2層は3層へと変更し2層上にある土を1層とした。また2層は広く堆積しているが、1層と3層は部分的なものであることも確認された。I-20・21周辺でII B層上に3層がまず堆積し、その上に2層が広く、高く堆積したもので、I-20～J-22周辺のくぼんでいところ1層が堆積したものとされる。調査は1層から2層、3層と順次掘り下げて行った。また遺物の取り上げは、土器は大型破片、口縁部、底部、石器では定型的な石器、そして土・石製品の出土位置、レベルを計測して取り上げ、他はグリッドごと、層位ごとに取り上げた。

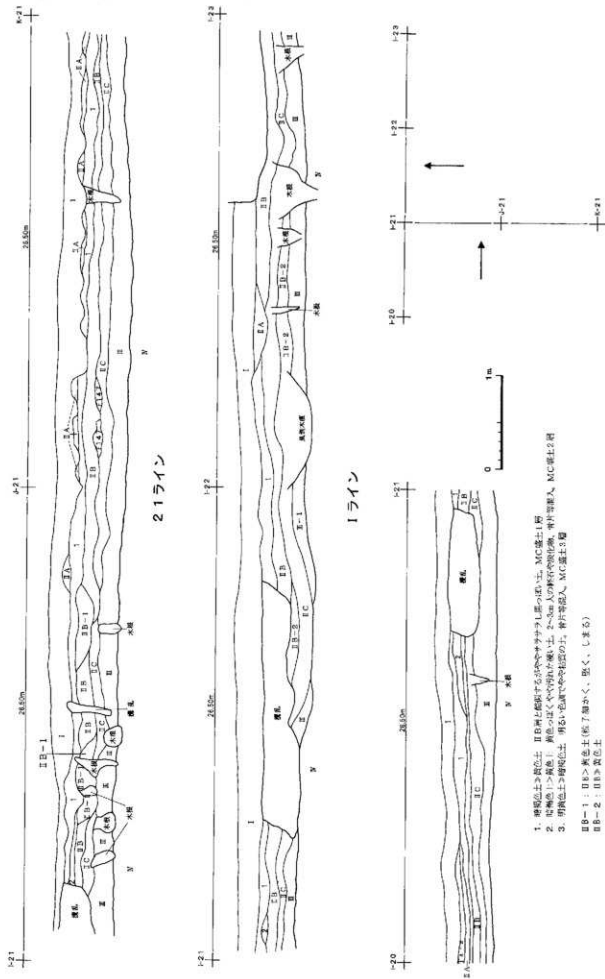
土層：前述のようにMC盛土の土層は三層に分けられる。1層は、I-21～J-21周辺に約3.70m×2.60mの楕円形状の広がりをもち、層厚3～4cmの皿状で、浅いくぼ地に堆積したものである。土層は暗褐色土>黄色土で、II B層と酷似するがややサラサラし、黒っぽい土である。2層は、MC盛土の主体の上である。ほぼMC盛土全体に堆積し、土層は暗褐色土>黄色土で、2～3cm大の軽石や炭化物、骨片等が多く混入し、黄色っぽくやや汚れた堅い土である。最大層厚は約10cmで、2層中で焼土が1ヵ所検出されている(F111)。3層は、I-20周辺に、約4.70m×約3.70mの不整楕円形状の広がりをもち、層厚5～10cmで、II B層上に広がっている。土層は明黄色土>暗褐色土で、骨片などが混入するが、明るい色調で、やや粘質の土である。

遺物出土状況：MC盛土の出土遺物総数は50,240点である。この内訳は土器など45,984点(土製品84点を含む)、石器など4,256点(石製品5点を含む)である。1層出土の遺物総数は3,041点(土器など2,867点、石器など174点)、2層出土の遺物総数は41,752点(土器など37,778点、石器など3,974点)、3層出土の遺物総数は5,447点(土器など5,339点、石器など108点)で、2層出土の遺物総数が全体の約83%を占めている。土器は縄文時代前期～弥生時代ものが出土しているが、縄文時代後期後葉の土器が圧倒的に多く、なかでもIV群C-2類土器が43,067点で、約93%を占めている。またIV群C-1類土器が2,715点(約6%)出土している。土製品では、玉、耳輪、土偶などが出土している。石器などではフレイク、フレイク・チップが3,689点、礫が453点と全体の約97%を占めている。定型的な石器では、石鎌が192点、スクレイパーが83点、他に石槍、石錐、つまみ付きナイフ、石斧、たまたき石、砥石などが出土している。石製品では、玉、垂飾類が出土している。

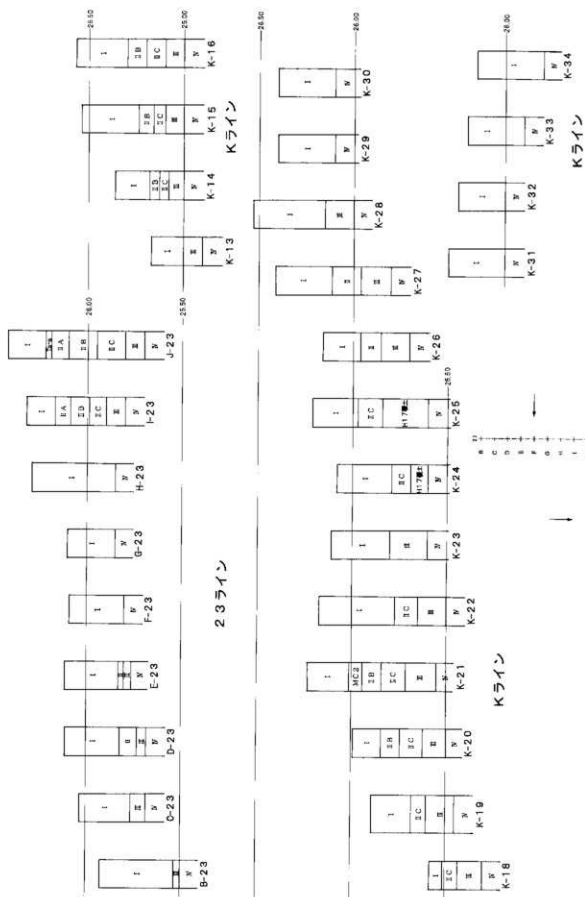
土器、石器などの集中域はとくに見られず、全体的に散らばっている状態である。土とともに投棄されたものと思われる。



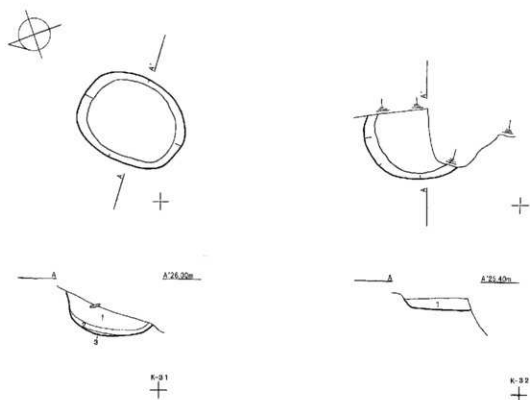
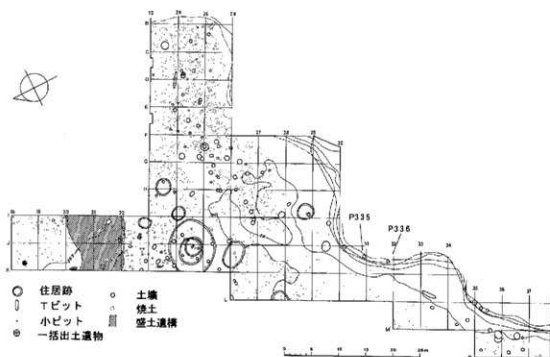
図VI-1 遺構位置図と最終面測量図



図V-2 土層断面図 21ライン及び1ライン



図V-3 柱状図 21ライン及びKライン



P335の土層

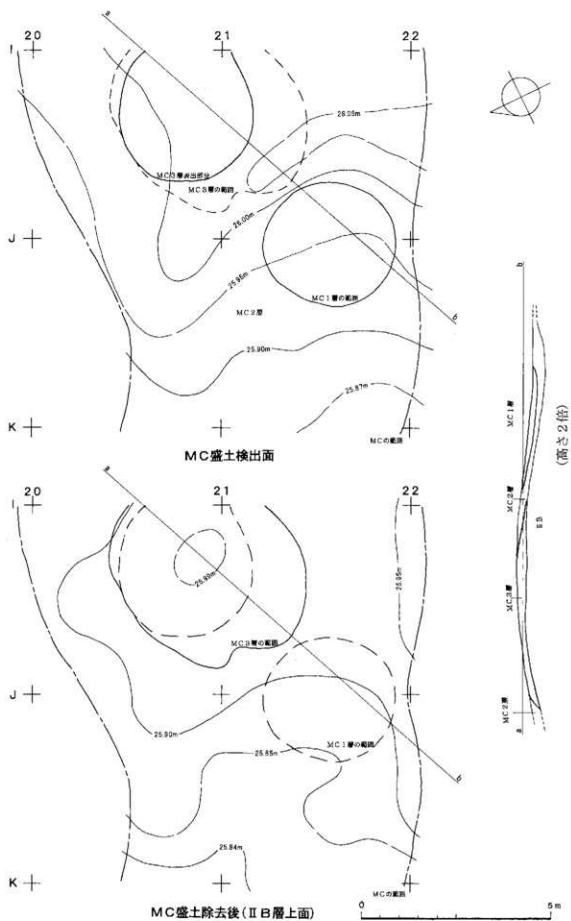
1. 10TR2/1 黒色粘壤土 砂性中 型相変態 パミス(径3~5mm)を含む
2. 10TR1/1 黒色粘壤土 粘砂物 型相変態
3. 10TR2/2 黒褐色粘壤土 粘砂中 型相変態 パミス(径3~5mm)を含む

P336の土層

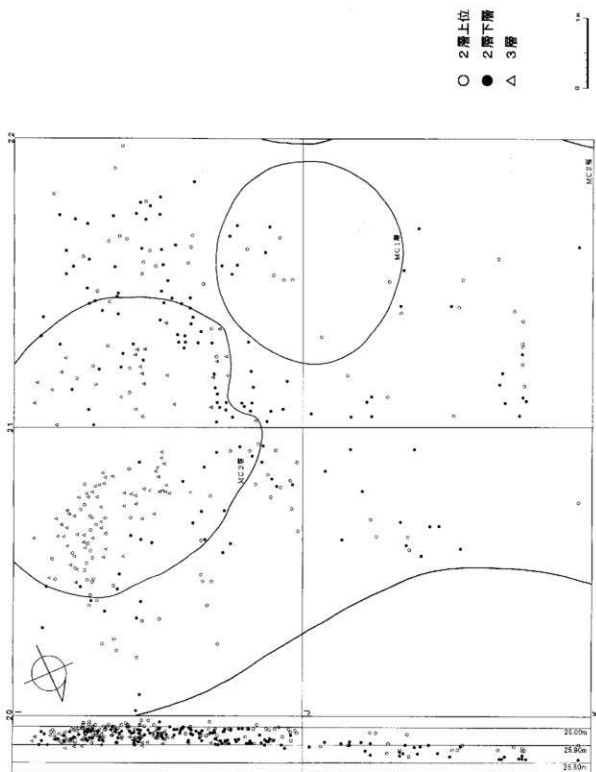
1. 10TR2/1 黒色粘壤土 粘砂中 型相変態 パミス(径3~5mm)を含む



図VI-4 土坑



図VI-5 MC盛土地形測量図



図VI-6 MC盛土器分布図

性格・時期：検出当初は盛上遺構か、あるいは整地層か判断しかねたが、各層位ごとに堅さなどに違いがあり、またⅡB層に大きな起伏や傾斜なども見られないことから、投棄された結果の盛上遺構であると判断した。形成された時期は、ⅡA層とⅡB層の間にあり、出土遺物などから見て縄文時代後期後葉、Ⅳ群C類～Ⅴ群a類土器を伴う時期であろうと思われる。

出土遺物：土器～1～44はすべて東三川Ⅰ式土器。

1層出土の土器

深鉢 (1)

1～3はくびれない深鉢で、沈線が施文される文様帯のあるもの。1～2は沈線文、3は帯縄文が施文される。

鉢 (4・6～7)

4・6～7は沈線が施文される文様帯のあるもの。4は刺突文が施文される。6は半月形の突起、7はA状突起をもつ。

片口土器 (5)

5は片口部に沈線文で文様を描く。片口部の両端は小さな山形突起状に盛り上がる。口縁部の中心からやや後ろ寄りの剥離痕は、他の例を参考にすると山形突起が剥離したものの可能性がある。

2層出土の土器

深鉢 (8～25)

8～25はくびれない深鉢で、沈線が施文される文様帯のあるもの。8～11は沈線文、12～17は帯縄文、18～19は刺突文が施文される。20～22はA状突起をもつ。23～24は口縁部を無文にするもの。20～22はA状突起の間を沈線文でつなぐ。

浅鉢 (26～30)

26～29は沈線が施文される文様帯のあるもので、26～28は帯縄文、29は連続する下方からの刺突が施文される。30はA状突起をもつ。

壺・注口土器 (31～39)

31は口縁部が復元できたもので、口縁部が無文である。
32～39は胴部が復元できたもの。32～35は沈線が施文される文様帯のあるもので、32～33は沈線、34～35は帯縄文で文様を描く。36は注口部で、周囲に沈線で文様を描く。37は貼付けで動物の手足が表現されるものである。指は3本の沈線により4本が表現されている。動物の種類は不明である。38～39はA状突起をもつもので、38はA状突起の間を沈線文でつなぐ。39は胴部に縄文が施文される。

3層出土の土器

深鉢 (40～41)

40～41はくびれのある深鉢で、沈線が施文される文様帯のあるもので、40は沈線、41は帯縄文で文様を施文する。

浅鉢 (42)

42は沈線が施文される文様帯のあるもので、円形の刺突で文様を施文する。

壺・注口土器 (43～44)

43は口縁部が復元できたもので、口縁部に沈線が施文される文様帯のあるもの。

44は胴部が復元できたもので、胴部に沈線が施文される文様帯のあるもの。胴部の文様から、注口土器と考えられる。

45～52は三ツ谷式併行であるが、一部に御殿山式を含んでいる可能性がある。

1 層出土の土器

深鉢 (45～50)

45～50はくびれない深鉢である。47～48は沈線が施文される文様帯のあるもので、刻みを持つ。45～46・49は沈線が施文される文様帯のないもの。46は2個1組の小さな台形の突起をもつ。46・49は平縁である。50は底部。

浅鉢 (51～52)

51～52は底部で、無文である。

2 層上位出土の土器

深鉢 (53～80)

53～54はくびれのある深鉢で、沈線で文様を施文するもの。

55～74はくびれない深鉢。55～62は沈線で文様を施文するもの。62～65は小さな山形突起をもつもの。66～69は口唇上にキザミを持つもの。66～67は指頭によるキザミ、68～69は棒状工具によるキザミをもつもの。70～74は平縁のもの。75～80は底部。80は無文である。

鉢 (81～82)

81～82は底部。81は沈線で文様を施文するもの。沈線は細い。

浅鉢 (83)

83は底部で、底に沈線で文様を施文するもの。沈線は細い。

壺・注口土器 (84～85)

84は胴部が復元できたもの。帯状文で文様を施文するもの。

85は底部。

2 層下位出土の土器

深鉢 (86～122)

86～92はくびれのある深鉢。86～87は貼付けのあるもの。86は半球形の貼付けを両端から摘んだもの。87はボタン状の貼付け。88～91は沈線で文様を施文するもの。92はくびれというよりは、弱くくの字に外形する器形のもの。沈線、キザミ、先端の尖った工具による小さな円形の刺突が施文される。一部に赤色顔料が残る。

93～114はくびれない深鉢。93～101は沈線で文様を施文するもの。96は突起部の外面に円錐形の貼付けをもつ。102は2個1組の小さな山形突起をもつもの。103～106はキザミをもつもの。103は指頭によるもので、104～106は棒状工具によるもの。107～114は平縁のもの。

115は胴部である。

116～122は底部である。

鉢 (123～125)

123～124は沈線で文様を施文するもの。

125は底部で、低い台部と胴部の境に横位の沈線文を施文している。

壺・注口土器 (126~129)

126は口縁部が復元できたもの。口縁部が無文のもの。頸部に半截竹管状工具による刺突列と丸みのある貼付けがあり、胴部に沈線と刺突で文様を施文する。

127は胴部が復元できたもので、沈線で文様を施文するもの。単孔上器である。

128~129は底部である。

2層出土の土器

深鉢 (130~233)

130~133はくびれのある深鉢。130はボタン状の貼付けをもつもの。131~133は沈線で文様を施文するもの。

134~216はくびれない深鉢。134~136は貼付けをもつもの。134は縦に刻みのある貼付け、135~136はボタン状の貼付けである。137~171は沈線で文様を施文するもの。170~171は細い沈線で文様を施文するもの。172~175は突起をもつもの。172は丸みのある台形状の突起で、頂部に沈線と刺突で文様が施文される。174は半月形の突起で、外面に真ん中がくぼむ凹形の貼付けが付される。175は台形状の突起で、頂部に刺突が施文される。176は小さな山形の突起である。176~194は口唇上に刻みのあるもの。195~201は口唇部外面角に文様をもつもの。195~198は爪文によるもので、199~201は棒状工具による縦の刻みである。202~216は平縁のもの。216は無文である。

217~233は底部である。229~233は無文である。

鉢 (234~269)

234~236は貼付けをもつもの。234~235はボタン状の貼付けをもつ。235は上面観が楕円形である。236は縦の楕円形の貼付けをもつ。237~252は沈線で文様を施文するもの。253~256は帯状文で文様を施文するもの。257は丸みのある非常にゆるやかな波状口縁のもの。丸底である。258は指頭による刻みをもつもの。259~263は平縁のもの。264は胴部で、Λ状突起をもつもの。265~269は底部。265~266は外面に沈線による文様をもち、低い台部と胴部の境に横位の沈線をもつ。267~269は無文である。269は高い台部である。

浅鉢 (270~274)

270~271は沈線で文様を施文するもの。272は平縁のもの。273~274は底部で、低い台部と胴部の境に横位の沈線をもつ。無文である。

壺・注口土器 (275~306)

275~286は口縁部が復元できたもの。275~277は貼付けをもつもの。275はボタン状の貼付けをもつ。276はボタン状の貼付けと縦の楕円形の貼付けをもつ。277は口縁部の下部に帯状の貼付けをもつもの。貼付け上に爪文を施文する。278~285は沈線で文様を施文するもの。286は無文である。

287は頸部が復元できたもの。無文である。

288~293は胴部が復元できたもの。288~291は貼付けをもつもの。288~289は縦の楕円形の貼付けをもつ。288は一部に赤色顔料が残る。289は2個1組の縦の楕円形の貼付けである。290~291は豆粒状の貼付けである。縦の楕円形の貼付けをもつ。292は沈線で文様を施文するもの。293は爪文をもつもの。

294~306は底部である。294~295は外面に沈線による文様をもち、低い台部と胴部の境に横位の沈線をもつ。298~306は無文である。

ミニチュア土器 (307~315)

307～311は鉢形である。312～315は壺形である。

3層出土の土器

深鉢(316～375)

316～322はくびれのある深鉢である。316～318は貼付けのあるもの。316～317はやや大きめの粒状の貼付けをもつもの。318は豆粒状の貼付けをもつもの。319～322は沈線で文様を施文するもの。

323～375はくびれない深鉢である。323～346は沈線で文様を施文するもの。346は爪文を持つもの。348は突起をもつもので、小さな山形突起の頂部に刻みをもつもの。349～351は刻みをもつもの。349は棒状工具による刻みである。350～351は指頭による刻みである。352～364は平縁のもの。365は胴部である。366～375は底部である。374～375は無文。

鉢(376～384)

376～379は沈線で文様を施文するもの。377～378は細い沈線で文様を施文する。382は刻みをもつもの。刻みは棒状工具による。382～383は無文である。384は底部で、細い沈線で文様を施文する。

浅鉢(385)

385は無文である。

壺・注口土器(386～392)

386は口縁を復元できたもの。竹管状工具による円形の刺突列が巡る。

387～390は胴部を復元できたもの。387～389は貼付けをもつもの。387は豆粒状の貼付けに縦の刻みをもつもの。388は剝離痕が確認できるのみであるが、大きさから豆粒状の貼付けと考えられる。388は単孔土器である。389はボタン状の貼付けである。

391～392は底部である。391は外面に沈線で文様を施文するものである。392は無文である。

(佐藤 剛)

石器～

低地部包含層からは剥片・剥片石器3,917点、礫・礫石器530点、石製品・その他5点、計4,448点の石器が出土した。

1～29は石鏃である。石材は黒曜石が大半であるが、29は頁岩製である。MC1層から出土した1、2と、MC3層から出土した29は無蓋石鏃で、27、28は木の葉形を呈するものである。30は、石槍またはナイフと考えられるもの。31～36は石錐である。31は先端のみの破損品、32、33は剥片の縁辺に尖った刃を作り出したものである。35は装飾性のあるつまみ部をもつ。掲載された石錐のうち33はメノウ製で、残りはすべて頁岩製である。37～42はつまみ付きナイフである。37、38は黒曜石製で、ほかは頁岩製である。43～50はスクレイパー類である。掲載したもののうち46が黒曜石製であるほかはすべて頁岩製である。51～56は石斧である。掲載した石斧は破損品が多い。57はすり石である。長円形の礫の縁辺をすり、両端には打痕が残る。58はたたき石である。くぼみ石とよばれるもので、端部には打痕がある。59、60はすり石である。59は板状礫の一面を擦ったもの、60は礫の角を除き、全面に擦痕がのこる。

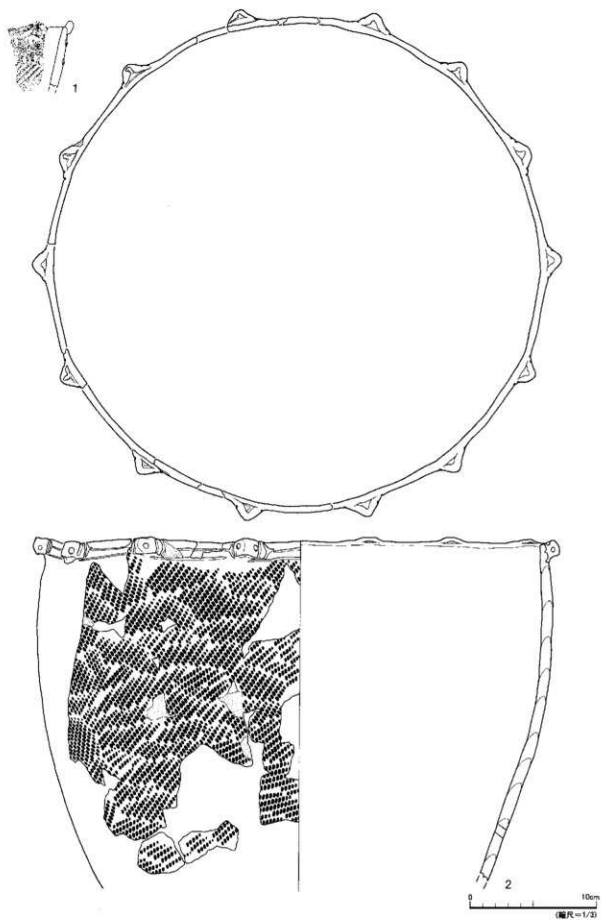
(土肥)

4. 包含層出土の遺物

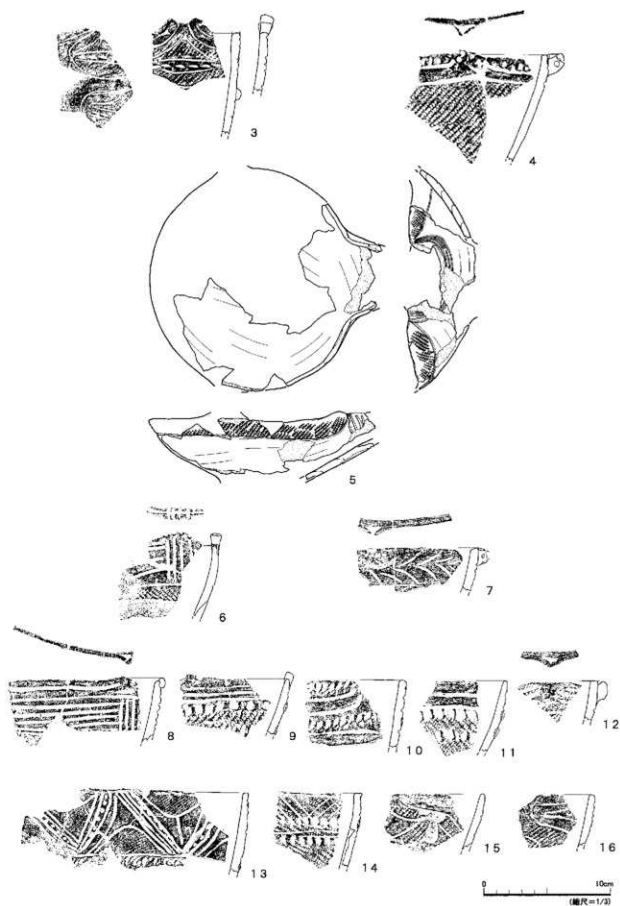
(1) 土器(図VI-44～52 表Ⅷ-16・37 図版198～206)

I群b類土器(1～2)

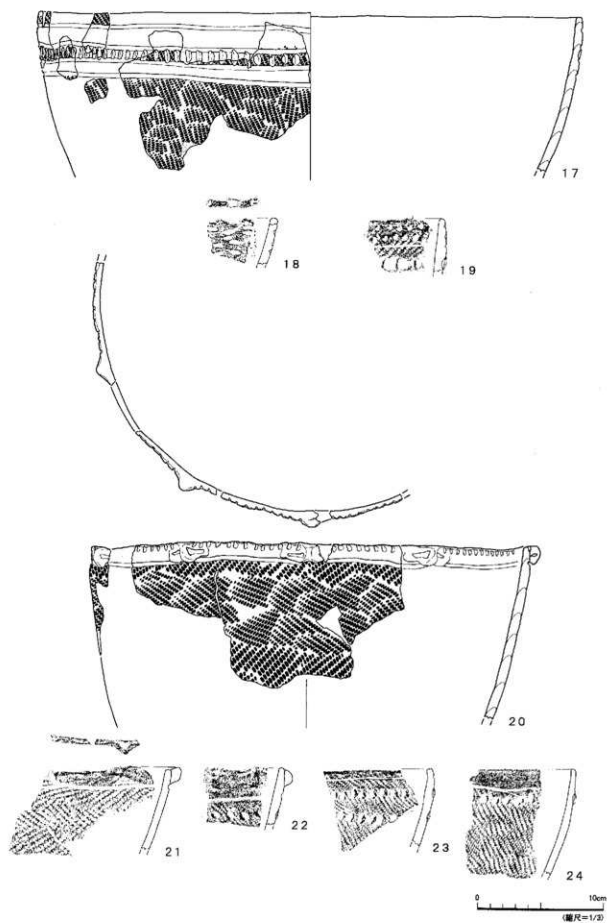
1は深鉢の口縁部で、2は底部。すべて東銅路IV式。



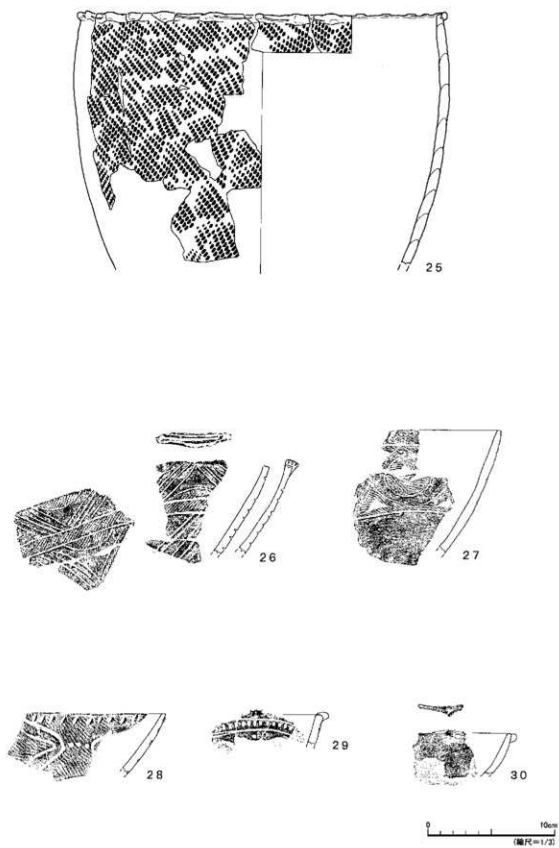
図VI-7 盛土遺構出土の土器 (1) MC盛土 (1)



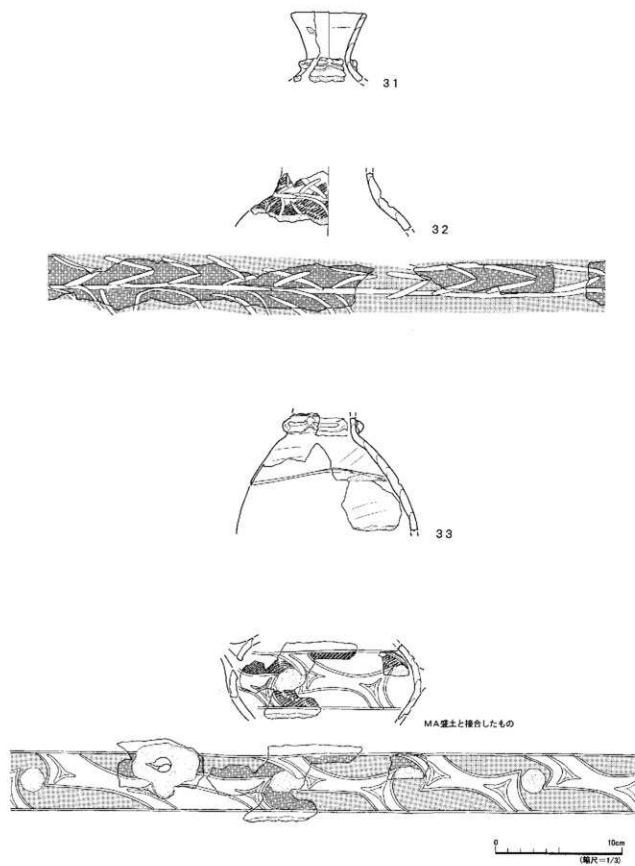
図VI-8 盛土遺構出土の土器(2) MC盛土(2)



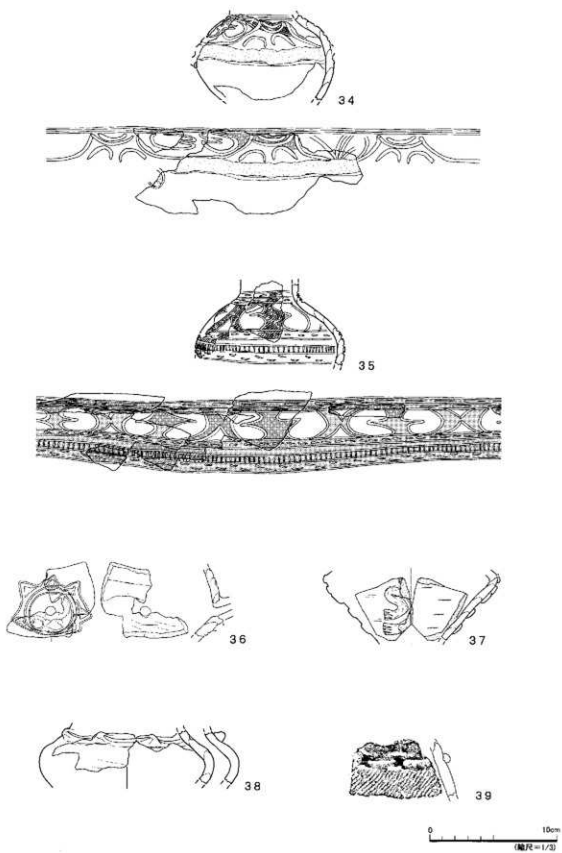
図VI-9 盛土遺構出土の土器 (3) MC盛土 (3)



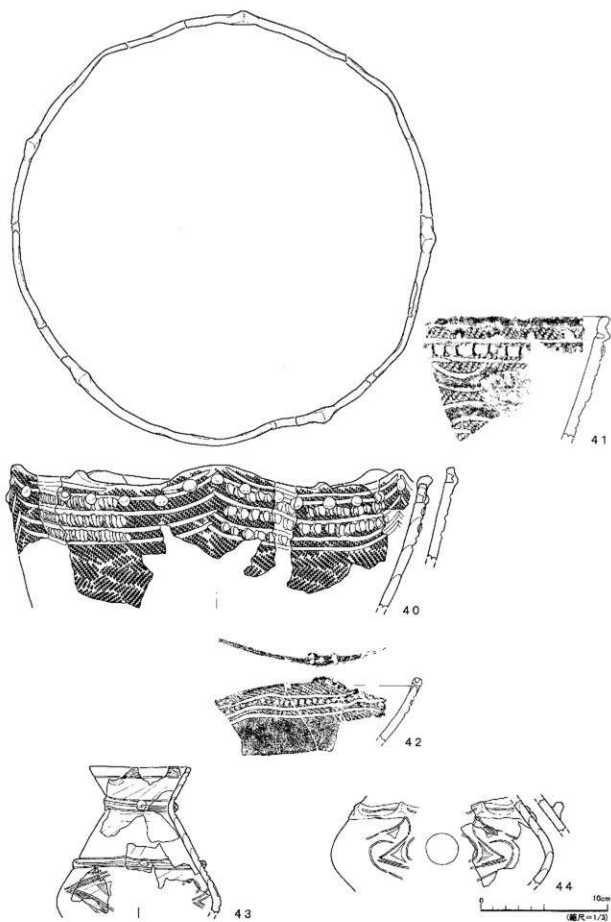
図M-10 盛土遺構出土の土器(4) MC盛土(4)



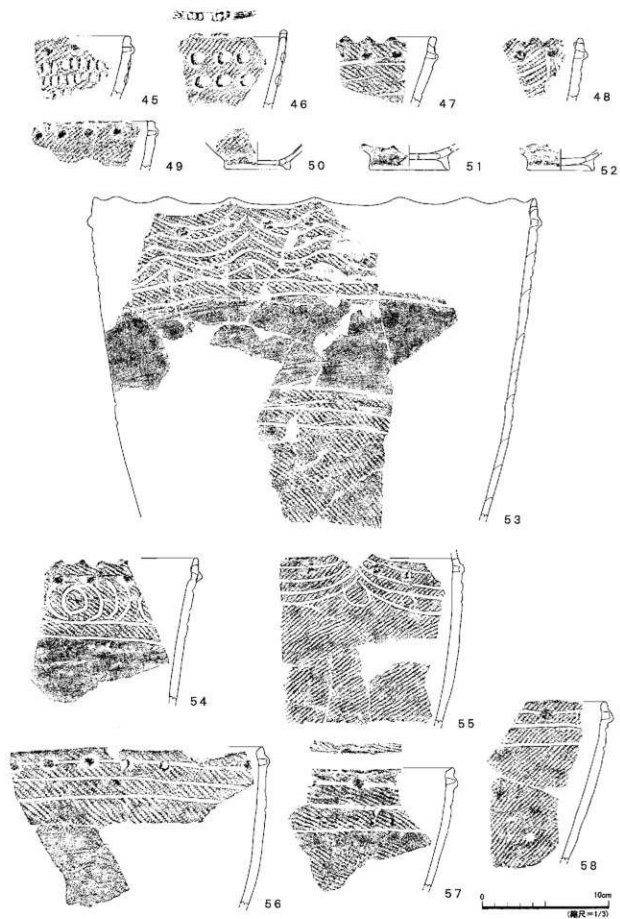
図VI-11 盛土遺構出土の土器 (5) MC盛土 (5)



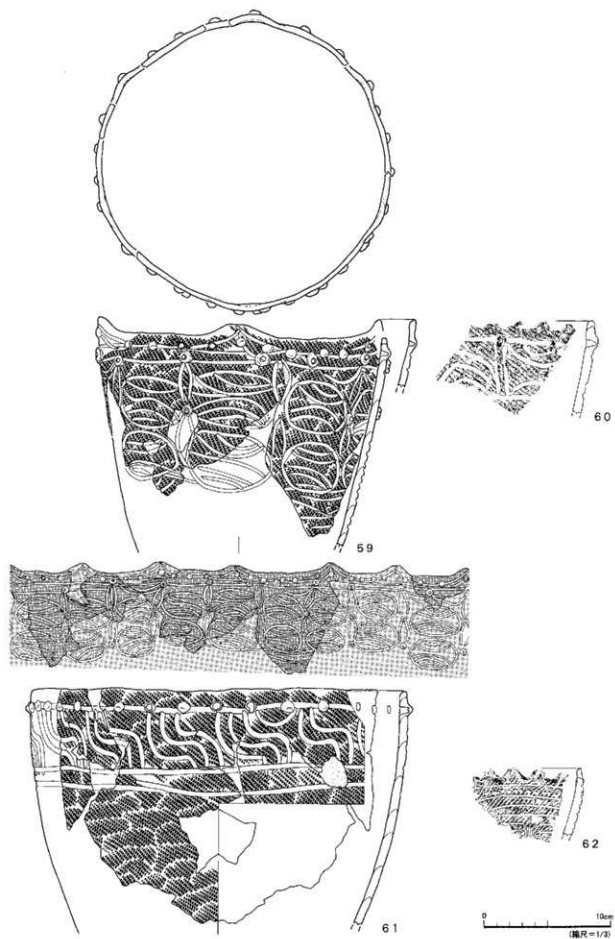
図Ⅴ-12 盛土遺構出土の土器 (6) MC盛土 (6)



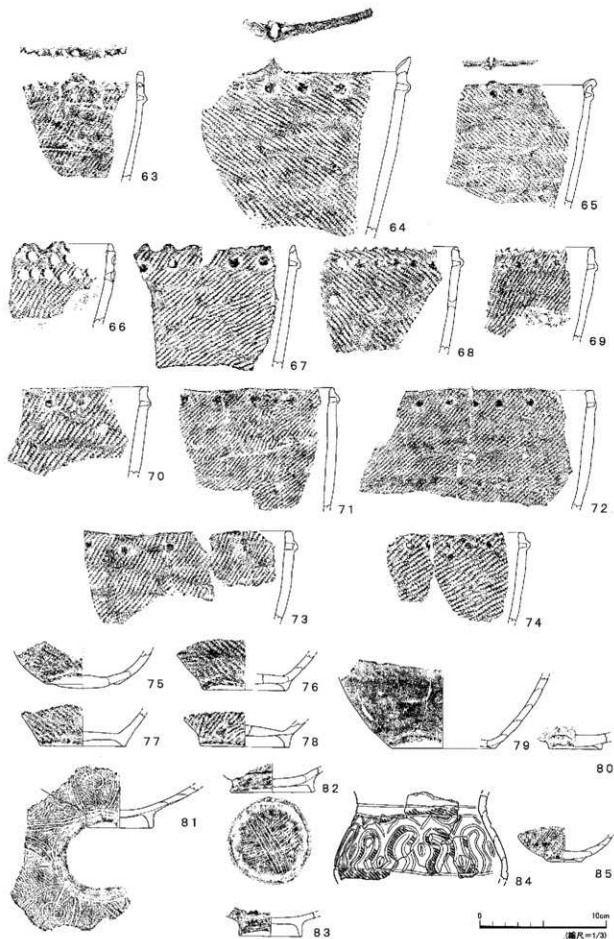
図VI-13 盛土遺構出土の土器 (7) MC盛土 (7)



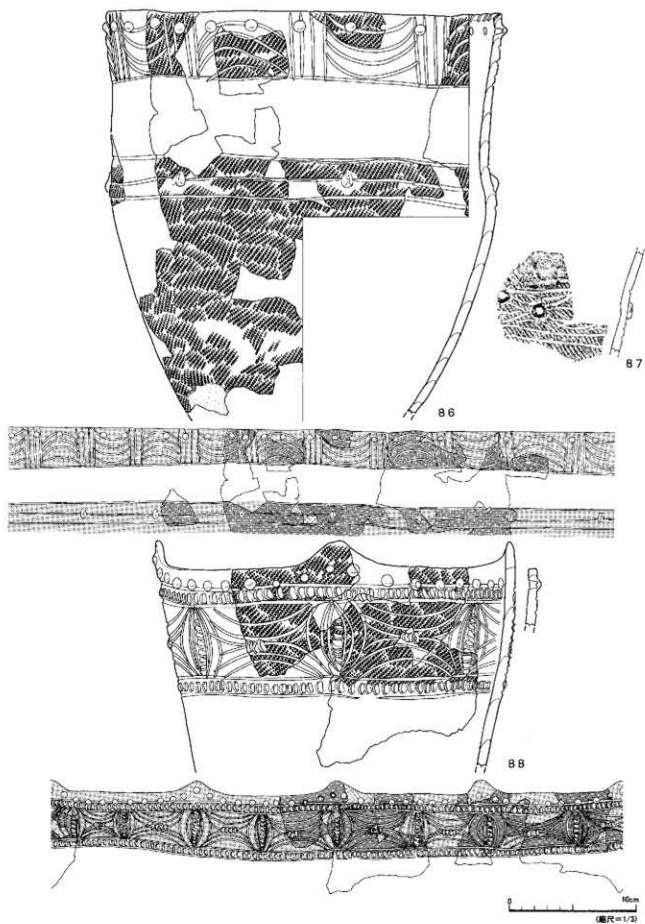
図Ⅴ-14 盛土遺構出土の土器 (8) MC盛土 (8)



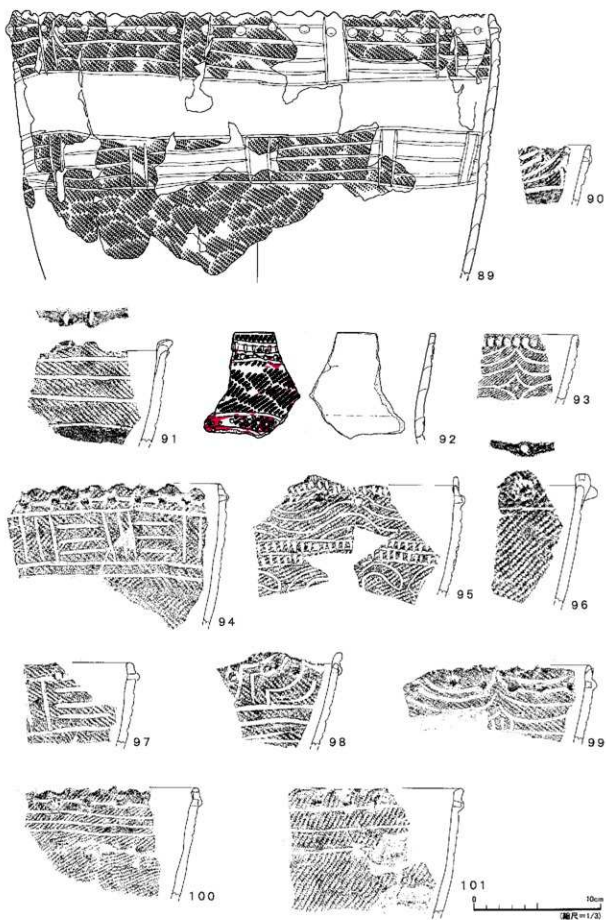
図VI-15 盛土遺構出土の土器 (9) MC盛土 (9)



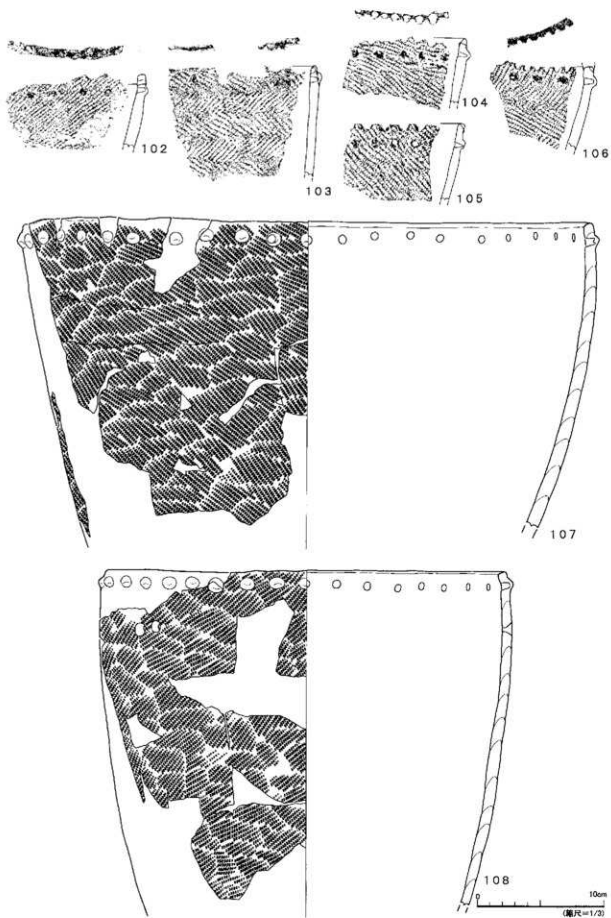
図VI-16 盛土遺構出土の土器 (10) MC盛土 (10)



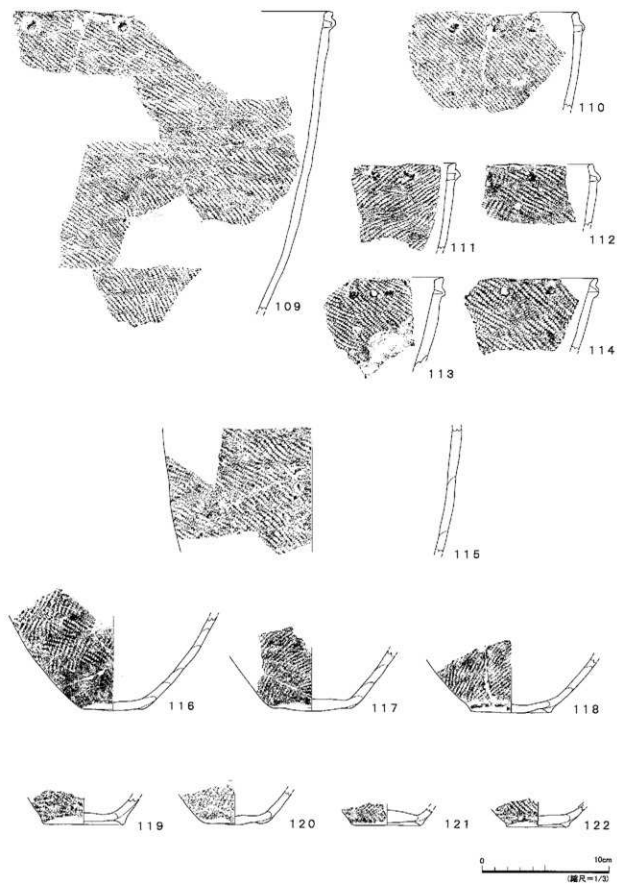
図VI-17 盛土遺構出土の土器 (11) MC盛土 (11)



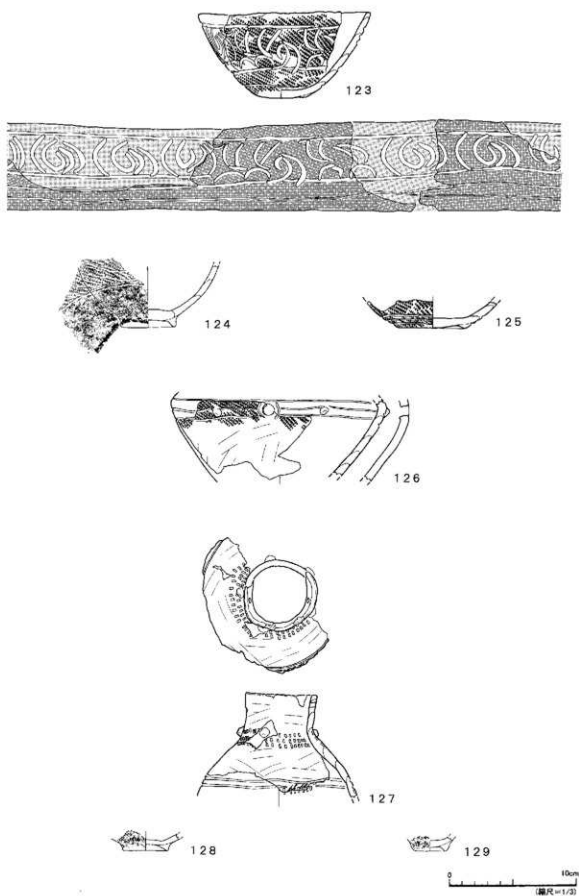
図Ⅴ-18 盛土遺構出土の土器 (12) MC盛土 (12)



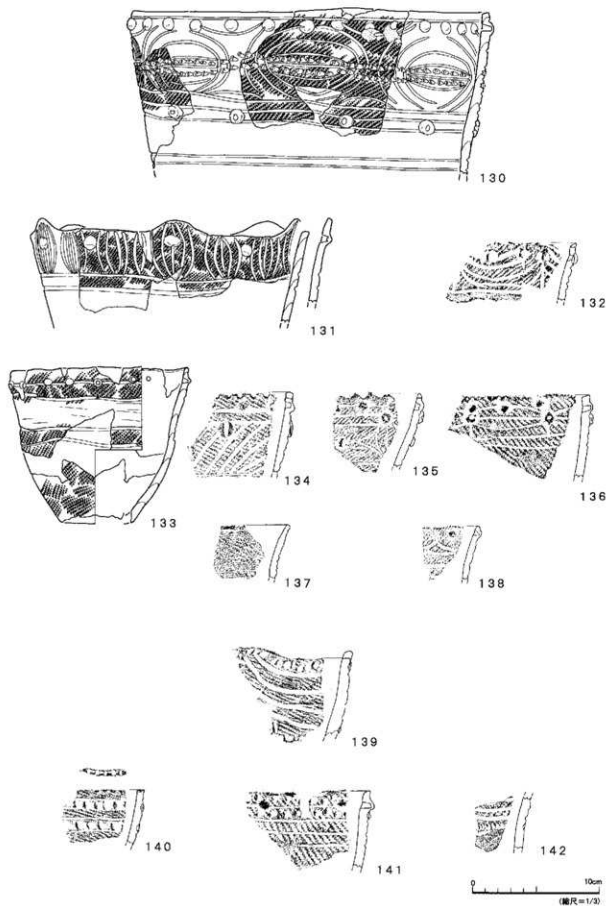
図VI-19 盛土遺構出土の土器 (13) MC盛土 (13)



図Ⅴ-20 盛土遺構出土の土器 (14) MC盛土 (14)



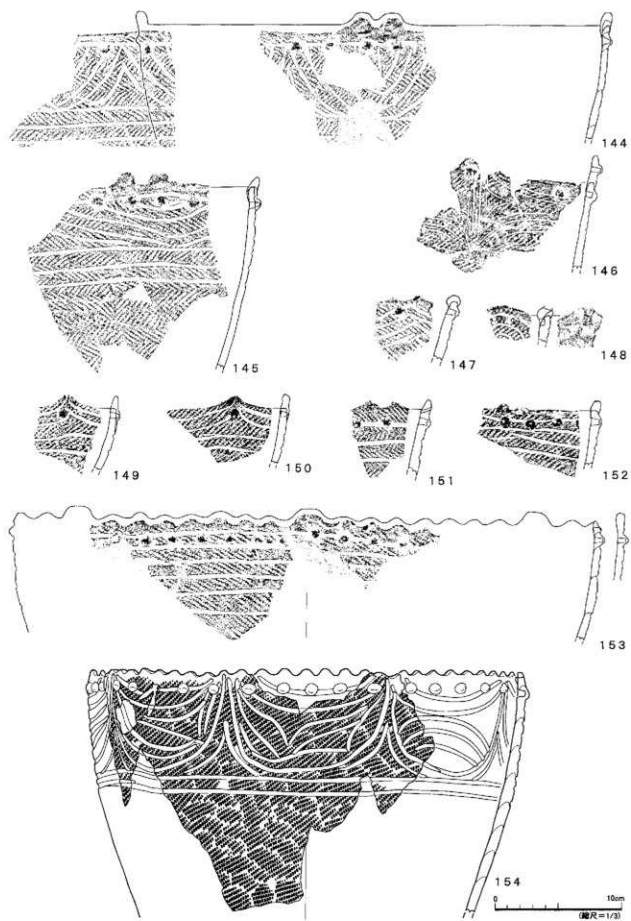
図VI-21 盛土遺構出土の土器 (15) MC盛土 (15)



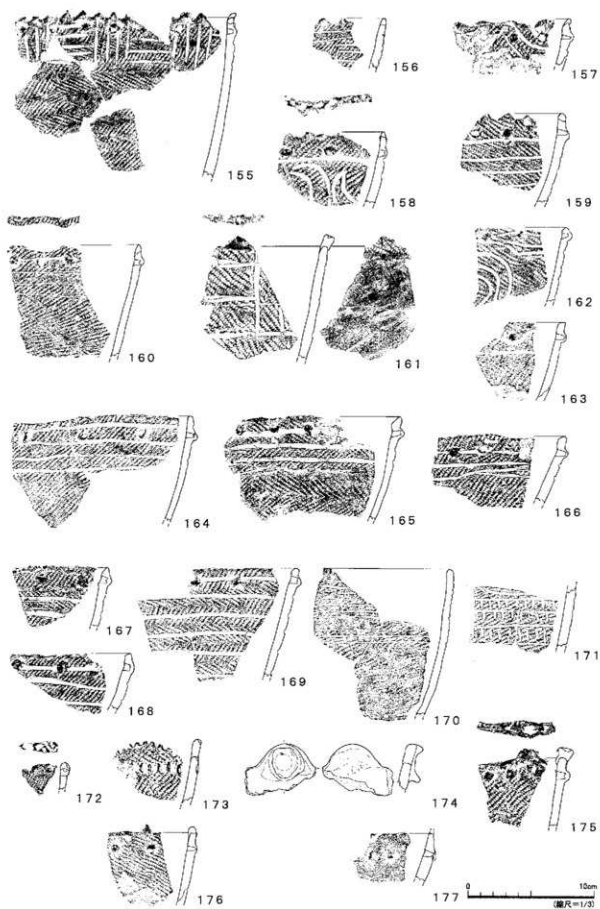
図Ⅵ-22 盛土遺構出土の土器(16) MC盛土(16)



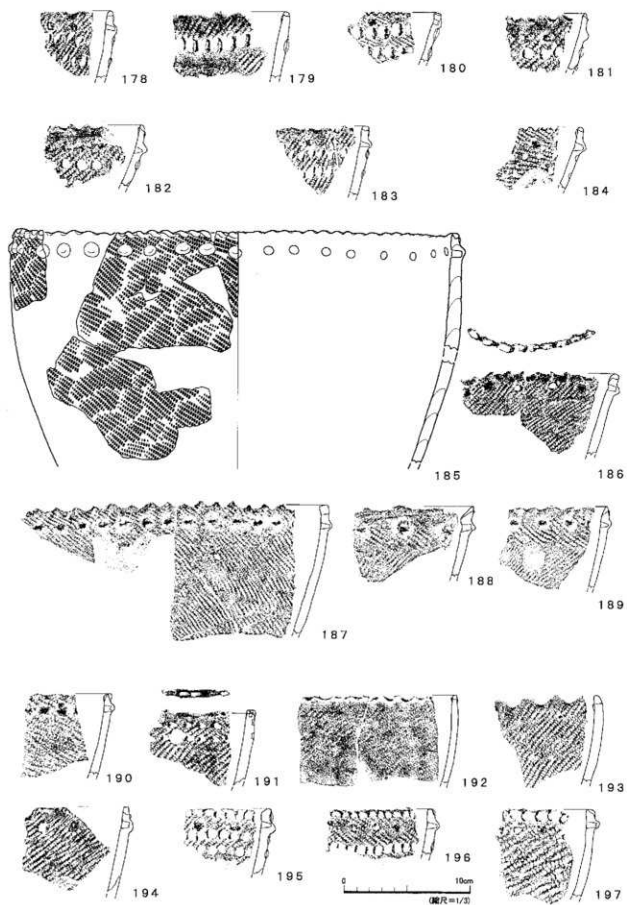
図VI-23 盛土遺構出土の土器 (17) MC盛土 (17)



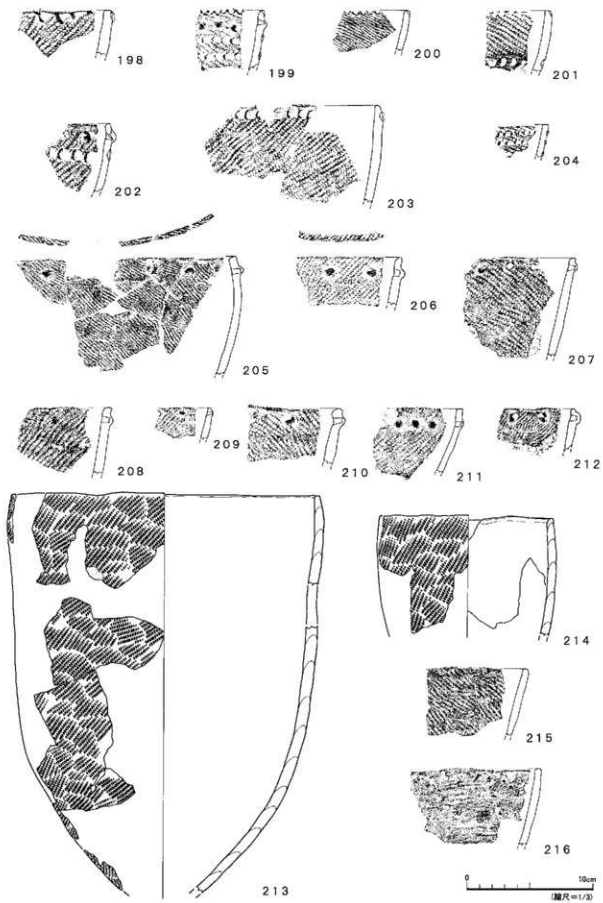
図Ⅴ-24 盛土遺構出土の土器(18) MC盛土(18)



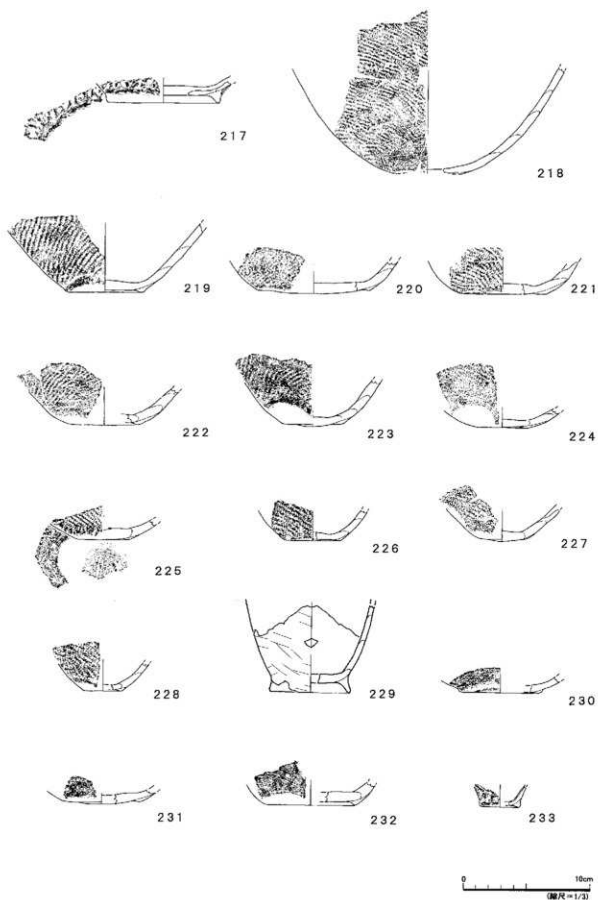
図VI-25 盛土遺構出土の土器 (19) MC盛土 (19)



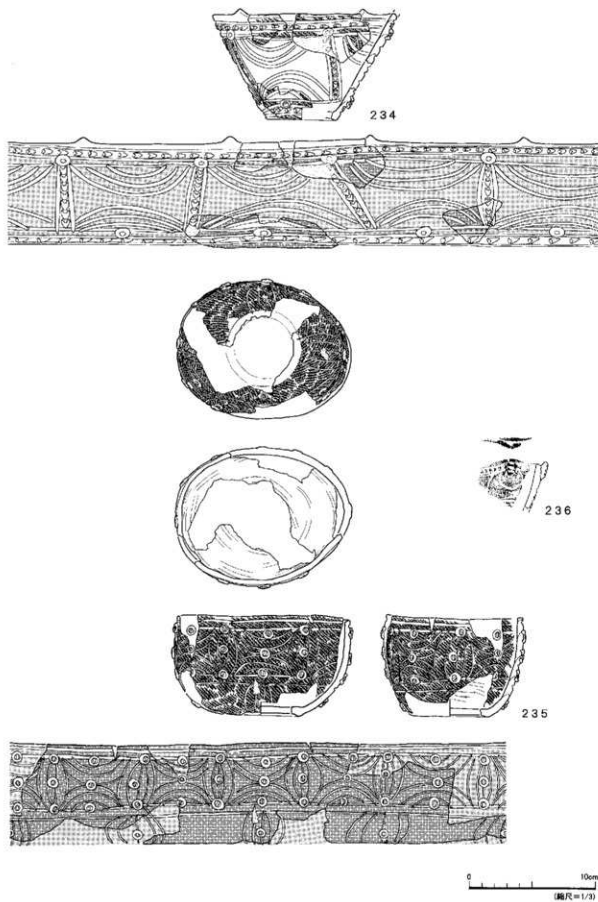
図VI-26 盛土遺構出土の土器(20) MC盛土(20)



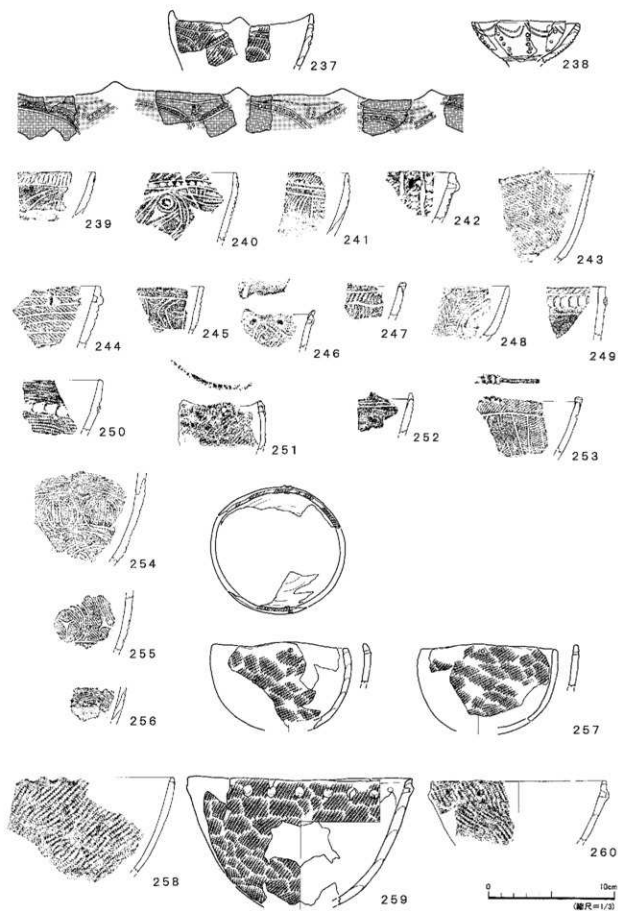
図VI-27 盛土遺構出土の土器 (21) MC盛土 (21)



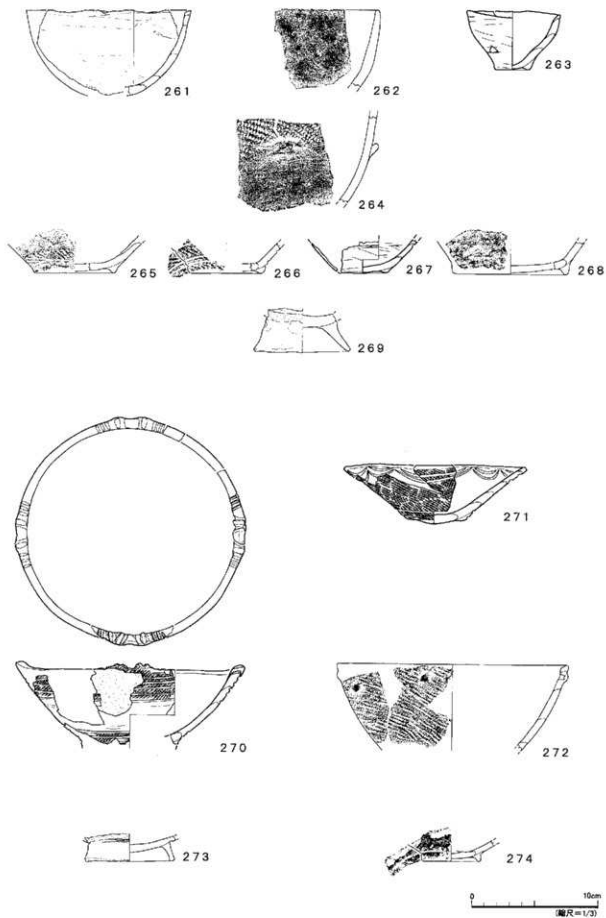
図Ⅵ-28 盛土遺構出土の土器(22) MC盛土(22)



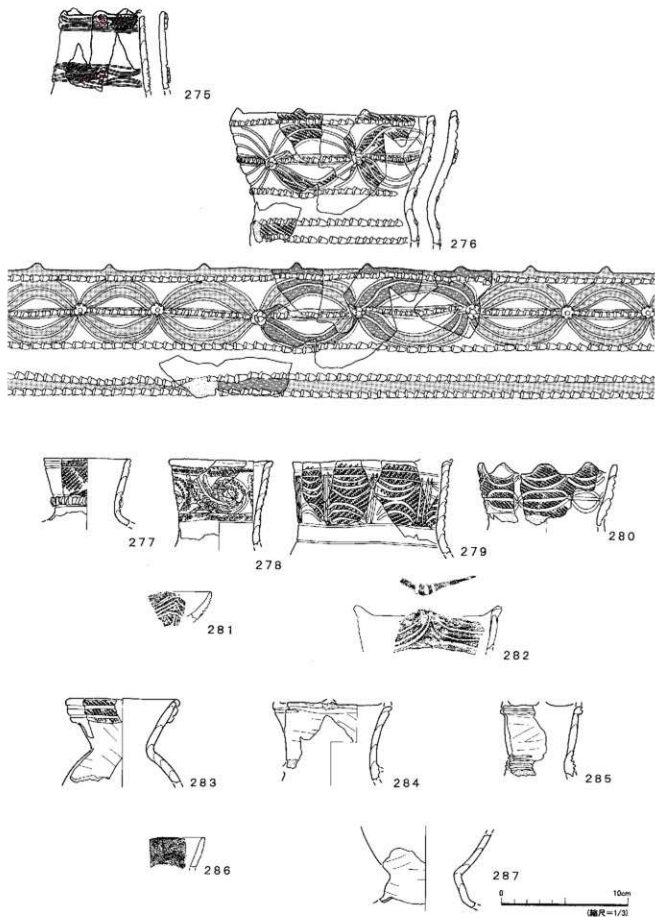
図VI-29 盛土遺構出土の土器 (23) MC盛土 (23)



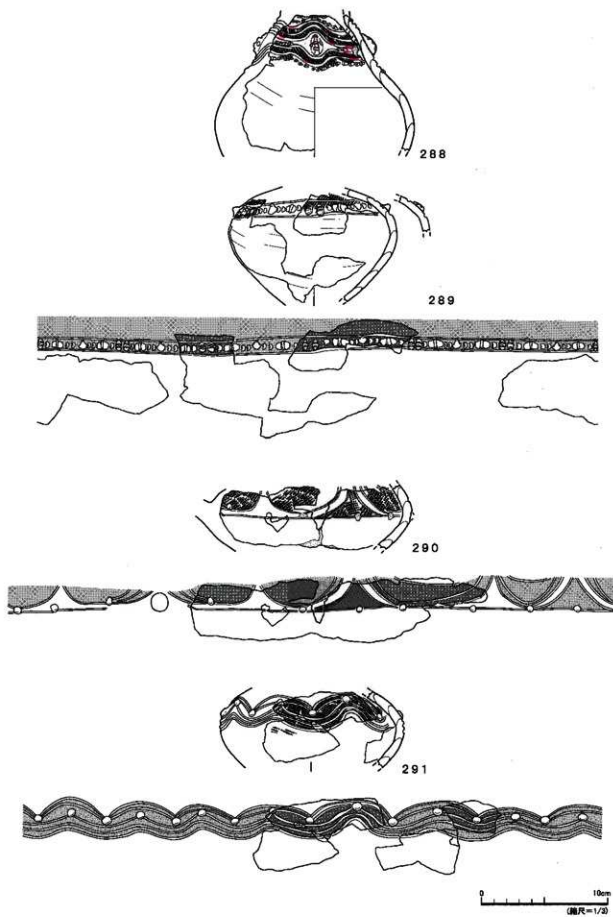
図VI-30 盛土遺構出土の土器(24) MC盛土(24)



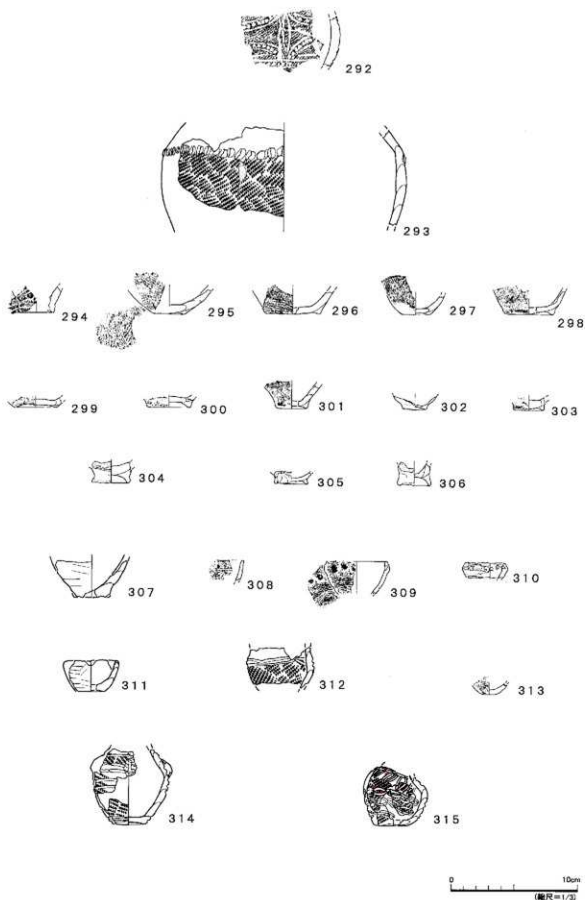
図VI-31 盛土遺構出土の土器 (25) MC盛土 (25)



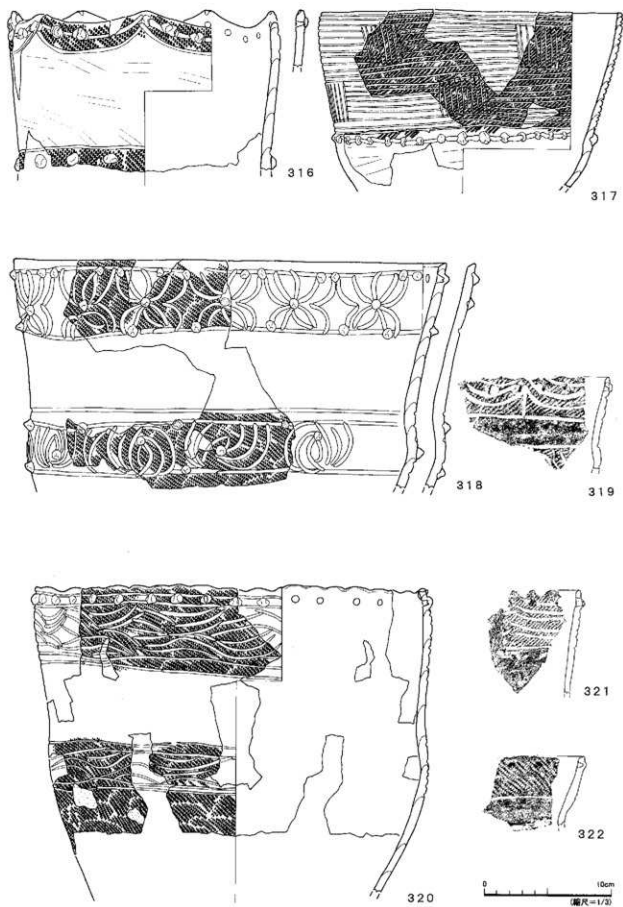
図Ⅵ-32 盛土遺構出土の土器 (26) MC盛土 (26)



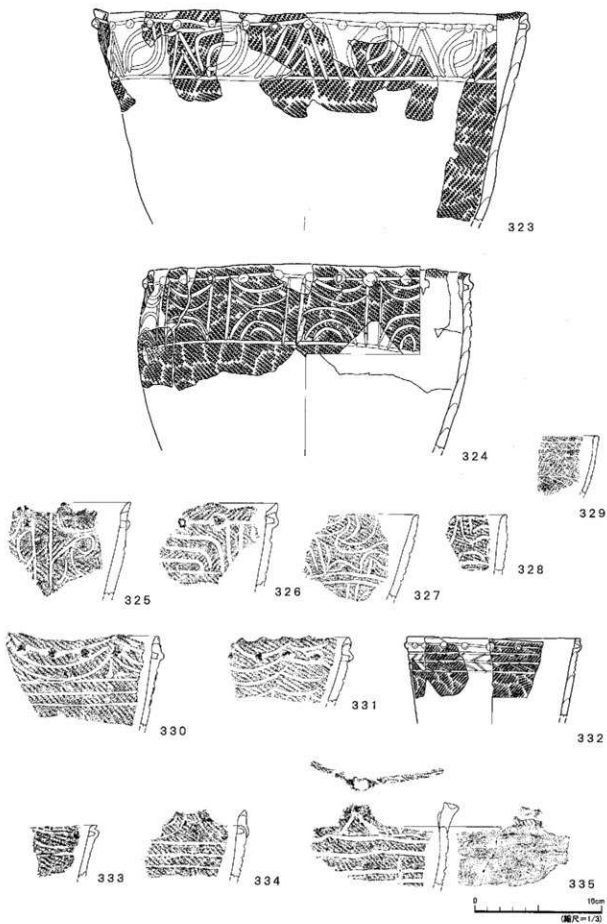
図VI-33 盛土遺構出土の土器 (27) MC盛土 (27)



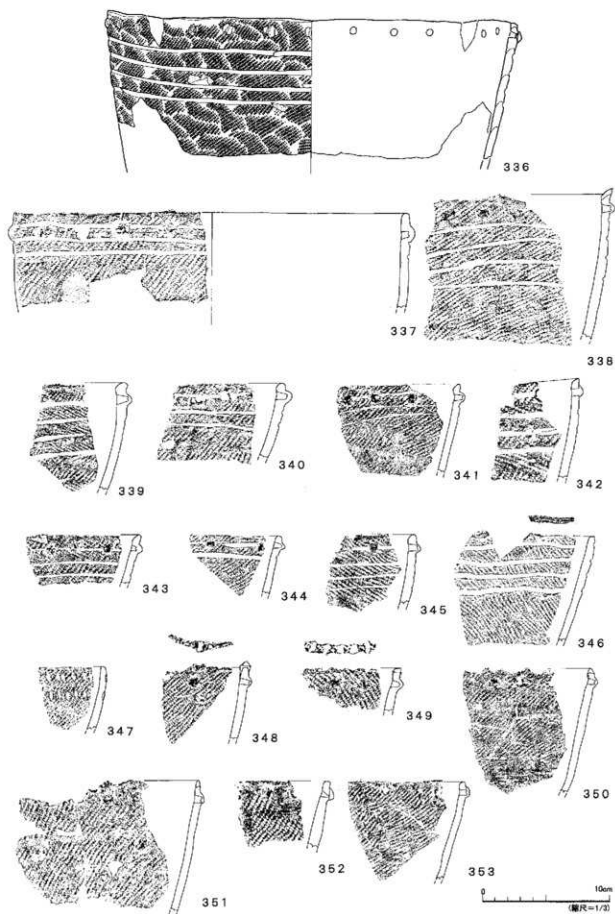
図VI-34 盛土遺構出土の土器(28) MC盛土(28)



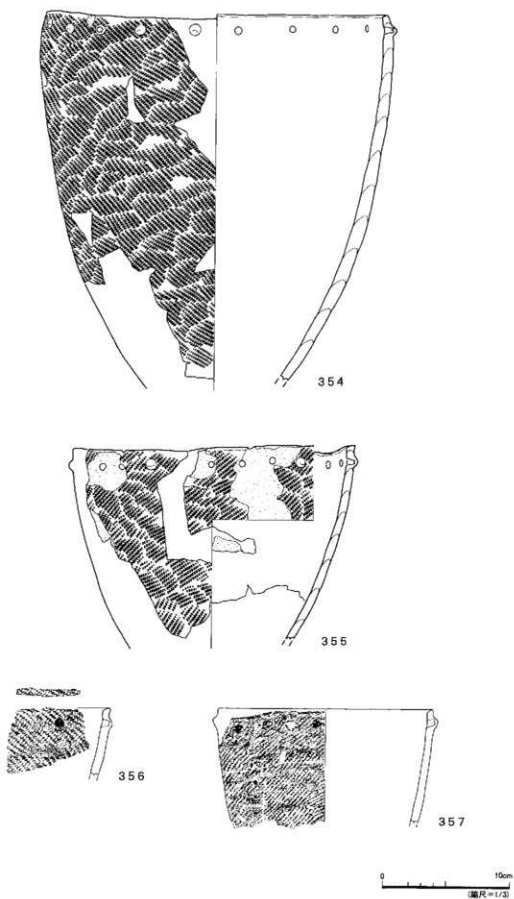
図VI-35 盛土遺構出土の土器 (29) MC盛土 (29)



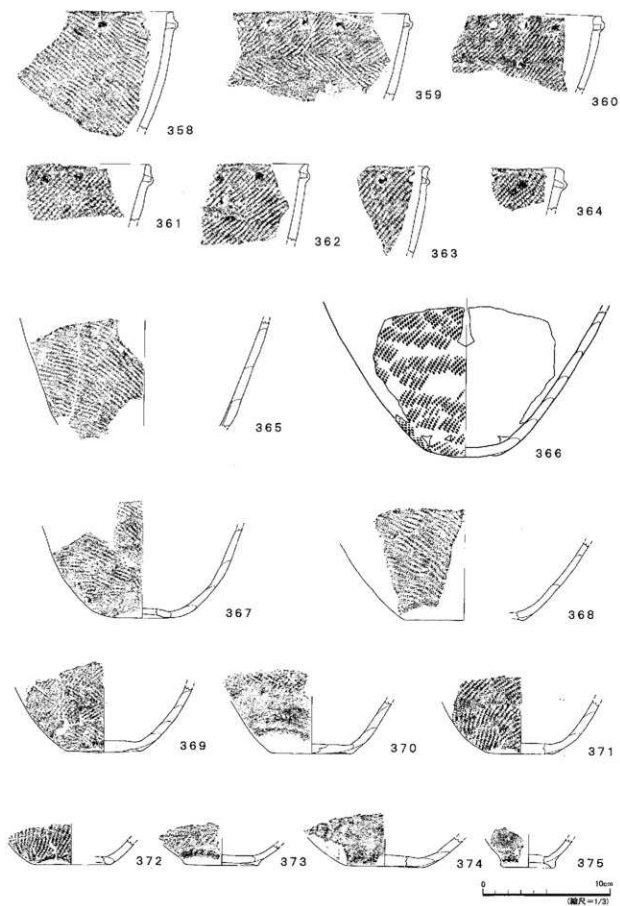
図VI-36 盛土遺構出土の土器(30) MC盛土(30)



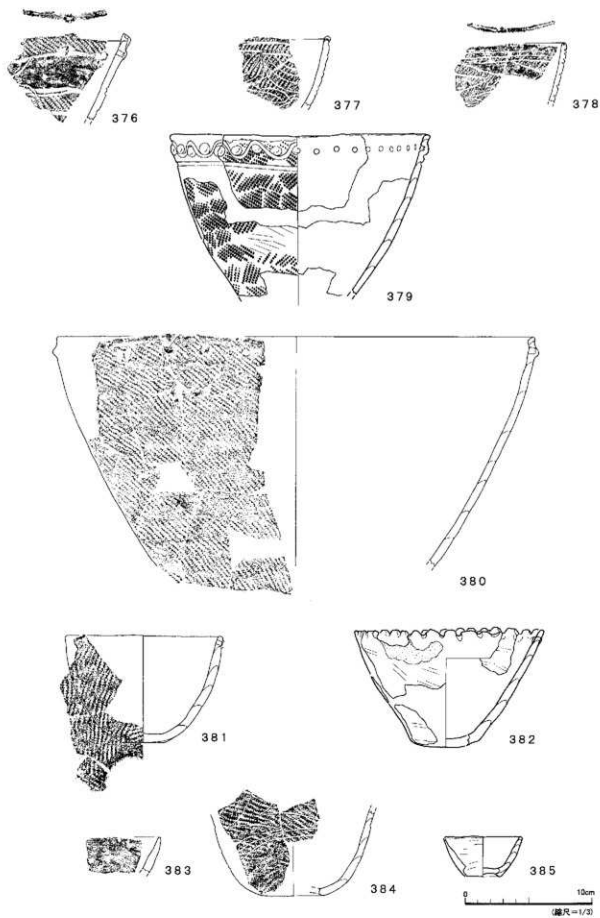
図VI-37 盛土遺構出土の土器 (31) MC盛土 (31)



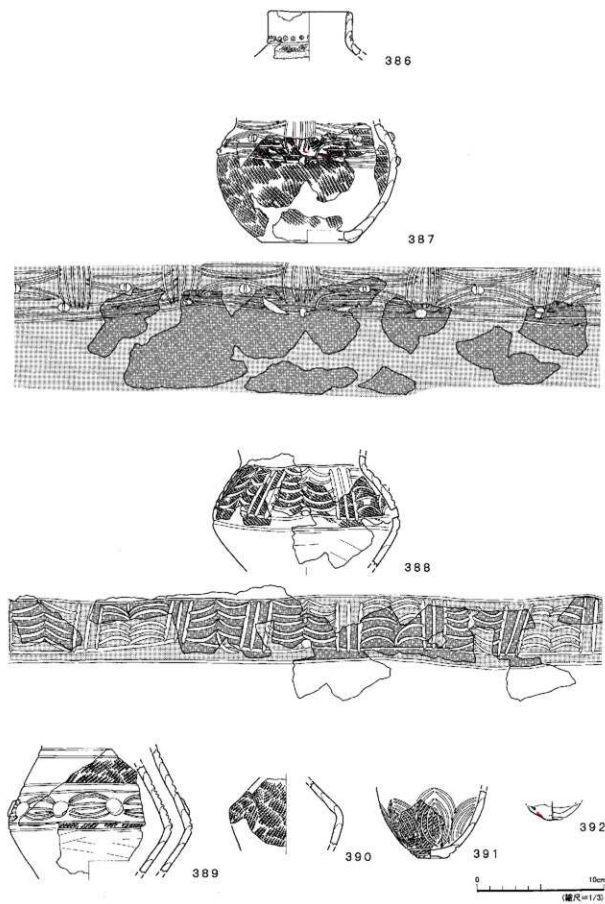
図VI-38 盛土遺構出土の土器(32) MC盛土(32)



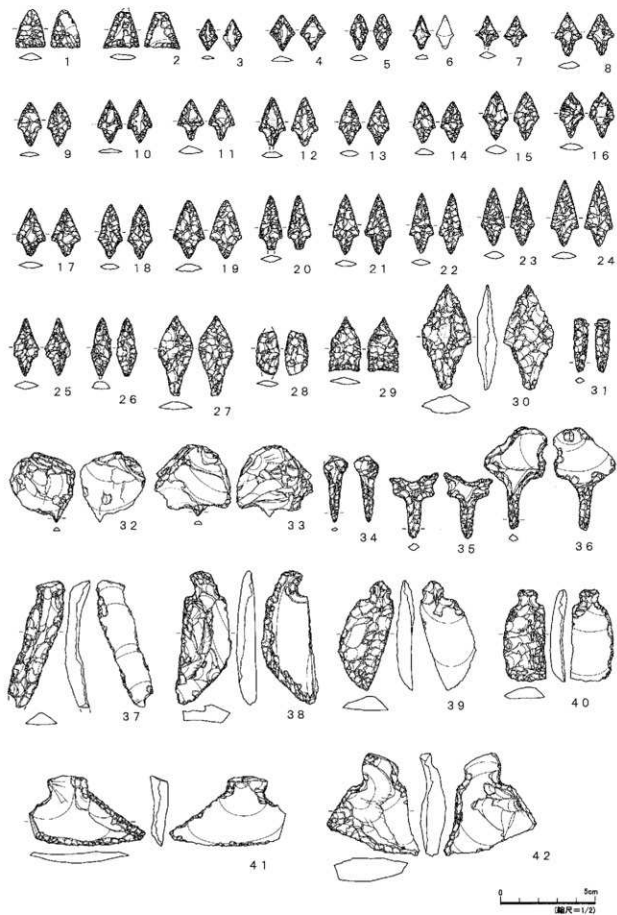
図VI-39 盛土遺構出土の土器 (33) MC盛土 (33)



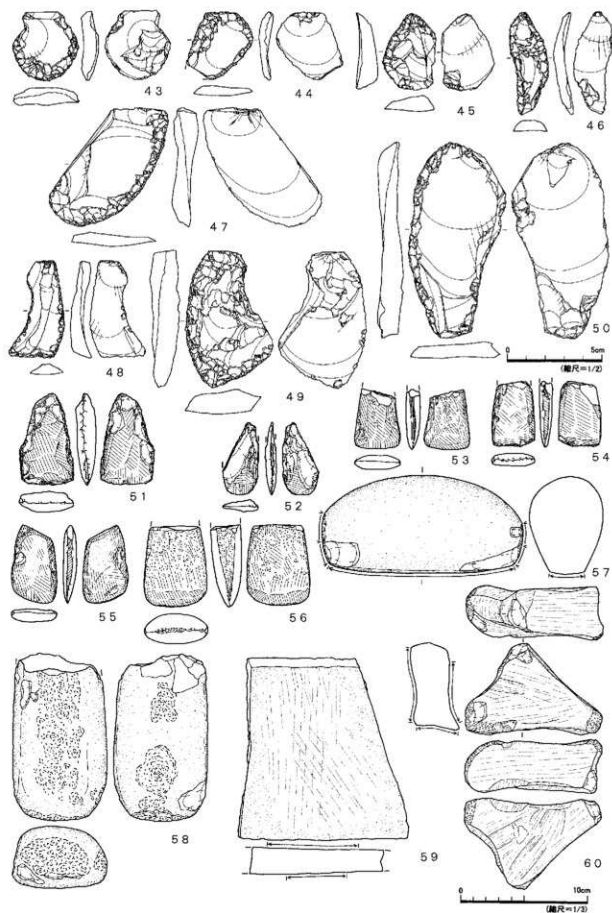
図VI-40 盛土遺構出土の土器 (34) MC盛土 (34)



図VI-41 盛土遺構出土の土器 (35) MC盛土 (35)



図Ⅴ-42 盛土遺構出土の石器 (1) M1C盛土 (36)



図VI-43 盛土遺構出土の石器 (2) MC盛土 (37)

Ⅱ群 a 土器 (3~7)

4は深鉢の口縁部で、3・5~6は胴部。7は無文で、ミニチュアサイズの上器。すべて静内中野式。

Ⅲ群 a 土器 (8~17)

8~11は深鉢の突起部である。12~13は深鉢の突起部、14は口縁部である。15は深鉢の突起部である。16は深鉢の突起部で、17は底部である。8~11は萩ヶ岡3・4式。12~14は天神山式。15は柏木川式。16~17はサイベ沢Ⅷ式併行。

Ⅳ群 a 土器 (18~19)

18~19は深鉢の口縁部で、帯状の貼付けが横環する。すべて余市式。

Ⅳ群 b 土器 (20)

20は鉢の口縁部で、口唇下部の内外面に横位の沈線を施文する。手稲式。

Ⅳ群 c 土器 (21~145)

1) MC盛土の直上出土土器

すべて御殿山式。

21~28は深鉢である。21~22は沈線で文様を施文するもの。23~24は口唇上に刻みをもつもので、刻みは指頭による。25は平縁である。26~27は底部で、低い台部と胴部の境に横位の沈線を持ち、台部に爪文を施文する。27は無文である。28は小型のものである。

29~31は鉢である。30は屈曲する鉢である。円錐形の貼付けをもつ。31は小さなボタン状の貼付けをもつ。

32は壺の底部。無文である。

2) その他の包含層出土土器

すべて三ヶ谷式であるが、一部に御殿山式併行のものを含む可能性がある。

深鉢 (33~102)

33~40はくびれのある深鉢である。33~39は沈線で文様を施文するもの。40は刺突による文様をもつもので、刺突は半截竹管状工具による。

41~96はくびれない深鉢である。41~45は貼付けをもつもの。41~44はボタン状の突起をもつ。42の貼付けは小さめである。45は突起部の外面に円錐形の貼付けをもつ。46~66・68は沈線で文様を施文するもの。67・69~71は帯状文で文様を施文するもの。72~74・84は突起をもつもの。72は半円形の突起、73~74は丸みのある小さい山形突起である。84は小さい山形突起で、突起頂部に刻みがある。75~77・85~87は刻みをもつもの。75~76・85は棒状工具による刻み、77・86~87は指頭による刻みである。78・88~89は口唇部外面の角に刻みをもつもの。79~83・90~96は平縁である。

97~102は底部である。97は低い台部と胴部の境に沈線で文様を施文している。101~102は無文である。

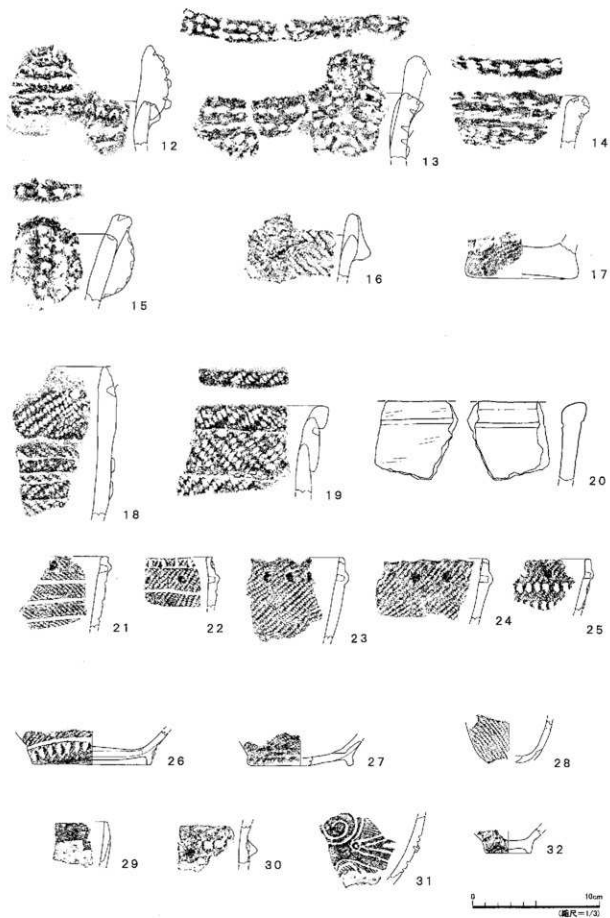
鉢 (103~126)

103~105は貼付けのあるもの。106~107・109~111は沈線で文様を施文するもの。108・112~113は帯状文で文様を施文するもの。114は沈線間に刺突を施文するもので、先端の尖った工具による。115~116はゆるやかな小波状口縁のもの。116は無文である。117~119・126は平縁のもので、無文である。120~125は底部である。120は低い台部と胴部の境に沈線で文様を施文している。121は低い台部と胴部の境に爪文で文様を施文している。121・123~125は無文である。

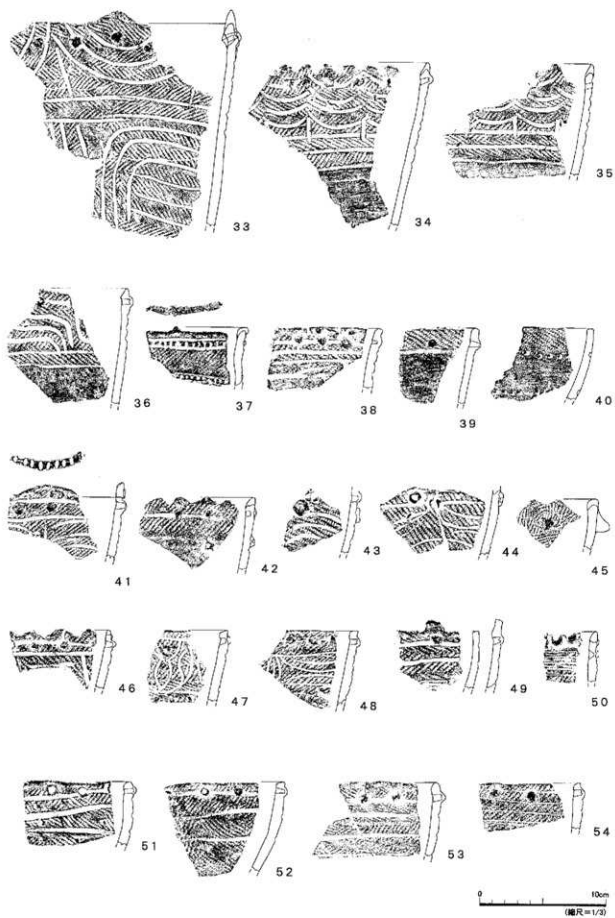
壺・注口土器 (127~144)



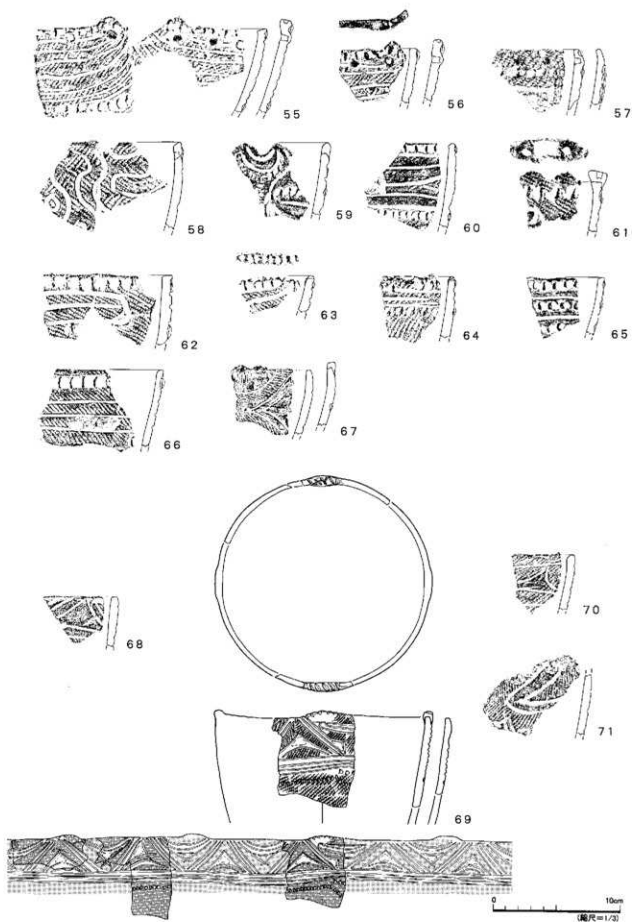
図VI-44 包含層出土の土器 (1)



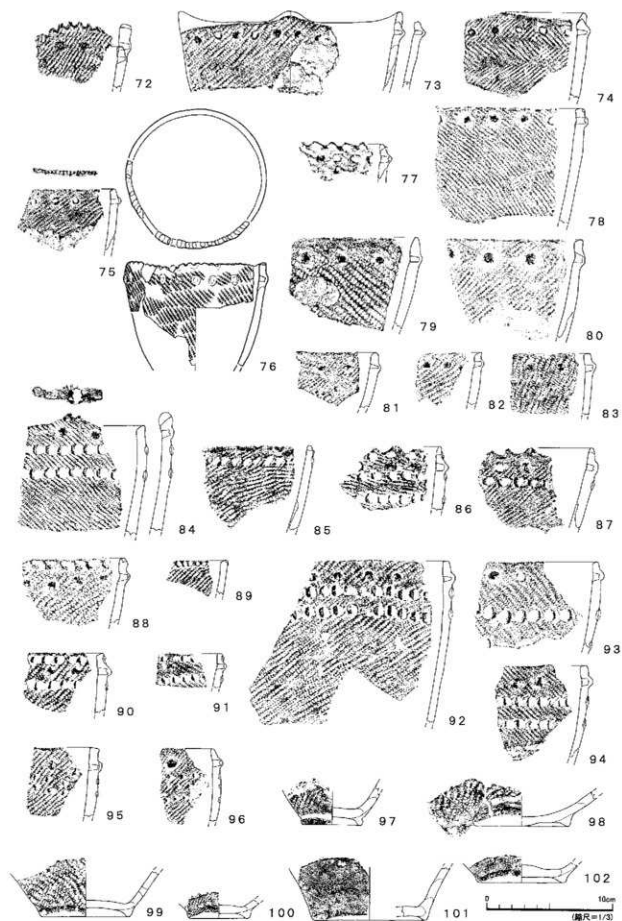
図M-45 包含層出土の土器(2)



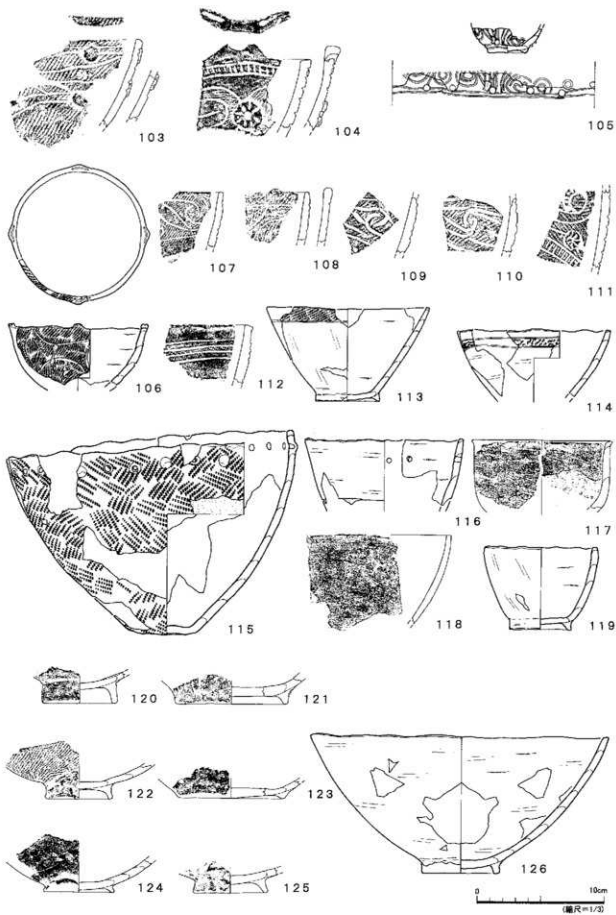
図VI-46 包含層出土の土器 (3)



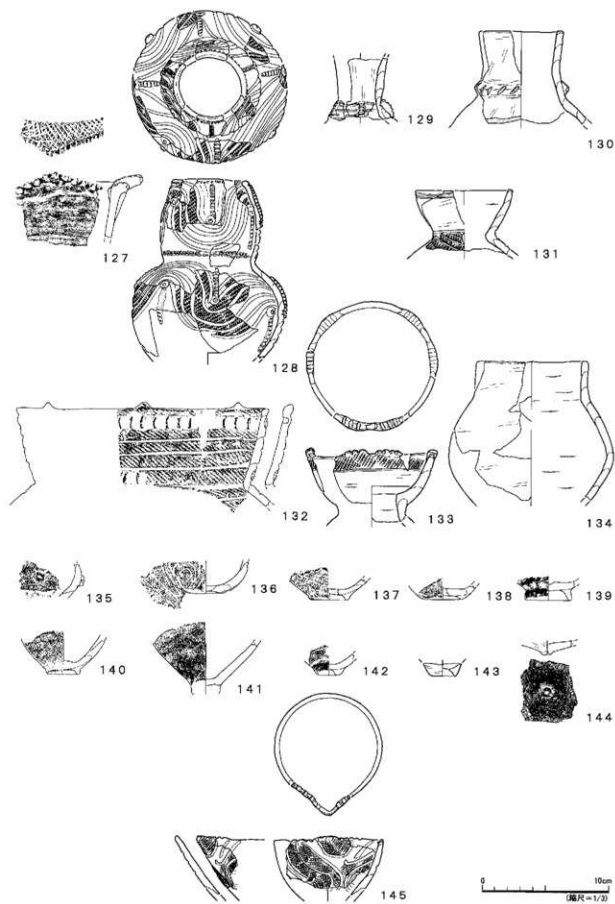
図Ⅴ-47 包含層出土の土器(4)



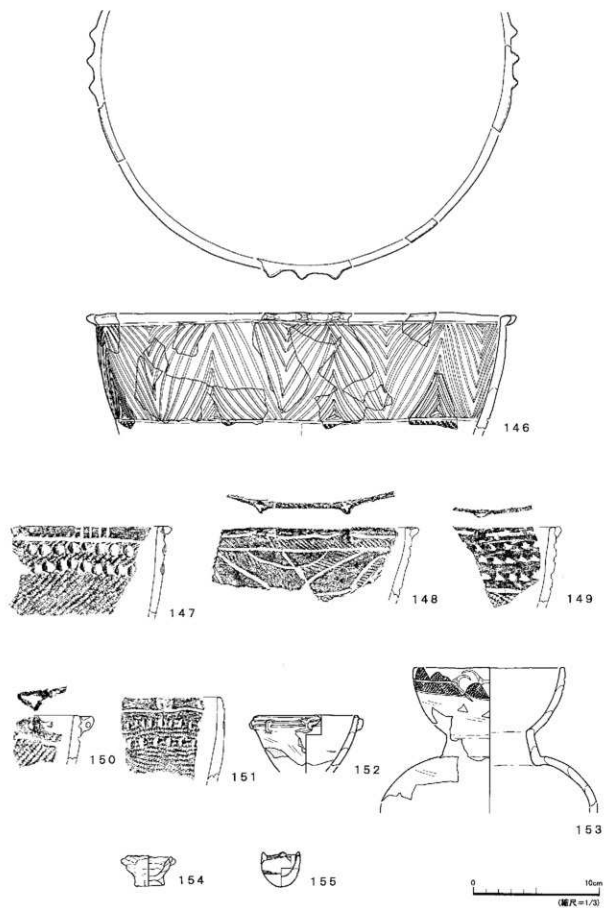
図VI-48 包含層出土の土器 (5)



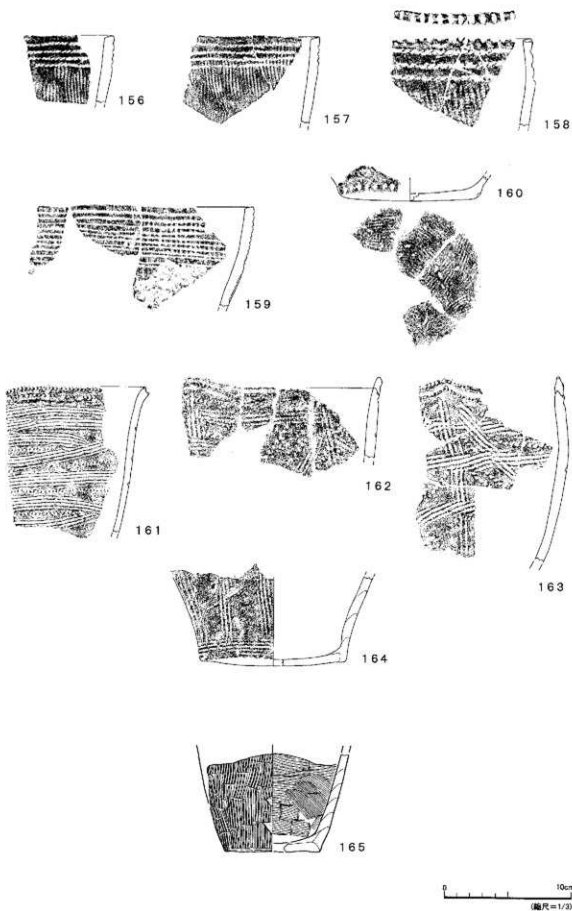
図VI-49 包含層出土の土器(6)



図VI-50 包含層出土の土器 (7)



図M-51 包含層出土の土器(8)



図VI-52 包含層出土の土器 (9)

127～134は口縁部が復元できたもの。127は幅広い三角形の波状口縁で、波頂部が外に開く。128～130は貼付けのあるもの。128は縦の貼付けがあり、その上端と下端に交互に小さいボタン状の貼付けがある。129～130は頸部に貼付けがあるもの。129は縦の楕円形の貼付けである。130は断面三角形の帯状の貼付けで、貼付け上にヘラ状工具による刻みを施文している。131から133は沈線で文様を施文するもの。134は直立する短めの口縁の器形で、無文である。

135は胴部が復元できたもの。貼付けのあるもので、小さいボタン状の貼付けである。

136～144は底部である。136は沈線で文様を施文するもの。139～144は無文である。

片口土器 (145)

145は鉢形で、帯状文を施文するもの。

V群 a 類土器 (146～155)

146～151は深鉢で、A状突起をもつもの。152は鉢で、A状突起をもつもの。153は甑で、口縁部が復元できたもの。沈線で文様を施文するものである。154～155はミニチュア土器。155は深鉢形、154は鉢形である。

V群 b 類土器 (155～160)

155～160は深鉢である。155～159は口縁部である。155～158は縄線で文様を施文するもの。159は沈線で文様を施文するもの。160は底部で、底部の立上がり部に半截竹管状工具による刺突を施文している。

VI群土器 (161～164)

161～164は深鉢である。161～163は口縁部で、帯状縄文で文様を施文するもの。164は底部で、帯状縄文で文様を施文するもの。後北C₂・D式土器。

VII群土器 (165)

165は甑である。底部で、調整は外面は縦のハケメ、内面は、ヘラナデである。

(2) 石器 (図VI-53-1～図VI-61-214、図版207～218)

包含層からは剥片・剥片石器30,518点、礫・礫石器3,490点、石製品・その他66点、計34,076点の石器が出土した。

ここで掲載する石器には表土であるI層から盛土上の黒色土であるII A層、盛土下の黒色土II B層、II C層のほか、漸移層であるIII層までが含まれるため、その内容には統縄文時代全般にわたる資料が含まれていると考えられる。基本的には出土した層位の順に掲載している。

1～68は石鏃である。1～33は耕作土などから出土したものである。14までが無茎石鏃で、基部が平らなもの1～6と、内湾するもの7～11がある。12～14は柳葉形のものである。15～33は基部をもつもので、15、16はひし形を呈する。34、35はMC層より上位から出土したもので、基部をもつ。36～45はMC盛土より下位のII B層から出土したもので、36、39は柳葉形、37は基部が平らなもの、46～55はII B層より下位のII C層から出土したものである。46～49は無茎鏃、50は柳葉状、51、52はひし形、53～55は無茎鏃である。

56～65は盛土遺構が無い範囲のII層から出土したもので、66～68はIII層から出土したものである。

69～76は石槍またはナイフである。75がII層、76がIII層から出土したほかはすべて耕作土などから出土したものである。74は頁岩製で、小片が接合している。

77～101は石鏃である。77～87は耕作土出土、88～91がII B層、92～94がII C層、95～99がII層、100、101がIII層出土である。後期後葉に特徴的に現れる、装飾性のあるつまみをもつものは主に耕作土と

Ⅱ B層から出土している。

102~120はつまみ付きナイフである。102~107は耕作土、108はⅡ A層、109、110はⅡ B層、111~115はⅡ C層、116~119はⅡ層、120はⅢ層出土である。105、107、113は両面加工のもの、Ⅱ B層より下位の層出土したものには丁寧な調整が施されるものが多い。

121~157はスクレイパー類である。121~142は耕作土、143~148はⅡ A層、149、151~154がⅡ C層、150、155、156はⅡ層、157はⅢ層出土である。

158~161は楔形石器である。石材はすべて黒曜石裂で、両端はつぶれている。

162~192は石斧である。163~180は耕作土、181~186はⅡ B層、187、188はⅡ C層、189、190はⅡ層、191、192はⅢ層出土である。179、187は基部にノッチがはいる。175は刃部を除くほぼ全面に、184は主に側縁にそれぞれピッチの付着が見られる。

193~198はすり石である。193~195は耕作土、196はⅡ B層と耕作土の接合、197はⅡ B層、198はⅡ C層出土。193、194、196は扁平礫の一边をすったもの。195、197は円礫の一部を利用したもの。198は北海道式石冠である。

199~205はたたき石である。199、200は耕作土、201はⅡ A層、202はⅡ B層、203~205はⅡ C層出土である。

206~212は砥石である。206、207は耕作土、208はⅡ B層、209、211はⅡ C層、210はⅡ層、212はⅢ層出土である。いずれも砂岩裂。

213、214は石皿である。213はⅡ C層、214はⅢ層出土である。

報告書抄録

ふりがな	えにわし にししまつ5いせき かつこ3							
書名	恵庭市 西島松5遺跡(3)							
副書名	柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	財北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北理測報)							
シリーズ番号	第209集							
編著者名	佐藤和雄・和泉田毅・土肥研晶・佐藤 剛(編集)・石井淳平							
編集機関	財北海道埋蔵文化財センター(http://www.hokkaidou.mmd.nnt-east.co.jp/maizou)							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL. (011)386-3231							
発行年月日	西暦2004年10月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西島松5遺跡	北海道恵庭市 西島松5431ほか	1231	A-04-38	42度 54分 25秒	141度 34分 30秒	20010507 ~20011031	3.123㎡	柏木川河川改修 工事用地内埋蔵 文化財発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西島松5遺跡	集落	縄文時代 中期 後期後葉 後期末 晩期初頭	盛土遺構 土坑 焼土	土器 堂林式 三ツ谷式併行 御殿山式 東三川I式 石器 スクレイパー 石鏃・石斧 すり石・砥石 他 自然遺物 シカ 炭化種子 ベンガラ		縄文時代後期後葉 から晩期初頭にか けて形成された、 盛土遺構(3ヶ所) から多数の遺物が 層的に出土。		

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第209集

恵庭市 西島松5遺跡(3)

— 柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

発行 平成 16 年 10月 31日

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL. (011)-386-3231

印刷 ひまわり印刷株式会社